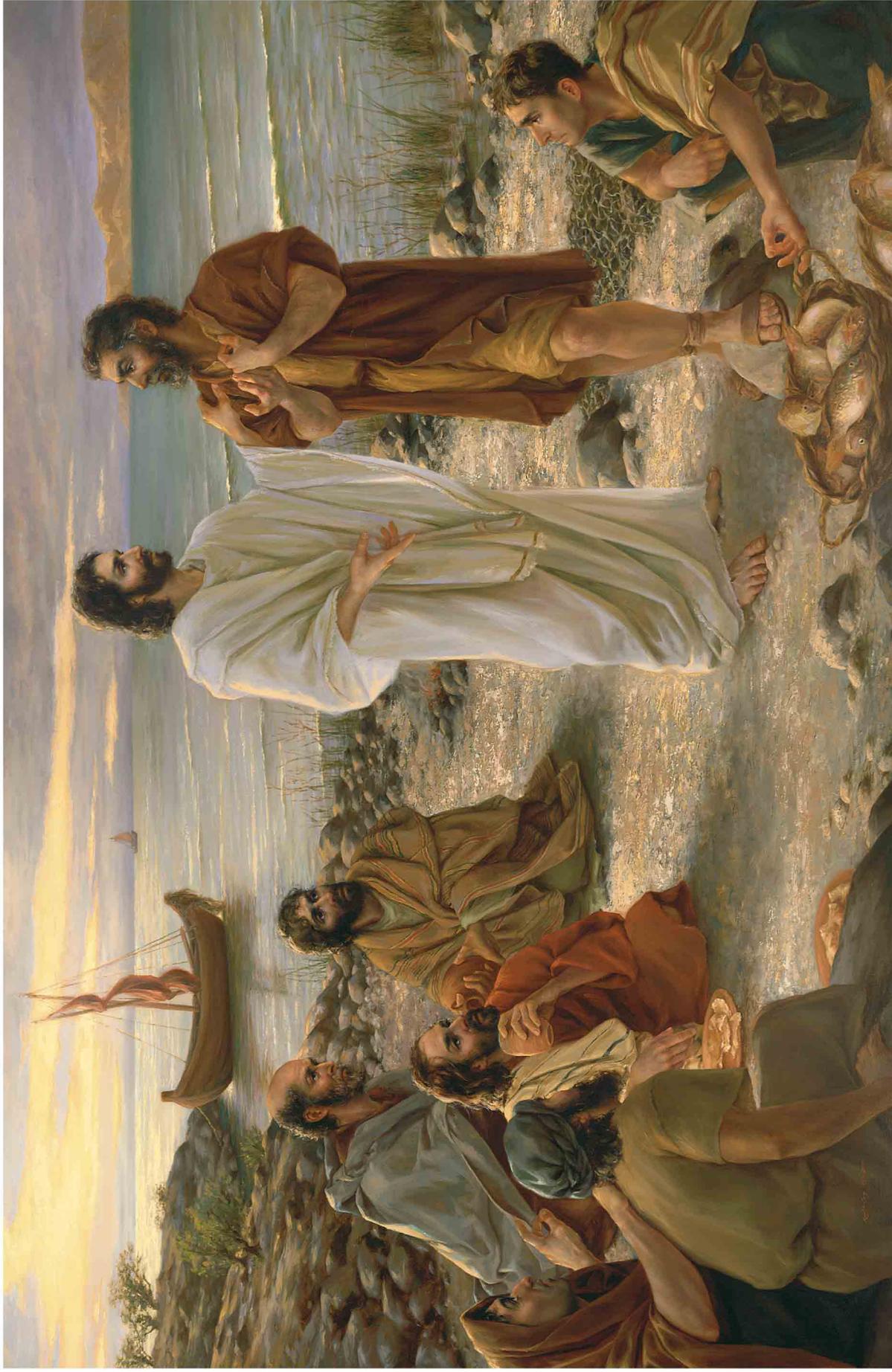


リアホナ



総大会の説教

5つの新しい神殿が
発表される



「わたしの羊を養いなさい」カミール・コリ一画

テベリヤの海で弟子たちに姿を表したとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』
ペテロは「わたしを愛するか」とイエスが三度も言われたので、心をためてイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。
わたしがあなたを愛していることは、おわかりになります。』イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい。』(ヨハネ21:17)

リアホナ

2 第179回半期総大会の概要

●土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 霊的な導きを得るために
リチャード・G・スコット長老
- 10 人が聖霊のささやきに気づくよう助ける
ビッキー・F・松森
- 12 重荷を軽くしてください
L・ホイットニー・クレイトン長老
- 15 教えることによって命を救う
ラッセル・T・オスガソープ
- 17 家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる
デビッド・A・ベドナー長老
- 21 神の愛
ディーター・F・ワークトドルフ管長

●土曜午後の部会

- 25 教会役員への支持
ヘンリー・B・アイリング管長
- 26 愛と律法
ダリン・H・オークス長老
- 29 天の父なる神と御子イエス・キリストを知るように努める
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 33 不可能に挑戦する
ホルヘ・F・ゼバヨス長老
- 35 ジョセフ・スミス——回復の預言者
タッド・R・カリスター長老
- 38 すべてのことについて自制しなさい
ケント・D・ワトソン長老
- 40 「わたしがあなたがたを癒すことができるように、……悔い改めなさい」
ニール・L・アンダーセン長老
- 43 祈りと促し
ボイド・K・パッカー会長

●神権部会

- 47 父と息子——すばらしい関係
M・ラッセル・バラード長老
- 50 さらに力強い神権者となる
ウォルター・F・ゴンサレス長老
- 53 わたしは騒がしい少年たちを愛しています
崔 喬煥長老
- 55 いかなる経済状況にも当てはまる
二つの原則
ディーター・F・ワークトドルフ管長

- 59 備える
ヘンリー・B・アイリング管長
- 62 心を抑えよ、兄弟たちよ
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午前の部会

- 70 わたしたちの完全な模範
ヘンリー・B・アイリング管長
- 73 将来に立ち向かうために過去に取られた方法
L・トム・ペリー長老
- 76 徳でああなたの思いを飾るようにしなさい
H・デビッド・バートン ビショップ
- 79 しっかりつかまっていなさい
アン・M・ディブ
- 81 求めよ、捜せ、門をたたけ
ラッセル・M・ネルソン長老
- 84 今日われ善きことせしか
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午後の部会

- 88 魂の安寧
ジェフリー・R・ホランド長老
- 91 管理人の職——聖なる信頼
クエンティン・L・クック長老
- 95 若い世代への召し
ブレント・H・ニールソン長老
- 97 心の大きな変化を抱き続ける
デール・G・レンランド長老

- 100 容易に喜んで信じる
マイケル・T・リングウッド長老
- 103 すべての人が得られる福音の祝福
ジョセフ・W・シスターティ長老
- 105 道徳面での鍛錬
D・トッド・クリストファーソン長老
- 109 閉会に当たり
トーマス・S・モンソン大管長

●中央扶助協会集会

- 110 扶助協会——神聖な業
ジュリー・B・バック
- 115 扶助協会はすべての女性に必要です
シルビア・H・オールレッド
- 118 透き間に注意
バーバラ・トンプソン
- 121 扶助協会の不朽の受け継ぎ
ヘンリー・B・アイリング管長
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

- 125 大会で話された実話や物語の索引
- 126 中央補助組織会長会
- 126 わたしたちの時代のための教え
- 127 チャーチ・ニュース



第179回半期総大会の概要

2009年10月3日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ジョン・M・マドセン長老。閉会の祈り——クレート・W・マスケ・ジュニア長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー;オルガニスト——クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「神に栄え」『賛美歌』33番;「喜べ、主を」『賛美歌』32番;「選べ、正義を」『賛美歌』152番、ウィルバーク編曲、未刊;「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番;「天のお父様の愛」『子供の歌集』16-17、ホフマン編曲、未刊;「Oh, May My Soul Commune with Thee,」*Hymns*, 123番;「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番、ウィルバーク編曲、未刊

2009年10月3日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——カール・H・アマード長老。閉会の祈り——ロバート・S・ウッド長老。音楽——ユタ州バウンティフルステーキ、ファーマー・イン・ステーキによるワード合同聖歌隊;指揮——マイケル・ハフ;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「Let Zion in Her Beauty Rise,」*Hymns*, 41番;「Know This, That Every Soul Is Free,」*Hymns*, 240番、ハフ編曲、未刊;「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番;「主は生けりと知る」『賛美歌』75番、ハフ編曲、未刊

2009年10月3日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——デニス・B・ノイエンシュワンダー長老。閉会の祈り——ランス・B・ウィックマン長老。音楽——ユタ州ウエストジョーダンの諸ステーキのアロン神権者による聖歌隊;指揮——ニール・ヘンドリックセン;オルガニスト——アンドリュー・アンズワース。「High on the Mountain Top,」(男声聖歌隊用)*Hymns*, 333番;「祈りは楽しき」『賛美歌』81番、デアゼベド編曲、エンブリオ刊;「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番;「Rise Up, O Men of God,」*Hymns*, no. 324番、ステアラー編曲、ジャックマン刊

2009年10月4日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——グレン・L・ペイス長老。閉会の祈り——エンリケ・R・ファラベラ長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフ

ー;オルガニスト——リチャード・エリオット、アンドリュー・アンズワース。「Sing Praise to Him,」*Hymns*, 70番;「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番;「Beautiful Zion, Built Above,」*Hymns*, 44番、ウィルバーク編曲、未刊;「主のみ言葉は」『賛美歌』46番;「愛の言葉」『子供の歌集』102-103、カードン編曲、未刊;「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番、ザブリスキー編曲、プラム刊

2009年10月4日日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——マーリン・K・ジェンセン長老。閉会の祈り——W・ダグラス・シャムウェー長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー;オルガニスト——ボニー・グッドリフ、リンダ・マーゲッツ。「In Hymns of Praise,」*Hymns*, 75番、マーフィー編曲、未刊;「O Divine Redeemer,」*グノー*, IRI刊「シオンのつわもの」『賛美歌』159番;「心に平和と」『賛美歌』91番、ウィルバーク編曲、未刊

2009年9月26日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ジュリー・B・ベック。開会の祈り——マーサ・ジョンソン。閉会の祈り——キャロル・M・ステイブズ。音楽——ユタ州ウエストポイントステーキ、クリアフィールドステーキ、クリントンステーキ、サンセットステーキ、シラキューズステーキの扶助協会;指揮——キャシー・ジョーリー;オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「心に光あり」『賛美歌』139番;「シオンの娘」『賛美歌』195番、ブース編

曲、未刊、(フルート演奏:ナンシー・トーン、コリー・マックスフィールド);「主のみ言葉は」『賛美歌』46番、ウェブ高声部編曲、未刊;「導きたまえよ」『賛美歌』41番、ウィルバーク編曲、IRI刊

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットで conference.lds.org を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙

「ベニヤミン王の説教」ジェレミー・C・ウインボーク画、複写は禁じられています

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。

ソルトレーク・シティ——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、レス・ニルソン、スコット・デービス、リンゼー・ブリッグズ、ロッド・ボーム、アルファ・スムート、コーディー・ベル、マーク・ウェインバーク、ウェストン・コルトン、アシュトン・ロジャーズ、シャノン・ノートン。ブラジル——ラウレニ・アデマール・フォチェット。ドイツ——ルース・シプス。アメリカ合衆国ミネソタ州——ネル・ヘグダール。ナミビア——マシュー・ホーゲン。ノルウェー——アーン・H・M・ファジャータン。カナダ/ノバスコシア州——ロナルド・スミス。ペルー——フアン・パブロ・アラゴン・アルマス



リアホナ 2009年11月号

第11巻第1号(04291 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: スペンサー・J・コンディ

顧問: キース・K・ヒルビグ, 菊地良彦, ポール・B・パイパー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ビクター・D・ケープ

編集主任: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・パレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター, ガント・アニー・ジョンソン, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・パーラー, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロ, リチャード・M・ロムニク, ドン・L・サール, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーグ, ジュリー・ワーデル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン制作スタッフ: カリル・R・アロヨ, コレット・ネバーカーオヌ, ハワード・G・ブラウン, ジェリバー・デット, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスタマーカウ, キヤスリーン・ノワード, エリック・P・ジョンセン, デニス・カービー, スコット・M・ムーイ, ギニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブトロム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール—liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出ている言葉。「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アスラント語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ウルドゥー語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリヤン語, キルギス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, チェコ語, 中国語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, ビスマラ語, ヒンディー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マルシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的で使用される場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音ライブラリ)をクリックしてください。その他の言語は「Languages」(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年11月号第11巻第11号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN 1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み・定期刊行物郵送料はソルトレークシティで納められています。)住所変更は60日前にご連絡ください。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧送先を明記してください。合衆国とカナダでの購読申し込みは、下記のソルトレーク配送センターにお送りください。購読に関するお問い合わせ: 1-800-537-5971。クレジットカード(ビザ・マスターカード・アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で承ります。(カナダ郵便情報: 出版承諾番号40017431)

郵便局長殿: 住所変更がございましたらお知らせください。連絡先: Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368



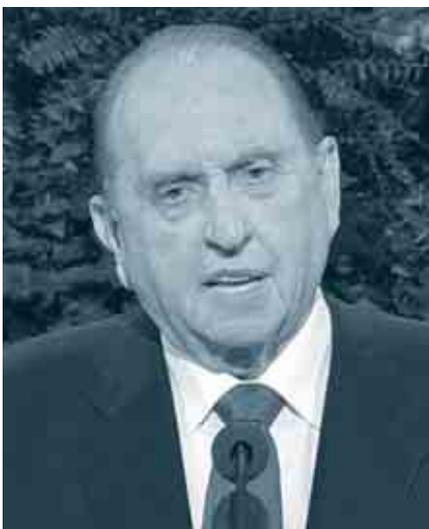
話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B,	……25, 59, 70, 121	女性 ……………115
アンダーセン, ニール・L,	……40	神会……………35
ウークトドルフ, ディーター・F,	……21, 55	神権……………50, 62
オークス, ダリン・H,	……26	信仰……………59, 97, 110
オールレッド, シルビア・H,	115	神殿……………4, 73
オスガソープ, ラッセル・T,	……15	信頼……………47
カリスター, タッド・R,	……35	スミス, ジョセフ ……35
クック, クエンティン・L,	……91	聖文……………79
クリストファーソン, D・トッド,	105	聖約……………103
クレートン, L・ホイットニー,	……12	聖霊……………6, 10, 29, 43
ゴンサレス, ウォルター・F,	……50	選択の自由 ……105
シターティ, ジョセフ・W,	……103	備え……………59
スコット, リチャード・G,	……6	た 堪え忍ぶ ……55, 88, 97
ゼバヨス, ホルヘ・F,	……33	力……………6
崔 喬煥,	……53	父親……………47
ディブ, アン・M,	……79	罪……………12
トンプソン, バーバラ,	……118	弟子としての務め ……21
ニールソン, プレント・H,	……95	伝道活動
ネルソン, ラッセル・M,	……81	……4, 50, 73, 95, 103
バートン, H・デビッド,	……76	天の御父……………29
バックナー, ボイド・K,	……43	神の愛……………21, 26
バラード, M・ラッセル,	……47	神の性質……………118
ヘイルズ, ロバート・D,	……29	神完成……………33
ベック, ジュリー・B,	……110	管理の職……………91
ベドナー, デビッド・A,	……17	希望……………21, 88
ペリー, L・トム,	……73	清さ……………91
ホランド, ジェフリー・R,	……88	悔い改め……………12, 40
松森, ビッキー・F,	……10	謙遜……………100
モンソン, トーマス・S,	……4, 62, 84, 109	賢明な生活……………38
………4, 62, 84, 109		後悔……………62
リングウッド, マイケル・T,	……100	高潔……………76, 105
レンランド, デール・G,	……97	コミュニケーション ……47
ワトソン, ケント・D,	……38	さ 識別……………81
		自信……………59
		自制……………38, 62
		指導力……………53
		従順……………21, 79, 100, 109
		純潔……………91, 105

大会へようこそ

トーマス・S・モンソン大管長

できるかぎり多くの会員が、法外な距離を移動することなく神殿に参入できるようにすることがわたしたちの望みなのです。



愛する兄弟姉妹の皆さん、末日聖徒イエス・キリスト教会第179回半期総大会を開会するに当たり、すべての皆さんにあいさつの言葉を贈ります。

科学技術が高度に発達し、世界中の皆さんに向けて語りかけることのできる時代に生きていることを非常に感謝しています。中央幹部と補助組織の指導者たちは、ここソルトレーク・シティのカンファレンスセンターに立っていますが、その声は、ラジオやテレビ、衛星放送など、様々な手段で皆さんのもとに届けられています。そして、わたしたちは英語で話しますが、皆さんは92もの言語で聞いています。

今年4月にお会いしてから、わたしたちはユタ州サウスジョーダンで美しいユタ

州オーカーマウンテン神殿を奉獻しました。ユタ州ドレーパー神殿が奉獻されてから、8月にこの最も新しいオーカーマウンテン神殿が奉獻されるまでの間に、双方の神殿地域の青少年による壮大な文化行事が、2夜連続で行われました。出し物では、ユタ州の豊かな歴史が歌とダンスで表現されました。この催しには2夜合わせて約1万4,000人の青少年が参加しました。

わたしたちの神殿建設はこれからも続きます。できるかぎり多くの会員が、法外な距離を移動することなく神殿に参入できるようにすることがわたしたちの望みなのです。世界的に見ると、教会員の83パーセントが神殿から200マイル（320キロ）以内の場所に住んでいます。引き続き全世界に神殿を建設していけば、この割合は増え続けるでしょう。現在、儀式が執行されている神殿は130、建設計画が発表されている神殿および建設中の神殿は16です。今朝、新たに5つの神殿を建設するために数か月あるいは数年中に土地を入手することを発表でき、うれしく思います。それらの神殿が建設されるのは以下の場所です。ユタ州プリガムシティ、チリ・コンセプション、ブラジル・フォルタレザ、フロリダ州フォートローダーデール、日本札幌。

亡くなった愛する人々のために毎年、神殿では何十万もの儀式が行われています。自分では儀式を受けることができない人々のために、わたしたちが引き続き忠実に儀式を行うことができますように。わ



たしは、神殿での奉仕について、またこの世の生活を終えた人たちがいる霊界について語ったジョセフ・F・スミス大管長の言葉が大好きです。「死者のために払うわたしたちの努力によって、彼らを縛っている鎖は断ち切れ、取り巻く闇が一扫され、



そして彼らのうえに光が輝くことでしょう。霊界にいる彼らは、子孫によって自分たちの儀式が執行されたことを聞き、これらの義務を果たした皆さんとともに喜びの声を上げることでしょ。』¹

兄弟姉妹の皆さん、教会は179年前に

創設されて以来発展しており、これからも発展し続けるでしょう。教会によって生活が変わる人の数は年々増えており、教会は世界中に拡大しています。宣教師は真理を求めている人を探します。真理はイエス・キリストの福音の中にあるのです。

新しい改宗者と友達になるようすべての教会員をお願いします。彼らに手を差し伸べてください。愛で包み込み、彼らが教会でくつろげるようにしてあげてください。

教会に限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域、現在のところ福



霊的な導きを得るために

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

正しい原則を応用し、心に浮かぶ気持ちに敏感になるなら、霊的な導きを得られるでしょう。

音を自由に伝える許可が下りていない地域のために、これからも信仰をもって祈りをささげてください。そうするならば、奇跡が起るに違いありません。

さて、兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは、これからの2日間に伝えられるメッセージを心待ちにしています。話者は天の助けと導きを求めながらメッセージを用意しました。彼らはこれから伝える事柄について靈感を受けています。話に耳を傾け、学ぶときに主の御霊に満たされますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。

注

1. ジョセフ・F・スミス, Conference Report, 1916年10月, 6



人類の歴史の中で、生活で直面する問題を解決する際、類似の問題を解決した立派な人物を手本にした人々はたくさんいます。しかし、今日では世界情勢があまりに目まぐるしく変動するため、前例を参考にできないことが度々あります。

わたし個人はこのような状況を喜んでいきます。なぜなら、わたしたちが必要に迫られて、人生の山や谷を進んでいくために御霊にいつそう頼る状況ができるからです。結果として、人生の重要な決断をする際に個人的な靈感を求めようになります。

人生で正しい選びをするために導きを受ける力を伸ばすにはどうすればよいでしょうか。霊的な交わりに必要な原則は何でしょうか。そのような交わりにとって

障害となり、避ける必要があるものは何でしょうか。

ジョン・テラー大管長は次のように記しています。「40年以上前にジョセフ・スミスはわたしにこう言いました。『テラー長老、あなたはすでに聖霊を授けられています。今やあなたは、その御霊の促しに従って歩み続けるかぎり、義の道へと導かれるのです。そして次第に、御霊に従うことが啓示の原則として心に刻まれるでしょう。』その後ジョセフは、毎朝必ず主の前にひれ伏して自分を主に奉献してから一日を始めるように告げました。」¹

天の御父は皆さんが問題に直面し、判断能力を超えた選択を迫られることがあるのを御存じでした。御父は幸福の計画の中で、皆さんがそのような現世での問題や選択に対処する際に助けを受けられる方法を用意されました。この助けは、聖霊を通して霊的な導きとして来ます。霊的な導きは、皆さんが持つ能力以上の力です。平安と幸福を得るために皆さんがこの力を絶えず用いることを、愛に満ちた天の御父は望んでおられます。

御霊の声に導かれるための能力を即座に習得できる簡単な方法やテクニックなどないと、わたしは確信しています。御父は、皆さんが御父とその聖なる御子イエス・キリストを信じる信仰を行使することによって神聖な助けを得ることを望んでおられます。単に願うだけで靈感を受けられるとしたら、皆さんは弱くなり、御二方にま

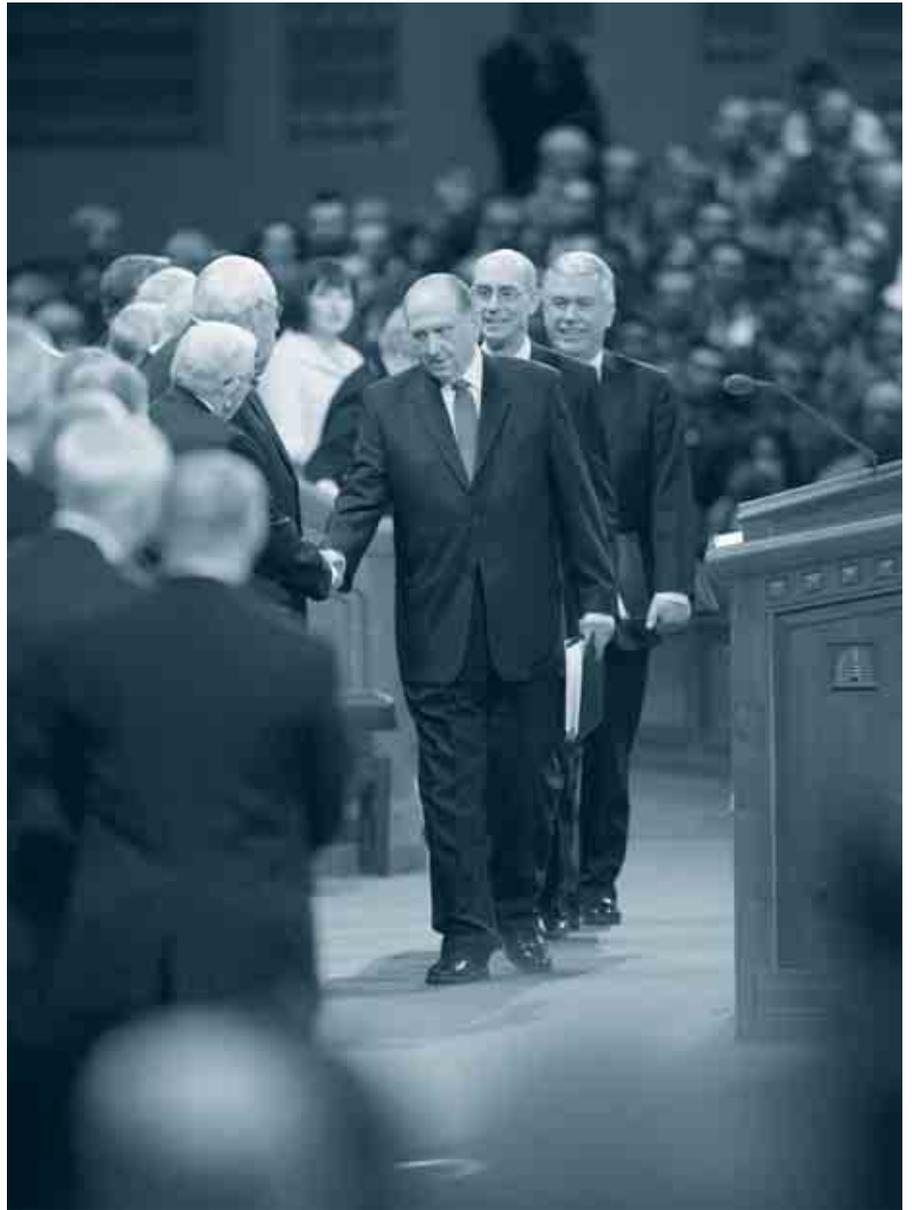
すまず依存してしまうでしょう。御霊に導かれる方法を学ぼうと努力することにより、必要な個人の成長を遂げられることを御双方は御存じなのです。

初めは気の遠くなる難題に見えますが、御霊の促しを認識してそれに従うよう努力し続けるなら、だんだん容易にできるようになります。また、聖霊を通して受ける導きへの信頼も強くなります。御霊に導かれる経験をし、良い成果を得ると、見たり聞いたりできる事柄よりも、心に浮かぶ考えへの確信が増していくことを証します。

霊性は二つの実を結びます。一つ目は靈感、すなわち何を行えばよいか分かることです。二つ目は力、すなわち行う能力です。この二つの力は一緒にもたらされます。だから、ニーファイは「わたしは行って、主が命じられたことを行います」と言えたのです。² ニーファイは靈感と力の基となっている霊的な律法を知っていました。わたしたちが従順に生活し、必要条件である主への信仰を行使するとき、神は確かに祈りにこたえられ、霊的な導きを下さるのです。

これから、わたし自身が霊的な導きを得る方法を教わった経験を紹介します。ある日曜日、メキシコシティにあるスペイン語支部の神権会けんこんに出席しました。謙遜なメキシコ人の神権指導者がテキストに書かれている福音の真理を伝えようと奮闘していた姿を鮮明に覚えています。その指導者が、とても大切に思っている原則を定員会の兄弟たちにも伝えたいと熱烈に望んでいることに気づきました。その場にいる兄弟たちにとって、それらの原則がとても価値あるものだとして認識していたのです。彼の物腰から、救い主への純粋な愛と、自分の教える人々への愛がよく伝わってきました。

その指導者の誠実さ、純粋な志、愛のおかげで、部屋中が霊的な力に包まれていました。わたしは感銘を受けました。すると、その謙遜な教師が教える原則を発端として、わたしの心に個人的な考えが浮かび始めました。その考えは個人的なもので、その地域でのわたしの割り当てに関するものでした。それについての



御心みこころを知ろうと長い間祈ってきた努力が報われたのです。

一つ一つの考えが浮かぶ度に、それを注意深く書き留めました。そうする中で、主の僕としてさらに効果的に働くためにとっても必要な、大切な真理を授かりました。受けた導きの内容は神聖なものであり、祝福師の祝福と同じように、わたし個人の益となるために与えられました。わたしは具体的な指示、教え、そして条件付きの約束を受け、それによって人生の進路を軌道修正することができました。

その出来事後、わたしは自分のワードの日曜学校のクラスに出席しました。そこではとても学識のある教師がレッス

ンを教えていました。メキシコの神権会で楽しんだレッスンとは顕著な違いがありました。教師があまり知られていない参考資料や珍しい事例をわざと選んで、レッスンの原則を説明しようとしているように思えました。その教師がレッスンを教える機会を利用して、自分が持っている膨大な知識を披露しようとしているのははっきりと見受けられました。いずれにせよ、彼はあの謙遜な神権指導者のように熱意を込めて原則を伝えようとしているようには見えませんでした。

そのような状況の中で、わたしの心に再びはっきりとした考えが浮かび始めたので、書き留めました。その中には、主の



御手に使われる僕としてさらに効果的に働くための具体的な方法も提示されました。きわめて個人的な考えがとめどなく浮かんでくるので、わたしは日曜学校の最中にそれを記録するのは適切でないかと判断しました。そこで、独りになれる場所を探し、思いと心に浮かんでくる考えをできるかぎり忠実に書き留め続けました。一つ一つのはっきりとした考えを記録した後、自分が受けた気持ちについて思い巡らし、それを正確に書き記せたか確認しました。その結果、書いた内容にわずかな修正を加えました。それから、一つ一つの考えの持つ意味や、自分の生活にそれをどう応用していくか考えました。

その後、わたしは祈り、御霊から教わったと思うことを主に確認しました。穏やかな気持ちを感じたとき、導きを下さったことを主に感謝しました。すると、まだほかにあるか尋ねるように促されました。さらにはほかの考えが浮かんだので、それを書き留めて熟考し、確認の祈りをささげる手順をまた繰り返しました。もう一度「ほかに知るべきことはありますか」と尋ねるように促されて尋ねたところ、ほんとうにありました。最後の、最も神聖な経験が終わったとき、この世で得られる、最も貴

くて具体的で、個人的な指示を得ていました。最初の考えが浮かんだときに気づいてそれを記録していなければ、最後のいちばん貴い指示を受けることはありませんでした。

今述べたのは単発的な経験ではありません。そこには、主が地上の子供たちと交わられる際に当てはまる、まことの原則が幾つか示されています。最初に浮かぶ促しに気づいてそれを記録したり、実行したりしないために、御霊が与える、最も貴くて個人的な指示を受けそびれることがあるのです。わたしはそう確信しています。

御霊から来る考えは、差し迫った祈りの答えとして、あるいは求めなくても必要なきときにやって来ることがあります。例えば、無意識に危険な状況にいるときなど、積極的に求めなくても、主が真理を明らかにされる場合もあります。しかし、主は学ぶことを強制されません。皆さんが選択の自由を行使して御霊の教えを受け入れなければならないのです。生活の中でこれを習慣とするなら、この霊的な導きから感じる気持ちに気づきやすくなります。思ってもみないときに導きが得られることもあります。その導きが得られたときに、もっと容易に認識できるようになるのです。

聖なる御霊の靈感あふれる影響は、怒り、憎しみ、激情、恐れ、高慢などの強い感情によって打ち消されたり、隠されたりすることがあります。そのような感情が心にあるのは、トウガラシを食べながらブドウの繊細な味を堪能しようとするようなものです。どちらの味も存在しますが、一方が他方を完全にねじ伏せてしまいます。同じように、強い感情は聖なる御霊の繊細な促しを打ち消してしまうのです。

罪は常習性があり、人を墮落させ、そのほかの破滅の道に陥りやすくし、霊性と良心と分別を見失わせ、現実を見えなくします。また、伝染性があり、精神と肉体と霊を破壊します。罪は人々の霊をむしばみます。抑制せずにいると、罪はすべてを飲み込んでしまいます。罪を克服するには悔い改めと義が必要です。

わたしは警告します。サタンは、誘惑を通して霊的な交わり^たの基となる律法を破るように人を誘導することによって、霊的な交わりを遮断することに非常に長けています。サタンは人々に、主から導きを受けることなど自分にはできないと思込ませることさえできます。

サタンはボルノグラフィーの常習的な力を利用して、御霊に導かれる能力を制限する達人となっています。どのような形であれ、不道徳で、精神をむしばむ、破壊的なボルノグラフィーの猛攻撃は、大きな^は悲しみ、苦しみ、心痛、結婚生活の破綻を引き起こしてきました。これは地上で最も忌まわしい影響力の一つです。雑誌や映画だろうと、テレビ番組、ひわいな歌詞、電話口の下品な会話、パソコンの画面の上だろうと、ボルノグラフィーはきわめて強い常習性があり、深刻な害を及ぼします。ルシフェルのこの強力な道具は、それに手を染めるすべての人の思い、心、魂をおとしめます。この魅惑的で欲望をそそるわなに捕まり、そこにとどまってしまうすべての人は、不道徳で破壊的な影響力のとりこになってしまいます。多くの人は、助けがなければ常習性を克服できません。この悲劇のパターンはあまりにもよく見受けられます。好奇心から始まり、それが刺激を受けて増大し、独りで行う分にはだ



れも傷つけていないという偽りの根拠によって正当化されます。このような偽りによって良心の呵責を静められたおかげで、さらに深入りしてさらに強い刺激を受け、ついにはわなにしっかり捕らえられて、恐ろしい不道德な常習癖に主導権を握られてしまうのです。

どのような形であれ、ポルノグラフィーにかかわることは、利己心を制御できていないことの現れです。男性、特に神権者は、そのような忌まわしい行いが女性を、特に自分の妻を、精神的に、そして霊的にどれほど傷つけるかを考えなければなりません。

靈感を受けたニーファイはこのように宣言しました。「また、悪魔は……人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、……このようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。」³

もしポルノグラフィーに手を染めている人がいれば、それを克服するという確固とした決意を、今してください。静かな場所を探し、助けと支えを熱烈に祈り求めてください。忍耐強く、従順であってください。あきらめないでください。

両親の皆さん、ポルノグラフィーの常習性は青少年の早い時期から始まることが

あります。悲劇を避けるために予防策を講じてください。ステーキ会長やビショップの皆さん、ポルノグラフィーの悪影響について警告してください。すでにわなにはまっていると思う人には、皆さんのもとに来るよう勧めてください。

堅固な標準を持ち、それを終わるまで守り抜く決意をしている人は容易に道をそれません。嘆かわしい罪を忌み嫌い、他人に左右されることなく自制できる人はりっぱな人格を築いていると言えます。そのような人には悔い改めの大きな効果が得られるでしょう。過ちを犯した後の後悔の念は、悔い改めの実現に大いに役立ちます。

御霊の導きを受ける力を伸ばすときは、忍耐を持ってください。注意深く実践し、正しい原則を応用し、心に浮かぶ気持ちに敏感になるなら、霊的な導きを得られるでしょう。聖霊を通して主が皆さんの知性と心に語られることを証します。心に浮かぶ考えが、単なる一般的な気持ちの場合もあります。逆に、明確な、間違えようのない形で導きもたらされ、霊的な口述筆記のように、詳しく書き留められる場合もあります。⁴

謙虚になり、感謝の念を抱いて心から

熱烈に祈り求めるなら、生活のあらゆる面で聖なる御霊の導きを絶えず受ける方法を学べることを証します。この原則が真実であることを、わたしの人生の様々な試練を通して確かに知っています。皆さんが御霊に導かれるための原則を個人的に学び、習得できることを証します。救い主はそのようにして、皆さんが人生で直面する問題を解決し、大きな平安と幸福を味わえるように導かれるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジョン・テラー、*The Gospel Kingdom*, G・ホーム、ダラム編(1943年)、43-44
2. 1ニーファイ3:7
3. 2ニーファイ28:21
4. 教義と聖約8:2参照

人が聖霊のささやきに 気づくよう助ける

中央初等協会会長会第二顧問
ビッキー・F・松森

生活の中で聖霊の力を受けたことを証すれば、御霊の促しに慣れ親しむ助けになることがあります。



日が終わって宣教師がアパート——に帰ろうとすると、突然、一人が同僚にこう言います。「最後にこの家に寄った方がいいような気がする。」あるホームティーチャーが何日前に訪問した家族に電話をかけるよう促されます。学校の友達のパーティーに出るつもりでいた若い女性が、今回は家にいた方がいいと感じます。

この宣教師はなぜ、自分たちが来るよう祈っている人がいると分かったのでしょうか。このホームティーチャーはなぜ、必死に助けを求めている家族に電話をかけたのでしょうか。この若い女性はなぜ外出を取りやめて、自分の価値観を貫けないような状況に陥るのを免れたのでしょうか。どの状況においても、聖霊の導き

があったからです。

似たようなことを世界中の教会員は常日ごろ繰り返し経験しています。そして御霊に導かれて日々を過ごしたいと願っている人々がいます。だれでも聖霊のささやきを認識できるようになりますが、聖霊について理解できるようにだれかが助けた方がそれは容易になります。実際に経験したことを証してくれる人や、御霊が感じられるような環境を作ってくれる人がいた方がいいのです。

教義を理解する

人が教義を理解できるよう助けることの大切さについて、教義と聖約に書かれています。「シオンにおいて、または組織されているそのいずれかのステークにおいて」両親は子供が「教義を理解する」よう助けなければなりません。¹

クラスに参加しているときであれ、宣教師のレッスンであれ、家庭の夕べであれ、聖霊に関する教義を教えることで、周りの人がこの大切な賜物について理解できるよう助けることができます。「善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられている」² ですが、聖霊を常に伴侶とする権利は、ふさわしい権能を持つ人が教会員の頭に手を置いて聖霊の賜物を授けることによって与えられます。³

ふさわしい状態であれば、常に聖霊を伴侶とすることができます。わたしたちは

「主の御霊は清くない宮にはとどまらない」⁴と教えられ、「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき……聖霊は常にあなたの伴侶とな[る]」⁵とも言われています。

聖霊を常に伴侶とするとはどういうことかは、聖典と預言者の言葉から学ぶことができます。主は、「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう」⁶と語られました。エノスは、「わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、……主の声がわたしの思いに告げて……言われた」⁷と言いました。「純粋な英知が流れ込んできたと感じるとき、突然様々な考えがわいてくることがあります……」⁸とジョセフ・スミスは言っています。ヘンリー・B・アイリング管長は、聖霊の影響力は「平安と希望、喜び……である」と語り、こう付け加えました。「ほとんどいつでもわたしは光を感じてきました」⁹

でも、わたしが好きな描写は、聖霊を受けたばかりの8歳の男の子の言葉です。その子はこう言いました。「太陽の光みたいだ。」

個人の証を分かち合う

しかし最初のうちは、このような「太陽の光」を感じていることを自覚するのは難しいかもしれません。モルモン書には、忠実なレーマン人が「火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった」と書いてあります。¹⁰

生活の中で聖霊の力を受けたことを証すれば、御霊の促しに慣れ親しむ助けになることがあります。中にはあまりに神聖なために語ることのできない経験があることも覚えておきましょう。それでも、生活の中で感じる御霊について証してください。そうすると、御霊の促しについてよく知らない人は、似たような気持ちになったときに、それが御霊の促しなのだと思いきやすくなります。

わたしは家族の中で最初に教会に入りました。8歳だったわたしは、バプテスマを受ければ何か違う気持ちがするようになるだろうと楽しみに待っていました。正



直なところ、水から上がったときにたった一つわたしが感じたのは、……ずぶぬれになったという感覚だけでした。確認の儀式を受けたら何かもっと深遠なことが起こるのではないかと思いました。ところが、聖霊を受けてからも、やはりまた幸せを感じたものの、わずか数分前の自分とどこも変わってはいませんでした。

しかし翌日の断食証会で、自分が今感じているのが聖霊の力なのだと知ることができそうな経験をしたのです。ある兄弟が立ち上がり証を述べ、教会員であることの祝福について話しました。温かいものが全身を流れるのを感じました。まだ8歳でしたが、これは今までと違う感覚だと分かったのです。平安な気持ちが押し寄せて来るのを感じました。そして、天の御父がわたしのことを喜んでおられるということがはっきりと分かったのです。

御霊が感じられるような環境を作る

御霊を感じやすい場所があります。証会や総大会は、そのような場所の一つです。確かに、神殿もそのような場所です。わたしたち個人にとっての課題は、毎日家庭で、また、毎週教会で、御霊を感じられる環境を作り上げることです。

わたしたちは一日も欠かさず毎日祈り、毎日聖文を読むよう勧められています。その理由の一つは、この二つの行いが家庭と家族の生活に御霊を招くからです。

御霊はしばしば「静かな細い声」と描写

されます。¹¹ ですから、生活の中で静かな時間を取ることも大切です。主は「安らかにして、わたしが神であることを知りなさい」¹² と勧められています。テレビやコンピューター、テレビゲーム、携帯できる電子機器などを遠ざけ、「安らか」で静かになれる時間を毎日取ってください。そうするならば、この静かな細い声がわたしたちに個人の啓示を与え、慰めに満ちた導きと励まし、安らぎの言葉をささやくことができるようになります。

同じような環境を教会でも作ることができます。教えられていることが確かであるという神からの確認を御霊が与えてくださるような環境を作るのです。教師や指導者は、レッスンを教えたり、集会を司会したりするだけではありません。一人一人の会員が御霊のささやきを感じられるよう助けるのです。リチャード・G・スコット長老はこう言っています。「もしあなたが生徒に対して、御霊の導きに気づいて従わせること以外に何も成し遂げなかったとしても、あなたは彼らに計り知れない永遠の祝福を与えているのです。」¹³

ひかりクラスのある教師は、クラスの子供一人一人を毛布でくるんで、御霊を感じるとどのような気持ちになるかを教えました。毛布を掛けてもらったときに感じるような心地よさと安心感なのだと教えたのです。クラスを見に来ていたある母親も、そのレッスンを聞きました。

数か月後、その母親は教師に感謝の言

葉を伝えました。あのとき幼い娘を初等協会に連れて行っていなければ、自分は今ごろ教会には来ていなかっただろうと言いました。あのレッスンから数週間後に母親は流産しました。悲しみに打ちひしがれていましたが、あるとき突然、包み込まれるような温かさや平安を感じたのです。まるでだれかが暖かい毛布を掛けてくれたようでした。これが御霊の慰めなのだと悟り、天の御父が自分を御存じで、愛してくださっていることが分かったそうです。

御霊のささやきを理解できるようになると、「王国にかかわる平和をもたらす事柄」¹⁴ と、「あなたがたがなすべきことをすべて」¹⁵ 御霊から教えていただけるようになります。祈りの答えに気づくようになり、さらに福音に従って生活するために日々何ができるのかが分かるようになります。導かれ、守られます。そして、このような御霊のささやきに従っていくうちに、この賜物をはぐくんでいけるようになります。最も大切なことは、聖霊が御父と御子を証されるのを感じられるようになることです。¹⁶

若いころユースカンファレンスに参加しているときに、御霊がわたしに証してくださいました。回復されたこの福音は真実だと。証会が始まる前、準備のために「主のみたまは火のごと燃え」を歌ったのです。この賛美歌は聖餐会せいさんで何度も歌ったことがありましたが、このときは、前奏を聞いたときから御霊を感じました。そして「みさかえ出づ末の代に」¹⁷ のところまで

来ると、それは単なる美しい歌詞ではなく、れっきとした事実だということが分かりました。

父なる神が確かに生きておられることを聖霊が教えてくださいました。神はわたしたちを愛しておられます。わたしたち一人一人を個人として知っておられるのです。心からの祈りを聞き、こたえてくださるのです。

イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、贖い主です。キリストは時の中間に地上に生まれ、わたしたちの罪を贖ってくださいました。そして再び地上に來られます。これらのことと、そのほかわたしの証を形作っている福音の要素はわたしの心に深く根付いています。それは聖霊の影響によるものなのです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

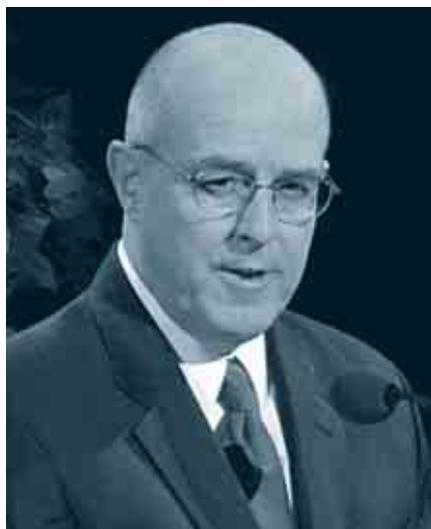
1. 教義と聖約68:25
2. モロナイ7:16
3. 『真理を守る』(2004年), 132-133 参照
4. ヒラマン4:24
5. 教義と聖約121:45-46
6. 教義と聖約8:2
7. エノス1:10
8. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第3巻, 381
9. ヘンリー・B・アイリング, "Gifts of the Spirit for Hard Times," *Ensign*, 2007年6月号, 18
10. 3ニーファイ9:20
11. 列王上19:12; 1ニーファイ17:45; 教義と聖約85:6参照
12. 詩篇46:10. 教義と聖約101:16も参照
13. リチャード・G・スコット, *Helping Others to Be Spiritually Led* (宗教教育者への説教, 1998年8月11日), 3; 『教師——その大いなる召し』48
14. 教義と聖約36:2
15. 2ニーファイ32:1-5
16. 2ニーファイ31:18参照
17. 「主のみたまは火のごと燃え」『賛美歌』3番

重荷を軽くして くださるように

七十人会長会

L・ホイットニー・クレートン長老

重荷は、自己を完成させるために必要な徳を实践する機会を与えてくれます。



何年も前、アンデス山脈の高地に位置するペルーのクスコでのことです。夜明けに丸石を敷き詰めた狭い道を歩いていました。すると、先住民族の男性が道を歩いて来るのが見えました。大柄ではありませんでしたが、薪がたくさん入った麻布の大袋を背負っていました。袋の大きさはほぼ男性の体と同じでした。荷物はきつと男性と同じくらい重かったでしょう。彼は大袋の底から出ている縄で荷物を固定し、その縄を自分の額に巻きつけ、頭の両側でその縄を握り締めていました。縄と頭の間を布を挟み、縄が皮膚に食い込むのを防いでいました。男性は荷物の下で前かがみになり、慎重に、苦労しながら歩いていました。

男性は薪を売りに市場まで運んで行く

途中でした。普段、このような扱いにくく重い荷物を運んで、町を2、3度行き来します。

体を前のめりにして四苦八苦しながら歩く男性の記憶は、時がたつにつれ、ますます意味のあるものとなりました。男性はそのような重荷をどれだけ運び続けることができるのでしょうか。

人生は、あらゆる種類の重荷をわたしたちに課します。軽いものもありますが、容赦なく重いものもあります。人々は、自分にのしかかる重荷に日々もがいています。多くの人がそのような重荷に苦しんでいます。それらは情緒的または肉体的な重圧となります。また、厄介で耐え難く、心身を疲れさせ、何年にもわたって続くこともあります。

一般的に、重荷には3つの源があります。ある重荷は、わたしたちの住むこの世界が自然に生み出すものです。病、身体の障がい、ハリケーン、地震などは、わたしたちに落ち度がなくても時折やって来ます。これらの危機に備えることはでき、時には予測できることもあります。自然の法則に従って、だれもがいつかこのような試練の幾つかを経験することでしょう。

別の重荷は、他人の悪い行いによるものです。虐待や依存症は、罪のない家族にとって家庭を地上の天国とは程遠いものにしてしまいます。罪、誤った伝統、抑圧、犯罪は、人生のいたる所で犠牲者に重荷を負わせます。うわさ話や不親切などの比較的軽度の悪事も、相手に大きな



苦しみを与えます。

問題の多くは、わたしたち自身の過ちと欠点のために生じ、わたしたち自身の肩に重くのしかかります。自分自身の首を絞める最も厄介な重荷は、罪の重荷です。わたしたちは皆、戒めを守らないときに必ず生じる深い後悔の念と苦痛を知っています。

自然、他人の悪事、あるいは自分の過ちや欠点が原因で、人生でどのような重荷を負うことになろうとも、わたしたちは皆慈しみ深い天の御父の子供です。天の御父はわたしたちの成長と進歩のために永遠の計画を備え、その計画に添ってわたしたちを地上に送られました。わたしたちは、それぞれに与えられる経験を通して、御父のみもとに戻る備えをすることができます。わたしたちが経験する逆境や苦難は、たとえそれがどんなに耐え難いものであっても、天から見れば「つかの間」にすぎません。「その後、[わたしたち]がそれをよく堪え忍ぶならば、神は[わたしたち]を高い所に上げ[てくださるでしょう]。」「¹ わたしたちは、重荷を背負うその「つかの間」がどれだけ長く続こうとも、「よく」堪え忍ぶためにできる限りのこ

とを行わなければなりません。

重荷は、自己を完成させるために必要な徳を实践する機会を与えてくれます。わたしたちの重荷は、「聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従[うよう]」² わたしたちを促します。このように、重荷は祝福となるのです。ただし、このような祝福はしばしば姿を隠して、それを受け入れ理解するまでに時間と努力、信仰を必要とすることがあります。4つの例を用いて説明しましょう。

- 第1に、主はアダムのためを思って「地はあなたのためにのろわれ」、「あなたは顔に汗してパンを食べ[るであろう]」とおっしゃいました。³ 労働は継続的な重荷ですが、「顔に汗して」のみ学ぶことのできる教訓を教えてくれるため、「[わたしたち]のため」に継続して与えられる祝福でもあるのです。
- 第2に、アルマはゾーラム人の貧しい者たちが、貧困と「苦しみを受けて心がへ

りくだっており、御言葉を聞く用意のできている」⁴ のに気づきました。さらに「やむを得ずへりくだっているの、あなたがたは幸いである」⁵ と述べています。現在の経済的な困難は、主の御言葉を聞けるようにしてくれるものなのです。

- 第3に、「戦争が非常に長期に及んだため」、多くのニーファイ人とレーマン人は「苦難を受けたために柔和に」なり、「神の前に心底謙遜にへりくだ[りました。]」⁶ 不安定な政治、不穏な社会、また世界の幾つかの地域で見られる現代のガデアントン強盗団は、わたしたちをへりくだらせ、社会不安から身を守る天の避難所を求めよう、わたしたちを駆り立てるものになるでしょう。
 - 第4に、ジョセフ・スミスは、敵によって長年苦難を味わいましたが、それは結果的に彼に「経験を与え、[彼の]益となる」⁷ と主はおっしゃいました。他人の悪事のために味わう苦痛は、自分の行いを改善するための辛くとも貴重な訓練なのです。
- さらに、自分の重荷を堪え忍ぶことにより、他人の問題に対してもっと思いやりの念を抱くことができるようになります。

使徒パウロは、わたしたちは「互に重荷を負い合い……、キリストの律法を全うする[べきである]」⁸と教えました。同様にバプテスマの聖約は、わたしたちが次のような人となるよう教えています。「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望[む]。』⁹

バプテスマの聖約をさらに守ることにより、自分自身や、自分が仕える人の重荷を軽くすることができます。¹⁰ ほかの人にこのような助けを申し出る人は、聖なる地に立っているのです。このことを説明するために、救い主は次のように教えられました。

『……いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいらるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』¹¹

救い主は、わたしたちが重荷を負っている間ずっと、わたしたちが耐えられるだけの力と助けを与えてくださり、そして救い主の時と方法により、重荷から解放してくださいます。アルマとアルマに従う人々は、ノア王の軍勢から逃れてヘラムという共同体を設立しました。彼らは地を耕して建物を建て、栄え始めました。¹² そこへ突然、レーマン人の軍が来て、彼らを奴隷にしました。「神のほかにも、だれも彼らを救い出せ[ませんでした]。』¹³ しかも、直ちに救い出されたわけではありません。

敵は「彼らに苦役を課し、彼らを見張る監督を置[き]」始めました。¹⁴ 祈ったら殺すと脅されましたが、¹⁵ アルマとその同胞は、「自分たちの心を主に注ぎ出し」、「そして主は、彼らの心の思いを御存じで[した]。』¹⁶ アルマの民が善良でバプテスマの聖約に忠実であったので、¹⁷ 苦しみは徐々に取り除かれていきました。主は彼らにこう告げられました。

「わたしは、あなたがたの肩に負わされ



る荷を軽くし、あなたがたが奴隷の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられな[く]しよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがその後、わたしのために証人になれるようにするため、また主なる神であるわたしが、苦難の中にいる自分の民を訪れるということ、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。

そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。

さて、彼らは信仰が篤く、忍耐強かったので、主の声が再び聞こえて、言われた。「喜びなさい。明日、わたしはあなたがたを奴隷の状態から救い出す。』¹⁸

憐れみ深い神の御子は、すべての重荷の中で最も重い重荷である罪からの解放を申し出ておられます。贖いの間、御子は「御自分の民の罪を負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられ[ました]。』¹⁹ キリストは「すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないよう

にし[て]」²⁰くださったのです。わたしたちが悔い改めて戒めを守り続けるならば、救い主のみがお与えになることのできる助けによって救しを得られ、罪悪感の重荷から解放されます。なぜなら「悔い改める人はだれでも、必ず憐れみを受ける」からです。²¹

薪の入った大きくて重い袋を、体を曲げて苦勞して背負っていたペルーの男性の姿が忘れられません。それは、人生の重荷に苦しむわたしたちすべての姿と重なります。神の戒めや聖約を守るならば、御父はわたしたちが重荷を負えるよう助けてくださることを知っています。御父はわたしたちを強めてくださいます。わたしたちが悔い改めるなら、わたしたちを救し、良心の平安と喜びを与えて祝福してくださいませ。²² わたしたちが、心楽しく忍耐して主の御心にすべて従えまよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約121:7-8
2. モーサヤ3:19
3. モーセ4:23, 25
4. アルマ32:6
5. アルマ32:13
6. アルマ62:41
7. 教義と聖約122:7
8. ガラテヤ6:2
9. モーサヤ18:8-9
10. マタイ10:39; 11:28-30; モーサヤ2:22参照
11. マタイ25:35-40参照
12. モーサヤ23:5, 19-20参照
13. モーサヤ23:23-26参照
14. モーサヤ24:9
15. モーサヤ24:10-11参照
16. モーサヤ24:12
17. モーサヤ18:8-10; 24:13参照
18. モーサヤ24:14-16
19. アルマ7:13
20. 教義と聖約19:16
21. アルマ32:13
22. モーサヤ4:3; アルマ36:19-21参照

教えることによって 命を救う

中央日曜学校会長
ラッセル・T・オスガソープ

わたしたちは大切な教義を教え、神が備えておられる業を行うよう勧め、そして祝福が確かにやって来ることを約束するのです。



伝 道部会長を務めていたときのことで。ある日、電話で長男と話していました。彼は医師として働いている勤務先の病院に向かっている途中でした。そして、病院に着くと、こう言いました。「話ができてうれしかったよ、お父さん。もう車を降りて、人の命を救いに行かなければならないんだ。」

息子は命にかかわる病気を持つ子供たちの診療を担当しています。病気を的確に診断し、適切な治療を施すことができれば、子供の命を救うことができます。わたしは宣教師たちに、宣教師の仕事も人の命を救うこと、すなわち、教える人々の霊の命を救うことであると話しました。

ジョセフ・F・スミス大管長はこう語りました。「真理を受け入れた人は真理に

よって救われるであろう。単にだれかに教えてもらったから救われるのではない。真理を受け入れ、真理に従って行動して初めて救われるのである。」(Conference Report, 1902年4月, 86。『教師、その大いなる召し』49:1テモテ4:16も参照)

息子は医学の知識を分かち合うことによって命を救い、教会の宣教師と教師は福音の知識を分かち合うことによって命を救います。宣教師と教師は御霊に頼るとき、適切な原則を教え、学んでいる人にその原則に従って生活するよう勧め、約束された祝福が確かにもたらされることを証します。デビッド・A・ベドナー長老は最近開かれた訓練集会で、効果的に教える3つの簡単な要素を挙げました。それは(1)大切な教義(2)行動するよう勧めること(3)約束された祝福です。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、宣教師が大切な教義を教え、教える人々の行動を促し、その人々が約束された祝福を受けられるよう助けてくれます。親と教師が同様のことを行う助けとなるのが『教師、その大いなる召し』です。これは福音を教えるための手引きであり、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は伝道活動のための手引きです。わたしたちはこれらの手引きを使って教える準備をし、そして教えるときに御霊に頼ります。

トーマス・S・モンソン大管長は青年時代に日曜学校の教師であったルーシー・ガーシュについて話しています。ある日曜

日、無私の奉仕についてのレッスンの途中で、ガーシュ姉妹はクラスパーティーのためにためたお金を、母親を亡くしたクラスメートの家族に上げることを提案しました。モンソン大管長の話によれば、ガーシュ姉妹は生徒の行動を促すために、「テキストを閉じ、子供たちの目と耳と心を、神の栄光に向けさせました。」(『偉大な教師の模範』[『世界指導者訓練集会』2007年2月10日], 『リアホナ』2007年6月号, 76) ガーシュ姉妹はテキストを使ってレッスンを準備しましたが、靈感を受けたとき、テキストを閉じて、教えている福音の原則を実践するよう生徒に促したのです。

モンソン大管長はこう教えています。「福音を教えること目標は、……生徒の頭に『情報を流し込む』ことではありません。……福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、行動に移せるよう一人一人を鼓舞することなのです。」(Conference Report, 1970年10月, 107)

モロナイは預言者ジョセフを訪れたとき、回復に関する大切な教義を教えただけでなく、「神が[ジョセフ]のなすべき業を備えておられること」についても告げ、彼の名が世界中で覚えられることを約束しました(ジョセフ・スミス—歴史1:33参照)。親と福音の教師は皆、神から遣わされた使者です。皆がガーシュ姉妹やモロナイのように将来の預言者を教えるわけではありませんが、教会の将来の指導者を教えていることには間違いありません。ですから、わたしたちは大切な教義を教え、神が備えておられる業を行うよう勧め、そして祝福が確かにやって来ることを約束するのです。

気ままに過ごしていた少年時代のことを覚えています。わたしは初等協会の集会に出席するため教会に向かって歩いていました。教会に着くと、驚いたことにその日は特別プログラムで、親たちが全員来ていました。そのときわたしは、このプログラムに自分の出番があって、せりふを暗記するのを忘れていたことに気がつきました。そして、わたしの順番が来ました。立ち上がりましたが、一言も話せませんでした。何も覚えていませんでした。しば



らくそこに立っていて、それから再びいすに座り、床をじっと見詰めていました。

その経験の後、教会のどんな集会でも二度と話さないと固く決意しました。しばらくの間その決意を守り通していました。そして、ある日曜日、初等協会指導者のリディア・スティルマン姉妹がわたしの横にひざまずいて、次の週に短い話をしてほしいと言いました。「ぼくはお話をしません」と答えました。すると「分かっているわ。でもわたしが手伝ってあげるから、絶対できるわ」と彼女は言いました。わたしは抵抗を続けましたが、スティルマン姉妹がわたしに寄せた信頼があまりにも大きかったため、断り切れなくなりました。こうして、話をすることになりました。

そのすばらしい女性は神の使者であって、わたしのなすべき業を備えていました。召しが来たら、たとえどれほどふさわしくないと感じていても召しを受けるべきだということを彼女は教えてくれました。モロナイがジョセフに対してしたように、彼女はわたしが話をすべき時が来たときに、準備ができていることを確認してくれました。この靈感あふれる教師は、わたしの命を救う手助けをしてくれました。

わたしが10代のときに日曜学校のクラスで教えてくれたのは、伝道から帰還して間もないピーターソン兄弟でした。彼は毎週黒板の左下の隅から右上の隅まで大きな矢を描き、そして上に「目標を高く定める」と書きました。

どのような教義を教えるときも、ピー

ターソン兄弟はわたしたちができるかと思っているよりも少し上を目指すようチャレンジしました。矢と目標を高く定めるという標語はレッスン中ずっと励ましとなりました。わたしはピーターソン兄弟のおかげで、伝道の業を立派に果たし、学校でより良い成績を収め、職業についてもより高く目標を設定したいと思うようになりました。

ピーターソン兄弟はわたしたちのなすべき業を備えていました。彼の目標は「福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、行動に移せるよう」わたしたちを助けることでした。彼が教えてくれたことによってわたしの命は救われました。

わたしは19歳で宣教師に召されてタヒチへ行きました。フランス語とタヒチ語の2か国語を学ばなければなりません。初めのころはどちらの言語も進歩が見られず、ひどく落胆しました。フランス語で話そうとする度に、人々はタヒチ語で答えてきました。タヒチ語で話そうとすると、フランス語で答えてきました。あきらめる寸前でした。

そしてある日、伝道本部の洗濯室を通りかかると、わたしを呼ぶ声が聞こえました。振り向くと、戸口に立っていた白髪混じりのタヒチの女性が、わたしに戻って来るように手招きしていました。彼女の名はトップテアタ・モオといいました。彼女はタヒチ語しか話せず、わたしは英語しか話せませんでした。何を言っているのかほとんど分からなかったのですが、わたし

がタヒチ語を学ぶのを助けることができるので、毎日洗濯室に立ち寄るようにと言っていることが分かりました。

こうして毎日、彼女がアイロンがけをしている間、わたしは彼女とタヒチ語の練習をしました。最初はそのようなことが役に立つのかと思っていましたが、次第に彼女が何を言っているのか分かるようになりました。彼女は会う度に、わたしが絶対二つの言語を学べることを確信していると言ってくれました。

モオ姉妹はわたしがタヒチ語を学べるよう助けてくれました。けれどもわたしが彼女から学んだのはそれ以上のことでした。彼女はわたしに福音の第一の原則、すなわち主イエス・キリストを信じる信仰を教えてくれていたのです。主に頼れば、主はわたしが不可能だと思っていたことができるように助けてくださることを教えてくれました。モオ姉妹はわたしの伝道を救ってくれただけでなく、命を救う手助けもしてくれました。

スティルマン姉妹、ピーターソン兄弟、モオ姉妹は、「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、優しさと純粋な知識によ[り、教えました]。これらは、心を大いに広げるもので[す。]」（教義と聖約121:41-42）また、彼らは徳で自分たちの思いを飾ることにより教えました。そうすることで、聖霊は常に彼らの伴侶となられたのです（教義と聖約121:45-46参照）。

これらの偉大な教師は自分の教え方に

ついて次のように自問するよう促してくれました。

1. わたしは教師として、自分が神から遣わされた使者であると考えているだろうか。
2. 命を救う手助けとなるような方法を準備してから、教えているだろうか。
3. 回復についての大切な教義に焦点を絞っているだろうか。
4. わたしが教えている人々はわたしが彼らと天の御父そして救い主を愛していると感じることができるだろうか。
5. 靈感を受けたときに、わたしはテキストを閉じ、人々の目と耳と心を、神の栄光に向けさせているだろうか。
6. 神が彼らのために備えておられる業を行うよう勧めているだろうか。
7. 求められることを断れなくなるほど大きな信頼を、わたしは彼らに表しているだろうか。
8. わたしが教えている福音に従って生活するときに、約束された祝福がもたらされることに気づくよう人々を助けているだろうか。

神の王国において、学び、教えることは、自由に任されている活動ではありません。まさしく、学び、教えることによって、地上に福音が回復されたのであり、わたしたちは永遠の命を得るのです。また個人の証を得る道が示されます。だれも「無知で救われる」ことはありません(教義と聖約131:6)。

わたしは神が生きておられることを知っています。イエスがキリストであられることを証します。預言者ジョセフは真理を学び、そしてそれを教えることによってこの神権時代を開いたことを証します。ジョセフは次々と質問をして、神から答えを受け、そして自分が学んだことを神の子供たちに教えました。モンソン大管長が現在地上における神の代弁者であり、引き続きジョセフのように学び、わたしたちに教えてくれることを知っています。なぜなら、教えることによって命が救われるからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

家庭でもっと勤勉に 家庭のことに携わる

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

わたしたちは、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携われるようになります。そのために、さらに忠実にイエス・キリストの回復された福音を学び、福音に生き、福音を愛するのです。



18 33年に預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示の中で、指導的な立場にある兄弟たちは家族を整えるように強く叱責されました(教義と聖約93:40-50参照)。「家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる」(50節)というその啓示の言葉が、わたしの話のテーマです。わたしたちが家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わるために、3つの提案をします。聞く耳と感じる心をもって聞いてください。主の御霊がわたしたちとともにあるよう祈ります。

提案1：愛を表現し、行動で示す

愛する人に愛を伝えることで、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携われるようになります。飾り立てた言葉や長々しい言葉

は必要ありません。真心を込めて、頻繁に愛を表現するだけでよいのです。

兄弟姉妹の皆さん、永遠の伴侶の手を握り「愛しているよ」と言ったのはいつのことでしたか。親の皆さん、子供たちに真心から愛を伝えたのはいつのことでしたか。子供の皆さん、親に愛を伝えたのはいつのことでしたか。

愛する人たちに愛を伝えるべきことは、だれもが知っています。しかし、知っていれば必ずできるというわけではありません。不安、ぎこちなさ、気恥ずかしさを感じるかもしれません。

救い主の弟子であるわたしたちは、知識を深めるだけでは不十分です。正しいと知っていることを一貫して行い、より善い人間になる必要があります。

「愛しているよ」と言うことは始まりにすぎないことを肝に銘じましょう。言葉に出して、そのとおりに行う必要があります。何にも増して、常に愛を示す必要があります。愛を伝えると同時に行いで示すのです。

トーマス・S・モンソン大管長は最近次のように勧めました。「わたしたちは、『自分が相手をどれほど愛しているかを、(周りの人は)十分知っているはずだ』と思いがちですが、当然そうだと決めてかかっているはいけません。知らせなければならぬのです。……優しい言葉をかけ、愛を示したことで後悔することは決してありません。そのような行為が、最も大切な人との関係から除外されるなら、いつか後悔す



る日が訪れます。】(「人生の旅路に喜びを見いだす」『リアホナ』2008年11月号, 86)

聖餐会の話や証の中で、時々次のような言葉を耳にします。「わたしは妻に、愛していると頻繁に伝えていません。今日は、妻と子供と皆さんに、わたしが妻を愛していることを知ってもらいたいと思います。」

この愛の言葉自体は適切かもしれませんが、このような言葉を聞くに居心地が悪くなります。このように非常に個人的なことは教会という公の場で伴侶や子供に伝えるべきではないと静かに叫びたくります。

子供にとっては、日常生活のありふれた場面で、両親が愛を表すのを見聞きする方がよいのです。しかし、教会で公に愛を表現されて、伴侶や子供が少々意外に感じるとすれば、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる必要があるということになります。

愛と適切な行為の関係については、聖典の中で繰り返し述べられ、救い主も使徒たちに教えられました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15)

主への愛は、主の道を歩むことによって証明されます(申命19:9参照)。同様に、伴侶や親や子供への愛は、わたしたちの思いや言葉や行いに、何よりもはっきりと表れます(モーサヤ4:30参照)。

伴侶や親や子供から確かな愛を常に感じられることは、豊かな祝福です。そのような愛は神への信仰をはぐくみ支え、力の源となり、恐れを払いのけます(1ヨハネ4:18参照)。そのような愛は万人が望むものです。

愛を伝え、常に行動で示すなら、家庭

でもっと勤勉に家庭のことに携われるようになります。

提案2：証を述べ、証に生きる

家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わるもう一つの方法は、聖霊の証を通して真実であると知っている事柄について、愛する人に証することです。証するには、言葉数を多くし巧みな表現を使う必要はありません。真実について証を述べるために、第1日曜日まで待つ必要もありません。御父と御子の神性や実在について、偉大な幸福の計画について、また回復について純粋な証を、自分の家庭という囲いの中で述べることができますし、そうすべきです。

兄弟姉妹の皆さん、永遠の伴侶に証をしたのはいつのことでしたか。親の皆さん、真実であると知っている事柄について子供に証を述べたのはいつのことでしたか。子供の皆さん、親や家族に証を伝えたのはいつのことでしたか。

最愛の人たちに証をすべきことは、だれもが知っています。しかし、知っていれば必ずできるというわけではありません。不安、ぎこちなさ、気恥ずかしさを感じるかもしれません。

救い主の弟子であるわたしたちは、知識を深めるだけでは不十分です。正しいと知っていることを一貫して行い、より善い人間になる必要があります。

心から証を述べることは始まりにすぎないことを肝に銘じましょう。証を述べ、そのとおりに行う必要があります。何にも増して、常に証に生きる必要があります。証を述べると同時に証に生きる必要があるのです。

証と適切な行為の関係については、救い主もカートランドの聖徒に教えられました。「御霊があなたがたに証する事柄を行うようにと、わたしは望んでいる。」(教義と聖約46:7) 福音の真理に対する証は、言葉と行いの両方に反映されるはずですが、夫婦も親も子供も、ためらいや、渋る気持ち、気恥ずかしさを克服して、証しようと努力しなければなりません。福音の真理について証する機会を作ると同時に、そのような機会を探し求め、証に生きる必

要があるのです。

証とは聖霊の証を通じて、頭や心の中で真実であると知っている事柄です(教義と聖約8:2参照)。勧告や、奨励や、単に興味深い経験談ではなく、真理を公言するときに、その言葉が真実であることを確認なさる聖霊を招くことができます。純粋な証には力がありますが(アルマ4:19参照)、それは洗練された言葉や効果的な話し方によるのではなく、神会の第三の御方である聖霊が下される啓示によるのです。

伴侶や親や子供の証から、力、教化、一貫性を感じられることは、豊かな祝福です。そのような証は信仰を堅固にし、行くべき道を示し、ますます暗くなる世界に光を生み出します。そのような証は永遠の観点と永続する平安の源です。

証し、常に証に生きるなら、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携われるようになります。

提案3：一貫性を持つ

息子たちが小さかったころ、我が家でも皆さんが行ってきたこと、そして現在行っていることをしていました。家族の祈りや聖文学習、家庭の夕べを行ったのです。さて、これから話すことは、皆さんの家庭では絶対に起こらないと確信していますが、我が家では起こりました。

妻とわたしは、これらの霊的に不可欠な事柄を行いながらも、はたして意味があるのだろうかと思うことがありました。聖文を読んでも、突然息子たちが「ねえ、お兄ちゃんが触ってくる」「じろじろ見ないように言ってよ」「ママ、弟がぼくの空気を吸ってる」などと叫びます。心からの祈りが、くすくす笑いやつつき合いで中断することもありました。活発で始末に負えない息子たちと一緒にでは、家庭の夕べのレッスンから高度な教化が得られるわけではありません。義にかなった習慣を築こうと必死になって取り組んでも、期待している霊的な実がなかなか刈り取れないように思い、妻もわたしも、腹を立ててしまうことがありました。

家族の祈り、聖文学習、家庭の夕べについて何を覚えているか聞いたら、成人

した息子たちからどのような答えが返ってくるか予想できます。息子たちは、あの子の祈りが、あの子の聖文学習が、あるいは特に意義深かったあの家庭の夕べのレッスンが、その後の自分の霊的成長を変えたとは答えないでしょう。しかし息子たちは、家族がいつも一貫していたことは覚えていると答えるでしょう。

妻とわたしは、特定のレッスンの内容や聖句を理解させなければいけないと考えていました。しかし、そのような目標は、一緒に勉強し、祈り、学ぶ度に達成できるわけではありません。目標と努力が一貫していることこそ、恐らく最高のレッスンだったのです。そのことを当時のわたしたちは十分理解していませんでした。

わたしのオフィスには麦畑の絵があります。一本一本描かれた無数の線が集まって1枚の絵になっています。どの線も1本ずつでは、おもしろくも心を打つわけでもありません。実際、キャンパスに近づくと、目に入るのは、何の関係も何の魅力もないような無数の線が、黄色や、金色や、茶色の絵の具で描かれているだけです。けれども、少しずつキャンパスから離れると、先ほどの線一本一本がすべて合わさって、麦畑の壮大な風景が現れるのです。一本一本の目立たない線が重なり合って、目を見張るような美しい絵を作り上げるのです。

一回一回の家族の祈り、一回一回の家族の聖文学習、一回一回の家庭の夕べが、心のキャンパスに描かれた1本の線なのです。心を打ち記憶に残る出来事などないように思えるかもしれませんが、黄色や、金色や、茶色の絵の具で描いた一本一本が補い合って印象的な傑作を生み出すように、一見取るに足りないことを一貫して行うことで、意義深い霊的な実が得られるのです。「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。」(教義と聖約64:33) 一貫性とは、個人の生活の中に大いなる業の基を据え、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わるために重要な原則なのです。

家庭で一貫性を持つことが大切な理由



がもう一つあります。救い主は度々偽善者を厳しく叱責されました。イエスは律法学者やパリサイ人について弟子たちに「彼らのすることには、ならうな。彼らは言うだけで、実行しないから」と警告されました(マタイ23:3)。この力強い警告は、「愛を表現し、行動で示す」「証を述べ、証に生きる」「一貫性を持つ」ということを考えると、いっそう強く心に響きます。

偽善は生活の中で容易に認識できるも

のであると同時に、家庭をひどく損なうものでもあります。また、偽善に気づくという点では子供が最も敏感であることが多いものです。

人前で愛を口にしながら家の中で愛を行動で示さなければ、それは偽善であり、大いなる業の基を崩します。人前で証をしながら、家の中で忠実でも従順でもないなら、それは偽善であり、大いなる業の基を揺るがします。「あなたは隣人につ

いて、偽証してはならない」という戒めは(出エジプト20:16)、わたしたち一人一人の中にある偽善に最もよく当てはまります。わたしたちは一貫性を持つ必要があります。「むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(1テモテ4:12)

主の助けを求め、主の力の内にあるならば、言葉と行いのギャップ、愛を表現することと常に行動で愛を示すことのギャップ、証を述べることと確固として証に生きることとのギャップを、少しずつ埋められます。わたしたちは、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携われるようになります。そのために、さらに忠実にイエス・キリストの回復された福音を学び、福音に生き、福音を愛するのです。

証

「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」です(「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49; または *Ensign*, 1995年11月号, 102)。これらの、また、そのほかの永遠に重要な理由のために、わたしたちは家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わるべきです。

すべての夫婦、子供、親が、主の恵みによって、愛を伝え、愛を受け、力強い証を述べ、証に教化されますよう、また取るに足りないようでありながら真に大切なものをさらに一貫して守り抜くことができますように。

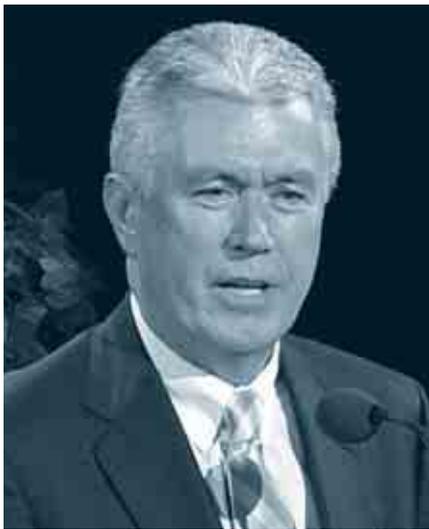
わたしたちはこの大切な務めを独りで行うものではありません。天の御父とその愛子は生きておられ、わたしたちを愛し、わたしたちの状況を御存じで、家庭でもっと勤勉に家庭のことに携われるように助けてくださいます。これらの真理を救い主イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

神の愛

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

愛は、わたしたちの信仰の尺度となり、従順を促し、弟子としての度合いを測ってくれます。



末日聖徒イエス・キリスト教会は発展を続けており、世界中でさらによく知られるようになっていきます。固定観念から教会と教会員を否定的に見る人は常にいますが、大半の人々はわたしたちが正直で勤勉であり、社会に貢献していると考えています。さわやかな身だしなみの宣教師、愛にあふれた家族、お酒もたばこもたしなまない友好的な隣人というイメージを抱いている人もいます。また、毎週日曜日に教会へ行って3時間の集会に出席し、互いに兄弟姉妹と呼び合う人たちだとか、子供たちは語りかけてくる小さな川やポップコーンのなる木の歌を歌い、太陽の光のようになりたがっていると考えられているかもしれません。

兄弟姉妹の皆さん、これらの中に、主の教会の会員であり、イエス・キリストの弟子であることを示す特質が挙げられているのでしょうか。6か月前の総大会の後、わ

たしはずっとこの問いや類似の問いについて深く考えてきました。その結果として浮かび上がってきた考えや思いをここで皆さんと分かち合いたいと思います。では、最初の問いです。

イエス・キリストの真の弟子になるにはどうしたらよいでしょうか。

救い主御自身、次のような深遠な宣言で答えておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」¹これが真の弟子になるということの核心となります。キリスト・イエスを受け入れる者は、主とともに歩むということです。²

しかし、これは問題だと感じる人もいるでしょう。すべきこと、すべきでないことがあまりにも多くて、自分の行動を吟味するだけでも大仕事になってしまう場合があるからです。悪気はないのですが、神から靈感を受けることなく、神聖な原則に人の考え出した説明を付け加えて神の真理から純粋さを奪い、問題をいっそう複雑にしてしまう人々があります。ある人が良い考えを持っていて、それは本人にとっては都合がいいものかもしれませんが、その考えが期待されることとして根を伸ばし、定着してしまうことがあります。そして次第に、永遠の原則が「良い考え」という迷路の中で見失われてしまうのです。

これは救い主が当時の宗教の「専門家」に向けられた批判の一つです。ささいな事柄に固執して、もっと大切な事柄を見逃していることを主は叱責されたのです。³

では、これらの「もっと大切な」事柄に

目を向け続けるにはどうしたらよいでしょうか。わたしたちの生活、考え、行動に優先順位を付けるのに役立つ指針はあるのでしょうか。

これについても、救い主は示唆しておられます。いちばん大切な戒めは何かと問われたとき、ためらわずこう答えられました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。」⁴この戒めは、自分を愛するようあなたの隣り人を愛せよという第二の大切な戒め⁵とともに、この世と来世にわたり、わたしたちの人生だけでなく主の教会がこの世と永遠にわたって進むべき道を示す指針です。

愛は大切な戒めです。ですから愛は、家族、教会の召し、生活におけるわたしたちのあらゆる行動の中心とならなければなりません。愛は人間関係や家族関係の問題や争いを修復する治療薬です。家族、地域社会、国を一つにするきずなです。愛は、友情、寛容、礼儀、尊敬の基となる力であり、不和や憎しみを乗り越える源です。愛は、この上ない喜びと神聖な希望によって生活にぬくもりを与えてくれる炎です。わたしたちの行動と言葉は愛に満たされていなければなりません。

イエス・キリストがわたしたちを愛しておられるように愛するという意味をほんとうに理解するとき、混乱は消え去り、御心^{みこころ}にかなった優先順位を付けられるようになります。キリストの弟子としての生活はいっそう喜びにあふれ、人生に新しい意味が生まれます。天の御父との関係はさらに深まり、従順は重荷ではなく、喜びになるのです。

なぜ神を愛する必要があるのでしょうか。

永遠の御父なる神が第一の大切な戒めをお授けになった理由は、わたしたちが神を愛することを、神が必要となさっていたからではありません。わたしたちが神の御名を軽んじ、否定し、あるいはたとえ汚しても、神の力と栄光が傷つけられるわけではありません。わたしたちが神を受け入れ、認め、たたえるかどうかにかか



ならず、神の影響と支配は時空を超えて広がるのです。

神はわたしたちに愛してもらうことを必要としておられません。むしろ、わたしたちに神を愛する必要があります。

なぜなら、何を愛するかによって、何を求めるかが決まるからです。

何を求めるかによって、何を考え、行くかが決まります。

何を考え、行くかによって、現在と将来の自分が決まります。

わたしたちは天の両親にかたどって造られた神の霊の子供です。このため、わたしたちには非常に大きな愛する能力が備わっています。それは霊的な受け継ぎです。何を、どのように愛するかによって、個人だけでなく、教会の本質が決まってしまうのです。愛はキリストの弟子であることを示す特徴です。

時の初めから、愛は最高の幸福を招くとともに、最大の重荷こんにちをもたらしてきました。アダムアダムの時代から今日に至るまで、不幸の原因をたどっていくと、悪を愛する心が見つかり、幸福の根底には善を愛する

心が見つかることでしょう。

あらゆる善の頂点に立っておられるのは神です。

天の御父は子供であるわたしたちに、理解をはるかに超えた祝福を授けておられます。御父の指示の下で、偉大なるエホバがわたしたちの住むこのすばらしい世界を創造されました。父なる神はわたしたちを見守り、胸を躍らせる喜びでわたしたちの心を満たし、暗闇くらやみに沈むわたしたちを恵みに満ちた平安によって輝かし、貴い真理の露を心に滴らせ、苦境のときにわたしたちを導き、楽しみをともに楽しみ、義にかなった願いを聞き届けてくださいます。

御父は子供たちに、栄光あふれる永遠の命を約束され、わたしたちが満ちみちる喜びにあずかるまで知識と栄光の中で進歩する道を示してくださいました。御父は御自分の持つておられるすべてを与えると約束しておられます。

もしこれらすべてが天の御父を愛する必要がある理由としてまだ十分でないとしたら、使徒ヨハネの言葉から学ぶこと

ができるでしょう。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」⁶

天の御父はなぜわたしたちを愛しておられるのでしょうか。

皆さんが想像できるかぎり最高に清く、すべてを包む愛について考えてみてください。では、その愛を無限に広げてください。それが、皆さんに対する神の限りない愛です。⁷

神は人の外見を見てはおられません。⁸ 住まいが城か小屋か、容姿が美しいかどうか、有名か無名か、そういうことは一切気にしておられません。わたしたちは不完全ですが、神はわたしたちを完全に愛しておられます。道に迷い、行き先が分からなくなったとしても、神の愛によって完全に包まれるのです。

神は神聖で清く、筆舌に尽くし難い無限の愛であふれているので、わたしたちを愛してください。神にとってわたしたちが大切なのは、わたしたちが優れた経歴を持っているからではなく、わたした

ちが神の子供だからです。神は、わたしたち一人一人を愛しておられます。弱者、拒絶された者、不器用な者、悲しむ者、挫折した者であっても、御自分の子供たちを皆、愛しておられます。神の愛は非常に大きいので、高慢な者、利己的な者、横柄な者、邪悪な者でさえ愛しておられるのです。

つまり、現在どのような状態であっても、わたしたちには希望があります。どのような苦難や悲しみに遭遇しても、どのような間違いを犯しても、無限の哀れみに満ちた天の御父は、わたしたちが御自身に近づくことによって、御父がわたしたちに近づけるよう願っておられます。⁹

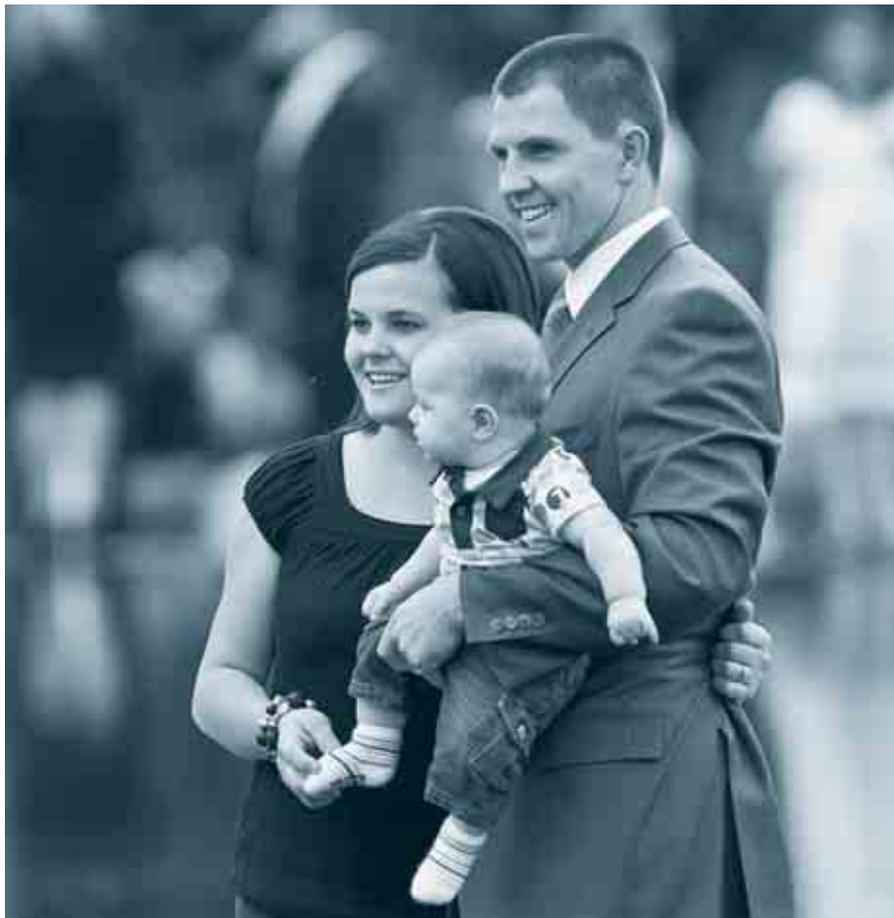
神に対する愛を深めるにはどうしたらよいでしょうか。

「神は愛である。」¹⁰ ですから、わたしたちは神に近づけば近づくほど、愛をいっそう強く感じるのです。¹¹ しかし、この世は幕によって天の家から隔たれているため、わたしたちは肉の目には見えないものを御霊によって求めなければなりません。

時には、天が遠く感じることもあります。聖文は希望を与えてくれます。「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば。」¹²

しかし、一心に神を尋ね求めるには、単に祈りをささげたり、生活の中に神をお招きする言葉を少し述べたりするだけでなく、もっと多くのことが必要です。「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである」¹³ からです。わたしたちは神を知っていると高らかに公言することができます。神を愛していると人前で宣言することもできます。しかし、神に従っていないければ、すべては無意味です。「『神を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない」からです。¹⁴

わたしたちは神の御言葉に添った思いや行動により、天の御父を愛する気持ちを強めて、その愛を実践します。御父の純粋な愛は、いっそう清く聖なる者となるよう、常にわたしたちを導き励ましています。



御父の純粋な愛はまた、義になかった道を歩むよう促してくれます。恐怖心や義務感からではなく、神を愛しているのもっと神のようになりたいという心からの願いによって、そのように促されるのです。そのような行いにより、わたしたちは次のような状態に到達できます。「再び……生まれ、血によって、すなわちわたしの独り子の血によって清くされ[る]。それは、あなたがたがすべての罪から聖められ、この世において永遠の命の言葉を享受し、来るべき世において永遠の命、すなわち不死不滅の栄光を享受するためである。」¹⁵

愛する兄弟姉妹の皆さん、時折つまづくことがあっても、落胆しないでください。キリストの弟子として常にふさわしいと感じることができなくても、あきらめしないでください。義になかった道を歩む第一歩は、ひたすら努力することです。信じようと努力しなければなりません。神について学び、聖文を読み、末日の神の預言者の言葉を研究し、御父の御言葉に耳を傾け、御父から勧められている事柄を行うという選択をするようにしてください。難

しく思えることが、できるようになり、なんとかできそうだったことがやがて習慣となり、完全に身に付くまで努力を続けてください。

どうしたら御父の声を聞くことができるでしょうか。

天の御父に近づこうとするとき、また、キリストの御名により御父に祈るとき、御父はこたえてくださいます。どこにいても語りかけてくださいます。

聖文に記された神の御言葉を読むとき、神の声に耳を傾けてください。

この総大会の間や終了後に、ここで語られた言葉を研究し、御父の声に耳を傾けてください。

神殿に参入し、教会の集会に出席するとき、御父の声に耳を傾けてください。

豊かで美しい自然の中で、御霊の静かなさやきの中に、御父の声を聞いてください。

毎日ほかの人と交わす会話に、賛美歌の歌詞に、子供の笑い声に、御父の声を聞いてください。



御父の声に耳を傾けるなら、御父は、キリストの純粋な愛を感じることができる道へあなたを導いてくださいます。

天の御父に近づくにつれ、わたしたちはいっそう聖くなります。そして、聖くなるにつれて、わたしたちは不信仰を克服し、わたしたちの魂は、御父の恵みの光に満たされます。その天からの光によって自分の生活を正すなら、暗闇から出て、さらに大きな光へと近づくことができます。このいっそう大きな光は、聖なる御霊の言い尽くせない教えへと導いてくれます。そして、天と地の間にある幕は薄くなります。

なぜ愛は大切な戒めなのでしょう。

子供たちに対する天の御父の愛が幸福

の計画を貫くメッセージです。幸福の計画はイエス・キリストの贖い^{あがな}によって実現するのです。贖いは、人類が知っている最も大いなる愛の表れです。¹⁶

ほかのすべての戒めは愛の原則に基づいていると言われた救い主の言葉は、何と明確でしょう。¹⁷ もしわたしたちが偉大な律法に従い、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして天の御父と隣人を愛することがほんとうにできるようになれば、ほかの多くのことはうまくいくでしょう。

神の聖い愛は、平凡な行動を驚くべき奉仕へと変えます。聖い愛は、単純な言葉を神聖な聖文へと変えます。聖い愛は、神の戒めに不承不承従う心を喜びあふれる奉獻と献身的な犠牲に変える原動力と

なります。

愛は、弟子の歩む道を照らす導きの光であり、わたしたちの日々の歩みを命と意義と感動で満たしてくれます。

愛は、わたしたちの信仰の尺度となり、従順を促し、弟子としての度合いを測ってくれます。

愛は、弟子がたどる道です。

神が天におられることを^{あかし}証します。神は生きておられます。皆さんを御存じで、愛しておられます。心にかけておられます。皆さんの祈りを聞き、心の願いを知っておられます。神は皆さんに対する無限の愛に満たされていらっしゃる。

愛する兄弟姉妹の皆さん、最初に述べた言葉を最後に繰り返しましょう。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを示す特質とは一体何でしょうか。

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神を愛し、自分を愛するように隣人を愛する人として知られるようになりましょう。この二つの大切な戒めを理解し、家庭の中で、自分のワードや支部の中で、自分が住む国の中で、日々の生活の中で実践するときに、キリスト・イエスの真の弟子になる意味を理解できるようになるでしょう。わたしはこのことを、イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

注

1. ヨハネ14:15
2. コロサイ2:6参照
3. マタイ23:23参照
4. マタイ22:37, 38
5. マタイ22:39参照
6. 1ヨハネ4:19
7. イザヤ54:10;エレミヤ31:3参照
8. サムエル上16:7参照
9. 教義と聖約88:63参照
10. 1ヨハネ4:8
11. ローマ5:5;1ヨハネ4:7, 16参照
12. エレミヤ29:13
13. 1ヨハネ5:3。2ヨハネ1:6も参照
14. 1ヨハネ2:4。イザヤ29:13も参照
15. モーセ6:59
16. ヨハネ15:13参照
17. マタイ22:40参照

教会役員の支持

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

わ

たしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ワークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、

M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーツン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは、チャールズ・ディディエ、

ジョン・M・マドセン、リン・A・ミケルセン、デニス・B・ノイエンスワウダーの各長老を七十人第一定員会から解任し、名誉中央幹部に指名します。

また、ダグラス・L・カリスター、シャーリー・D・クリステンセン、ジェームズ・M・ダン、ダリル・H・ガーン、クレート・W・マスク・ジュニア、ロバート・C・オークス、ウィリアム・W・パームリー、W・ダグラス・シャムウェー、ロバート・S・ウッドの各長老を七十人第二定員会から解任します。兄弟たちのすばらしい奉仕に、わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、手を挙げてその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。

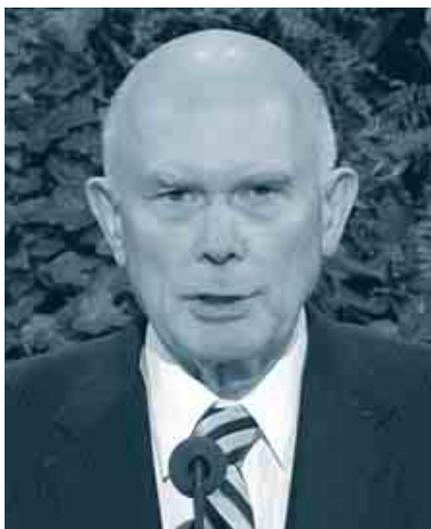


愛と律法

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老

神の愛は神の律法と神の戒めにとって代わるものではありませんし、神の律法と戒めの効力は、神の愛の目的と効力を減ずるものではありません。



わたしは神の愛と神の戒めについて話すようにという強い気持ちを感じました。わたしのメッセージは、神の普遍かつ完全な愛は福音の計画に伴うすべての祝福の中に示されているということです。これには神のえり抜きの祝福は神の律法に従う人々のために備えられているという事実も含まれます。¹ これらは子供たちを愛し教えるように両親を導く永遠の原則です。

I.

まず4つの例を提示します。これらは愛と律法の間に若干この世的な混乱があることを示すものです。

- ^{どうせい}同棲をしているヤングアダルトが、悲しんでいる両親にこう言います。「わたしをほんとうに愛しているなら、結婚している子供たちを受け入れているように、

わたしたちを受け入れてよ。」

- ある青少年は親の指示や圧力に反発して言います。「ぼくをほんとうに愛しているなら、強要しないでよ。」

これらの例では、戒めを破っている人が、親の愛は神の律法の戒めや両親の教えに優先すると主張しています。

次の二つの例は、神の愛の効力についてのこの世的な混乱を示しています。

- ある人が、来世で家族関係を楽しむために夫婦は永遠の結婚をしなければならぬという教義を拒否して言います。「神がほんとうにわたしたちを愛しておられるなら、そのことで夫と妻を引き離すことはないと思います。」
- またある人が、神が個人や人種に苦しみ及ぶのをそのままにしておられることで自分の信仰が損なわれたと言い、次のように断言します。「わたしたちを愛する神がおられるなら、こんなことは起こらないでしょう。」

これらの人々は永遠の律法を信じていません。それが、神の愛のもたらす効力についての自分たちの考えに添っていないからです。この立場を取る人々は、神の愛の本質や神の律法と戒めの目的を理解していません。神の愛は神の律法と神の戒めにとって代わるものではありませんし、神の律法と戒めの効力は、神の愛の目的と効力を減ずるものではありません。親の愛と規則についてもまったく同じです。

II.

まず、神の愛について考えてみてください。このことについて、ディーター・F・ワークドルフ管長は今朝非常に意義深い話をしました。「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか」と、使徒パウロは問いかけています。艱難、迫害、危難、剣ではありません(ローマ8:35参照)。パウロは語っています。「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、……力あるものも、……その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」(38-39節)

使徒ヨハネが述べた言葉以上に、神の愛には無限の力があり完全であることを立証するものではありません。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネ3:16)別の使徒は、神は「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡された」と記しています(ローマ8:32)。天の御父が、御子を遣わし、わたしたちの罪のために理解できないほどの苦しみに耐えるようにしたとき、どれほどの悲しみをお感じになったか、考えてみてください。それは、御父がわたしたち一人一人を愛しておられることの最大の証拠です。

神が御自分の子供たちを愛しておられるというのは、永遠の事実です。しかし、なぜそれほど愛してくださり、なぜわたしたちはその愛を願うのでしょうか。その答えは神の愛と神の律法の関係の中にあります。

神の愛は無条件で深いものだから、神の律法に従わなくても憐れみによって救っていただける、だから神の愛には価値があるのだと考えている人もいます。それとは対照的に、神の子供たちのための神の計画を理解している人は、神の律法が不変であることを知っています。この事実は、神が子供たちを愛しておられることのもう一つの大きな証拠です。憐れみは正義から奪えませんが、² 憐れみを受けるのは「聖約を守り、戒めに従ってきた」人です(教義と聖約54:6)。

わたしたちは聖書と現代の聖典で、悪人に対する神の「怒り」³ と、神の律法に



背く者に神の「怒り」⁴ が下された事例を何度も読んでいます。怒りは神の愛をどのように示しているのでしょうか。ジョセフ・スミスは、神は「〔御自分が地球へ送られた霊たちが〕御自分のように進歩する特権にあずかるように律法を定め〔られた〕」と教えました。⁵ 神の愛は完全であり、そのために神は愛を込めて、戒めに従うことを求められるのです。なぜなら律法に従うことよってのみ、わたしたちは、神が現在完全であられるように完全な状態に変われるからです。この理由で、神の怒りは神の愛を否定するものではなく、神の愛を立証するものなのです。すべての親は、子供の自滅的な行為を建設的に怒り、失望しながらも、同時にその子供を完全に愛せることを知っています。

神の愛は普遍であるため、その完全な計画によって、御自分のすべての子供に、律法に不従順な者にさえも、多くの賜物を授けておられます。現世の生涯も一つの賜物であり、天での戦い⁶ で資格ありとされたすべての者に授けられます。もう一つの無条件の賜物としては、万人の復活があります。「アダムにあってすべての人が死

んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント15:22) そのほかこの世の賜物の多くは、個人が律法に従うかどうかとは無関係です。イエスが教えておられるように、わたしたちの天の御父は、「悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからで〔す〕。」(マタイ5:45)

わたしたちは耳を傾けさえすれば、神の愛を知り、感じるができます。不従順なときでさえそうです。最近教会に戻って活発になったある女性が、聖餐会で次のように述べました。「わたしが神を拒んでいたときも、神はいつもわたしのそばにいてくださいました。神はいつもわたしを導き、あらゆるところで深い憐れみをもって慰めてくださいました。でもわたしの怒りは大きすぎたので、様々な出来事や感情を神の愛としてとらえることも受け入れることもできなかったのです。」⁷

Ⅲ.

神の選りすぐりの祝福が神の律法と戒めに従うときに与えられることは明らかです。

現代の啓示から重要な教えを学べます。

「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている。

すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:20-21)

この偉大な原則は、多くの事柄の理由を理解する助けになります。例えば、贖罪によって正義と憐れみの均衡が保たれる理由や、神の子供たちが選択の自由を行使するのを神が妨げようとしない理由も説明できます。選択の自由、すなわち選択する能力は、わたしたちをこの世にもたらした福音の計画にとって必須のものです。神はある人の選択の結果を妨げてほかの人の幸福を保つようなことはされません。彼らが殺し、傷つけ、迫害し合うときでさえそうです。そうすることは、永遠進歩のための計画を損なうことになるからです。⁸ 神はわたしたちがほかの人々の選択の結果に耐えられるように、祝福してください。しかし、その選択を妨げることはなさいません。⁹

イエスの教えを理解している人であれ

ば、愛にあふれた天の御父と神の御子が愛は戒めに取って代わると信じておられるなどと結論づけることはあり得ません。次の例を考えてみてください。

イエスが業を始められたときの最初のメッセージは、悔い改めでした。¹⁰

イエスは姦淫を犯した女性を責めないで優しく憐れみを示しただけでなく、「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」と告げられました(ヨハネ8:11)。

イエスはこう教えておられます。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。』(マタイ7:21)

神の戒めと律法の効力が大衆の行為や要望に添うように変更されることはありません。神の愛や親の愛というものはたとえ愛する者が律法に従わなくてもそれを容認するものだと考えている人は、愛も律法も理解していません。主はこう宣言しておられます。「律法を破って律法に従わず、自らのために律法になろうとし、罪の中にとどまることを望み、そして完全に罪の中にとどまるものは、律法によっても、また憐れみや公正、公平によっても聖められることはあり得ない。それゆえ、彼らはなお汚れたままでいなければならない。』(教義と聖約88:35)

現代の啓示にこうあります。「すべての王国には律法が与えられている。』(教義と聖約88:36) 例えば次のようなものがあります。

「日の栄えの王国の律法に従えない者は、日の栄えの栄光に堪えられないからである。

また、月の栄えの王国の律法に従えない者は、月の栄えの栄光に堪えられない。

また、星の栄えの王国の律法に従えない者は、星の栄えの栄光に堪えられない。』(教義と聖約88:22-24)

つまり、最後の裁きにおいて、どの栄えの王国に行くかが決められる際には、愛によってではなく、「神のあらゆる賜物の中で最も大いなる」永遠の命に人を備えるために神が定められた律法によって決められるのです(教義と聖約14:7)。



IV.

両親には、子供たちに教え、答える際に、これらの原則を応用する機会がたくさんあります。親が子供たちに物を与えることも、そのような機会の一つです。神がこの世の子供たち全員にお与えになる賜物の中には、律法に従うことを条件としないものもあります。同じように、両親は、たとえ子供たちが親のすべての要求に応じなくても、住まいや食物のようにたくさんの物を与えます。しかし、知恵と愛に満ちた天の御父は、子供たちに律法と戒めを与えてくれました。その模範に従って、賢明な親は従順を条件として、子供たちに物を与えます。

アルコール飲料や薬物にふけている10代の若者など、わがままな子供を持つ親は、深刻な問題に直面しています。親は愛をもって、家庭内にこれらを持ち込んで使用することを容認することが必要でしょうか。それとも、その行為の違法性や深刻さ、ほかの子供への影響を考えて、禁じることが必要でしょうか。

もっと深刻な問題として、もしも成人している子供が同棲をしている場合、その子供は、婚姻関係外での性的関係という事態の深刻さゆえに、家族から縁を断たれて、家族の非難の重さを感じる必要があるでしょうか。それとも、同棲生活という事実を目をつぶる親の愛が必要でしょうか。わたしはこの極端な状況を両方見たことがあり、両方とも不適切であると思っています。

親はどこに線を引くでしょうか。それは親が主の靈感によって導かれ、知恵を用いて決める事柄です。親にとって、子供を育て、家族を治めるときに決断以上に、天の導きを必要とする事柄、あるいは導きを受けることのできる事柄はありません。これは永遠の務めです。

両親はこれらの問題に取り組むとき、99匹を残して行方の知れない羊を救うために荒れ野に出て行くという主の教えを思い起こさなければなりません。¹¹ トーマス・S・モンソン大管長は、恐れや無関心や無知の荒れ野をさまよっている兄弟姉妹を救い出す愛の十字軍を求めました。¹² これらの教えは、愛をもって関心を示し続けることを求めています。それには、愛をもって関係を継続することが求められます。

親はまた、主が頻繁に教えられた「主は愛する者を訓練[される]」(ヘブル12:6)¹³という言葉覚えておくべきです。ラッセル・M・ネルソン長老は以前、大会で忍耐と愛についてこう教えました。「罪人に対する真の愛とは、黙認することではなく、勇気をもって彼らと対峙することです。真の愛は、自滅的な行為に力添えするものではないのです。』¹⁴

愛の力と律法の力の間に線を引く場合にはいつでも、戒めを破れば、愛のある家族関係に必ず影響が及びます。イエスはこう教えておられます。

「あなたがたは、わたしが平和をこの地上にもたらすためにきたと思っているのか。あなたがたに言うておく。そうではない。むしろ分裂である。

というのは、今から後は、一家の内でも五人が相分れて、三人はふたりに、ふたりは三人に対立し、

また父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに、対立するであろう。](ルカ12:51-53)

この衝撃的な教えは、一致して神の戒めを守る努力を怠れば家族が分裂することを思い起こさせてくれます。愛する人との関係が損なわれないように、できることをすべて行いますが、それでも分裂してしまうことが時折あります。

そのようなストレスの中で、愛する人が道を踏み外せばわたしたちの幸福も損なわれるという現実には耐えなければなりません。しかし、互いへの愛や、神の愛と神の律法をともに理解するための努力を惜しんではなりません。

わたしはこれらの事柄が真実であると証あかしします。これらは救いの計画とキリストの教義の一部です。わたしはキリストについて証あかしします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

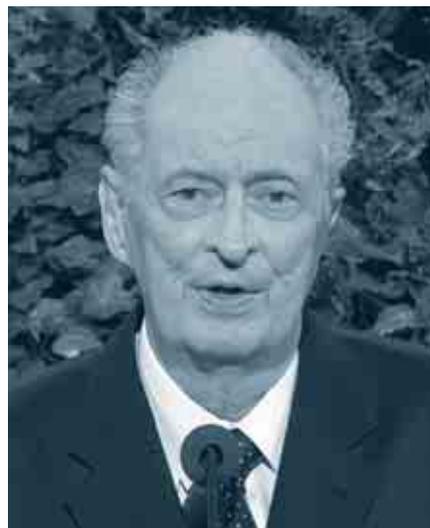
1. ラッセル・M・ネルソン「神の愛」『リアホナ』2003年2月号、12参照
2. アルマ42:25参照
3. 例として、士師2:12-14;詩篇7:11;教義と聖約5:8;63:32参照
4. 例として、列王下23:26-27;エペソ5:6;1ニーファイ22:16-17;アルマ12:35-36;教義と聖約84:24参照
5. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』210
6. 黙示12:7-8参照
7. 2005年12月6日付けの手紙、著者所有
8. アルマ42:8と比較
9. モーサヤ24:14-15と比較
10. マタイ4:17参照
11. ルカ15:3-7参照
12. トーマス・S・モンソン「迷える大軍」『聖徒の道』1987年9月号、3参照
13. 箴言3:12;黙示3:19;教義と聖約95:1も参照
14. 「赦しと愛をもちしめたまえ」『聖徒の道』1994年7月号、75参照

天の父なる神と 御子イエス・キリストを 知るよう努める

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

信仰の光は皆さんの中に存在し、その光は神の御霊によって眠りから覚めて強められる日を持っているのです。



わたしの兄弟姉妹の皆さん。この大会を通じて、生ける預言者たちから天の父なる神と御子イエス・キリストについての証あかしが与えられていることに感謝しています。また、聖霊からの教えに感謝しています。

預言のとおり、わたしたちは世俗主義という暗闇くらやみがますます深まっている時代に暮らしています。神への信仰が至る所で疑われ、政治的、社会的な理由、はては宗教の名の下でさえも、神への信仰が非難されることすらあるのです。無神論、つまり神は存在しないという考え方が急速に世界中に広まりつつあります。

そのような状況にあっても、回復された

イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちはこう宣言しています。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」¹

神への信仰がなぜそこまで重要なのかと思う人もいるでしょう。なぜ救い主は「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります」²と言われたのでしょうか。

神がおられなければ、人生は墓とともに終わり、この世の経験に目的はなくなるでしょう。成長も進歩も一時的なもので、達成に価値はなく、人生の困難に意味はありません。究極的な善も悪もなく、神の子という同胞はらからとして、互いに思いやりを示すという道義上の責任もないでしょう。実際、神がいなければ、現世も永遠の命もないのです。

もし皆さんや皆さんの愛する人の中に、人生の目的を探し求め、人生における神の存在についてさらに深い確信を求める人がいれば、わたしは友人として、また使徒として、わたしの証をお伝えします。神は生きておられます。

どうしたら自分で知ることができますか、と尋ねる人もいるかもしれませんが。わたしたちは、神が生きておられることを知っていますが、それは昔の預言者たちの証、そして生ける預言者の証を信じて



いるから、そして預言者の証が真実であると神の御霊が確認してくださるのを感じたからです。

聖文に記録されている預言者の証から、わたしたちは「神は人を創造された。すなわち、御自分の形に、御自分に似せて、男と女に創造された」³ ことを知っています。わたしたちが神に似ていると知り、驚く人もいるかもしれませんが、人の形をしておられる神を想像するのは刻んだ像を造ることであり、偶像礼拝、冒瀆だと教えた著名な宗教学者もいたほどです。⁴ しかし、神御自身がこう言っておられます。「わたしたちの形に、わたしたちにかたどって人を造ろう。」⁵

この聖句で使われている「わたしたち」という言葉は、御父と御子の関係についても教えています。神はさらにこう教えられました。「わたしの独り子によって、わたしはこれらのものを創造した」⁶ 御父と御子は、どの父と子も常にそうであるように、それぞれ別個の独立した存在です。これは、ヘブライ語で神の御名を表す「エロヒム」という言葉が単数ではなく、複数である理由の一つなのかもしれません。

新約聖書から、天の御父と御子が肉体を持った御方であられることが分かります。御二方は、新約の時代の弟子ステパノが「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える」⁷ と証したように、同じ時に同じ場所に立たれるのです。

わたしたちはまた、御父と御子が声をお持ちであることも知っています。創世記やモーセ書には、アダムとエバが、「日の涼しいころ……園の中を歩いていると、主なる神の声が聞こえた」と記録されています。⁸

わたしたちは、御父と御子が顔をお持ちで、立ち、言葉を交わされることを知っています。預言者エノクは次のように宣言しました。「わたしは主にまみえました。主はわたしの前に立ち、……人が互いに語り合うようにわたしと語られました。」⁹

わたしたちは、神と御子が体を持っておられること、つまりわたしたちの体と同じような形と構成要素をお持ちであることを知っています。モルモン書には「すると、ヤレドの兄弟の目から幕が取り除かれ、彼は主の指を見た。それは人の指のよう

で、血肉の指に似ていた」¹⁰ と書かれています。その後、主は御自身を現して、次のように言われました。「見よ、あなたが今見ているこの体は、わたしの霊の体である。わたしは……将来肉にあってわたしの民に現れる。」¹¹

わたしたちは、御父と御子がわたしたちに対して感情をお持ちであることを知っています。モーセ書にはこう記録されています。「すると、天の神が民の残りの者を見て泣かれた。」¹²

さらにわたしたちは、神と御子イエス・キリストが不死不滅の、栄光を受けた、完全となった御方であられることを知っています。救い主イエス・キリストについて、預言者ジョセフ・スミスは次のように記録しています。「その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声……は大水の奔流のとどろきのようで[あった]。」「¹³

現代にあって、ジョセフ・スミスの証ほどわたしたちにとって重要な証はほかにありません。ジョセフは、この時代、すなわちイエス・キリストの再臨に先立って福音が世界に広がる最後の時代にあつて、昔のキリストの教会を回復するために選ばれた預言者でした。それぞれの神権時代にあつて神の業を始めたすべての預言者と同様に、ジョセフ自身にも、救い主の再臨に世を備えさせるために、特に明確で力強い、預言者としての経験が与えられたのです。

14歳の少年であつたジョセフは、どの教会に加わるべきか知ろうとしていました。この問題について深く考えたジョセフは、聖書をひもとき、次の箇所を読んだのです。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は……惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないうち、信仰をもって願い求めなさい。」¹⁴

預言者の言葉を信じたジョセフは、疑うことのない、幼子のような信仰をもって家の近くの森に入ると、ひざまずき、祈り

をささげました。後に、ジョセフはこう記録しています。

「わたしは自分の真上に、……光の柱を見た。

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。」¹⁵

御二方を見上げたジョセフでさえ、この方々が一体どなたなのか分からなかったことでしょう。ジョセフはまだ、神とキリストの真の属性について、見て、学んでいなかったからです。しかし、後にこう記録しています。「すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」¹⁶

この比類ない経験やそのほかの経験を重ねた預言者ジョセフはこう証しました。「御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。」¹⁷

預言者たちはどの時代であっても、これと同じような証を述べ、まさにこの大会でも述べ続けています。しかし、わたしたち一人一人には選択の自由があります。信仰箇条第11条はこう明言しています。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」¹⁸

では、自分は何を信じるかということについて、確かに真実なことをどのように知るのでしょ

うか。わたしは証します。神についての真理は、聖霊を通して知ることができるのです。神会の第3の御方である聖霊は霊の御方です。「〔神に〕ついてあかしをする」¹⁹ ことと「〔わたしたちに〕すべてのことを教え〔る〕」²⁰ ことが聖霊の役割です。

一方で、わたしたちは聖霊の影響力を弱めないよう注意しなければなりません。正しいことを行わないとき、または疑う気持ちにとらわれたり、皮肉な見方をしたり、批判的になったり、ほかの人やその人の信仰に対して不遜になったりすると、御霊は



わたしたちとともにいることができせん。するとわたしたちは、預言者の言う、生まれながらの人のように行動してしまうのです。

「生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」²¹ この「生まれながらの人は神の敵であり、……今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い……子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者とな〔ら〕……ないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」²²

もし聖霊の穏やかな影響力に従わないと、モルモン書に登場する反キリストのコリホルのようになる危険に身をさらすこととなります。コリホルは神を信じなかっただけでなく、救い主、贖罪、預言の霊を嘲笑し、神とキリストは存在しないという偽りを教えたのです。²³

コリホルは、ただ神を否定し、おとなしく自分の望む生き方をするだけでは満足しませんでした。信者をあざけったうえ、

預言者アルマには、神の存在と神の力をするしで示して自分を納得させるように迫ったのです。アルマの答えは、当時と同じように今でも重要な意味を持っています。「あなたはすでに数々のしるしを十分に持っている。あなたは神を試みようとするのか。あなたの同胞であるこのすべての人の証と、すべての聖なる預言者たちの証があるのに、あなたは『しるしを見せてくれ』と言うのか。あなたの前に聖文が置いてある。まことに、万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と運行しているすべての惑星も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。」²⁴

結局、コリホルにはしるしが与えられませんでした。コリホルは物が言えなくなりました。「するとコリホルも、手を差し伸べて書き示し、言った。『……神の力によるのでなければ、わたしにこのようなことが決して起きないことも、わたしは知っています。また、わたしは神がましますことを前から知っていました。』」²⁵

兄弟姉妹の皆さん。皆さんはすでに心



の奥深くで、神が生きておられることを知っているかもしれません。まだ神についてあらゆることを知っているわけではなく、神の方法をすべて理解しているわけではないかもしれません。それでも、信仰の光は皆さんの中に存在し、その光は皆さんが生まれながらに持っている神の御霊とキリストの光によって、眠りから覚めて強められる日を待っているのです。

ですから、来てください。預言者たちの証を信じてください。神とキリストについて学んでください。そのために必要なステップは、昔の預言者や現代の預言者たちがはっきりと教えています。

神が生きておられることを知りたいという強い思いを育ててください。

その思いがあれば、天にかかわる事柄について深く考えるようになります。自分の周囲にある、神の存在を示す証拠に触れて感動するようになるのです。

心が和らぐと、わたしたちは聖文を調べ、²⁶ 謙虚に聖文から学びなさいという救い主の呼びかけを心に留める備えができます。

するとわたしたちは、これまで学んできたことが真実かどうかを、救い主イエス・キリストの御名によって誠意を込めて天の御父に問う用意ができるのです。ほとんどの人は、預言者が神に会ったように神にまみえることはないでしょう。しかし、御霊の静かな細い声によって、言い換えれば、聖霊がわたしたちの思いや心の中に告げてくださる考えや気持ちによって、

神が生き、わたしたちを愛しておられるという否定できない知識を得るのです。

結局のところ、この知識を得ることが、地上に住む神のあらゆる子供たちの目標なのです。もし神を信じていたときのことを思い出せなかったり、信じることをやめていたり、あるいは真の確信を持ってないまま信じていたりするなら、ぜひお勧めします。今、神の証を求めてください。あざけりを恐れなくてください。神を知ること、また御霊という^{ほんりよ}伴侶から慰めを得ることで力と平安を受け、払った努力に対する永遠の報いを受けることでしょう。

それにとどまらず、皆さんは、神に対する自分自身の証をもって、愛する家族、子孫、友人、皆さん自身の生活、すなわち皆さんが愛するすべてを祝福することができますようになります。自ら神を知ることによって、皆さんは最大の^{たまもの}賜物を人に与えるだけでなく、自分自身にも最大の喜びをもたらすことになるのです。

愛する天の御父の独り子、すなわちイエス・キリストの特別な証人として、神が生きておられることを証します。わたしは神が生きたもうことを知っています。皆さんや皆さんの愛する人たちも、心からへりくだって誠心誠意で熱心に神を探し求めるなら、確信とともに知ることができると約束します。証を得ることができるのです。そして、皆さんと皆さんの家族は、神を知るといふ祝福に永遠にわたってあずかることでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 信仰箇条 1:1
2. ヨハネ 17:3。強調付加
3. 教義と聖約 20:18。創世1:27;モ一セ2:27も参照
4. クリスター・スタンダー、"To Speak About God," *Harvard Divinity Bulletin*, 第36巻, 2号(2008年春), 8-9参照
5. 創世1:26;モ一セ2:26。強調付加
6. モ一セ2:1
7. 使徒7:56
8. モ一セ4:14。創世3:8も参照
9. モ一セ7:4
10. エテル3:6
11. エテル3:16
12. モ一セ7:28
13. 教義と聖約110:3
14. ヤコブの手紙1:5-6
15. ジョセフ・スミス—歴史1:16-17
16. ジョセフ・スミス—歴史1:17
17. 教義と聖約130:22
18. 信仰箇条1:11。強調付加
19. ヨハネ15:26
20. ヨハネ14:26
21. 1コリント2:14
22. モ一サヤ3:19
23. アルマ30章参照
24. アルマ30:44
25. アルマ30:52
26. ヨハネ5:39参照

不可能に挑戦する

七十人

ホルヘ・F・ゼバヨス長老

永遠の命とは、永久に天の御父やわたしたちの家族とともに住むことです。この約束は、わたしたちが自分のできる範囲で最善を尽くすうえで、最大の動機とならないでしょうか。



主 イエス・キリストはアメリカ大陸で十二使徒を召したとき、彼らにこうお命じになりました。「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる。」¹ 救い主は御自分を捨て、ほかのだれにも^{まっとう}全うできない使命を地上で立派に果たされたばかりでした。それによって主は、主御自身と主の御父、すなわちわたしたちの御父が、わたしたち一人一人が従うべき模範であると、権威をもって宣言することがおできになったのです。

人間的な視点から見ると、初めのうちは、完全になることはとうてい不可能に思えます。しかし、それを達成するために、わたしたちは独りではないということを理解すると、可能なことのように思えてきます。人はいつでも最も驚くべき力強い助けを得ることができるのです。第1に、永遠の

御父は寛大で愛に満ちた手を差し伸べてくださり、わたしたちがみもとへ帰り、永遠とともに住むことを願っておられます。わたしたちの御父として、わたしたちの過ちや弱さ、犯す罪を、わたしたちが心から完全に悔い改めるなら、快く赦したいと望んでおられます。さらに、御父の子供たち一人一人に対する深い愛を最大限に表す方法として、救い主がなされた比類なき業、すなわち贖いの影響をわたしたちにもたらせてくださいました。贖いは、わたしたち一人一人のために、御父の御心を常に進んで行く従順な御子によってもたらされた、最も偉大な愛の行為です。

主は預言者ジョセフ・スミスに次のように啓示されました。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」² 主が下さったこの約束は達成することができるものです。永遠の命とは、永久に天の御父やわたしたちの家族とともに住むことです。³ この約束は、わたしたちが自分のできる範囲で最大限努力し、約束されている事柄を最善を尽くして追い求めるうえで、最大の動機とならないでしょうか。

回復の夜明けを迎え、この驚くべき業がまさに人の子らの中に現れようとしたとき、主はこう言われました。「それゆえ、おお、神の務めにいで立とうとする人々よ、終わりの日に神の前に罪のない状態で立てるように、あなたがたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕えなさい。」⁴ 心と勢力と思いと力を尽くすとは、全身全

霊をささげ尽くすということです。

デビッド・O・マッケイ大管長は、たゆまず努力する人にもみ豊かな報いをもたらされると述べています。⁵ この報いは、イエス・キリストを信じる信仰をはぐくみ、神の王国を強め、築くために、主の御心に従って働き、犠牲をささげ、受けたものをすべて与える人々のためのものです。

もしわたしたちが一生を通じて、イエス・キリストを信じる信仰を心から示し、戒めに従い、忍耐し、勤勉に努めるならば、永遠の命を与えられ、完全な者となり、家族が永遠に幸福になるという主の約束を実現することができるのです。

主はわたしたちにできないことをするよう期待されてはおりません。主のように完全になるという命令は、最善を尽くし、愛にあふれた永遠の御父により祝福された才能や特質を見いだして伸ばすようにという励ましです。御父は、わたしたちが神の子供として持っている可能性を理解するよう勧めておられます。御父はわたしたちを御存じです。わたしたちの能力や限界を知っておられます。完全になり、永遠の命を得るようという勧めとチャレンジは全人類に向けたものです。

ベニヤミン王は「人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいない」と述べたすぐ後で、「賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである」と指摘しました。神はわたしたちに最善を尽くす以上のことを求めておられません。そのような要求は正しいことではないからです。しかし、最善を尽くさない行為を受け入れられることもありません。それも正しいことではないからです。ですから、常に最善を尽くして神と隣人のために努めましょう。家族のために、また教会の召しを果たすために、できるかぎりの力を尽くしましょう。最善を尽くし、日々少しずつより善い人となりましょう。

わたしたちはあらゆる点で救い主の恩恵にあずかっており、救い主がもたせてくださった贖いがなければ、救いと永遠の命を得ることは不可能です。しかし、この最高の祝福がわたしたちの生活の中で有効となるには、自分がなすべきことをま



ず行わなくてはなりません。「それは、わたしたちが自分の行えることをすべて行った後、神の恵みによって救われることを知っているから」⁷です。信仰、熱意、献身、責任、そして愛をもって、できるかぎりのことを行い、不可能なことを達成するためにできるかぎりの力を尽くしましょう。それは人の考えでは不可能なことを行うことです。しかし、愛に満ちた御父の助けとわたしたちの救い主がもたらして下さった無限の犠牲により、神やわたしたちの家族とともに永遠に住むという最も栄光あふれる偉大な賜物を頂くことができます。

わたしたち一人一人が、ふさわしい状

態^{せいさん}で聖餐にあずかることにより、バプテスマの水に入ったときに、また回復された福音のそれぞれの儀式を受けたときに天の御父と交わした約束を覚え、永久に新たにできるよう祈ります。わたしたちが配偶者、親、子供、兄弟姉妹としての役割を果たすときに、また召しを果たし、福音を分かち合い、さまよう人を助け、先祖の救いのために働くときに、また仕事や日々の生活の中で、最善を尽くすことができるように祈ります。

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」⁸とパウロが宣言したように、わたしたちもそのような生涯を送ることができ

るように祈ります。

そうするときに、わたしたちは天の御父が定められた要求を満たし、この世においても永遠の世においても、かつてないほどの祝福を受けることができます。御父は持てるすべてをわたしたちに与えたいと願っておられ、わたしたちが永遠の命という最高の賜物を受けられるようにさえてくださるのです。

たとえ人の目から見て、到達できない不可能なチャレンジに思えても、御父と御子は不可能な事柄に到達できることを教えてくださっていると証します。永遠の命を得ることは確かにできます。今もそして永遠においても幸福になることができるのです。

この栄光あふれる約束が含まれた完全な計画をお作りになったのは天の御父であり、御父は生きておられます。御子イエス・キリストは、わたしたちが罪の結果から解放されるために、わたしたちがこの世で犯す罪と不正な行為の重荷を御自分の身に引き受けてくださいました。わたしは主イエス・キリストが生きておられることを知っています。福音と神権は預言者ジョセフ・スミスを通して地上に最終的に回復されました。今日わたしたちは、天の御父のみもとへ戻る道を示す神によって召された使徒と預言者の非常に大きな祝福にあずかっています。トーマス・S・モンソン大管長は今日、この偉大な業を導くために召されている神の預言者です。聖なるイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. 3ニーファイ12:48
2. 教義と聖約14:7
3. 『聖句ガイド』「永遠の命」の項、48参照
4. 教義と聖約4:2
5. *The Teachings of David O. McKay*, メアリー・ジェーン・ウッドガー (2004年), 300
6. モーサヤ4:27
7. 2ニーファイ25:23
8. 2テモテ4:7

ジョセフ・スミス—— 回復の預言者

七十人
タッド・R・カリスター長老

ジョセフ・スミスを通して、救いと昇栄に必要なすべての力、鍵、教え、儀式が回復されました。



新 約聖書のある登場人物について、次の3つの事実しか知らされなかったとしましょう。第1に、救い主がこの人物に声をかけ、「信仰の薄い者よ」と言われたこと(マタイ14:31)。第2に、この人物がかつとなって大祭司の僕の耳を切り落としたこと。そして第3に、日々主とともに歩んでいたにもかかわらず、3度救い主を知らないと言ったことです。知っているのがこのことだけであったとすれば、あるいはこのことばかりに目を向けるなら、わたしたちはこの人のことを、役に立たない大悪人だと考えてしまうかもしれません。しかしそれでは、歴史上最も偉大な人物の一人について知る機会を逃してしまうことでしょう。その人物とは使徒ペテロのことです。

同じように、預言者ジョセフ・スミスのささいな弱点にばかり目を向け、それらを誇張しようとした人もいました。そのため、彼らも大切なものを見逃してしまいました。それは、ジョセフという人間と彼の使命です。ジョセフ・スミスは、地上にキリストの教会を回復するために主に油注がれた人でした。森を出たジョセフは、やがて、当時のキリスト教界でほとんど教えられていなかった4つの基本的な真理を学びます。

まず、ジョセフは父なる神と御子イエス・キリストが別個の独立した御方であることを知りました。聖書には、御子が御父の御心に従われたことが書かれており、ジョセフ・スミスの得たこの知識を裏づけています(マタイ26:42参照)。わたしたちは救い主の従順さをたたえ、同じように従順であるための力を、救い主の模範に見ています。しかし、もし御父と御子が同じ御方であって、実は、御子は異なる名の下で、御自分の意思に従っておられただけであったとしたらどうでしょう。キリストの従順さにはどれほどの情熱がこもっていたでしょうか。主の模範はわたしたちの心を動かす力となったのでしょうか。

聖文はさらに、この偉大な真理を裏づけています。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネ3:16)たった一人の息子をささげる父親。これは、人類が考え、感じ得る愛を最高の形で表しています。それは、アブ

ラハムとイサクの感動的な物語に象徴されています(創世22章参照)。しかし、もし御父と御子が同じ御方だとしたら、この最高の犠牲は犠牲ではなくなってしまう。アブラハムは、もはやイサクを犠牲にささげるのではなく、アブラハム自身をささげることになってしまうのです。

ジョセフ・スミスが学んだ偉大な真理の2つ目は、御父と御子が栄光を受けた骨肉の体を持っておられるということです。復活した救い主は弟子たちに現れ、こう言われました。「さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」(ルカ24:39)この肉体による現れは一時的なものであり、主は天に昇られたときに肉体を捨て、霊の形に戻られたのだと言う人もいます。しかし、聖文によるとそれは不可能なのです。パウロは、「キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っている」(ローマ6:9)と教えました。つまり、キリストの体は、御自身が復活された時点で再び霊と分かれることができなくなったのです。そうでなければ、主の復活後にはあり得ないとパウロが言った死という結果を、主御自身が再びお受けになることになってしまいます。

ジョセフ・スミスが学んだ3つ目の真理は、神が今も人に語りかけておられ、天は閉じられていないということです。かつてヒュー・B・ブラウン管長が提示した3つの質問を自問すれば、おのずとこの結論に行き着くでしょう(「預言者の特徴」『リアホナ』2006年6月号、10参照)。第1、神は新約聖書の時代に語りかけられた人々を愛されたと同じように、現代の人々を愛しておられるでしょうか。第2、神は当時と同じ力を現代にも持っておられるでしょうか。そして第3、わたしたちは今、昔の時代の人々と同じように神を必要としているでしょうか。この3つの質問の答えがはいであって、聖文が宣言するように、神が昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であるなら(モルモン9:9参照)、疑問の余地はまったくありません。ジョセフ・スミスが証したとおりに、神は今も人に語られ



るのです。

ジョセフ・スミスが学んだ4つ目の真理は、当時イエス・キリストの完全な教会は存在しなかったということです。もちろん、善良な人々や部分的な真理は存在しましたが、十二使徒の死に伴い、キリストの教会は完全さを失ってしまったのです。「まず背教のことが起[らなければ]」キリストの再臨はないという使徒パウロの預言が、この真理を裏づけています(2テサロニケ2:3)。

ジョセフ・スミスの最初の示現の後、「教訓に教訓、規則に規則を加え」られながら、キリストの教会の回復が始まりました(教義と聖約98:12)。

ジョセフ・スミスを通し、地上で福音を聞く公平な機会のなかった人に霊界で福音が宣べ伝えられるという教義が回復されました(教義と聖約128:5-22参照。138:30-34も参照)。これは創造力の産物ではありません。聖書にある真理の回復なのです。遠い昔、ペテロはこう教えました。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさば

きを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。』(1ペテロ4:6) イングランド国教会の著名な作家で神学者だったフレデリック・W・ファーラーは、ペテロのこの教えについて次のような見解を述べています。「この聖句が明白に意味することを無にしようと、あらゆる努力が払われてきました。これは聖文の中で最も貴重な聖句の一つであり、そこにあいまいさは一点もありません。……この言葉に意味があるとすれば、その意味するところは、キリストの霊が下位の世界に降りて行き、かつて悔い改めなかった死者に対して救いのメッセージを宣べ伝えられたということです。」(The Early Days of Christianity [1883年], 78)

多くの人が天は一つ、地獄は一つだと教えています。ジョセフ・スミスは複数の天が存在するという真理を回復しました。パウロは第3の天にまで引き上げられた人について語りました(2コリント12:2参照)。第2あるいは第1の天なくして第3の天があり得るでしょうか。

イエス・キリストの福音は、多くの意味で

1,000ピースのジグソーパズルと似ています。ジョセフ・スミスが登場した時点で、恐らく100ピースが正しい位置にはめられていました。その後、ジョセフ・スミスが残りの900ピースの多くを正しい位置にはめたので、人はこう言えるようになりました。「自分がどこから来て、なぜここにいる、ここからどこに行くのか、ようやく分かった。」回復におけるジョセフ・スミスの役割について、主ははっきりとこう定義されています。「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける。」(教義と聖約5:10)

このように聖書の真理が次々と回復されていても、真理を求める正直な人たちの中にはこう言う人もいます。「教義は受け入れることができますが、ジョセフ・スミスが見たという天使や示現はどうか。現代ではとうてい信じ難いことに思えます。」

そのような正直な心で探究する人に、わたしたちは愛をもって答えます。「新約聖書のキリストの教会で、天使の訪れや示現はなかったでしょうか。マリヤとヨセフ



に天使は現れなかったでしょうか。^{へんぼう}姿貌の山で天使はペテロ、ヤコブ、ヨハネに現れなかったでしょうか。天使はペテロとヨハネを牢から救わなかったでしょうか。コルネリオにも、そして船で難破する前のパウロにも、パトモスという島にいたペテロにも、天使は現れなかったでしょうか。ペテロは異邦人に福音が伝わるという示現を見なかったでしょうか。示現の中で、パウロは第3の天を、ヨハネは末日を、ステパノは御父と御子を見なかったでしょうか。

そうです。ジョセフ・スミスは確かに天使と示現を見たのです。それは、神の御手に使われる者として、すべての権能とすべての教義を備えた、初期のイエス・キリストの教会と同じ教会を回復するためでした。

しかし、悲しむべきことに、時として、ジョセフ・スミスによって回復された貴い福音の真理を自ら捨てる人がいます。それは、その人たちが自分の昇栄に直接関係のない歴史上の問題や、科学的な憶測に目をくらまされているからです。そうした

人は、霊的な生得権をたった1杯のあつものと交換しています。回復という絶対的な事実を疑いに置き換え、その結果、ほんの幾つかの事柄が分からないからと言って、確かに知っている多くのことへの信仰を失うというわなに陥ってしまうのです。信仰が必要とされるかぎり、知力に限界があるかぎり、知識面から信仰を失わせようとするような危機は起り続けるでしょう。しかし、それと同じように、確かに堅固な回復の教義も常に存在します。しっかりとつかまっていることで、この教義は、^{あかし}証を築く岩の土台となってくれるでしょう。

多くの弟子たちが離れて行った後、主は使徒たちに向かい「あなたがたも去ろうとするのか」と尋ねられました。

そのときのペテロの答えは、一人一人の心に刻むべきものです。「わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言^{ことば}をもっているのはあなたです。」(ヨハネ 6:66-68)

これらの回復の教義に背を向ける人は、あの森で教えられた神の真の属性に

ついてどこで知るのででしょうか。前世、死者のためのバプテスマ、永遠の結婚の教義をどこで見つけるのでしょうか。墓を越えて夫、妻、子供を一つにする、結び固めの力をどこで見いだすのでしょうか。

ジョセフ・スミスを通して、救いと昇栄に必要なすべての力、^{かぎ}鍵、教え、儀式が回復されました。世界のどこに行っても、これらを手にすることのできる場所はありません。ほかのどの教会にも存在しません。どんなに知的価値があると思える人の哲学、科学の本や、巡礼にも見いだすことはできません。救いは、主御自身が定められたとおり、一つの場所にしかないのです。主は、これこそ「全地の面〔における〕唯一まことの生ける教会」と言われました(教義と聖約1:30)。

ジョセフ・スミスが、自らが主張したとおり、回復の預言者であったことを証します。あの感動的な賛美歌の歌詞を繰り返します。「たたえよ、主の召したまいし主と語りし預言者を」(「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番)イエス・キリストの御名^なにより、アーメン。

すべてのことについて 自制しなさい

七十人
ケント・D・ワトソン長老

すべてのことについて自制する力は霊的な賜物であって、聖霊を通して受けるものです。



主は預言者ジョセフ・スミスの求めに応じて次のような指示をお与えになりました。「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。」¹

すべてのことについて自制するという教えはわたしたちにも向けられています。自制するとはどのようなことでしょうか。また、主はなぜわたしたちに自制を求めておられるのでしょうか。自制とは、狭い意味では「食べ物や飲み物を取りすぎないように我慢する」ということです。この定義は知恵の言葉を守るための優れた処方箋となるかもしれません。自制は「怒りや感情を抑える」という意味で使われることもあります。しかし、聖文ではあまりそれら

の意味では使われていません。

霊的な意味での自制は、イエス・キリストの気高い特質を指します。主はわたしたち一人一人にこの特質を伸ばすよう望んでおられます。すべてのことについて自制する力は霊的な賜物であって、聖霊を通して受けるものです。

使徒パウロはガラテヤ人にあてた手紙の中で、御霊の実とは「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、〔そして〕自制」²であると書いています。

パウロはテトスにあてた手紙の中で、この業を助けるビショップは「わがままでなく、軽々しく怒らず、……自制する者」³でなければならないと書いています。つまり、自制するとはすべてのことについて節度を重んじ、自己をコントロールすることです。

息子アルマはギデオンの地で教えを説いたとき、こう言いました。

「わたしは、あなたがたが高慢な心で高ぶっていないことを確信している。まことに、あなたがたが富や俗世のむなしなものに執着していないことを、わたしは確信している。……

さて、わたしはあなたがたが謙遜であり、従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐と寛容に富み、すべてのことについて自制……するように願っている。」⁴

アルマが後に息子シブロンに与えた次の教えはわたしたち全員に向けられたものです。「高慢にならないようにしなさい。」⁵そして、わたしたちは「すべてのことについて勤勉であり、自制」⁶しなければなりません。

自制するとは自分の抱いている期待や望みをよく吟味することであり、義にかなった目標を勤勉にまた忍耐強く追求することです。

数年前、職場から家に帰るために車を運転していたときのことでした。対向車線を走る大型トラックのタイヤが1本外れ、中央分離帯を越えてこちらの車線へ転がって来ました。大きく跳ねながらわたしの走っている車線に向かって来たのです。タイヤが次にどの方向に跳ねるか予想もできず、多くの車は右に左にハンドルを切りました。わたしは右に避けなければならないのに、左にハンドルを切ってしまいました。そして弾んで来たタイヤがフロントガラスの隅にぶつかりました。

妻に事故の一報を入れてくれたのは友人でした。後で聞いたところによると、妻の頭に最初に浮かんだのは粉々になったガラスで傷だらけになったわたしの姿だったそうです。確かに割れたガラスが数珠玉状になって全身に降って来ましたが、けがはまったくありませんでした。それは明らかにわたしの運転技術によるのではなく、車のフロントガラスが強化ガラスだったためでした。

強化ガラスは強化スチールと同じように、綿密な熱処理を受けて、強度が増しています。強化ガラスは衝撃を受けても、先のとがった破片になって人を傷つけることはありません。

同様に、自制心のある人、つまり謙遜で愛にあふれる人は、霊的な強度が増している人です。霊的な強さが増すと、克己心を養い、節度のある生活ができるようになります。怒りや虚栄心、慢心を抑えられるようになります。わたしたちは霊的な強さを増すことによって、今日の世の中にあふれている、危険な、破滅につながる度を越した行為や常習的な行為から身を守ることができます。

わたしたちは皆、心の安らぎを求めており、家族の安全と幸福を願っています。昨年の経済不況の中から明るい兆しを見いだすとしたら、それは一部の人が直面している試練から以下の教訓を得られたということです。それは家を買ひ、所有物を

蓄積しても心の平安や安全、幸せは得られず、それどころか貯金や収入で対応できないほど大きな負債を抱えてしまうという現実です。

わたしたちは今、不確かで争いのあふれる、忍耐のない乱暴な世界に生きています。それはまるで14歳のジョセフ・スミスが経験した、様々な宗派の改宗者に囲まれた社会のようです。疑問の答えを求めていた少年ジョセフはこう描写しています。「すべてお互いの好感情は、もしかつて幾らかでもそのようなものがあつたとしても、今は言葉の争いと見解についての論争ですっかり失われてしまった。」⁷

自制を学び、世の度を越した行動を慎み、すべてのことについて自制することによって家族は守られます。イエス・キリストへの信仰を強めることによって心に平安が生まれます。バプテスマと主の聖なる神殿で交わした聖約を勤勉に守ることによって幸福がもたらされます。

自制について救い主イエス・キリストが示された以上に優れた模範があるでしょうか。

激しく論争して心がかき乱されるときには、「悔い改め、幼子おきなごのように」⁸ ならなければならないと救い主は教えておられます。兄弟のところに行つて和解し、それから十分に固い決意をもって救い主のみもとに行く必要があります。⁹

不親切な扱いを受けたときには、「わたしの慈しみはあなたから去ること〔がない〕」¹⁰ とイエスは教えておられます。

苦難に直面するときにも、「苦難の中で忍耐強くあり、ののしる者にののしり返してはならない。柔和に家を治め、また確固としていなさい」¹¹ と、主は言うておられます。

気落ちしたときには、「彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかつた」¹² 「まことに彼はわたしたちの悲哀を負い、わたしたちの悲しみを担つた」¹³ ことを思い起こせば、慰めを得ることができます。

あらゆる人の中で最も大いなる者であるイエス・キリストは、わたしたちのためにあらゆる毛穴から血を出すほどの苦しみを受けられました。苦しみを受けている



間、怒りを表したり、ののしったりはなさいませんでした。この上ない自制によって、主は御自分のことではなくあなたやわたしのことを考えておられました。そして、主は謙遜に、またあふれる愛をもってこう言われました。「しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯さかずきを飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」¹⁴

過去1年間、わたしは救い主がまことにおられることと福音の回復についてアジア全域の聖徒と友人たちあかしに証する特権を得ました。ほとんどは第1世代の末日聖徒であつて、教会員があまりいない地域に住んでいます。このような地域における末日の旅は初期の末日聖徒の経験をほうふつとさせます。

様々な文化を持つアジアというすばらしい世界で、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は膨大な人口の1パーセントにも満たないほんの一握りですが、キリストのような自制の特質を備えています。謙遜であり、愛に満ち、「任せられたすべてのことについて自制」¹⁵ することを模範によって教えてくれたこの聖徒たちをわたしは

愛し、尊敬しています。彼らを通して、神がすべての子供たちを愛しておられることを、よく理解できました。

救い主あがなが生きておられること、自制という神の賜物は神の子一人一人みなに与えられることをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

注

1. 教義と聖約12：8
2. ガラテヤ5：22-23
3. テトス1：7-8
4. アルマ7：6、23
5. アルマ38：11
6. アルマ38：10
7. ジョセフ・スミス—歴史1：6
8. 3ニーファイ11：37
9. 3ニーファイ12：24参照
10. 3ニーファイ22：10
11. 教義と聖約31：9
12. モーサヤ14：7
13. モーサヤ14：4
14. 教義と聖約19：19
15. 教義と聖約12：8

「わたしがあなたがたを 癒すことができるように、 ……悔い改めなさい」

十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老

悔い改めへの呼びかけが厳しい非難の声であることはまれです。それはむしろ、向き直って、神に「再び立ち返りなさい」という愛ある願いなのです。



兄弟姉妹、十二使徒定員会への召しを受けてから6か月になります。長年わたしの模範として、また教師として仰いできた方々とともに現在自分が奉仕していると思うと、今でもとても謙虚な気持ちになります。皆さんの祈りと支持に心から感謝します。召されて以来、心を込めて祈り、主に受け入れていただけるよう懇願してきました。神聖で、忘れることのできない方法で主の愛を感じてきました。救い主が生きておられ、この業が主の聖なる業であることを証します。

主の預言者トーマス・S・モンソン大管長を愛しています。今年の4月にわたしを召したときに大管長が見せてくれた優しさを

永遠に忘れないでしょう。面接が終わると、両手を広げてわたしを包み込んでくれました。背の高い大管長が、その長い手で抱き寄せてくれたとき、まるで愛情深い父親に抱き締められ、守られている幼い少年のような気持ちになりました。

この経験から数か月間、わたしは、御自身のみもとに来て、霊的な意味で御腕に抱かれるようにという主の呼びかけについて考えてきました。主は言われました。「見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。」¹

聖文において主の御腕は、広げ²、伸べられ³、伸ばし⁴、抱かれる⁵と書き表されているほか、強い⁶、聖なる⁷、憐れみの御腕⁸、腕に……保護する⁹、愛の腕¹⁰、「終日、……伸べている」¹¹といった言葉でも表現されています。

わたしたちは一人一人、霊的な意味で主の御腕に抱かれるという感覚をある程度知っています。主の救し、主の愛、主の慰めを感じたことがあるのです。主はこう言われました。「わたしがあなたがたを慰める者である。」¹²

わたしたちがみもとに来て御腕に抱かれるようにという主の望みは、悔い改めへの招きという形で表されることが多くあります。「見よ、主はすべての人を招き、憐

れみの御腕を伸べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れよう』と言われる。」¹³

人は罪を犯すと神に背を向けますが、悔い改めるとき、向き直って神に立ち返るのです。

悔い改めへの呼びかけが厳しい非難の声であることはまれです。それはむしろ、向き直って、神に「再び立ち返りなさい」という愛ある願いなのです。¹⁴ これは、愛ある御父と御父の独り子からの招きです。今以上の自分になり、さらに高い生き方を手に入れ、変わり、戒めを守ることで得られる喜びを味わうようにという招きなのです。キリストの弟子であるわたしたちは、悔い改めのもたらす祝福と、赦されることで得られる幸せを知り、喜んでいきます。この喜びはわたしたちの一部となり、考え方や感じ方に大きな影響を及ぼしています。

この大会の説教に耳を傾けている何万という人々のふさわしさや義の程度は一人一人異なります。それでも、悔い改めはわたしたち全員にとって祝福です。罪を赦されることによって、だれもが救い主の憐れみの御腕を感じる必要があります。

何年も前のことですが、ある男性と面接をするよう依頼されたことがあります。ずっと以前に、したい放題な生活を送った経験を持つ人でした。悪い選びをした結果、教会の会員資格を失いました。その後教会に戻り、戒めを忠実に守るようになってから長い年月がたっているにもかかわらず、過去の行いのために絶えず心を痛めていました。会ってみると、この男性が一時期の間聖約を破ったことに恥辱と深い自責の念を抱いているのを感じました。面接の後で、わたしはこの男性の頭に手を置き、神権の祝福を与えました。言葉を発する前に、救い主がこの人を愛し、赦しておられるという強烈な感覚を覚えました。祝福の後、わたしたちは抱き合いました。男性は声を上げて泣きました。

わたしは、どれほど利己的な罪だったとしても、救い主が悔い改める人を憐れみの御腕をもって抱き締め、愛されることに驚嘆しています。救い主がわたしたちの罪をお赦しになれること、そしてぜひとも赦そ

うとしておられることを証します。完全な福音を知った後で滅びを選んだごく少数の人の罪を除き、赦されない罪はないのです。¹⁵ わたしたちのだれもが罪に背を向けて、キリストのみもとに来ることができるとは何とすばらしい特権でしょう。心の中から罪の意識と痛みを取り去り、代わりに喜びと良心の安らぎを与えてくれる神の赦しは、福音の最も甘い実の一つです。イエスは高らかにこう言われました。「わたしがあなたがたを癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。」¹⁶

今日、耳を傾けている皆さんの中には、重大な罪に立ち向かうために「心の中[の]大きな変化」¹⁷ が必要な人がいるかもしれません。神権指導者の助けが必要になることもあるでしょう。ですが、多くの人の場合、悔い改めは、必要とされる変化を起こせるよう主の助けを求めながら、静かに、自分の中で、毎日行っていくものです。

ほとんどの人にとって、悔い改めは一度きりの出来事ではありません。それは旅のように続きます。悔い改めは簡単ではありません。変わるといのは大変なことなのです。逆風に立ち向かい、流れに逆らって泳ぐことが必要です。イエスは言われました。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。」¹⁸ 悔い改めとは、不正直、高慢、怒り、不純な思いといったことに背を向け、それらとは違う、親切、無私、忍耐、霊性といったことに目を向けることです。それは向き直って、「再び神に立ち返る」ということなのです。

特に何について熱心に悔い改めるべきかを知るには、どうすればよいでしょうか。愛する人や友人から変わるべき点を指摘されると、内面にある、生まれながらの自分が頭をもたげ、このように言い返してしまうことがあります。「わたしが変わるべきだと言っただね。それなら、あなたの欠点について言ってあげようか。」これよりも良い方法は、へりくだって主に願うことです。「父よ、わたしがどうするのがよいとお思いですか」と祈るなら答えが得られます。自分の何を変えたらよいのかを感じるように



なります。主は、わたしたちの思い、そして心に告げてくださるのです。¹⁹

続いて、わたしたちに選ぶ機会が与えられます。わたしたちは悔い改めるでしょうか、それとも用意された天の祝福を自ら拒むのでしょうか。

アルマは警告しました。「どんなささいなことでも罪の言い訳をしようとしてはならない。」²⁰ 「祝福を自ら拒む」とき、人は、変わるよう招く霊的な声を信頼することをやめてしまいます。祈りはしても、耳を傾けることが少なくなるのです。そのような祈りには、悔い改めを生じる信仰が欠けています。²¹

それでもこのように言う人がいるかもしれません。「アンダーセン兄弟、あなたは分かっています。わたしがどんな思いをしてきたか、あなたには分からないのです。変わるなんて無理です。」

確かにそのとおりです。わたしはすべてを理解してはいません。しかし、すべてを理解している方がおられます。その御方は御存じです。あなたの苦しみを経験しておられます。その御方は「わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ」²² と宣言され

ました。救い主は確かに存在し、手を差し伸べ、わたしたち一人一人に「わたしのもつて来[なさい]」²³ と命じておられます。悔い改めは可能です。わたしたちは悔い改めることができるのです。

変わるべき点に分かると、自らが引き起こした悲しみを嘆くようになります。このような嘆きを体験すると、誠意を込めて心から主に告白し、必要な場合には当事者にも告白するようになります。²⁴ 可能な場合、傷つけた人に償い、傷つけたものや取ってしまったものを回復します。

悔い改めは日々の生活の一部になります。毎週聖餐を取ることはとても大切です。柔和になり、謙遜になって主の御前に行き、主に頼っていることを認め、主から赦しを受けて新たな者としてくださるよう求め、常に主を覚えることを約束することはとても大切なことです。

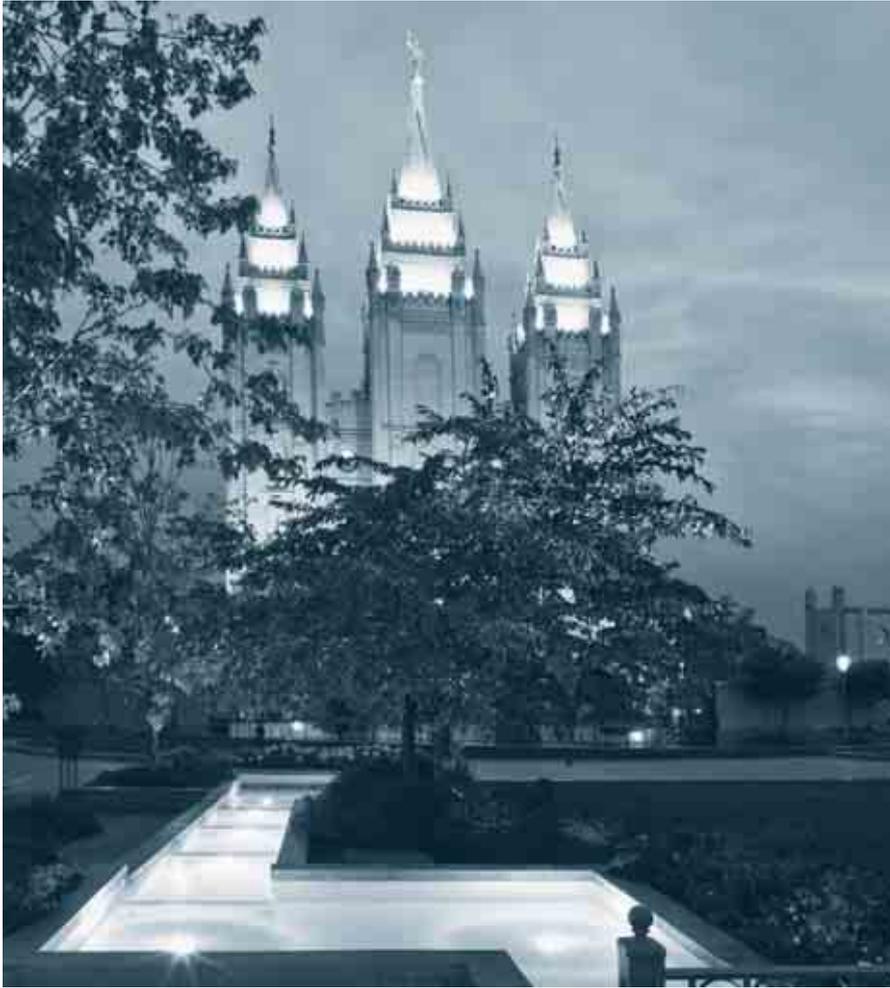
悔い改め、キリストのようになろうとする日々の努力の中で、時々、自分がいつも同じ問題で苦勞していると感じることがあります。木が生い茂った山に登るときと同じで、頂上に近づいて高い尾根から振り返るまで、どれほど進んだか実感できないことがあるのです。がっかりしないでください。努力して悔い改めているのであれば、あなたは悔い改めの道を歩んでいるのです。

成長するにつれて、人生をよりはっきりと見据え、聖霊がより力強く働きかけてくださるのを感じるようになります。

わたしたちは時々、なぜ遠い昔に捨てた罪の記憶を忘れられないのかと思うことがあります。悔い改めた後でも、犯した間違いを悲しみ続けることがあるのはなぜでしょう。

ジェームズ・E・ファウスト管長が語った心温まる話を思い出してください。「わたしは小さな少年のとき、……祖母……が熱いまきコンロでおいしい食事を作っていたことを思い出します。コンロの横のまきを入れた箱が空になると、祖母は黙ってその箱を取り上げて出て行き、外に積んである杉のまきを詰めて、重くなった箱を家の中に運び込みました。」

ここまでくるとファウスト管長は感情が高まって声を詰まらせ、そして話を続けまし



た。「わたしはとても無神経で[した]。そこに座って、愛する祖母がまきの箱を運ぶのをただ見ていたのです。わたしは自分が恥ずかしく、怠惰であった[罪]をそれ以来ずっと後悔してきました。いつの日か、祖母に赦しを求めることができると願っています。」²⁵

65年以上も前の経験でした。それでも、祖母を手伝わなかったことをファウスト管長はまだ覚えていて、ずっと悔やんでいたのです。そうだとしたら、わたしたちの中で、忘れられずに悔やんでいることがあったとしても、驚くことはありません。

聖文には、わたしたちが死すべき世で捨てた罪を忘れるだろうとは書いてありません。そうではなく、主がお忘れになると書かれているのです。²⁶

罪を捨てるとは、二度と行わないことです。捨てるには時間がかかります。罪を捨てることができるよう、時に主は、犯した間違いのわずかな残りをわたしたちの記憶の中に置いておかれることがあるのです。²⁷

それは、この世での学びの中で非常に大切な部分なのです。

正直に罪を告白し、傷つけた人にできるかぎり償い、戒めを守ることによって罪を捨てるとき、わたしたちは罪の赦しを受けるための道を歩んでいます。時とともに、悲しみによる苦悩は和らぎ、わたしたちの「心から罪[が]取り除[かれ]」²⁸、「良心の安らぎ」²⁹が与えられるでしょう。

真に悔い改めたにもかかわらず安らぎを得られないように感じても、戒めを守り続けてください。主がよいと思われるときに安らぎが与えられることをわたしは約束します。癒しには時間もかかるのです。

不安のある人は、ビショップに相談してください。ビショップは識別の力を持っています。³⁰ あなたを助けてくれるでしょう。

聖文は「悔い改めの日を引き延ばすことのないように」³¹と警告しています。しかし、この世において悔い改めに遅すぎるということはないのです。

わたしはあるとき、教会に戻ろうとしてい

る年配の夫婦と面接するよう依頼されました。二人とも両親から福音を教えられていたのですが、結婚してから教会を離れてしまいました。それから50年たって戻って来たのです。夫が酸素ボンベを引きながらわたしの部屋に入って来たのを覚えています。二人は忠実でいられなかったことを悔いていると言いました。わたしは戻って来てくれてうれしく思っていることを伝え、悔い改める人を主は必ず喜んで受け入れてくださると伝えました。すると、年老いた夫はこう答えました。「それは分かっているんです、アンダーセン兄弟。しかし、わたしたちの悲しみは、子供と孫が福音の祝福にあずかっていないということなのです。わたしたちは戻りましたが、孫や子供はそばにいないのです。」

この夫婦は二人きりで戻ったわけではありません。悔い改めが生む変化は当人のみにとどまりません。祝福は家族にも、愛する人たちにも注がれます。義にかなった悔い改めをするなら、主がよいと思われるときに、救い主は御手を伸べてわたしたちを包むだけでなく、子供や子孫の人生をも包んでくださるのです。悔い改める人には、必ず、よりすばらしい幸せが訪れます。

救い主はわたしたちを罪から解放することがおできになると証します。わたしには主の贖いの力を自ら実感した経験があります。主の癒しの御手が世界中の何千もの人々のうえにあるのを、紛れもなくこの目で見てきました。主の神聖な賜物^{たまもの}がわたしたちの心から罪を取り除き、良心に安らぎを与えてくれることを証します。

主はわたしたちを愛しておられます。わたしたちは主の教会の会員です。主は、わたしたち一人一人に、悔い改めて罪に背を向け、みもとに来よう招いておられます。主が生きておられることをイエス・キリストの御名^{みな}によって証します、アーメン。

注

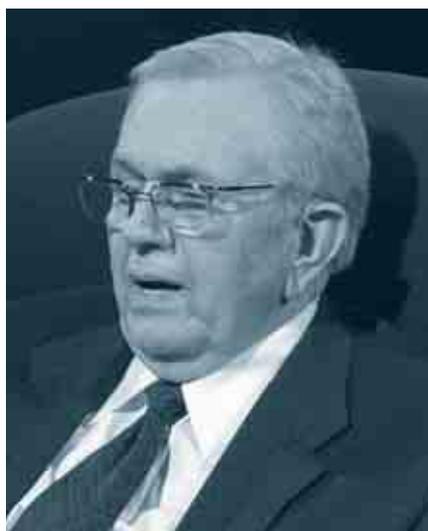
1. 3ニーファイ9:14
2. モルモン6:17参照
3. アルマ19:36参照
4. 列王下17:36; 詩篇136:12参照
5. 2ニーファイ1:15参照

6. 教義と聖約123:6参照
7. 3ニーファイ20:35参照
8. アルマ5:33参照
9. アルマ34:16参照
10. 教義と聖約6:20参照
11. 2ニーファイ28:32
12. 2ニーファイ8:12
13. アルマ5:33
14. ヒラマン7:17参照
15. ボイド・K・パッカー「輝かしい赦しの朝」
『聖徒の道』1996年1月号, 20参照
16. 3ニーファイ9:13
17. アルマ5:12
18. マタイ16:24
19. 教義と聖約8:2参照
20. アルマ42:30
21. アルマ34:17-18参照
22. イザヤ49:16
23. 3ニーファイ9:14
24. 教義と聖約58:43参照
25. ジェームズ・E・ファウスト「律法の中で
もっと重要な、公平と憐れみと忠実」『聖
徒の道』1998年1月号, 65参照
26. 教義と聖約58:42-43。アルマ36:
17-19も参照
27. ディーター・F・ウークトドルフ「帰還可能
点」『リアホナ』2007年5月号, 99参照
28. アルマ24:10
29. モーサヤ4:3。聖文は、この世と次の世
でのわたしたちの幸せを、良心の安らぎ
と結びつけている。喜びの反対は良心の
阿鼻叫喚であるというアルマの教えに注意す
る(アルマ29:5参照)。ほかの預言者た
ちは、この世の後で訪れる悪人の苦痛を、
その人たちの感じる罪悪感と関連付けて
いる(2ニーファイ9:14, 46; モーサヤ
2:38; 3:24-25; モルモン9:5参
照)。ジョセフ・スミスはこう述べている。
「人は自分で自分を苦しめ、罪に定める。
だからこそ、彼らは火と硫黄の燃える池
に入ると言われるのである。人の思いに
ある失意という苦しみは、火と硫黄の燃
える池と同じくらい激しいものである。」
(*History of the Church*, 第6巻,
314)
30. 教義と聖約46:27参照
31. アルマ34:33

祈りと促し

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

みたま
**御霊の促しと祈りの経験は、教会では珍しいことではありません。それは天の御父がわ
たしたちのために与えてくださる啓示の一部です。**



どんな父親でも、子供に生涯にわたる試練を受けさせるために、まず自分の身を守る力を与えたくないで、ルシフェルが自由にうろつき回っていることが分かっている遠い危険な地へ送り出したいとは思わないでしょう。また、父から子へ、子から父への連絡手段を与えることでしよう。地上へ送られた御父の子供は皆、キリストの御霊、すなわちキリストの光を与えられています。¹ 導きと贖いの希望もなく独りでほうっておかれる人は、一人もいないのです。

回復は、14歳の少年の祈りと、御父と御子の示現から始まりました。時満ちる神権時代が幕を開けたのです。

福音の回復は前世の存在についての知識をもたらしてくれました。聖文を読むと、天上の会議で、神の息子娘たちが肉体を受け、試しに遭うために現世に送られる決定がなされたことがわかります。² わた

したちは神の子です。わたしたちの霊の体は今、死すべき肉体に宿っています。聖文はこう述べています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」(1コリント3:16)

わたしたちは神の子として、「偉大な幸福の計画」の一部であることが分かります(アルマ42:8)。

天で戦いがあり、ルシフェルと彼に従った者たちが肉体を受けずに追い出されたことをわたしたちは知っています。

「神に背き、わたしたちの神とそのキリストの王国を取ろうとしたサタン、年を経た蛇、すなわち悪魔……

彼は神の聖徒たちに戦いを挑み、彼らを取り囲む。」(教義と聖約76:28-29)

わたしたちは選択の自由を与えられています。³ それを賢明に使い、常に御霊を受けられるようにしなければなりません。そうしないと、愚かにも悪魔の誘惑に負けてしまいます。ただし、イエス・キリストの贖いを通して、わたしたちの過ちは洗い清められ、わたしたちの肉体は、復活するときに、本来の造りに回復されるのです。

「見よ、善悪をわかまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわかまえることができる。」(モロナイ7:16)



わたしたちは、御霊を通して完全な方法で意思疎通を行うことができます。「御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめる」からです(1コリント2:10)。

バプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会へ入ると、第二の儀式を受けます。「聖霊の賜物を授けるための^{あんじゅ}按手」です(信仰簡条1:4)。

靈感を与える御霊の優しく静かな声は、音として聞こえるというよりむしろ感じるものです。純粋な知性が心に語りかけます。聖霊は、肉体の感覚よりも思いを通してわたしたちの霊に語りかけてください。4 この導きは、促しや印象を通して、考えや気持ちとなって訪れます。5 霊的な意思疎通の言葉は、聞こえるというよりは感じるものであり、肉体の目ではなく霊の目で見ることができます。6

わたしは長年、十二使徒定員会でリチャード・リチャーズ長老とともに奉仕しました。彼は96歳で亡くなりました。リチャーズ長老が12歳の少年のとき、タバナクルで開かれた総大会に出席した経験を語って

くれたことがありました。そこでウィルフォード・ウッドラフ大管長の話を聞いたのです。

ウッドラフ大管長は御霊の促しを受けた経験について語りました。彼は「ニュージーランドとカナダで神のすべての聖徒たちを集め、シオンへ連れて来る」よう大管長会により派遣されました。7

彼はインディアナ州のある兄弟の家に立ち寄り、馬車を裏庭に止めました。自分と妻と子供一人が馬車の中で、残りの家族は家の中で寝ることになりました。夜になって眠っていると、御霊がささやき、警告しました。「起きて、馬車を移動させなさい。」彼は起き上がり、馬車を少し離れた場所へ移動させました。寝ようとする、また御霊が語りかけました。「ラバをあのかしの木から離しなさい。」そのとおりにして、再び眠りに就きました。

30分もたたないうちに、さっきまでラバがつながれていた木につむじ風が吹きつけ、木をなぎ倒し、二つのさくを越えて100ヤード(約90メートル)ほど吹き飛ばしてし

まいました。幹の周囲が5フィート(約1.5メートル)もある大きな木が、ちょうど馬車の止めてあった場所に落ちました。ウッドラフ長老は御霊の促しに耳を傾けることにより、自分と妻子の命を救ったのです。8

これと同じ御霊が皆さんにも促しと守りを与えてくれます。

50年近く前、中央幹部として初めて召されたとき、わたしたちはユタ渓谷のとても狭い土地に住んでいました。わたしたちはそこを自分たちの農場と呼んでいました。牛と馬が1頭に鶏、そして子供がたくさんいました。

ある土曜日、カリフォルニア州のステーキ大会に出席するため、空港へ車で出かけようとしていました。ところが、雌牛が出産し、危険な状態になりました。子牛は生まれましたが、雌牛は起き上がれません。獣医を呼ぶと、すぐに来てくれました。雌牛が針金を飲み込んでしまったため、あと1日ももたないだろうとの話でした。

わたしは動物の食肉加工会社の電話番

号を書き留め、雌牛が死んだらすぐに妻が業者を呼んで引き取ってもらうよう手配しました。

わたしが出かける前に、家族の祈りをしました。祈ったのは幼い息子でした。「旅行に出るパパと、みんなを祝福してください」と天の御父にお願いした後、彼は真剣に懇願しました。「天のお父様、どうか雌牛のポシーが元気になるように祝福してください。」

カリフォルニアの大会でわたしはその出来事について話し、こう述べました。「わたしたちが祈り求めるものはすべて、そう簡単になんかえられるわけではないことを、息子は学ばなくてはなりません。」

学ぶべき教訓がありました。でも、学んだのは息子ではなく、わたしでした。日曜日の晩、帰宅すると、ポシーは「元気に」なっていたのです。

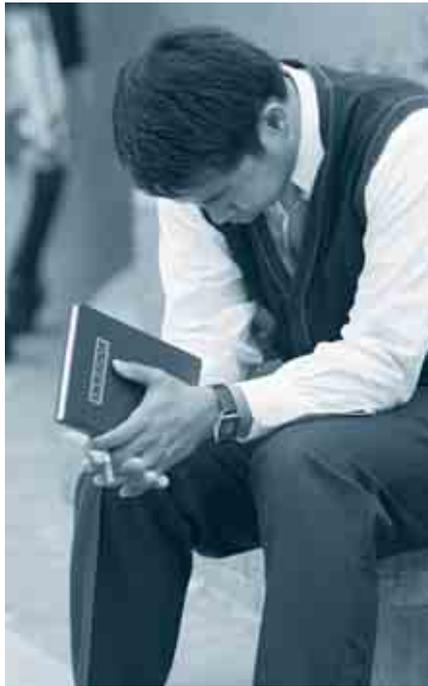
このプロセスは預言者だけのものではありません。聖霊の賜物は男女を問わず、また幼い子供たちにさえ、平等に与えられています。どのような問題についても、霊的な癒しをもたらすのは、この驚くべき賜物と力によるのです。

「さて、神は天使によって、人々に、まことに男ばかりでなく女にも御自分の御言葉を伝えられる。それだけではない。知者や学者を辱める御言葉が、これまで何度も幼い子供に与えられてきた。」(アルマ 32:23)

主はわたしたちを促し、導き、教え、誤りを正し、警告するために、わたしたちの思いに知識を注ぐ方法をたくさん持っておられます。主はこう言われました。「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」(教義と聖約8:2)

また、エノスはこう記しています。「わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、再び主の声わたしの思いに告げ[た]。」(エノス1:10)

皆さんは自分が知る必要のある事柄を知ることができます。そのような靈感を受けることを学び、受けるにふさわしい状態を保てるように祈ってください。靈感を受ける器である思いを清め、世の汚れから



遠ざかってください。

かつて七十人第二定員会会員であったグラハム・W・ドクシー長老は、ある経験について話してくれました。後に中央初等協会会長会顧問になった、長老の母親もこの経験について語ってくれました。

第二次世界大戦の間、海軍にいた彼は中国へ配置されていました。彼は数人の仲間と列車で天津へ見物に出かけました。やがて、皆で基地へ帰ろうとして列車に乗りましたが、1時間余りたってから列車は北に向かい始めました。乗る列車を間違えてしまったのです。中国語を話せる者はいませんでした。そこで、緊急連絡用のひもを引き、列車を止めました。田舎のどこかで降ろされ、町へ歩いて戻るほかありませんでした。

しばらく歩くと、手動の作業用車両を見つけました。鉄道作業員が使うものです。それをレールの上に乗せ、線路に沿って動かし始めました。下り坂はすすい進みましたが、登り坂は押さなくてはなりません。

ある急な下り坂に来たとき、みんなは慌てて車両に乗り込み、滑走し始めました。最後に乗ろうとしたのはグラハムでした。唯一空いていた場所は車両のいちばん前でした。わきを走りながら、やっとよじ登りました。ところが、滑って車両の前に落ちてしまいました。背中を打ちなが

らも、ひかれないように、倒れたまま足で車両を押さえました。車両はすぐにスピードを増してきました。そのとき、母親の声が聞こえました。「グラハム、気をつけて。」

長老は重い軍用の長靴を履いていました。足が滑って、靴の厚い底が車輪のギヤに挟まり、車両は、長老の手からわずか1フィート(約30センチ)の所で止まりました。

長老の両親は当時、合衆国東中央諸州伝道部を管理していましたが、そのときはホテルで寝ていました。母親は朝2時ごろ起き上がると、夫を起こしました。「グラハムが大変よ。」二人はベッドのそばにひざまずき、息子の無事を願い求めて祈りました。

長老が受け取った次の手紙にはこう書いてありました。「グラハム、どうしたの。何が起きたの。」

そこで、長老は事の次第を両親に書きました。時刻を比べてみると、長老が線路に落ちたまさにその時刻に、両親は地球の反対側にあるホテルでひざまずき、長老の無事を祈り求めていたのです。

こうした御霊の促しと祈りの経験は、教会では珍しいことではありません。それは天の御父がわたしたちのために与えてくださる啓示の一部です。

悪魔が使う最も狡猾な方法は、わたしたちはもはや祈るにふさわしくないと説得することです。皆さんがだれであれ、何をしたにせよ、常に祈ることができます。

預言者ジョセフ・スミスは、「肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです」⁹と約束しています。

誘惑に遭うとき、思いの中に削除キーを作り出すことができます。好きな賛美歌を歌うのもよいでしょう。精神が肉体を管理するのです。肉体はその道具にすぎません。ふさわしくない考えが心に押し入ってきたら、削除キーを押して、ほかのものに置き換えましょう。ふさわしい音楽には力があり、思いを制御するのに役立ちます。¹⁰

オリバー・カウドリが翻訳する試みに失敗したとき、主はこう言われました。

「見よ、あなたは理解していなかった。」

あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しいければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいとを感じるであろう。

しかし、もしそれが正しくなければ、あなたはこのような感じを少しも受け[ない]。』(教義と聖約9:7-9)

その原則の実例として、ある少女の話をしてしまおう。少女は、すずめを捕まえるためにわなを仕掛けた兄に腹を立てました。

助けを得ることができなかったので、独り言を言いました。「いいわ、お祈りするから。」

祈った後で、母親に言いました。「お祈りしたから、わなですずめを捕まえることはできないわよ。絶対にできないわ。」

母親は言いました。「なぜそんなに自信があるの。」

少女は言いました。「祈った後で、あの古いわなをけっ飛ばして、こなごなに壊しちゃったんだもん。」

皆さんがたとえかつてのアルマのように若く強情であっても、あるいは「これらのことについて知っていながら、知りたと思わなかった」アミュレクのように心を閉ざしていても、祈ってください(アルマ10:6)。

祈ることを学んでください。しばしば祈ってください。思いと心を込めて祈ってください。ひざまずいて祈ってください。祈りは天の扉を開ける自分自身の鍵です。鍵は幕のこちら側に付いています。また、わたしはすべての祈りを「みこころが……行われますように」という言葉で結ぶことを学んできました(マタイ6:10。ルカ11:2;3ニーファイ13:10も参照)。

困難や落胆、苦痛や失望がまったくなくなることを期待してはなりません。なぜなら、これらに耐えるために、わたしたちは地上へ送られたからです。

ある人がこう書いています。



主が作ってくださった計画も

思慮と忍耐力のない手の中ではもつれてしまう。

苦しい叫び声を上げるわたしたちに、主はこう言われる。

「わたしがもつれをほどいている間、静かにしていなさい。」¹¹

聖文はこう約束しています。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(1コリント10:13)

救い主はこう述べておられます。「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(教義と聖約88:63)

わたしたちは大会のこの部会を教会役員員の支持から始めました。最初に支持されたのは末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長であるトーマス・S・モンソンでした。わたしは恐らく、地上のだれよりも彼のことをよく知っていますので、彼が「預言に

よって、……神から召され[た]」(信仰簡条1:5)という特別な証を述べたいと思います。モンソン大管長は、そしてフランシス夫人も、彼らの家族も、彼の担っている途方もなく重い務めをよく果たせるよう、わたしたちの祈りを必要としています。

モンソン大管長が肉体的にも、精神的にも霊的にも支えられるよう祈ります。そして彼が「預言によって、……神から召され[た]」ことが、彼と非常に親しい人々にとって明らかなように、すべての教会の会員にとっても明らかになるように祈ります。モンソン大管長が召されたとき、大管長は「福音を宣べ伝え、その儀式を執行するために……権能を持つ者による接手によって」その職に召されたのです。

主がわたしたちを祝福してくださいますように。そして大管長に託された大いなる務めをモンソン大管長が果たしていけるように、大管長とご家族にとって必要なあらゆる支えを主が与えてくださいますように。わたしは主の僕として、イエス・キリストの御名により、これらを証し、これらの祝福を願い求めます、アーメン。

注

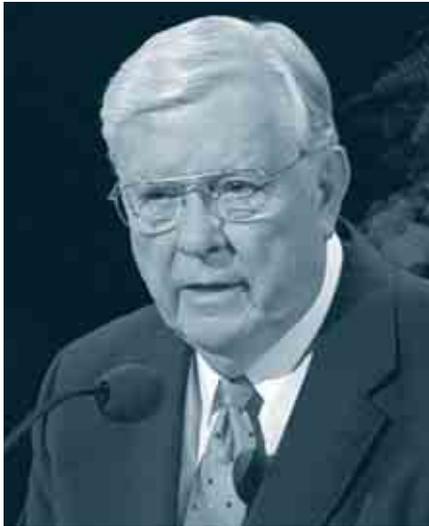
1. 教義と聖約84:46参照
2. 教義と聖約138:56参照。□ーマ8:16も参照
3. 教義と聖約101:78参照
4. 1コリント2:14;教義と聖約8:2;9:8-9参照
5. 教義と聖約11:13;100:5参照
6. 1ニーファイ17:45参照
7. ウィルフォード・ウッドラフ, Conference Report, 1898年4月, 30; "Remarks," *Deseret Weekly*, 1891年9月5日, 323参照
8. ウィルフォード・ウッドラフ, *Leaves from My Journal* (1881年), 88参照
9. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』211
10. 教義と聖約25:12参照
11. 作者不詳, ジャック・M・リオン他編, *Best-Loved Poems of the LDS People* (1996年), 304

父と息子—— すばらしい関係

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

父親と息子は、最高の自分になるため助け合うという大切な役割を果たすことができます。



父親の皆さんがそろって、息子さんと一緒に座り、主の教えに耳を傾け、教会の中央幹部から勧告を受けている光景はすばらしいものです。神権を持つ成人男性と若い男性が一つになるときにいつも喜びがあふれるものですが、父親と息子がこの場に集っている光景からは特別なものを感じます。神権と家族という、教会の教義の中で最も大切な二つの要素を思い起こさせてくれるのです。神権とは、家族を永遠に結び固める神の権能です。家族は、神の永遠の家族となる可能性を秘めています。回復されたイエス・キリストの福音においては、聖なる神殿の儀式を含むすべてが、家族にこの祝福をもたらすことに照準が合わせられているのです。

今晚わたしは、父親と息子の皆さんに、

父と子の対話の仕方について話します。男の子とその父親の関係に匹敵するような結びつきはほかに存在し得ませんし、存在するはずもありません。わたしたちはこの結びつきを、人生で最も成長を促す関係、何よりも喜びに満ちた関係にすることができます。少年の将来にも父親の将来にも、深い影響を及ぼす関係にすることができるのです。さて、若い男性の中には、父と子の対話ができる父親のいない人がいます。成人男性の中にも、息子のいない人、事故や病気で息子を亡くした人がいます。しかし、今晚わたしが話すことのほとんどは、父親に代わって父と息子の関係を築いているおじや祖父、神権指導者、そのほかの信頼できる相談相手にとっても決して無意味ではありません。

御存じのように、わたしたちは皆、旅人です。父親は少し先を歩いてはいますが、父親も息子も、まだ最終目的地には到達していません。わたしたちは皆、いつの日か、なるべき人物になれるよう努力している途上なのです。父親と息子は、最高の自分になるため助け合うという大切な役割を果たすことができます。

父親と息子の間に完璧な関係かんぺきを築くことはできませんが、今晚わたしが提案することは、努力すればできるようなことばかりです。

若い男性の皆さん、皆さんは父親の誇りであり、喜びです。父親は皆さんの中に輝ける未来を見えています。成長し、進歩した自分自身の姿を見ているのです。皆

さんが成し遂げることは父親の喜びです。そして、皆さんの心配事や悩みは、父親の心配事であり、悩みなのです。

父親の皆さん、皆さんは息子さんにとって、最初に出会う男らしさの模範です。皆さんは息子さんにとって最も頼りになる相談相手であり、信じないかもしれませんが、いろいろな意味でヒーローなのです。皆さんの言葉と模範は、彼らに大きな影響を及ぼします。

今晚わたしは若い男性の皆さんに、お父さんとの関係を最大限に活用する方法について、3つのことを話します。次に父親の皆さんに、息子さんと意思の疎通を図るために役立つ方法を3つ提案します。

アロン神権者の皆さんは、これから話す3つのことを行えば、お父さんとの関係を改善することができます。

第1に、お父さんを信頼してください。お父さんは完全ではありませんが、あなたを愛しています。そして、あなたにいちばん良いと思うことしかしません。ですから、お父さんと話してください。あなたが何を考えているのか、何を感じているのか、何を夢見ているのか、何を恐れているのか、伝えてください。あなたの生き方が分かってくれば、お父さんはあなたの心配事を理解し、良いアドバイスができるようになります。あなたがお父さんを信頼すると、お父さんはその信頼にこたえる責任を感じます。かつてなかったほど努力して、あなたを理解し助けようとするでしょう。父親として、お父さんはあなたのために啓示を受ける特権を持っています。お父さんがくれるアドバイスは、あなたを理解し愛している人が、心の底から話す言葉なのです。あなたに、何よりもまず、幸せで満ち足りた生活を送れるようになってほしいと願っています。そんなお父さんに信頼を寄せてください。男の子たち、お父さんを信頼してください。

第2に、お父さんの生き方に興味を持ってください。仕事について、関心のあることについて、目標について、尋ねてください。どんなことを考えて今の職業を決めたのでしょうか。あなたの年ごろのときはどんな少年だったのでしょうか。ど



うやってお母さんと出会ったのでしょうか。このようにお父さんのことがよく分かってくると、物事へのお父さんの対応の仕方は、経験に裏付けられたものだということが分かってきます。お父さんを観察してください。お母さんにどのように接しているか観察してください。教会の責任の果たし方を観察してください。人とのやり取りを観察してください。お父さんを観察し、その言葉に耳を傾けるだけで、お父さんのことが驚くほどよく分かるようになります。お父さんについて何を知らないかを考え、尋ねてみましょう。こうして、お父さんに対する愛と尊敬が増し、理解が

深まっていきます。男の子たち、お父さんの生き方に興味を持ってください。

そして第3に、お父さんにアドバイスを求めてください。心を開きましょう。恐らくお父さんは、求められても求められなくても助言してくるでしょう。でも、皆さんが求める方が大いに役立つアドバイスをくれるでしょう。教会の活動やクラス、友達について、学校やデート、スポーツなどの趣味について、アドバイスを求めてください。教会の割り当てについて、伝道に出る準備について、決断を下さなければならないこと、選ばなければならないことについて、助言を求めてください。アドバイスを

求めることほど、相手に尊敬を示す行為はほかにありません。なぜなら、この行為は、「わたしはあなたの知識や経験を高く評価しています。あなたの考えや勧めを大切に受け止めます」というメッセージを伝えるからです。こんなメッセージを息子から受け取ったら、父親は喜ぶことでしょう。

わたしの経験からすると、息子からアドバイスを求められた父親は、できるかぎり有益で頼りになるアドバイス、気の利いた助言を与えようと努力するものです。お父さんにアドバイスを求めてください。そうすれば、知恵をもらえるばかりでなく、お父さんを少し刺激してあげることが出来ます。さらに良い父親、良い人間になろうと努力するようになるでしょう。アドバイスの内容がどのようなものであれ、お父さんはいっそう慎重に考えて助言するようになり、自分の言葉と矛盾しない行動を取れるようさらに努力するでしょう。若い男性の皆さん、お父さんにアドバイスを求めてください。

では次に、父親の皆さんに話します。息子さんとの関係をもっと改善できる方法について話しましょう。これから皆さんに勧める3つの提案と、たった今息子さんたちに勧めた3つの提案には関連があることに気づくと思います。それは偶然ではありません。

父親の皆さん、第1に息子さんの話を聞いてください。心から耳を傾けるのです。2、3分一緒にいられるときには必ず、適切な質問をして、息子さんの言葉に耳を傾けてください。息子さんの生活に何が起きているのか知る必要があります。推測するのではなく、知るのです。自分にも若いころがあったのだから息子さんの気持ちは分かる、などと高をくくってはいけません。息子さんたちが生きている世界は、あなたが育った世界とは大きく異なります。息子さんが自分に起きていることを話すときには、細心の注意を払って聞いてください。批判的な態度で臨むと、彼らの考えていること、経験していることを理解できません。

心を通わせる最善の方法を探してください。息子さんを魚釣りやスポーツ行事

に連れて行くのが好きな父親もいれば、静かにドライブしたり、並んで庭を散歩したりするのが好きな父親もいます。就寝前の会話を息子さんたちが楽しみにしていることに気づいている父親もいます。自分に合った方法を使ってください。一対一で話すことを、息子さんに対する管理人の職の一環として習慣化しましょう。父親は皆、話題を絞った質の高い会話を息子さんとする機会を少なくとも月に1度は持つべきです。学校や友達、感じていること、テレビゲーム、携帯メール、ふさわしさ、信仰、証^{あかし}など、具体的な話題を採り上げます。いつでもどこで話すかよりも、とにかく息子さんと話すということが、まず大切です。

そして、父親は耳を傾ける必要があります。忘れないでください。9割あなたが話していたら、会話になりません。息子さんと話すときには、「感じる」という言葉を無理のない範囲で、できるだけたくさん使ってください。このように質問するのです。「そのクラスで習っていることについてどう感じているの。」「友達の言葉をどう感じたのかな。」「自分の持っている神権や、教会についてどう感じているの。」

会話の中ですべてを決めようとか、すべてを解決しようなどと気負ってはいけません。たいていの場合、黙って聞くのがいちばんよいのです。話すよりも聞くことを大切にされる父親の方が、実際に体験している話を子供から聞き出すことができます。お父さん、息子さんの話に耳を傾けてください。

第2に、息子さんと一緒に祈り、息子さんのために祈ってください。神権の祝福を与えてください。大切な試験や特別な行事を前にして落ち着かない息子さんにとって、父親が与えてくれる神権の祝福は必ず力になります。新しい学年が始まる時や誕生日、初めてデートするときなどは、主に息子さんを祝福して下さるよう祈り求めるにふさわしい時です。息子さんと二人で祈り、証を分かち合ってください。互いの距離が縮まり、主に近づくことができます。

道をそれ、世のわなにはまっている息子さんのことで多くの父親が心を痛めて



いることを忘れてはいけません。アルマやモーサヤも同じように悩みました。できるかぎりのことを引き続き行い、家族の結びつきを強くしてください。たとえ息子さんのためにできることが熱心に祈ることしかないとしても、決してあきらめてはいけません。あなたの大切な息子さんは、永遠にあなたの息子なのです。父親の皆さん、息子さんと一緒に祈り、息子さんに祝福を与えてください。

第3に、「なかなか踏み込めない大事な問題」について息子さんと話してください。つまり、違法薬物や飲酒について、また、インターネットやサイバー技術、ポルノグラフィーといった現代のメディアの危険について話すのです。神権者としてのふさわしさについて、女の子に敬意を払うことについて、道徳的な清さについて話してください。こういった話題だけに集中するわけではないにしても、どうか、これらの話題を避けて通らないでください。息子さんはこれらの問題に関するあなたの助言と導き、情報を必要としています。非常に大切なこれらの問題を話題として採り上げることにより、息子さんとの間に信頼関係をしっかりと築くことができます。性

の問題についてざっくばらんに分か

りやすく息子さんと話し合うことについて、わたしは特に関心を持っています。その場限りで何の考えもない性行動に若いうちからかかわることをおおびらに認め、それをひけらかすような世の中で、息子さんたちは育っています。性を扱うあからさまな画像やメッセージ、誘惑は至る所にあり、息子さんたちはそれらを避けることができません。父親も教会の指導者も、包み隠さずに話し合う機会を頻繁に設けて、神権を持つ若い男性たちがこの問題をどう扱ったらよいのかを教え、明確にしておかなければなりません。肉体的な愛情表現は善いものであって、主が設けられた枠の中で行うとき、それはすばらしく、美しいのです。この枠には、神殿の聖約と永遠の結婚の聖約が含まれます。放縦な性行動を遠ざける最も有力な手段は、心からの約束と成熟した愛の下で男女の関係を育てていくという健全な態度にあることが、複数の研究から分かっています。父親の皆さん、この「なかなか踏み込めない大事な問題」についてまだ息子さんと話し合っていないければ、すぐに話し合ってください。

最後に、帰還宣教師の皆さんに話します。今晚わたしが言ったことは、すべて皆さんにも当てはまります。父親を信頼して

ください。伝道に出る前に皆さんの状態がどうだったにしろ、今、皆さんは、これまでになかったほど父親に近づくことができるようになっていきます。これから何年かのうちに、皆さんは人生で最も重要な決断を幾つか下すことになります。教育や職業、結婚について決断を下すとき、天の御父に祈ることに加えて、地上の父親からの助言は助けになるでしょう。人生でいちばん大切な決断は、自分にとってふさわしい人と神殿で結婚するという決断です。性急に下す必要はありませんが、帰還宣教師は全員、この重大な決断ができるよう努力すべきです。良い友達に会えるような場所に足を向けてください。そして、デートしてください。友達とたむろするだけでは不十分ですし、それは正しい方法ではありません。「結婚を前提とした交際」を今の人はあまりしないようです。この失われた習慣の価値を見直しましょう。とても有効な方法です。お父さんに尋ねてください。知っているはずですが、世の慣習に流されず、伝道中に持っていた尊厳と精神を大切にしてください。教会は将来、皆さんの指導力を必要とするようになるでしょう。

そして、父親の皆さん、先ほど述べた3つの提案は、帰還宣教師である息子さんとの関係にも当てはまります。息子さんの話に耳を傾け、話題を絞った話し合いを定期的に持って、心を通わせてください。彼の感じていること、目指していることについて、掘り下げて話しましょう。一緒に祈ってください。そして、息子さんが将来、重要な決断に直面したら、祝福を与えてください。

わたしの息子たちと義理の息子たちに感謝しています。彼らから多くのことを学びました。父親と息子であるわたしたちすべてを天の御父が祝福してくださるよう祈っています。わたしたちが神権を尊ぶことができますように。また、互いの関係を生活の中で永遠にわたって最優先事項の一つとすることによって、互いへの愛を深め合っていくことができますように。このことをイエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

さらに力強い 神権者となる

七十人会長会

ウォルター・F・ゴンサレス長老

わたしたちは天の御父の息子、娘たちの人生を祝福するうえでさらに力強くなり、人々に奉仕するうえでさらに力強くなります。



はるか昔、あるふさわしい神権者の一団が、偉大な力と権能によって教えました。そのうちの一人は、非常に大きな力を持っていたので、だれも彼の言葉を信じないわけにはいきませんでした。¹ これらの神権者は、人々が救い主とその教義について学べるように、また幸福を見いだせるように助けました。彼らの教えと模範がきっかけとなり、人々は心の中に大きな変化を経験しました。わたしたちは、彼らの導きによって、何千もの人々がバプテスマを受け、聖約を交わして、最後まで堪え忍んだことを知っています。² わたしはモルモン書に登場する偉大な宣教師について話しています。彼らは力強い神権者でした。

わたしたちはリーハイの子孫から多く

を学ぶことができます。彼らが行ったことを行うことで、わたしたちは天の御父の息子、娘たちの人生を祝福するうえでさらに力強くなり、人々に奉仕するうえでさらに力強くなり、人々を救助するうえでさらに力強くなり、キリストにもっと似た者となるうえでさらに力強くなるすることができます。

息子アルマは、自分たちが成功するために行ったことの一つを教えています。彼らはモルモン書の基になった記録を用いました。アルマは、後にモルモン書となる記録を息子ヒラマンに渡したとき、次のように教えました。これらの版がなかったら、「アンモンと彼の同僚たちは何千人もの……人に、……納得させることはできなかったであろう。これらの記録と彼らの言葉は、……人を悔い改めに導いた。」³

神はこれらの版を通して御自身の力を示し、「何千人もの……人が再び真理を知るようになる[る]」という一つの目的を成し遂げられました。それからアルマは、神は「後の時代の人々にも、これらの記録によって御自分の力を示される」であろうと預言しました。⁴ このようにして、記録は守られました。そして、皆さんやわたしは、ここで言う後の時代の人々の一部なのです。いにしへの時代と同様、わたしたちはモルモン書を使うことによって、さらに力強い神権者となることができます。

モルモン書が明るみになるまでの経緯は、人類史上のいかなる著者のいかなる著作とも比較できません。それは、まさに



神の指によって見守られた書物と言っても差し支えないでしょう。古代アメリカ大陸を訪れたとき、主はニーファイに、保管している記録を持って来て、御自身の前に置くようにおっしゃいました。イエスはその記録を御覧になり、ある出来事と文章を書き加えるようにお命じになりました。⁵ 「そして[救い主]は、『あなたがたの持っていないこれらの聖文が、後の時代の人々に伝えられることは、父の知恵にかなっていたので、父は、これらの聖文をあなたがたに伝えるようにわたしに命じられた』と言われた。」⁶ わたしは自分も後の時代の人々の一人であることにいつも感謝しています。わたしが教会員であるのはモルモン書のおかげです。わたしは、幼いころ、ウルグアイで初めてこの神聖な書物を読みましたが、そのときに感じた気持ちを決して忘れません。わたしはニーファイ第一書を少し読んだだけで、言い表せないほどの喜びを経験しました。この書物には主の御霊がしみとおっているように思え、神を身近に感じることができました。

この経験により、この書物についての預言者ジョセフ・スミスの言葉がさらに意味深いものとなりました。預言者は「人はその教えを守ることに、ほかのどの書物

にも増して神に近づくことができる」⁷と宣言したのです。トーマス・S・モンソン大管長の次の約束も確かなものであると知っています。「モルモン書やその他の標準聖典を読み、その教えを行うときに、その教義について真の知識を得ることができます。聖文に、この教えを行う者はこれが神からのものか、人からのものか分かるであろうと約束されているからです。」⁸

これらの約束は今も、将来にも喜びをもたらしてくれます。モルモン書についての証^{あかし}を得ると、聖約を交わすことによりこの書物の教えを実践したいという願いが自然にわいてきました。わたしは、バプテスマを受け教会員に確認されることにより聖約を交わしました。神権の儀式を通じて聖約を交わし、モルモン書から知識を得ることで、わたしの生活は変わりました。

驚くには当たらないことですが、救い主は古代アメリカ大陸を訪れた際に、教義を教えただけでなく、バプテスマを施す力をニーファイやそのほかの人々にお与えになりました。⁹ 言い換えれば、教義と儀式は切っても切れない関係があるということです。モルモン書の教えを完全な形で実行するには、それらの教えと関連する聖約を伴う神権の儀式がどうしても必

要なのです。

店頭で売り出されたばかりなのに、あっと言う間にベストセラーとなる書物があります。時には人々の間で大きな話題となり、売り出される前から心待ちにされる書物もあります。そのような書物は、あっと言う間に市場に氾濫し、どこに行っても同じ書物を読む人々の姿を目にすることができます。神は無限の知恵によりモルモン書をわたしたちの益となるように取っておかれました。モルモン書の目的はベストセラーになることではありません。しかし、わたしたちはこの神聖な書物を、わたしたちの生活の中で最もよく読み、最もよく利用する書物にすることができます。モルモン書を、最もよく読み、最もよく利用する書物にするうえで助けとなる3つの活動を提案します。わたしたちはこれらの活動から力を受け、古代の神権者と同様、今日さらに力強い神権者となることができるでしょう。

第1に、キリストの言葉をよく味わってください。わたしたちはモルモン書を読んで「キリストの言葉をよく味わ[わなければならぬ。] 見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」¹⁰ キリストの言葉をよく味わう



ということは、ほかに類のない経験です。日常生活を送るうえで助けとなる原則や教義を読み、探し出すことで、新たな熱意を得ることができます。例えば、若人が仲間からの圧力に対処する際に、そのような試練を克服するうえで助けとなる具体的な教えをモルモン書の中から見つけることができます。そのような教えの一つを、レムエルの経験から学べるのではないのでしょうか。レムエルはレーマンの圧力に屈したために幾つかの誤った選択をしました。¹¹「自分たちを造られたあの神の計らいを知らな[かった]」ために正しい行動が取れなかったのです。¹² この出来事から導き出せる原則は、神の計らいに関する教義を学ぶことで、仲間からの圧力に対処できるようになるということです。モルモン書にはこのテーマについてさらに多くの教えと実例が記されています。そして、わたしたちはこの書物の教えから益を受けられる世代なのです。

第2に、キリストについて学んだことをすべて生活の中で実践してください。モルモン書を読み、キリストの属性を見いだすことによって、すばらしい霊の教化を経験

することができます。例えば、ヤレドの兄弟は主が真理の神であり、偽りを言わないということを理解しました。¹³ この属性はわたしの心にどれほど大きな希望をもたらしてくれることでしょう。モルモン書の約束も今日の生ける預言者の約束もすべて成就されるのです。なぜなら、主は神であり、偽りを言わないからです。現代の荒れ狂う世の中にあっても、モルモン書と生ける預言者から学んだ教えに従うならば、心配する必要はないということをわたしたちは知っているのです。ヤレドの兄弟が理解したようなキリストの属性について学んだら、その属性を自分の生活の中で実践する努力をする必要があります。そうすることで、さらに力強い神権者となることができます。

第3に、モルモン書という神聖な書物に記されている教義と原則を教えてください。この書物を使ってすべての人を教えることができます。宣教師や家族がこの書物の言葉を直接引用したり、読んだり、暗唱したりするときに加えられる「神の説得力」¹⁴を想像できるでしょうか。

かつてエクアドルのある伝道部で、宣

教師はすべての活動でモルモン書を用いていました。そのような宣教師がいたために、何千人もの人々が心の中に大きな変化を経験し、神聖な神権の儀式を通じて聖約を交わす決心をしました。モルモン書は真理を誠実に探し求める人々を見つけ、改宗に導き、多くの兄弟姉妹たちを教会に再活発化させるためのすばらしい道具なのです。

この偉大な書物に記されている教えを生活の中で実践することによって家族が守られることをわたしは知っています。わたしたちの子供たちの多くも、エノスのように、父親の言葉を覚えることによって救われるでしょう。エノスは、父親が永遠の命について語るのを度々聞きました。そしてそのため、キリストの贖罪を通じて、自分の罪が赦されたことを理解するようになったのです。¹⁵

皆さんもわたしも、モルモン書の中で語られた将来の世代の者として、モルモン書を用い、神権の聖約を尊ぶことによって、さらに力強い神権者となることができます。モルモン書は、イエス・キリストについて証しています。この御方についてわたしも証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 3ニーファイ7:18参照
2. アルマ23:5-6参照
3. アルマ37:9
4. アルマ37:19
5. 3ニーファイ23:6-14参照
6. 3ニーファイ26:2
7. モルモン書序文
8. トーマス・S・モンソン「人の行く末を左右する決定」『聖徒の道』1980年7月号、31参照
9. 3ニーファイ11:18-22参照
10. 2ニーファイ32:3
11. 1ニーファイ3:28参照
12. 1ニーファイ2:12
13. エテル3:12参照
14. 3ニーファイ28:29
15. エノス1:3-5、10参照

わたしは 騒がしい少年たちを 愛しています

七十人
崔 斎 煥 長老

少年たちを愛しましょう。中には騒がしい少年たちもいます。そして彼らが生活を変えるように教えましょう。



何年も前、若いころに韓国のソウルでビショップをしていたときに会った、騒がしい若い男性たちについて話します。彼らは近所の少年たちで、その中の一人か二人が教会員でしたが、家族は教会員ではありませんでした。皆友達で、遊び、ともに過ごすために教会に来ていました。週日は卓球をし、土曜日は楽しい活動をするのが好きでした。ほとんど全員が学校でも良い生徒ではなく、多くの人から問題児と思われていました。

当時、わたしには7歳と9歳の息子がいました。その少年たちのためにわたしに何ができるのか分かりませんでした。少

年たちがあまりに粗暴だったため、妻の本京ボンギョンは息子たちにほかの若い男性の良い模範を見せたいと思い、別のワードに転出することはできないかと聞いてきたほどでした。わたしは深く考え、少年たちを助ける方法が見つかるように天の御父に祈りました。そしてついに、彼らに生活を変える方法を教えてみようと思ったのです。

あるビジョンがわたしの脳裏にはっきりと浮かびました。宣教師になろうとすれば生活が変わるだろうと感じたのです。その瞬間から、わたしは胸をわくわくさせながら、少年たちとできるだけ多くの時間を過ごすようにし、宣教師の業の大切さと伝道に備える方法を教えようと思いました。

そのころ徐長老という専任宣教師がワードに転任して来ました。彼は教会で育ち、若いアロン神権者として、若い男性の歌のグループに友達と参加したことがありました。徐長老は騒々しい彼らと会い、まだ教会員でなかった少年たちに宣教師のレッスンを教えました。また、以前自分が歌っていた歌も教えてくれました。うるさい少年たちとともに普通の3倍の12人のカルテット[訳注——カルテットは四重奏・四重唱の意]を組んで、ハナロカルテットと名付けました。ハナロとは韓国語で「一つとなる」という意味です。彼らは喜んでともに歌いましたが、それを聴くわたした

ちには、「非常な」忍耐が求められました。

我が家では、会員たちが来たいときにいつでも来られるように、だれでも歓迎していました。少年たちは、週末はほとんど毎週、時には週日にも来ていました。わたしたちは食事をさせ、教えました。福音の原則だけでなく、福音を生活に生かす方法も教えました。自分たちの将来についてビジョンを持たせるようにしました。

彼らは我が家に来ると必ず全員で歌ってくれました。あまりの大声に耳が痛くなったほどです。でも、わたしたちはいつも彼らを褒めました。問題を起こすのを見るより、歌を聴く方がずっと楽しめたからです。

この取り組みは何年も続けました。少年たちのほとんどが福音の中で成長し、奇跡が起きました。やがて、会員でなかった少年のうち9人がバプテスマを受けました。うるさく、粗暴だった彼らが、「勇敢な若い」兵士になったのです。¹

彼らは伝道に行き、教会の美しい若い姉妹と出会って神殿で結婚しました。もちろん、伝道の召しを果たし、学校に通い、結婚する中で、それぞれ様々な問題に直面しました。しかし全員が忠実であり続けました。指導者に従い、主に喜ばれたという望みを持っていたからです。今は、聖約の下に子供たちが生まれ、幸福な家庭を築いています。

9人の騒がしい少年は、その妻や子供たちを含め、主の王国の45人の活発な会員となりました。今はワードやステークの指導者です。一人はビショップとして、二人はビショップリックで、一人は高等評議員として、二人は若い男性の会長会で奉仕しています。伝道主任、幹部書記、セミナー教師になった人もいます。彼らは今もともに歌っていますが、歌が上達したのはもう一つの奇跡でした。

彼らがヒラマンの息子たち²のようになるのを助けた二つの基本原則があります。彼らの母親は教会員ではありませんでしたが、神みことばの御言葉を理解していませんでしたが、神権指導者が父となり、指導者の妻たちが母となったのです。

わたしが「主の少年たち」と呼ぶこの9人



の少年は、理由が分からないときでも教会指導者に聞き従うなら祝福を受けるということを学びました。父祖アダムのようにになりました。アダムは主にささげ物をしたとき、天使から「あなたはなぜ主に犠牲をささげるのか」と尋ねられ、「わたしには分かりません。ただ、主がわたしに命じられたのです」と答えました。³ 少年たちは、従順になり、主に仕えたいと切望するようになりました。

また、教会の集會に出席することが非

常に大切であることを学びました。エズラ・タフト・ベンソン大管長は「高貴な生得権を持つ若人へ」という説教の中でこう語りました。「ここで、教会の集會に出席することの大切さについてお話ししたいと思います。教会の集會に出席するなら、ほかの方法では得られない祝福がもたらされます。」⁴ 教会の集會に欠かさず出席するようになった少年たちは、主の深い愛を感じ、教会の教義と原則を日々の生活に生かす方法を学んだのです。心から喜

んで集會に参加する方法も学びました。

今我が家には、ビショップとして奉仕したときに生まれた末の子を合わせて、3人の息子がいます。息子たちが成長する間に、9人の少年はワードやステークの指導者になり、息子たちの教師や指導者になりました。そして自分たちが問題児だったときにわたしから教えられたのと同じ方法で、息子やほかの少年たちに教えてくれました。わたしが彼らを愛したように、息子たちを愛してくれました。かつてはうろさく粗暴だった少年たちが、息子たちのヒーローになったのです。息子たちは、彼らがすばらしい宣教師となり、義にかなった伴侶と神殿で結婚したのを見て、偉大な模範に倣いたいと思うようになりました。

わたしたち家族は、今も彼らから影響を受け続けています。2か月前のある土曜の夜、全員が教会員というわけではない家族も含めてワード全員が参加して、伝道の活動をしました。末の息子銃崙はその日の午後青少年のキャンプから帰ったばかりでした。自分の家族は全員教会員だし、とても疲れているので伝道の活動には行かないと言い実際に活動には来ませんでした。妻が電話し、全員が招待されていることを伝えると、息子は「分かっているけど、今日は行かない」と言って、電話を切りました。

その晩、活動のあと集會が始まってすぐに、銃崙がやって来て、妻の隣にそっと座り、次のようにささやいたそうです。「電話を切るとすぐに、ハナロカルテットの兄弟たちが人生で成功した理由をお父さんに尋ねたことを思い出したんだ。教会の指導者に聞き従って、教会の集會にいつも出席したからで、それが生活を変え、人生で成功する鍵になったと教えてくれたよ。」そして続けてこう言ったそうです。「突然、お父さんの言葉が心に浮かんできて、ほくも見習おうって決心したんだ。だって、彼らみたいに幸せな家族を持ちたいし、人生で成功したいからね。」

愛する兄弟の皆さん、少年たちを愛しましょう。中には騒がしい少年たちもいます。彼らが生活を変えるように教えましょう。

現代の「ヒラマンの息子たち」は、教会員の貴い家族だけでなく、福音を知らない親を持つ新しい改宗者の中にもいます。彼らがヒラマンの息子たちようになるまで、皆さん夫婦が彼らの「善い両親」⁵と なってあげてください。

皆さんが愛を込めて絶えず若人を導いているのを見て、とてもうれしく思います。こうした若人は皆、わたしたちの息子です。彼らに手を差し伸べ、高め、助けるとき、「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない」⁶と語ったヨハネと同じ気持ちになります。

愛する若い男性の皆さん、教会の指導者に従いましょう。理由は分からなくても、喜んでただ従順であろうとしたアダムのようにになりましょう。忠実に教会の集會に出席してください。そうすれば将来に備えることができ、成功を収めるでしょう。生まれたときから教会に集っている皆さんと、後から教会に入った皆さんにもお伝えします。皆さんは主の軍勢です。皆さんはすばらしい宣教師となり、家族にとって義になつた父親になります。天の御父は幸せな家族を築けるように祝福してください。福音にあつて、皆さんには輝く未来があります。そしてヒラマンの息子たちのように、皆さんはわたしたちに永遠の喜びをもたらしてくれるでしょう。

わたしは皆さんを愛しています。天の御父が皆さんを愛しておられるので、独り子イエス・キリストを贖^{あがな}い主として遣わしてくださつたことを知っています。トーマス・S・モンソン大管長はわたしたちを正しい道に導く生ける預言者です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

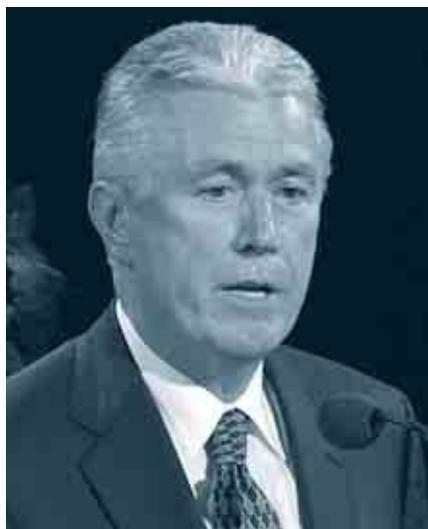
1. アルマ53:20-22参照
2. アルマ56:10参照
3. モーセ5:6
4. エズラ・タフト・ベンソン「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』1986年、7月号、46、強調付加
5. 1ニーファイ1:1
6. 3ヨハネ1:4

いかなる経済状況にも 当てはまる二つの原則

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

逆境に苦しむときにこそ、人格を形成し、行く末を決める最も大切な教訓を学ぶことが多いのです。



全世界の教会員を自ら訪問することにより、また、確立された神権系統により、わたしたちは会員の直面している状況や問題について直接報告を受けています。長年にわたつて会員の多くが自然災害や人災に世界各地で遭つてきました。わたしたちはまた、多くの家族が儉約せざるを得ず、この厳しい時代を乗り越えられるかどうか不安に思つてきたことを承知しています。

兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんを身近に感じ、愛し、祈っています。わたしはこれまで様々な浮き沈みを十分に経験してきて、冬の後には必ず暖かく希望に満ちた春が訪れることを知っています。わたしは将来を楽観しています。兄弟の皆さん、わたしたちは希望をしっかりと持ち、

全力を尽くして働き、神を信頼しなければなりません。

最近、わたしは自分の人生のある時期について考えていました。不確かな将来への不安や心配に絶えず付きまわっていたころです。当時11歳だったわたしは、ドイツのフランクフルト近郊で農家の屋根裏部屋に家族と住んでいました。わずか数年の間に2度目の避難生活でした。以前住んでいた家から遠く離れた見知らぬ土地で新しい生活に慣れようと必死でした。我が家は貧しかったと言えますが、これはかなり控えめに言っています。一つの部屋に全員で寝ました。非常に狭くて、ベッドの周りに歩き回れるスペースはほとんどありませんでした。もう一つ狭い部屋があり、粗末な家具と母が料理するときに使うコンロを置いていました。二つの部屋を行き来するのに、農家の主人が農機具を置いている場所を通り抜けなければなりません。そこには様々な種類の肉やソーセージが垂木^{たるき}につるしてありました。においをかぐ度に非常な空腹を覚えました。トイレは室内になく、階段を下りて50フィート(約15メートル)ほど歩いた外にありました。冬の間はとても遠く感じました。

わたしは避難民であり、しかも東ドイツなまりがあったため、ほかの子供たちからよくばかにされ、心を深く傷つけるあだ名で呼ばれていました。若い時代でいちばんつらかったのは、そのころだったかもしれません。



数十年が過ぎた今は、その当時のことを、経験が得させる理解力を通して振り返ることができます。今でもまだ、傷つき落胆したことを覚えています。当時は理解できなかったことを今は理解することができます。わたしにとってすばらしい成長の時期でした。この時期に家族のきずなが深まりました。わたしは両親を観察し、両親から学びました。両親の決意と楽天的な物の見方に感銘を受けていました。信仰、勇気、そして不屈の精神をもって立ち向かうならば、逆境も克服できるということを両親から学びました。

皆さんの中には、現在不安を抱え望みを失っている人がいることを知っています。そこでわたしは今日、人生の形成期に支えとなった二つの重要な原則について話したいと思います。

第1の原則——労働

第二次世界大戦ですべてを失った後、わたしたち家族は働き続けました。今でも、そのときの様子が深く心に刻まれています。父は教養のあるベテランの公務員でしたが、炭坑やウラン鉱で働き、機械工、トラック運転手などきつい仕事を引き受けていました。家族を支えるために、朝

早く出かけて夜遅く帰宅することも珍しくありませんでした。母はクリーニング店を始め、単純作業に明け暮れていました。母に求められて姉とわたしが手伝うことになりました。わたしの仕事は自転車で洗濯物を引き取り、配達することでした。わずかではあっても家族を助けることができるのは、気持ちのいいものでした。しかしそのときは、肉体労働が自分の健康にとって祝福になるとは思ってもいませんでした。

楽ではありませんでしたが、仕事をする中で自分たちの厳しい環境について考えすぎずに済みました。すぐに状況が変わったわけではありませんでしたが、確かに変化は起こりました。仕事というのは本来そういうものです。着実に、たゆまず、地道な努力を続けていれば、物事は必ず好転し始めます。

どう働くべきかを知っている男性、女性、子供たちは、ほんとうに立派です。主も働く人をほんとうに愛し、こう言われました。「あなたは顔に汗してパンを食べ[なさい]。」「働き人が報酬を受けるのは当然である。」「主はまた、約束も与えられました。「心を尽くして鎌を入れなさい。そうすれば、あなたの罪は赦され[る]。」「恐

れずに、そでをまくり上げ、自分を捨てて価値ある目標を追い求める人は、家族、社会、国家、そして教会に祝福をもたらします。

主はわたしたちに能力以上の働きを期待してはおられません。主はわたしたちの働きとほかの人の働きを比較されません。わたしたちもそうすべきではありません。天の御父は、最善を尽くすこと、つまり自分の能力に応じて、精いっぱい働くことしか求めておられません。能力の大小は問われません。

労働は不安をなくす解毒剤、悲しみを和らげる塗り薬、可能性に通じる入り口のようなものです。愛する兄弟の皆さん、どのような境遇に置かれていても、最善を尽くし、何をするのであっても、優れた評判を築きましょう。全身全霊を傾けて、毎日のすばらしい労働の機会に臨みましょう。

ぬかるみにはまって幌馬車^{ほろばこ}が立ち往生しているときに、言葉がどれほど巧みであろうと声を上げてただ祈るだけの人よりも、降りて幌馬車を押す人の方を神はいっそうお助けになるのではないのでしょうか。トーマス・S・モンソン大管長はこのように表現しています。「努力をしたいと望んだり、努力をしようと口にしただけでは不十分です。……目標を達成するには、考え

るだけでなく、行わなければなりません。目標をいつまでも先延ばしにするなら、それを達成することはありません。」⁴

労働には人格を高め、達成感を与える力がありますが、「満足を得られないものに労力を費や」さないようにと言ったヤコブの警告を忘れてはなりません。⁵ 家族や霊的成長を犠牲にして、この世の富や名声を躍起になって追い求めていると、やがて愚かな取り引きをしてしまったことに気づくでしょう。家庭という囲いの中で行う義にかなった業ほど神聖なものはありません。その恵みは事実上永遠のもので、この務めは他人に任せることができません。それは神権者の働きの根幹を成しています。

わたしたちはこの世において、一時的な旅をしているにすぎないことを心に留めてください。神から授かった才能や力をこの世の栄誉をかき集め富をため込むためだけに用いないでください。毎日を霊的な進歩のために使いましょ。なぜなら、わたしたちは至高の神の息子として、

より高い理想を目指すよう造られているからです。

さて、年配の兄弟たちに一言お伝えします。主の幸福の計画において、定年はありません。年齢や体力にかかわらず、神権の責任に長期休暇や定年制度は設けられていません。「何もかも経験し尽くした」という言葉を言い訳に、スケートボードを敬遠し、オートバイに乗る誘いを断り、ビュッフェでスパイスの効いたカレーを避けて通ることはできるかもしれませんが、しかし、時間、才能、財産を神の王国の業に奉獻するという聖約による責任を免れるために、この言葉を言い訳に使うことはできないのです。

人が働いているのをしり目に、自分は何年も教会で奉仕したのでしばらく休憩する資格があると思っている人がいるかもしれませんが、兄弟の皆さん、率直に言いますが、このような考え方は、キリストの弟子としてふさわしくありません。この地上におけるわたしたちの働きは、一言で言えば、人生の一日一日を、最後まで喜びを

もって堪え忍ぶことです。

さて、教育を受け、永遠の伴侶^{ほんりよ}を見つけるという義にかなった目標を追い求めているメルキゼデク神権者の若い兄弟たちにお伝えします。兄弟たち、これらは正しい目標です。しかし、主のぶどう園で勤勉に働くことも忘れないでください。それによって機会が広がり、この立派な目標を二つとも達成する可能性が高まるでしょう。

最年少の執事であろうと、最年長の大祭司であろうと、果たすべき務めがあるのです。

第2の原則——学ぶ

戦後のドイツは厳しい経済情勢が続いたため、教育の機会^{びんいち}は今日ほど豊かではありませんでした。選択肢は限られていましたが、わたしは学びたいという熱意を持っていました。ある日、自転車で洗濯物を届けているとき、クラスメートの家に入る機会がありました。家の一室には小さな机が壁に面して二つ並んでいました。何とすてきな光景だろう。自分の机があるなんて、何と幸せなのだろう。わたしは子供たちが机の前に座って本を開き、勉強したり、宿題をしたりする姿を想像できました。自分の机があるということが世界でいちばんすばらしいことに思えたのです。

さて、その望み^{のぞみ}が実現するまでには長い年月がかかりました。何年も後に、わたしはある研究所に就職しました。そこには大きな図書館がありました。わたしは図書館で自由時間の多くを過ごしました。初めて独りで机の前に座ることができたのです。そこで様々な書物から情報や知識を吸収することができました。本を読み、学ぶことがほんとうに大好きでした。「教育とは、単なる知識の蓄積というよりは、むしろ知識に基づいて実践することである」という格言を体験によって理解したのもそのころのことです。

教会員にとって、教育を受けることは単なる良い考えではありません。戒めです。わたしたちは「天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、すぐにも必ず起こること、国内にあること、国外にあること」⁶を学ぶ必要があ





るのです。

ジョセフ・スミスは正式な教育を受ける機会はほとんどなかったのですが、学問を愛しました。日記の中で、彼は勉強して過ごした日々を楽しそうに語り、学問への愛を度々述べています。⁷

知識は現世の旅路に欠かせないものであるとジョセフは教えています。なぜなら「人が救われるには、まず知識を〔得なければ〕なりません」⁸ し、「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる」⁹ からです。苦しい時期にこそ、学ぶことが大切です。預言者ジョセフ・スミスが教えているように、「知識は暗闇や〔不安や〕疑いを消し去ります。どれも知識があるところには存在できないからです。」¹⁰

兄弟の皆さん、皆さんにはできるかぎり多くのことを学ぶ義務があります。皆さんの家族、定員会の会員、すべての人を、学び、教養を高めるよう励ましてください。正式な教育を受けられないとしても、あきらめずに、できるかぎり知識を得てください。そのような状況に置かれている場合は最良の書物が、ある意味で皆さんに

とっての大学となります。いつでも開放されていて、申し込んだらだれでも入れる教室となるのです。「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」¹¹ のすべての知識を増し加えるよう努めてください。「研究によって、また信仰によって」知識を求めてください。¹² へりくだる霊と悔いる心で求めてください。¹³ 信仰の霊的な側面を学問に応用すれば、学習の対象がこの世の事柄であっても、知的能力を高めることができます。なぜなら、「あなたがたが〔神の〕栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、……すべてのことを悟る」¹⁴ からです。

何かを学ぶ際に、啓示の源から離れないようにしましょう。聖典と現代の使徒や預言者の言葉は、人生のあらゆる問題の答えを見いだす知恵と神聖な知識、そして個人的な啓示の源です。キリストから学びましょう。平和、真理、そして永遠の奥義をもたらす知識を探し求めましょう。¹⁵

まとめ

兄弟の皆さん、わたしはドイツのフラン

クフルトで将来に不安を抱き、思いやりのない言葉に絶えず心を痛めていた11歳のころを思い出すと、つらかったけれど懐かしいというような気持ちになります。当時の試練や苦難の日々をもう一度経験したいとは思いませんが、その時期に学んだ教訓は、後にやって来る好機に備えるために欠かせない教えだったということには何の疑い也没有。長い年月が流れた今、わたしははっきりと知っています。逆境に苦しむときにこそ、人格を形成し、行く末を決める最も大切な教訓を学ぶことが多いのです。

これから迎える年月をわたしたちが義にかなった業で満たすことができるようにと祈ります。清らかな真理の泉から心行くまで飲むことによって、学び、知性も感情も豊かにすることができるようにと祈ります。わたしの愛と祝福をイエス・キリストの御名によって残します、アーメン。

注

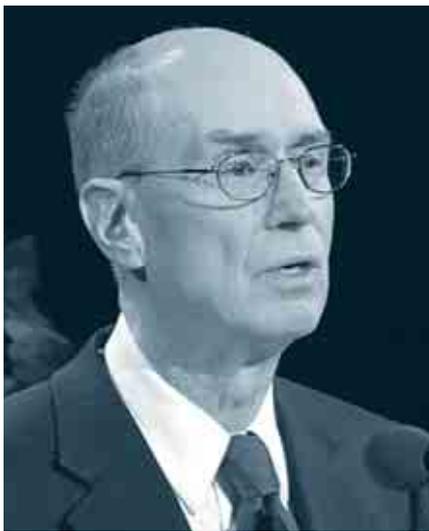
1. 創世3：19
2. 教義と聖約84：79
3. 教義と聖約31：5
4. トーマス・S・モンソン「王国の神権者」『リアホナ』2007年11月号, 59
5. 2ニーファイ9：51
6. 教義と聖約88：79, 80参照
7. *Journals: Volume 1:1832-1839, The Joseph Smith Papers* 日記全集, 第1巻, ディーン・C・ジェシー, ロナルド・K・エスプリン, リチャード・ライマン・ブッシュマン共編(2008年), 84, 135, 164参照
8. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第4巻, 588
9. 教義と聖約130：18-19参照
10. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第5巻, 340
11. 信仰箇条1：13
12. 教義と聖約109：7
13. 教義と聖約136：33参照
14. 教義と聖約88：67
15. 教義と聖約42：61参照

備える

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

最も重要な準備は、若い男性自身が選択を重ねることによってなされていくのです。それは、神権を持つ神の僕に託された偉大な使命を果たすという選択です。



昼 夜を問わずどこにいても、わたしのそばにはオリーブ油が入った小さな容器があります。これは仕事場で使っている机の真ん中の引き出しにしまってあるものです。外出中や旅行中にはポケットの中に一つ入れています。家の台所の戸棚にも一つ置いてあります。

今わたしが持っているものには日付が書いてあります。病人の祝福と癒しのために純粋な油を聖別するために、だれかが神権の力を行使した日付です。アロン神権の若い男性、また彼らの父親たちでさえ、わたしの準備の仕方は少し極端だとも思いかもしれません。

しかし、日中電話がかかってきたり、夜間に訪問を受けたりするのは、常に予期しないときです。「すぐに来ていただけませんか」と言われることもあります。数年前、病院にいるある父親から電話がありました。3歳の娘さんが道路の向こう側の

母親のところへ走って行こうとして、猛スピードで走る車にぶつかり、50フィート(約15メートル)もはね飛ばされてしまったのです。病院に着くと、何とか神権の力で娘の命を救ってほしいと父親から懇願されました。医師や看護師たちは、わたしたちがプラスチック製の隔離板を介して手を伸ばし、娘さんの頭を覆っている、幾重にも巻かれた包帯のわずかな隙間に油を1滴たらすことをしぶしぶ認めてくれました。医師はいらだちのこもった声で、わたしにこう言いました。「何をやるにせよ、とにかく急いでください。危篤状態なのですから。」

医師は間違っていました。医師の言葉とは反対に、娘さんは生き延びただけでなく、再び歩けるようになったのです。

あの電話がかかってきたとき、わたしは用意ができていました。その準備には聖別された油を身近に持つこと以上にずっと多くのことが必要でした。神権の力が必要とされる危機的状況に直面するずっと前から、準備を始めなくてはなりません。備える人は、いつでも応じる用意ができているべきなのです。

準備は、家族、アロン神権定員会、そしておもに、若い男性の私生活の中で始まります。定員会や家族も助けなくてはなりません。しかし、最も重要な準備は、若い男性自身が選択を重ねることによってなされていくのです。それは、神権を持つ神の僕に託された偉大な使命を果たすという選択です。

神権を持つ若人の使命は、病人を癒すために神の力をもたらし備えをする以上にずっと大きなものです。主の再臨に備

える世にあつて、主が望まれることを何でも行って行う用意をしなくてはなりません。主の用向きがどのようなものか、はっきりと分かっている人は一人もいないでしょう。しかしわたしたちは、用意するには何が必要か承知しています。ですから、各自で備えることができるのです。

重要な局面や緊急の事態に必要なものは、従順な奉仕を着実に積み重ねていくうちに築かれます。皆さんが必要とする事柄、また用意するのに必要な準備のうち、二つの事柄についてお話しします。

第1は信仰を持つことです。神権は神の御名によって行動する権能であり、天の力を祈り求める権利です。ですから、神が生きておられ、神の目的のために神の力を使わせていただけるよう、自分は神の信頼を得ているという信仰を持たなくてはなりません。

ある人がそのような準備をどのようにしたかが分かる一例をモルモン書から紹介しましょう。ニーファイという名の神権者がいました。主から厳しい任命を受けていました。手遅れになる前に、邪悪な民に悔い改めるよう呼びかけるため、神から遣わされました。邪悪と憎悪がはびこり、民は互いに殺し合っていました。たとえ悲痛な思いをしても、悔い改めて神に従うほど十分にへりくだるには至りませんでした。

ニーファイは準備ができていたために、任務を達成する力を神から祝福されました。ニーファイへの神の愛にあふれた力強い言葉は、わたしたちにとって指針となります。

「ニーファイ、あなたはこれまで行ってきたことのために幸いである。わたしがあなたに授けた言葉を、あなたが根気よくこの民に告げ知らせたことを、わたしは見たからである。あなたは彼らを恐れることなく、また自分の命を得ようとせず、わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろうとしてきた。

さて、あなたがこのように根気よくこのことを行ってきたので、見よ、わたしはとこしえにあなたを祝福しよう。また、わたしはあなたを言葉にも行いにも、信仰にも働きにも、力のある者にしよう。あなたはわたしの思いに反することを求めない

ので、まことに、すべてのことがあなたの言葉のとおりに行われるであろう。

見よ、あなたはニーファイであり、わたしは神である。見よ、わたしは天使たちの前であなたに宣言する。あなたはこの民に対して力を持ち、またこの民の悪に応じて飢饉、疫病、破壊で地を打つであろう。

見よ、あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれるように、わたしはあなたに力を授ける。したがって、あなたはこの民の中で力を持つであろう。」¹

モルモン書に書かれているとおり、民は悔い改めませんでした。そこで、ニーファイは時節を変えてくださるよう神に頼みました。飢饉のために民が悔い改めを選ぶように奇跡を願い求めたのです。すると飢饉が訪れ、民は悔い改めました。そしてニーファイに、雨を降らせてくださるよう神に頼んでほしいと懇願しました。ニーファイは神に願い、神はニーファイの確固とした信仰を尊重されました。

そのような信仰は、ニーファイがそれを必要としたときに生まれたものではありません。またニーファイに対する神の信頼も同様です。そのような大きな信仰と神から受ける信頼は、主に対して奉仕を行う中でニーファイの勇敢で着実な働きによって得られたものです。若い男性の皆さんは、将来必要となる時に備えて、今からそのような信仰を築いているのです。

それは執事定員会や教師定員会で注意深く議事録をつけるというような、非常に小さなことかもしれませんが、かつて、自分よりもわずか数か月年長の少年たちが決めて行った事柄を詳しく議事録に記録した若い男性たちがいました。そのように行うには、12歳の少年であっても、奉仕の業に神から召され、啓示により導きを受けているという信仰が必要でした。昔その定員会の書記を務めた少年たちの中には、今は、教会の管理役員になって、ほかの人が作成した議事録を読む立場の人もあります。そして、皆さんのような少年だったときに仕えた指導者のうえに啓示が注がれたように、今は彼らの頭に啓示が注がれています。「神の王国では、たと



え外見上は小さな事柄にさえも神は御心を啓示される」と確信する備えが彼らにはできていました。

主は、ニーファイを信頼できるのは、神の御心に反することは何も求めないからだとして述べておられます。主がニーファイに対してそのような信頼をお持ちになるには、ニーファイが啓示を信じて求め、啓示に従う人物であることを確信しておられなければなりません。神からの靈感に従う長い経験が、ニーファイにとって神権の準備となりました。これは皆さんの準備にも言えることです。

わたしは今日そうした準備が行われているのを目にしています。最近、執事や教師、祭司たちが、総大会の説教のような靈感と力にあふれた話をするのを、わたしは聞いています。若い神権者に力が与えられているのを感じます。わたしたちの周りで新しい世代の波が上げ潮のように高まっているのだと思います。彼らの前に生まれた世代に属するわたしたちも、一緒にその波に乗れるよう祈っています。アロン神権の準備はわたしたち皆にとっても、また彼らの世代とそれに続く世代に属し、奉仕を受ける人々にとっても、祝福です。

けれども、シオンの中ではすべてが完全だというわけではありません。青少年全員が備えの道を選んでいるとは限りません。その選択は各自がすべき選択であ

り、自分に責任があります。それが主の愛に満ちた計画における主の方法です。しかし、多くの若い男性は準備を助けてくれるはずの人々から支援を受けることがほとんどないか、まったくありません。助けることのできる人々は主から責任を問われるでしょう。息子の信仰の成長や、靈感に従う息子の力を軽んじたり妨げたりする父親は、いつか悲しみを味わうでしょう。こうした若人が備えの神権を持つときに、賢明で適切な選択をするのを助ける立場に置かれた人はだれでも、その責任を果たさなくてはなりません。

次に必要なものは、神が与えてくださる祝福と信頼にこたえて生活できるという自信です。周囲にある影響力の大半は、神の存在や神の愛について、また聖霊とキリストの御霊を通して静かなメッセージを現実を受けることについて、疑いを抱かせようとしています。仲間から罪悪を選ぶよう強く勧められることもあります。若人が罪を選ぶなら、神からのそうしたメッセージはさらに薄らいでしまいます。

わたしたちは愛と警告と信頼を示すことにより、若人が備えの道を選ぶ助けができます。しかし、忠実で靈感を受けた僕として模範を示すことにより、いっそうよく助けることができます。家族、定員会、クラスの中で、またあらゆる交流の場で、神から教わったとおりに神権の力を行使する真の神権者として行動することができます。

わたしにとって、その教えは教義と聖約第121章に最も明確に記されています。そこで主は純粋な動機を持つよう警告しておられます。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛によ[る。]」² わたしたちが若い男性に指導と影響を与えるとき、自分の高慢や野心を満たすために決して行ってはなりません。またいかなる程度の不義によってでも、決して強制しようとしてはなりません。以上が青少年のために示すべき高い標準の模範です。

わたしは教師と祭司のときにそれが行われるのを目にしました。わたしのビ

シヨップとそのもとで奉仕する人たちは、わたしたちの一人でも失われることがないように固く決意していました。わたしの感じるかぎりでは、彼らの決意は何らかの利己的な目的ではなく、主とわたしたちへの愛に動機づけられていました。

ビシヨップは次のような体制を作りました。すべての定員会の各アドバイザーは、日曜日に話しかけられなかった若い男性一人一人に連絡する必要がありました。欠席している少年については、アドバイザーは本人または両親、親しい友達と話すまでは一日を終えてはいけませんでした。ビシヨップは、すべての少年について報告を聞くまでは明かりを消さないことを約束しました。ビシヨップは命令を出したのではないと思います。ただ、その報告をするまでは、アドバイザーたちが自分の部屋の明かりを消さないよう期待していることを明らかにしたのです。

ビシヨップとそのもとで奉仕する人たちは、わたしたちを見守る以上のことをしてくれました。主の羊を世話するというのはどういう意味か、模範を示してくれたのです。ビシヨップやわたしたちが身を置く定員会で奉仕してくれる人々にとって、努力をしすぎるといことはありませんでした。主の奉仕にあって疲れないとはどういう意味か、模範によって教えてくれました。主は模範によってわたしたちを備えてくださったのです。

彼らはわたしたちのだれか一人でも、何らかの特別な人物になると考えていたかどうか分かりません。しかし、あたかもそう考えているかのように世話をしてくれました。わたしたちが信仰を失わないためなら、いかなる個人的な犠牲もいとわないうような姿勢を示してくれたのです。

ビシヨップがどのようにしてそれほど多くの人にそのような高い期待を抱かせるようにしたかは分かりません。でも、「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により」そうしたのだと言ってよいでしょう。ビシヨップが用いた「明かりを消さない」方法は、うまくいかないところもあったでしょう。しかし、すべての若い男性に心を配る揺るぎない姿勢



と、素早く手を差し伸べる行動の模範は、わたしたちの生活に天の力をもたらしてくれました。それは今後も常に変わらないでしょう。若い男性が家族や神の王国の中で神に必要とされる時に備えるのを助けてくれたのです。

主は教義と聖約第121章の中で、若い男性を備える際に天の助けを受けることについて教えておられます。わたしの父は、その模範をわたしに示してくれました。わたしが若いころ、父は時々わたしの行動にがっかりしました。そして、それをわたしに知らせてくれました。父の話し方から、もっと善い行動ができるはずだと考えていたことが伝わってきました。しかし、

父は主の方法を用いました。「聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。」³

どんなにあからさまに過ちを正した後でさえ、父の叱責は愛から出たものだと分かりました。事実、反対と失望の表情でこれまでになくわたしをひどくしかったときでさえ、父の愛はさらに深まったようでした。わたしに指導と訓練を与え、決して強制的な手段を使うことはありませんでした。教義と聖約に書かれた約束は、きっと父に対して果たされるでしょう。わたしに与える父の影響は、「とこしえにい

つまでも」⁴流れ込むことでしょう。

多くの父親や指導者は、教義と聖約第121章の言葉を聞くと、その標準に達するには、さらに高く向上しなくてはならないと感じるでしょう。わたしもそうです。皆さんは靈感以外の力に動かされて、子供や青少年を厳しくしかったときのことを思い出すことはないでしょうか。自分ではしたくないような行動や犠牲を息子に促したときのことを思い出すことはないでしょうか。しかし、わたしたちは後悔の念に促されて悔い改め、かつて自分が示すと聖約した模範にさらに近づけることもあるのです。

わたしたちは父親や指導者としての務めを果たすときに、次の世代が輝かしい将来に向かって立ち上がるのを助けることができます。皆さんは自分の親よりも良い親になり、自分を助けてくれた立派な指導者よりも良い指導者になろうと努力してきました。そのように、次世代の若人もわたしたちより善い人になることでしょう。

わたしたちが次世代の若人を備えるために、毎日さらに善い行動をする決心を固めるよう祈っています。わたしは、聖別された油の瓶を見る度に、今晚のことと、若い男性たちが将来奉仕する機会に備えるのを助けるために、もっと多くのことをしたいというこの気持ちを思い出すでしょう。若人が祝福されて、自分をよく備えることができるよう祈っています。主の助けと、わたしたちの助けがあれば、きっと備えができると確信しています。

父なる神が生きておられることと、イエス・キリストが生きておられ、この教会を導いてくださっていることを証します。主は神権の完全な模範です。トーマス・S・モンソン大管長は地上における神権のすべての鍵カギを持ち、行使しています。それが真実であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

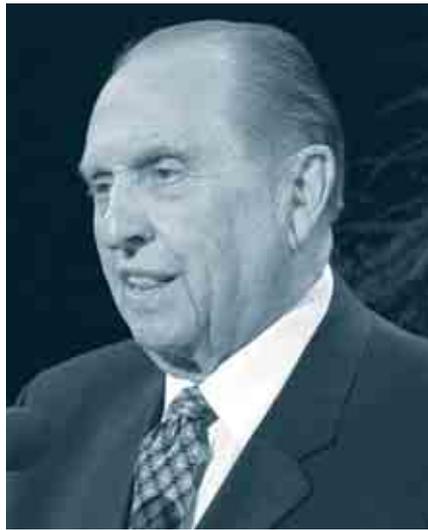
注

1. ヒラマン10:4-7
2. 教義と聖約121:41
3. 教義と聖約121:43
4. 教義と聖約121:46

心を抑えよ、兄弟たちよ

トーマス・S・モンソン大管長

いつもふさわしい御霊にとどまってほしいのであれば、怒らないことを選ばなければなりません。



兄弟の皆さん、わたしたちは力強い神権者の組織として、ここカンファレンスセンターだけでなく、全世界の会場に集っています。今晚、わたしたちは靈感あふれるメッセージを聞きました。話してくれた幹部の兄弟たちに感謝します。皆さんに話す特権があることを榮譽に思いますが、同時に謙虚な気持ちにさせられます。主がわたしに靈感を与えてくださるよう祈っています。

最近、テレビでニュースを見ているときに気づいたことがあります。トップニュースはどれも本質的には似たようなものであり、報道される悲惨な事件は皆、基本的には一つの感情に端を発していたのです。それは、怒りです。乳児の父親が、その子を肉体的に虐待した罪で逮捕されました。申し立てによると、乳児の泣き声にカッと化した父親は、乳児の腕を折り、あばら骨も数本折ったというのです。犯

罪組織による暴力がエスカレートしているという報道は気がかりでした。暴力団が関与する殺人事件は急増していると報道されました。その晩はもう一つ、女性が銃で撃たれた事件が報道されていました。撃つたのは別居中の夫です。妻がほかの男性と一緒にいるところを見て嫉妬しよとに怒り狂ったのだそうです。もちろん、その後は、世界中で起こっている戦争や紛争など、いつものニュースでした。

詩篇の言葉が心に浮かびました。「怒りをやめ、憤りを捨てよ。」¹

随分昔のことですが、若い夫婦がオフィスに電話をかけてきました。アドバイスが欲しいのでオフィスに行っていきたいかという問い合わせでした。家庭で悲しい出来事があり、離婚の危機に直面しているとのことでした。わたしは会う約束をしました。

彼らがオフィスに入ると、二人の間に張り詰めた空気があるのが見て取れました。夫はぼつりぼつりと話し始めます。少しずつ事情が分かってきました。妻は声を殺して泣くばかりで、ほとんど口を挟みません。

この若者は伝道から帰ると、合衆国東部の名門大学に入学しました。大学の学生ワードで将来の妻と出会ったのです。妻も同じ大学の学生でした。1年間の交際の後、ユタ州に旅行してソルトレーク神殿で結婚し、その後すぐ、学業を終えるため東部に戻りました。

二人が卒業して故郷の州に戻るころには、妻は最初の子供を妊娠し、夫は自分が選んだ分野で仕事に就いていました。妻は男の子を出産します。順風満帆の人生でした。



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2009年10月現在



第一顧問
ヘンリー・B・アイリリング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒委員会



ボイド・K・バックナー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストフアーソン



ニール・L・アンダーセン

七十人会長会



ロナルド・A・ラスバンド



クラウチアオ・R・M・ラスムセン



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・コンガレス



L・ホイットニー・クラヴエン



ジェイ・E・ジェンセン



トッド・L・クリストフアーソン

七十人第一定員会



七十人第二定員会



管理ビシヨブブリック



マルコス・A・アードカイティス
 マービン・B・アームストロング
 カーク・H・アームストロング
 ベルミン・デ・オロス
 ロレンス・E・コブリン
 ジョージ・J・ハムラ
 リチャード・J・ヘンダーソン
 キース・K・ヒルビック
 マーカス・B・ナッシュ
 リチャード・J・メインズ
 カール・B・プラット
 オクタビオ・テリノ
 ジェームズ・A・クレグ・A・カードン
 タッド・R・カリスター
 青柳 弘一
 ウィルフォード・W・アンダーセン
 フレッド・A・カルトン
 フレッド・A・カールソン
 スペンサー・J・コンティ
 ゲーリー・J・コルマン
 クレグ・C・クリステンセン
 崔 滿煥
 ジェラルド・コセー
 シェーン・M・ポーン
 デビッド・S・バックスター
 マービン・B・アームストロング
 カーク・H・アームストロング
 ベルミン・デ・オロス
 ロレンス・E・コブリン
 ジョージ・J・ハムラ
 リチャード・G・ヒンズ
 キース・K・ヒルビック
 マーカス・B・ナッシュ
 リチャード・J・メインズ
 スペンサー・V・ジョーンズ
 ラリー・W・キボンス
 ウォルフガング・H・ボール
 ジェームズ・B・マルティン
 ローウェル・M・スノー
 エリック・C・ヘンセン
 C・スコット・クロ
 ボール・E・コーリカー
 ボール・B・ハイバー
 アンソニー・D・パーキンス
 ケビン・W・ピアソン
 アラン・F・バック
 セシル・サミュエル・エルナンデス
 リン・G・ロビンソン
 マイケル・T・リングワッド
 デール・G・レンフランド
 フランシスコ・J・ピナス
 ジョーゼフ・W・シターティ
 エリクス・ソアラ
 クラウディオ・D・シビック
 W・クレグ・スウィック
 マイケル・ジョン・U・チー
 プレス・D・ポーター
 ジョセフ・A・テイシエラ
 ジョー・K・シアラフスキ
 ケント・F・リチャーズ
 ケント・D・ワトソン
 ケント・D・ワトソン

第一顧問
 リチャード・C・エッジリー

管理ビシヨブブリック
 H・クレイト・ハートン

第二顧問
 キー・エドワード・マクマリリン



世界中の末日聖徒が「自分の言葉と自分の言語で」総大会を楽しむために集まった(教義と聖約90:11)。下段左から時計回りに、ドイツ・ミュンヘンの教会員、カナダ・ノバスコシア州のブリッジウォーターの教会員、ノルウェー・モスの教会員、ナミビア・ウイントフークの教会員、アメリカ合衆国ミネソタ州セントポールの教会員

息子が1歳半になるころ、短い休暇を取って、数百キロ離れた所に住む親族のところに遊びに行くことにしました。チャイルドシートがない時代のことです。大人用のシートベルトもあまり知られておらず、使っている人もいませんでした。よちよち歩きの息子を真ん中に挟んで、家族3人は皆前の席に座りました。

この旅行の間、夫と妻の意見が合わないことがありました。昔のことですから原因は思い出せません。しかし、口論は激しさを増すばかりで、最後にはののり合うようになったらしいことは覚えています。当然のことながら、幼い息子は泣き始めました。夫によると、この泣き声は怒りをあおるばかりだったそうです。すっかりかんしゃくを起こした夫は、息子が座席に落としたおもちゃを拾い上げ、妻に向かって投げつけました。

おもちゃは妻には当たらず、息子にぶつかりました。その結果、息子は脳に傷を負い、一生治らない障がいを負うことになってしまったのです。

これは、わたしが出合ったケースの中でも最も悲惨なものの一つです。わたしはこの夫婦に助言し励ましました。わたしたちは献身と責任、相手を受け入れて赦すことについて話し合いました。愛と尊敬について話し合いました。彼らの家庭には、この二つがよみがえる必要がありました。聖文から慰めに満ちた言葉を読みました。一緒に祈りました。遠い昔のその日以来、この夫婦からは何の便りもありません。二人は涙を流しながらも笑顔を見せて、オフィスを後にしました。この夫婦がやり直す決意をし、イエス・キリストの福音に慰めと祝福を見いだしてくれればと、長い年月ずっと願ってきました。

次の言葉を読むと、いつもこの夫婦のことが心に浮かびます。「怒りは何も解決しない。怒りは何も生み出さず、かえってすべてを破壊する力を持つ。」²

だれでも怒りを感じたことがあります。それは、物事が思うようにいかないときかもしれません。自分のことであるいは自分に対して何かを言われて込み上げる感情かもしれません。思ったとおりのことを

人がしてくれないときにそのような感情を覚えるのかもしれませんが。予想していたよりも長く待たされた場合に出てくる感情かもしれません。恐らくわたしたちは、人が自分と同じ目線で物を見てくれないときに怒りを感じるのでしょうか。怒りを呼び起こす原因は、数え切れないほどあるようです。

傷つけられたと思ったり、不当な扱いを受けたと感じたりすると、憤りを覚えることがあります。第7代大管長のヒーバー・J・グラント大管長は、大人になったばかりのころのことを次のように話しています。ある人に雇われて働いたとき、雇い主が500ドルの小切手を送ってきました。小額で申し訳ないという手紙が添えられていました。次に、グラント大管長は別の人のもとで働きました。その仕事は、グラント大管長によると、前の雇い主の仕事より10倍も難しく10倍の労力を必要とし、はるかに時間がかかったそうです。しかし、この2番目の雇い主が送ってきたのは150ドルの小切手でした。若いヒーバーは、不当な扱いを受けたと感じました。最初はばかにされたように感じ、そのうちに怒りが込み上げてきました。

グラント大管長はこの経験を事細かに年上の友人に話しました。すると友人は、「その人は君をばかにしようとしたんだろうか」と聞いてきます。

グラント大管長は答えました。「いいえ、

友人の話では、わたしには気前よく払った、と言っていたそうです。」

これを聞いて、年上の友人はこう答えました。「相手にはそんなつもりもないのに、ばかにされたと受け取るのは愚かなことですよ。」³

使徒パウロは、エペソ人への手紙第4章26節のジョセフ・スミス訳で、次のように問いかけています。「あなたがたは怒りながら罪を犯さずにいられようか。憤ったままで日が暮れるようであってはならない。」そこで、質問です。怒っているときに、天の御父の御霊を感じるができるでしょうか。どんな場合でもできないということをわたしは知っています。

モルモン書の第3ニーファイには、このように書かれています。

「論争が、今後は決してあなたがたの中にあってはならない。……

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおり立てる。

見よ、互いに怒るように人々の心をおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」⁴

怒りということは、サタンの力に屈することです。わたしたちを怒らせることので





きる人はだれもいません。怒りはわたしたちの選びなのです。いつもふさわしい御霊にとどまってほしいのであれば、怒らないことを選ばなければなりません。これは可能だとわたしは証します。

怒りはサタンが使う手であり、多くの点で有害です。

トーマス・B・マーシュとその妻エリザベスの哀れな話はたいていの教会員が知っていると思います。マーシュ兄弟は、教会がこの地上に回復された後に現代の使徒として最初に召された人たちの一人です。最後には十二使徒定員会の会長にまでなりました。

聖徒たちがミズーリ州ファーウェストに住んでいたところ、トーマスの妻エリザベス・マーシュと、友人のハリス姉妹は、牛乳を持ち寄ることにしました。大きなチーズを作るためです。すべてが公平に行われるよう、「後搾り乳」と呼ばれるものは取り分けず、通常の牛乳と後搾り乳を全部一緒にするという取り決めをしました。後搾り乳とは、搾乳の最後に搾り取る牛乳のことで、乳脂肪分が特に豊富に含まれています。

ハリス姉妹は取り決めを忠実に守りましたが、マーシュ姉妹は違いました。特別においしいチーズが作りたかったのでしょう、牛1頭につき1パイント(0.47リットル)ずつ後搾り乳を取り分けて自分のものとし、後搾り乳の入っていない牛乳をハリス姉妹に送り届けたのです。このことで二人はけんかになりました。意見の食い違

いは解決できず、ホームティーチャーが呼ばれて判断を求められました。取り決めを守らなかったエリザベス・マーシュ姉妹に非があることが、ホームティーチャーには分かりました。その結論を聞いてマーシュ夫妻は憤慨し、教会法廷にかけるためにビショップに提訴しました。ビショップの法廷で下された裁決は、後搾り乳は不当に取り分けられたものであり、マーシュ姉妹はハリス姉妹との取り決めを破ったというものでした。

トーマス・マーシュは高等評議会に控訴しましたが、高等評議員たちはビショップの裁定を支持しました。すると彼は、大管長会に控訴したのです。ジョセフ・スミスと顧問たちは、この件について検討した結果、高等評議会の裁定を支持しました。

この間ずっと妻を擁護してきたトーマス・B・マーシュ長老は、裁定が下る度に怒りを募らせました。実際、治安判事のもとに行き、「モルモンはミズーリ州に敵対している」と宣誓したのです。このときの宣誓供述書が要因、または少なくとも要因の一つとなって、後にリルバーン・ボグズ州知事の非情な撲滅令が出されることになります。その結果1万5,000人の聖徒が家を追われ、あらゆる苦難に遭った結果、多くの人が命を落としました。これらはすべて、牛乳とクリームを持ち寄る際の取り決めを守らなかったことが発端となって起きたのです。⁵

19年にわたって恨みを持ち続け、多くのものを失った後、トーマス・B・マーシュは

ソルトレーク盆地に戻り、ブリガム・ヤング大管長に赦しを求めました。マーシュ兄弟は、大管長会の第一顧問であったヒーバー・C・キンボールに対しても、自分が学んだ教訓について書き送っています。マーシュ兄弟はこう言いました。「わたしがいなくても主の業には何の支障もなく、主は、わたしがかつての地位から脱落したからといって何を失われたわけでもありませんでした。ところがわたしの失ったものは、何と大きかったことでしょう。全世界、あるいはこの地球のような惑星が幾つ集まっても差し出せないほど大きな富を失ったのです。」⁶

詩人ジョン・グリーンリーフ・ホイットニアの次の言葉がよく当てはまります。「舌が語りペンがつづる悲しい言葉の中で、最も悲しい言葉は、『ああしていればよかった』である。」⁷

兄弟の皆さん、わたしたちは皆、注意していないと、怒りにつながるような感情を抱きがちです。不満やいら立ち、敵対心を抱き、自らの選択により、かんしゃくを起こして人に怒りをぶつけます。皮肉なことに、ぶつける相手は、ほんとうはいちばん愛している家族のだけかであることが多いのです。

昔、新聞で、AP通信社の次のような特派員報告を読みました。「年老いた男性が実の兄弟の葬儀でこんな話をした。大人になったころからその兄弟と部屋を共有していた。ニューヨーク州カニステオ近くの小さな一間の小屋である。あるとき口論の末、チョークで線を引き、部屋を半分に分けた。そしてその日以来、二人はどちらもその線を越えたことがなく、言葉を交わすこともなかった。62年間、ずっとである。」この怒りの結末を考えてみてください。何という悲劇でしょうか。

意識して決断しましょう。怒りを遠ざけ、とげとげしい言葉や人を傷つけるようなことを言う誘惑に駆られても、そのようなことは言わないという決断をその度に下さなければなりません。

わたしは、チャールズ・W・ベンローズ長老が作詞した次の賛美歌の歌詞が大好きです。ベンローズ長老は、20世紀初頭



に十二使徒定員会と大管長会で奉仕した人です。

心を抑えよ、兄弟たちよ
知恵の声をもて、これを導け
力は静けき思いに宿り
怒りは理性も眼も暗くする⁸

わたしたちは皆、神の権能である神権を持っています。神権の誓詞と聖約はわたしたち全員に当てはまります。メルキゼデク神権を持っている人にとって、それは神の律法に忠実かつ従順に従い、与えられる召しを尊んで大いなるものとするという、わたしたちに求められていることに対する宣言です。また、アロン神権を持っている人にとっては、将来の義務と責任に関して、今ここで備えをするという宣言です。

この誓詞と聖約については、主の言葉で次のように説明されています。

「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御霊により聖められてその体が更新される。

これらの者は、モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる。

主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受け入れるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。」⁹

兄弟の皆さん、わたしたちが持つこの尊い神権の誓詞と聖約を忠実に守るならば、大いなる約束が待ち受けています。わたしたちが天の御父にふさわしい息子となれますように。わたしたちが家庭で良き模範となり、すべての戒めを忠実に守ることができるよう。どんな人に対しても憎しみを抱くことがなく、むしろ平和を作り出す人になれますように。救い主の次の教えを決して忘れることがありませんように。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」¹⁰これが、今晚この偉大な神権部会を閉じるに当たってのわたしの願いであり、へりくだり心からささげる祈りでもあります。そのように願い祈るのは、わたしが、全身全霊を込めて兄弟の皆さんを愛している

からです。天の御父の祝福が皆さん一人一人の生活に、家庭に、そして心と魂に注がれますように、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。

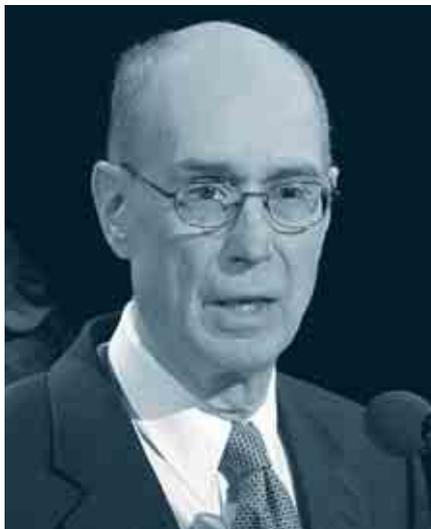
注

1. 詩篇37:8
2. ローレンス・ダグラス・ワイルダー, "Early Hardships Shaped Candidates," *Deseret News*, 1991年12月7日付, A2で引用
3. ヒーパー・J・グラント, *Gospel Standards*, G・ホーマー・ダラム編 (1969年), 288-289
4. 3ニーファイ11:28-30
5. ジョージ・A・スミス "Discourse," *Deseret News*, 1856年4月16日, 44参照
6. トーマス・B・マーシュからヒーパー・C・キンボールへの書簡, 1857年5月5日, Brigham Young Collection, 教会歴史図書館
7. "Maud Muller," *The Complete Poetical Works of John Greenleaf Whittier* (1876年), 206
8. 「心を抑えよ」『賛美歌』198番
9. 教義と聖約84:33-38
10. ヨハネ13:35

わたしたちの 完全な模範

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

回復されたイエス・キリストの福音のメッセージは、すべての人はこの世にいるかぎり、より善い者になれるし、また、そのような希望を持たなければならないと教えています。



安息日にお話の機会が与えられたことを祝福と感じています。環境や経験は異なっていますが、わたしたちは皆同じように、より善い者になりたいと願っています。中には思い違いをして、自分はもうこれ以上善くなる必要はないと感じている人もいれば、より善くなることをあきらめてしまっている人もいます。しかし、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージは、すべての人はこの世にいるかぎり、より善い者になれるし、また、そのような希望を持たなければならないと教えています。

そのような希望は、神から預言者ジョセフ・スミスに授けられた啓示の中で与えられました。それは、わたしたち皆が救い主にお会いするときのことについて、また

そのときまでに、どのような備えをし、どのような望みを持つべきかについて教えています。

それはモロナイ書に書かれています。「したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。アーメン。」¹

この聖句を読めば、現在どれほど大変な状況にあっても、信仰深い末日聖徒たちが将来を楽観している理由が理解できることでしょう。わたしたちは、イエス・キリストの福音に生きることにより、完全な御方である救い主のようになれると信じているのです。イエス・キリストの属性について考えるなら、自分には改善すべき点はないと言って自己満足している人の慢心はくじかれるでしょう。また、自分は最もつまらない存在だと思っている人は、御自分のようになりなさいという救い主の招きを聞いて希望を感じるでしょう。

わたしは、子供のために書かれた歌によって、そのようなすばらしい変化がどのように起こるかについて学びました。あ

る日曜日にこの歌を歌っていた部屋いっぱいの子供たちの顔をよく覚えています。どの子も、いすから落ちるくらい身を乗り出していました。大きな声で歌う子供たちの目は輝き、顔には決意がうかがえました。皆さんも恐らく聞いたことがある歌です。わたしは、この歌が常にわたしたちの頭の中に響き渡るように願っています。あの子たちの熱意をわたしたちの頭に響き渡る歌に加えられたらどんなにすばらしいでしょう。

わたしもなりたいたイエス様のように
言葉行いで愛を示そう
誘惑もあるけれど
耳傾けよう小さな声に
「互いに愛し合え
イエス様のように
イエス様の教え
人に優しく」²

わたしには、子供たちは単に歌っているのではなく、決意を宣言しているかのように見えました。イエス・キリストが彼らの模範でした。彼らは主のようになると固く決意していました。子供たちの熱意に満ちた顔、輝くひとみには一点の曇りもないことがはっきりと分かりました。彼らは成功できると信じていました。完全になるようにという救い主の教えは、単なる望みではなく戒めであると信じ、救い主がすでに道を備えてくださっていると確信していたのです。

その決意と確信は、末日聖徒一人一人が心の中に抱けますし、また、そうならなければならないかもしれません。救い主は、御自身の贖いと模範を通して、その道を備えてくださいました。そして、あの歌を歌った子供たちでさえどのようにすればよいか知っていたのです。

愛とは動機を与える原則であり、この原則によって、わたしたちの完全な模範である主は、わたしたちが御自身のようにになれるよう導いてくださいます。わたしたちは生涯の一時一時を、神への愛と人への愛とで満たさなければなりません。驚くことはありません。主はそれがいちばん大



切な戒めであると宣言しておられるのですから。神への愛が、神の戒めを守るよう導いてくれるのです。そして人々への愛が、神に従う力の中心になるのです。

イエスはこの地上で教え導いていたときに、御自身のようになるためにぜひとも必要とされる純粋な愛の模範として子供を引き合いに出されました。同様に主は、御自身のように愛することを学ぶための理想的な環境の例として家庭を引き合いに出しておられます。

なぜなら、最も大きな喜びと最も大きな悲しみを経験する場所は、家族関係の中にあるからです。喜びが訪れるのは、相手の幸せを自分より優先したときです。それこそが愛です。悲しみが訪れるのは利己的、すなわち愛のない状態にあるときです。神が望まれる理想は、いつも喜びへ導かれ、悲しみから遠ざかるような家族関係を築くことです。神の理想では、男性と女性は相手の幸せと喜びを自分の生活の中心にするという神聖な聖約を交わすことになっています。子供たちは、子供たちの必要を自分たちの必要と同じくらい大切に考える両親のもとに生まれることになっています。そして子供たちは両親と互いを愛することにしているのです。

それが愛ある家族の理想です。多くの家庭には「家族は永遠に」という言葉が飾ってあります。わたしの家のそばに、子供や孫を残してこの世を去った女性の墓があります。彼女と夫は神の神殿の儀式を受け、互いと子孫とに永遠に結び固められました。墓石にはこのように刻まれています。「どうか、空席を作らないください。」彼女がそう墓石に刻ませたのは、家族が永遠に結ばれるかどうかは家族一人一人の選択に懸かっていることを理解していたからです。「どうか」という言葉があるのは、神も彼女も強制的に人に幸福を選択させることができないからです。そしてサタンがいて、この世でも次の世でも家族に幸せではなく、不幸をもたらしたいと望んでいます。

今日わたしは、難しように思えるかもしれませんが、次の世で皆さんの家族に空席ができないようにするための選択を、幾つか提案したいと思っています。

第1に、夫と妻の皆さんに勧告します。互いの長所を見ることができるような愛を祈り求めてください。弱点や失敗が小さく見えるような愛を祈り求めてください。相手の喜びを自分の喜びとできるように愛を祈り求めてください。相手の重荷を

減らし悲しみを和らげるような愛を祈り求めてください。

わたしの両親はそのような夫婦でした。母が病気で亡くなる前、父は、母の病状が悪くなればなるほど、母に慰めを与えることを生活の中心にしていきました。父は病院に話して、母の部屋に簡易ベッドを設置してもらいました。父は、母が何の不便も感じないように、自分が付き添うことに決めました。母にとって困難だった時期を通じて、父は毎朝数キロ歩いて仕事に行き、毎晩歩いて母のもとに帰りました。母が特に父の愛を必要としていたときに父の愛する力が大きくなったことは、確かに、神からの賜物でした。父はイエスが愛によってなされるであろうことをしていたのだと思います。

さて、迷える子供を持つ親の皆さんに勧告します。救い主は愛を貫くことの完全な模範でいらっしゃいます。よく御存じのように、救い主は御自分のもとへ来るようにという招きを拒んだニーファイ人に慰めの言葉をおかけになりました。主の十字架の後もたらされた破壊を生き延びた人々に主は言われました。「おお、わたしが命を助けたイスラエルの家よ。あなたがたが悔い改め、十分に固い決意をもつ



てわたしに立ち返るならば、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度も集めよう。」³

放蕩息子^{ほうとう}のたとえは、わたしたち全員に希望を与えてくれます。放蕩息子は家のことを思い出しました。そのように皆さんの子供たちも家のことを思い出すでしょう。皆さんの愛を思い出し、戻って来ましょう。オーソン・F・ホイットニー長老は1929年の総大会で驚くべき約束をしました。神殿で子供たちと結び固められたことを尊んでいる忠実な親たちにとってそれは真実の約束であるとわたしは知っています。「迷える羊もいますが、羊飼いの目は彼らのうえにあります。そして遅かれ早かれ、彼らは神の手が自分に触れ、群れに戻そうとしているのを感じるでしょう。」

ホイットニー長老は続けました。「不注意で不従順な子供のために祈ってください。信仰をもって、彼らを手放さないでください。神の救いを見るときまで、希望を持ち、信じ続けてください。」⁴ 皆さんは子供のために祈り、愛し、イエスが一緒に手を差し伸べていてくださることを確信しながら、手を差し伸べることができます。皆さんがあきらめないかぎり、皆さんは主がなさるであろうことをしているのです。

さて、子供たちに勧告します。主は皆さんに約束の伴う戒めを与えてくださいました。「あなたの父と母を敬いなさい。主なるあなたの神があなたに与える地で、末長く暮らせるためである。」⁵ 十戒

の中で約束の伴う戒めはこの一つだけです。両親が亡くなった人もいるかもしれませんが。自分の親には、子供から敬われる資格はないと感じる人もいるかもしれませんが。親に会ったことすらない人もいるかもしれませんが。でも皆さんの命があるのは両親のおかげです。そして、どんな場合でも、たとえ皆さんの寿命は延びないとしても、ただ両親に対する敬いの気持ちを抱くことにより、皆さんの人生はより良いものになるのです。

さて、ほかの人の家族をあたかも自分の家族のように養子にした方々に申し上げます。ある友人は、わたしの子供の誕生日を、わたしよりもよく覚えています。妻とわたしには、祝日になると欠かさずあいさつに来る友人がいます。開口一番「ご家族はいかがですか」と尋ね、愛情深い表情で耳を傾ける友人に感動することがよくあります。彼らは、わたしが一人一人の子供の生活ぶりについて話す間、じつと耳を傾けて聞いてくれます。彼らの愛を通じて、救い主がどれほどわたしの子供たちを愛しておられるかをよく感じることができます。彼らが問いかけてきてくれるとき、彼らはイエスが感じられるように感じ、イエスが尋ねられるように尋ねているのだとわたしには分かります。

わたしたち全員にとって、日々の生活の中で自分の愛が増し、わたしたちの完全な模範である救い主に似てきていることに気づくのは難しいことかもしれません。

わたしは皆さんを励ましたいと思います。皆さんにはもっとイエスようになる道を歩んでいる証拠があります。時々、不安や試練の中で、自分が幼子^{おきご}のように感じたことがあるのを思い出してください。子供たちがあの歌を歌っている様子を思い浮かべてください。あの子供たちのように「わたしもなりたい イエス様のように」と歌いたかったときのことを思い出してください。多分それはそんなに昔のことではないでしょう。イエスが弟子たちに子供たちを連れて来なさいとおっしゃったことを思い出してください。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。……神の国はこのような者の国である。」⁶ 皆さんはイエスになるようにしようとときに、汚れない幼子が抱く平安を感じたことがあるはずです。

それは皆さんがバプテスマを受けたときだったかもしれません。主にはバプテスマが必要ありませんでした。清くあられたからです。でも皆さんがバプテスマを受けたとき、皆さんは洗われて幼子のように清くなったと感じました。主がバプテスマを受けられたとき、天が開き、主は天の御父の声をお聞きになりました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」⁷ 皆さんには声が聞こえませんでした。でも、イエスがなさったとおりに行ったことを天の御父が認めておられるのを感じたはずでした。

皆さんは伴侶^{はんりよ}に謝ったときや、失敗したり言うことを聞かなかったりした子供^{ゆる}を赦してあげたときに、その気持ちを家庭の中で感じたことがあるでしょう。皆さんがイエスならなさると知っていることをしようとするなら、そのような瞬間はもっと頻繁に訪れます。主は皆さんを贖われました。ですから、皆さんが幼子のように従順になるときに、皆さんに対する主の愛と、主に対する皆さんの愛を皆さんは感じることができるのです。それは、主の忠実な弟子に約束された賜物です。そしてこの賜物は皆さんだけでなく、皆さんの愛する家族にももたらされます。その約束は第三ニーファイに記されています。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あ

なたの子孫の平安は深い。」⁸

今日出て行って、主がなさったように行い、主が愛しておられるように愛する機会を探してください。そうすれば、子供のころに感じた平安が皆さんをしばしば訪れ、皆さんのもとにとどまることを約束します。主が弟子たちにされた約束は真実です。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」⁹

だれもがまだ不完全です。しかし、完成への道をたどっていることをしばしば確信することができます。主は導き、御自分に従うよう手招きしておられます。

わたしは証^{あかし}します。その道とは、イエス・キリストを信じ、バプテスマを受け、聖霊を受け、愛をもって主の戒めを終わるまで守り続けることです。御父は生きて、わたしたちを愛しておられます。御父はその独り子であり、わたしたちの完全な模範である主イエス・キリストを愛しておられます。ジョセフ・スミスは回復の預言者でした。ジョセフは御父と御子にまみえました。それが真実であることを知っています。末日聖徒イエス・キリスト教会には儀式を施す神権の力があつた、儀式を通じてわたしたちはますます善い者となり、ついに救い主と天の御父のようになれるのです。皆さんが幼子のときに感じた確信を感じることができますように、皆さんにわたしの祝福を残します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モロナイ7:48
2. 「イエス様のように」『子供の歌集』40-41
3. 3ニーファイ10:6
4. オーソン・F・ホイットニー, Conference Report, 1929年4月, 110
5. モーサヤ13:20
6. マルコ10:14
7. マタイ3:17
8. 3ニーファイ22:13
9. ヨハネ14:27

将来に立ち向かうために 過去に取られた方法

十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

将来の課題に立ち向かう準備として過去の教訓を振り返ることには大切な意味があります。



今年の夏、ユタ州マンタイで開かれたモルモン・ミラクル・ページェント〔野外劇〕に妻とともに参加する特権にあずかりました。ページェントが上演される前のある晩、わたしたちは出演者を前に話をすることになりました。非常に大人数だったため、集会は2回に分けられました。800人を超す出演者のうち570人は18歳未満でした。前回よりも全体で100人増えたため、衣装作りを担当した姉妹たちには負担をかけたのですが、間に合わせてくれました。隅々まで心の行き届いた準備に感動しました。

舞台はマンタイ神殿の下に広がる美しい丘の斜面に設けられました。わたしたちが見物した晩は1万5,000人の観客が詰めかけました。大勢の若い男女が回復の

物語を理解し、熱意を込めて心から役を演じる光景は素晴らしいものでした。

マンタイを訪れると、わたしは妻と一緒に神殿のセッションに参加するのが楽しみです。初期の開拓者の偉大な犠牲によって建てられたこれらの古い神殿には特別な御霊^{みたま}を感じます。

マンタイ神殿でセッションに参加したとき、胸に込み上げてくるものを感じました。改築し近代化する以前のユタ州ローガン神殿の大切な思い出がよみがえったからです。セッションが進むにつれ、どの部屋でも初期の開拓者がこのように言うのを聞くことができました。「わたしたちが自分の手で作り上げたものを見てください。重機があつたわけでも、請負業者があつたわけでもありません。重い石を持ち上げるためにクレーンがあつたわけでもありません。わたしたちは自分の力でこの仕事を成し遂げたのです。」

サンピート郡の初期の開拓者は何とすばらしい受け継ぎを残してくれたことでしょう。

かつてロナルド・レーガン合衆国元大統領はこう言いました。「わたしは過去に戻りたくはありません。しかし、将来の課題に立ち向かった際に、過去に取られた方法を振り返りたいと思います。」¹ この勧告に今も共感を覚えます。将来の課題に立ち向かう準備として過去の教訓を振り返ることには大切な意味があります。初期の気高いモルモンの開拓者は、わたし

たちがそこに積み上げていけるように、信仰と勇気と創意工夫というすばらしい遺産を残してくれました。わたしは^{よわい}齢を重ねるごとに彼らをさらに称賛するようになりました。

福音を受け入れてから彼らの生活は一変しました。家や仕事、農場、愛する家族さえも後にして、荒れ野へ旅立ちました。ブリガム・ヤングが「まさにこの地である」²と宣言したときは、ショックを受けたことでしょう。彼らが見たのは広大な砂漠でした。ほとんどの開拓者がかつて知っていた緑の丘、樹木、美しい草原はそこにはありませんでした。しかし、山あいには美しい社会を作り上げるために、開拓者は神と指導者を信じる固い信仰をもって働き始めました。

疲れ切った多くの開拓者が質素ながらも生活の喜びを感じ始めていたとき、ブリガム・ヤングはグレートベースンに集落を築くため、再び家を捨てて四方へ旅立つよう求めました。サンピート郡の共同体であるフェアビュー、エフライム、マンタイ、モロナイ、マウントプレザントはこのようにして築かれました。

サンピート郡から戻ったわたしは同地の開拓者についてもっと知りたくまりました。そこで新しくできた教会歴史図書館で数時間かけて、彼らの歴史を読むことにしました。

ソルトレーク盆地に到着してからわずか2年後の1849年、偉大な西部開拓者ブリガム・ヤングは聖徒の一団に、南部へ行って不毛の地に再び住居と共同体を築くよう求めました。彼らがサンピートに定着して間もなく、ブリガム・ヤング大管長の顧問であったヒーバー・C・キンボール管長がマンタイの町を訪れ、盆地を見下ろす丘の上に東部の山間部から石を運んで神殿を建てることを約束しました。

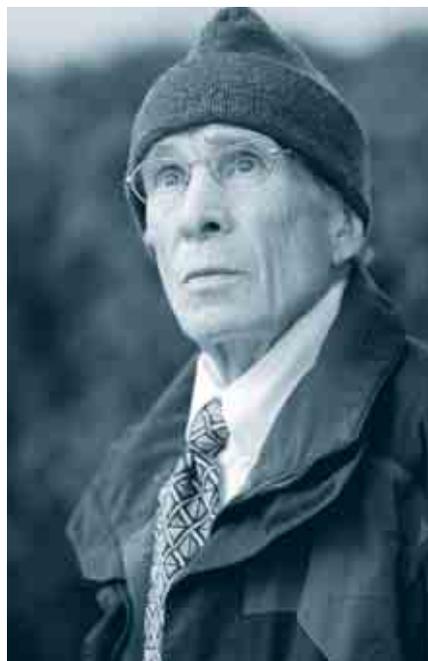
ヒーバー・C・キンボール管長の訪問から長い年月が過ぎましたが、神殿建設に向けて何の動きもないことに人々は心配し始めました。ある人が「ここには神殿が絶対に必要です。この祝福を待っている時間はもう十分に過ぎました」と言いました。別の人は「神殿を建てたいなら、自分

たちで始めよう」と言いました。こうして実行に移されたのです。

隅石が置かれたのは1879年4月14日のことでした。聖徒たちがサンピート盆地に到着してすでに30年もの歳月が流れていました。美しい神殿を建てるために最善を尽くした勤勉な人たちの物語が数多く残っています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は数年前に、マンタイ神殿の再奉獻に当たってこう語りました。「わたしはこれまで世界中の偉大な建物を訪れてきました。けれども開拓者が建てたこれらの神の宮に入るときに覚える感慨深い気持ちは、ほかでは味わえません。」³ ヒンクレー家族にはマンタイ神殿と深いつながりがありました。マージョリー・ヒンクレー姉妹の祖父はマンタイ神殿の建築中に負ったけががもとで亡くなったのです。

将来に立ち向かう最善の方法をどうしたら過去から見いだせるか、この点をよく理解できるように、マンタイ神殿の建築中の出来事を紹介したいと思います。その後、真の原則についてわたしがそこから学んだことを話します。

ノルウェーからマンタイにやって来て定着した人々の中に、大工仕事に熟練した人が何人かいました。彼らは神殿の屋根の建築を任されました。屋根を造ったこ



とはそれまで一度もありませんでしたが、船大工としての経験はありました。彼らには、屋根をどう設計したらよいか分かりませんでした。やがて一つの考えが浮かびました。「船を造ればどうだろう。立派な船はとても頑丈で、安定している。設計図を逆さまにすれば、しっかりした屋根が造れるだろう。」こうして彼らは船の設計図を描き始め、完成すると逆さまにしました。マンタイ神殿の屋根の設計図はこのようにして完成したのです。

この事例では、彼らは以前の経験から学んだ教訓を生かしました。造船の原理を問題に立ち向かうために役立てたのです。航海に耐える船を造るために用いてきた原理がそのまま、しっかりとした屋根を造るのに応用できるという確かな判断を下しました。例えば、船も屋根も水を通さないようにする必要があります。建造物の基本的な特性が、表側を上にするとか、逆さまにするとかいった使い方によって損なわれることはありません。最も大切なことは、長持ちする構造を作るために必要な基本原理という、役に立つ知識を持っていたことです。

イエス・キリストの福音には船や屋根を造る原理よりもはるかに永続する永遠の原則と真理がぎっしりと詰まっています。主の真の教会の会員であるわたしたちは特に、個人や家族を導いてくれる御霊に耳を傾けるときに、また、全教会員に向けて神の御心^{みこころ}を宣言する預言者の声に聞き従うときに、これらの永遠の原則と真理を手にして理解する特権があります。皆さんもわたしも永遠の原則と真理が生活の中でどれほど大切かを知っています。初期の開拓者にこれらの原則と真理がなかったとしたら、危険で先の見えない未来に立ち向かえなかったでしょう。わたしたちも同じです。永遠の原則と真理は、現在のような危険と不安が高まる時代に、未来に立ち向かう唯一まことの永遠の手段です。

ノルウェー出身の船大工は職業上の基本技術を携えてやって来ました。彼らは自分たちの技術を、造船から神殿建築へと置き換えていきました。何が彼らの目



指すものを劇的に変えたのでしょうか。あらゆるものを犠牲にして神の王国を建設する理由を説明する答えは一つしかありません。彼らはイエス・キリストの福音の永遠の原則と真理を教わり、受け入れました。そして、建物を築き上げる手伝いをするだけでなく、福音の知識を伝えることによって人を築き上げ教化する力になることも自分たちの使命であることを知っていたのです。教義と聖約第50章にはこう記されています。「……説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(22節)

イエス・キリストの福音を知るという特別な祝福にあずかり、バプテスマを受けてキリストの御名を受けたとき、わたしたちは福音を分かち合うという義務も引き受けました。福音を宣べ伝えるというわたしたちに共通の責任をもっとよく果たせるように、教会は最近、伝道プログラムを逆さまにしました。数年前に、ステーク伝道部を解体してワードの伝道組織での働きに努力を集中することにしました。ワード評議会がワードの伝道計画を展開すること

により、飛躍的な進歩を遂げています。成果を上げているケースは、専任宣教師がワード評議会、ワード伝道主任、教会員と密接に協力している場合がほとんどです。

ワードを中心とした伝道活動では、求道者を見つけて教えることにかかわる会員が増えていることが分かりました。求道者はしばしば会員の家に招待されて、そこで宣教師からレッスンを受けます。会員は伝道活動のすばらしい祝福をじかに経験するとともに、ワードの指導者から定期的に伝道について思い起こす機会を与えられることにより、イエス・キリストの福音のかけがえのない知識を積極的に人に伝えるようになっていきます。ほかの宗教を信じている友人、隣人、家族と福音を分かち合うことについて深く考え、祈るときに、会員はいつそう深く伝道の業にかかわるようになります。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう教えました。「宣教師の活動とは単にちらしを配ることだと考えている会員が大勢います。しかし、宣教師の活動を知っている人は、もっと良い方法があることを知って

います。それは教会員を通じて行う方法です。教会員が求道者を紹介すると、そこには即座に対応できる支援体制があります。教会員はこの業が真実であることを証します。求道者である友達の幸せを心から願っています。そして、友達が福音を学んで進歩するのを見て、感動するのです。」⁴

専任宣教師は求道者を教える役割のほとんどを引き続き担当しますが、会員にも質問に答えたり、証を述べたりする機会がたくさんあります。わたしたちは福音の基本原則を教える準備をすることによって、預言者の声にもっとよく従うことができます。準備することで恐れを取り除き、容易にまた力強く専任宣教師を支援することができます。専任宣教師は3つの基本となるレッスンを教えます。すなわち、回復、救いの計画、イエス・キリストの福音です。皆さんはこの非常に基本的なレッスンが真実であることについて証する準備がどれほどできているのでしょうか。靈感あふれる伝道活動のガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を研究して、基本的な福

音のレッスンを教える専任宣教師を支援する準備をしてください。

ノルウェーから来て、マンタイ神殿の屋根を造った船大工が教えた大切な教訓をわたしたちが二つとも学ぶことができますように。第1は過去に学んだ原則と真理を活用して将来に立ち向かうという教訓であり、第2は神の王国の建設を助けるために、知っていることを伝えたいという彼らの望みから学ぶことです。この第2の教訓を学び取ると、兄弟姉妹や神の息子さんなど多くの人がわたしたちと同じ永遠の確信をもって不確かな未来に立ち向かうよう助けることができます。

イエス・キリストの福音は真実であって、わたしたちの生活を祝福するためこの末日に回復されました。この福音には天の御父の偉大な幸福の計画に含まれるすべての真理、原則、儀式があります。それはわたしたちが御父のみもとへ帰って永遠の王国で御父とともに住むという計画です。イエス・キリストの福音はわたしたちが栄えある未来を迎えるための神の方法であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジョージ・F・ウィル, "One Man's America", *Cato Policy Report*, 2008年9月/10月号, 11で引用
2. ウィルフォード・ウッドラフ, "Celebration of Pioneers' Day," *The Utah Pioneers* (1880年), 23で引用
3. "Manti Temple Rededicated," *Ensign*, 1985年8月号, 73で引用
4. ゴードン・B・ヒンクレー「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 121-122)

徳でああなたの思いを飾るようになさい

管理ビショップリック

H・デビッド・バートンビショップ

わたしたちは信仰のために立ち上がり、確固としてキリストのような徳を守る必要があります。



イス長老、特に聞く者と話をする者のための、美しい祈りをありがとうございます。

「絶えず徳でああなたの思いを飾るようになさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増[すであろう。]」(教義と聖約121:45)

12歳の誕生日を間近に控えていたころ、わたしには初等協会を卒業するために達成しなければならないことが幾つか残っていました。その一つは、13の信仰箇条を順番どおりに暗唱することでした。第12条までは比較的簡単に覚えられました。第13条を覚えるのにはほんとうに苦労しました。書かれている徳を順番どおりに覚えるのが大変だったのです。しかし、最後まで忍耐強く助けてくれた当時

の初等協会の教師のおかげでついに暗記することができました。

それから何年もたち、妻と子供とわたしは初めてのマイホームに引っ越しました。そして、あの初等協会の教師が近所に住んでいることを知り、わたしたちは驚きました。近所付き合いはそれから40年続いています。彼女は、わたしの物覚えの悪さのことをずっと秘密にしてくれています。

「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くの堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍ぶようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」(信仰箇条1:13)

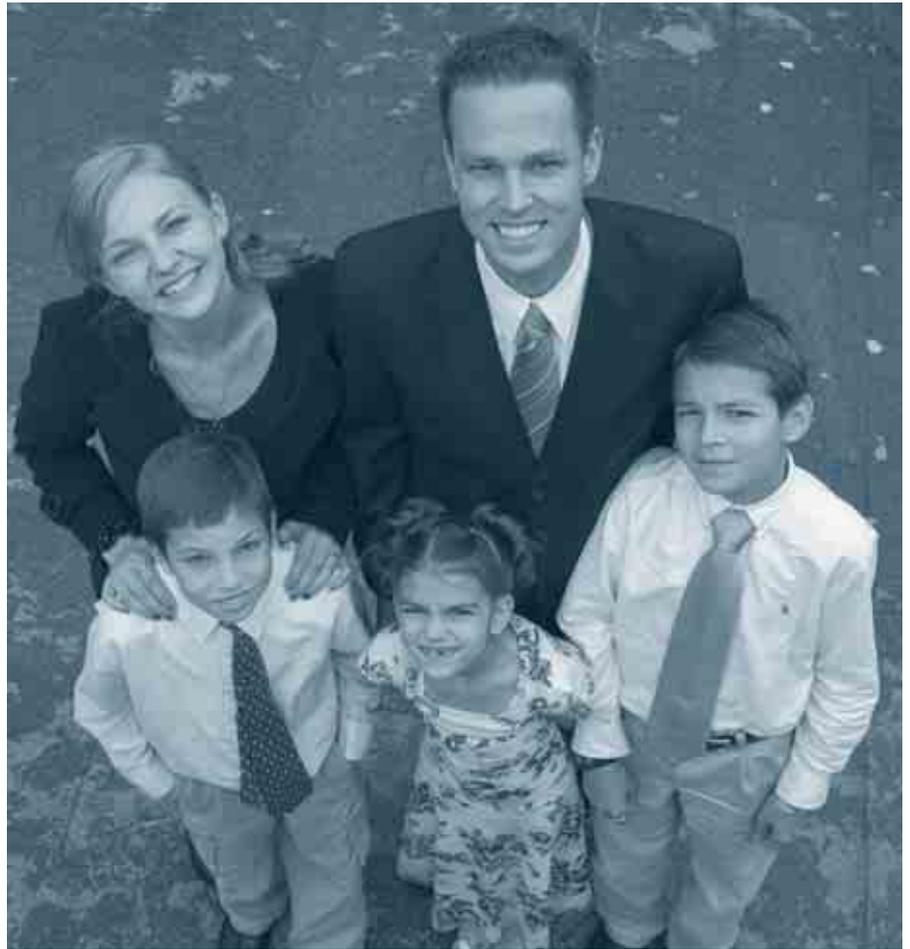
今日は、徳と呼ばれる個人の持つ特性について話したいと考えています。徳という特質は、キリストチャンとしての生活の土台を築き、内なる自分を外に向けて表現しています。徳を示す英語のつづりを見ても、*ity*という文字で終わるものがたくさんあります。高潔さ(integrity)、謙遜さ(humility)、慈愛(charity)、霊性(spirituality)、責任を負うこと(accountability)、礼儀正しさ(civility)、忠誠(fidelity)など、ほかにもまだあります。同

じ形で終わるので、わたしはityで終わる徳を「ity」の徳と呼ぶことにします。「ity」は性質、状態、または物事の程度を表す接尾辞です。

地域社会で起こっていることを見渡すだけで、徳という個人の特性が急速に失われていることが分かります。渋滞した高速道路での運転手の態度はどうでしょうか。運転中にいらいらをぶつける人があまりにも多くいます。政治演説には礼儀正しさがほとんど見られません。財政や経済の危機に直面する世界各国では、強欲や汚職が忠誠心や正直に取って代わっているようです。高校を訪れば、下品な言葉遣いや慎みのない服装に嫌でも気づくことがしばしばです。スポーツマン精神に欠けるスポーツ選手もおり、法律や道徳に反する行為が明るみに出ないかぎり、彼らが謙遜になることはほとんどありません。また、かなりの人が、この世で健全な生活を送るための、個人としての責任をないがしろにしていることは明らかです。経済的に困っている人の中には、銀行やその他の金融業者が、自分の返済できる額でなく、限りない欲を満たすだけの額を貸し付けたことを非難する人もいます。必要以上に欲しいという望みが強くなり、善い動機で人のために寛大に使うという気持ちが消えてしまうこともあります。

兄弟姉妹、社会を覆い、さらに広がっている不健全な思いに迎合する必要はありません。世の中の流れに身を任せ、クリスマスが大切にしている徳を捨てるなら、悲劇的な結末が訪れるかもしれません。永遠の結果を左右する一人一人の信仰と忠誠心は弱まるでしょう。家族の一致や霊性にも悪影響があるでしょう。社会での宗教の影響は弱まり、法の原則は疑問視され、恐らくないがしろにされることすらあるでしょう。生まれながらの人が被るであろう、こうしたあらゆる問題の種はすでにまかれており、サタンはおおいに喜んでます。

わたしたちは信仰のために立ち上がり、確固としてキリストのような徳を守る必要があります。つまり、日々の生活で、先ほど挙げた「ity」の徳を保つのです。徳と



いう特質を最初に学ぶ場所は、愛と模範を示す親のいる家庭です。親が良い模範を示すとき、子供はそれに倣います。悪い模範を示すと、子供は当たり前のように親の教を軽視し、もっと悪い模範となってしまう。見せかけだけの模範は信頼を損ねます。

8歳のメーガンはピアノを弾くのが大好きです。最近ピアノの先生が、毎日きちんと練習するなら、ご褒美としてドーナツを上げると言いました。週の間に先生がメーガンに「ドーナツの電話」をかけ、その日に練習していたらご褒美を上げるという約束です。ある日、先生が電話をかけるとメーガンは留守で、練習をしたか報告できませんでした。いつもの、週に1度のレッスンで、先生は、練習をしたか聞きました。するとメーガンは、練習はしたと思うと答え、ご褒美をもらいました。ドーナツを見た母親はそのことを尋ね、正直になる必要を理解できるよう助けました。メーガンはお母さんに励まされ、先生におわびの電話をかけました。二人で話し

ているうちに、メーガンは音楽の書き取りをしていて、実際にご褒美の条件を十分に満たしていたことが分かりました。賢明な、子供を大切に思う親のおかげで得た貴重な教訓は、いつまでも子供の心に残ることでしょう。

15歳になる孫のベンはスキーが大好きで、大会でも何度か優秀な成績を残していました。アイダホ州で行われた大会の前、両親は学校の成績が悪ければ大会には出さないと再度伝えました。アイダホ州サンバレーに貸部屋を予約し、祖父母も来る予定になっていました。ベンは必死になって、自分も両親も望んでいた、高い点数を目指して勉強しましたが、結局、目標の点数にはわずかの差で届きませんでした。ベンは大会に出られず、ジュニアオリンピック出場のためのポイントも失ってしまいました。それでもベンは、自分の行動に責任を持つことへの理解を得る貴重な経験をしました。毅然とした態度を崩さないことで、子供を教えようとしている親の方が子供よりも苦しみ、悲しい思いをするとい



うのは実によくあることなのです。

ジェームズ・E・ファウスト管長は、高潔さはあらゆる徳の泉だと言いました。管長は、高潔さは「道徳的価値観という規範を固く守ること」と定義できると話しています。またファウスト管長は次のように述べています。「高潔さは鍛錬された良心から輝き出るものです。わたしたちの内にある務めであり強さなのです。」(“Integrity, the Mother of Many Virtues,” *Speaking Out on Moral Issues* [1998年], 61, 62で引用) 高潔さに欠けながら、徳という特質を示すのは難しいことです。高潔さがなければ、正直はしばしば忘れられてしまいます。高潔さがなければ、礼儀正しさは失われます。高潔さが大切でなくなれば、霊性を保つのは難しくなります。旧約の時代のイスラエルの子らに対し、モーセはこう忠告しました。「もし人が主に誓願をかけ、またはその身に物断ちをしようと誓いをするならば、その言葉を破ってはならない。口で言ったとおりにすべて行わなければならない。」(民数30:2)

トーマス・S・モンソン大管長は何年か前に、次のことを思い起こさせてくれました。

「尊厳や正直、高潔さが復讐や怒りよりもはるかに大切であることを教えられていれば、また尊敬や親切が最終的には成功へのより良い機会を与えてくれることを理解していれば、ほとんどの人は絶望的な行為には陥らない。」(“Family Values in a Violent Society”, *Deseret News*, 1994年1月16日付, A12, 「平和を見いだす」『リアホナ』2004年3月号, 4で引用)

皆さんは、第一次世界大戦での失われた大隊 (*Lost Battalion*) や、行方の知れない十部族 (*ten lost tribes*)、もしくはJ・M・バリの劇『ピーターパン』に登場する親とはぐれた子供たち「ロストボーイズ (*lost boys*)」のことを聞いたことがあるかもしれません。マイケル・マクレーンのアльバム『忘れられたキャロル』(*The Forgotten Carols*) になじみのある人もいるでしょう。徳という特性、特に「ity」の徳は、決して忘れてたり、なおざりにしたりしてはなりません。徳が忘れられたり、なおざりにされたりすると、それらは必ず「失われた徳」になってしまいます。徳がなくなれば家族はととても弱くなり、わたしたちが個人として持つ主イエス・キリストへの信仰も薄れ、

大切な永遠の関係が危険にさらされるかもしれません。

徳という特質を幅広く実践するなら、サタンが社会に与える力は弱まり、人の心と霊を捕らえようとするサタンの狡猾な計画を挫折させることができます。

皆で力を集め、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することを救いだし、守るのは今です。絶えず徳で自分の思いを飾るようにし、徳という特質を生活の中で磨くとき、地域社会、そして学校や会社などの組織は強められるでしょう。子供たちと家族は強固になり、一人一人の人生には信仰と高潔さという祝福が与えられるでしょう。

天の御父は、御自身の子供たちが、高潔さ、礼儀正しさ、忠誠、慈愛、寛大さ、道徳観をはじめとするすべての「ity」の徳を実践するよう期待しておられることを証し、宣言します。そうする能力 (*ability*) があることを示すため、わたしたちが謙遜 (*humility*) になって、自分の責任 (*responsibility*) に従って行動する機会 (*opportunity*) を得られますように。イエス・キリストの聖なる御名により祈ります、アーメン。

しっかりつかまっていなさい

中央若い女性会長会第二顧問
アン・M・ディブ

天の御父は、この試しの生涯において、わたしたちを独りぼっちにされることはありませんでした。御父のみもとに帰るために必要なすべての「安全装備」を下さいました。



何年も前に注意を引かれ、それ以来ずっと忘れずに覚えている地元新聞の短い記事があります。「カナダ、オンタリオ州セントキャサリンズにある高さ125フィート(38メートル)の橋で足場が崩れて4人が死亡、1時間以上橋の下につかまっていた7人が救助された。」(“News Capsules”, *Deseret News*, 1993年6月9日付, A2)

この短い記事には今でも身がすくみまです。この記事を読むとすぐに、セントキャサリンズに住む友人に電話しました。ガーデンシティ・スカイウェイブリッジでは1年ほど作業員が塗装作業に当たっており、事故が起きたのは完成予定日の2週間前だったと、彼女は言いました。事故の後、担当者は作業員が安全装備をして

いなかった理由を尋ねられました。答えは簡単でした。作業員は安全装備を持っていたものの、故意に身に着けていなかったということでした。助かった人たちは足場が崩れた後、救助隊が助けに来るまでの1時間余り、鋼鉄の梁の1インチ(2.5センチ)ほどの縁に手をかけ、8インチ(20センチ)ほどの突起の上に立っていたのです。助かった作業員の一人は橋にしがみつきながら家族のことをずいぶん考えたと言いました。「今ここにこうしていられることを主に感謝しています。……ほんとうに恐ろしかったです。」(リック・ボガツ, “Skyway Horror,” *Standard*, 1993年6月9日付)

この出来事には多くの教訓が含まれていて、またわたしたちの人生にたとえられることも多くあります。わたしたちのほとんどはこのような生死にかかわる劇的な状況に追い込まれることはありませんが、わたしたちの多くは人生で恐ろしい時を過ごしていると感じています。

わたしたちもまるで1インチ(2.5センチ)の鋼鉄の縁につかまっているかのように感じるかもしれません。この死すべき試しの生涯は簡単なものではありません。またそれはつかの間でもありません。わたしたちは祝福されてこの世に来て、死すべき肉体を得ました。この生涯は自らを証明し、選択の自由を使う機会です(アブラハム3:25参照)。天の御父の永遠の救いの計画(ジェロム1:2;アルマ42:5;モーセ6:62参照)と贖い(モルモン書ヤコブ6:8;アルマ12:

25;42:11参照)に従う選択をすることも、自分自身の道を見つけようとすることもできます。従順に神の戒めを守ることも、または戒めを拒んで、それにより必ず起こる結果に立ち向かうこともできます。

このため、わたしたちにも危険な仕事と義務があります。試練を避けて通ることはできないのです。寂しさ、人間関係のこじれ、裏切り、誘惑、依存症、肉体的な制限、切望していた仕事を失うなどの経験をするでしょう。義にかなった希望や夢が思いどおりの時期に実現せず、失望感に対処できるかどうか試されることもあるでしょう。教会や家庭の召しにあっても自分の能力に疑問を持ち、失敗するかもしれないと恐れることもあるでしょう。今の時代が抱える課題と危険は、社会が罪に寛容になることも含め、古今の預言者によって預言されていました。それらは、落ちたら必ず死に至る125フィート(38メートル)の橋と同じように不安定で、真に恐ろしいものです。

わたしの生活は完璧なものではありません。同じようなたくさんの難題に取り組んでいます。その点でわたしたちは皆同じです。サタンの誘惑と死すべき世の困難は常に存在し、わたしたち一人一人を取り囲んでいることを知っています。鋼鉄の梁につかまるという危険から救助された作業員が口にした「ほんとうに恐ろしい」という言葉にわたしも同感です。

しかし、この上なく幸福な人生を送り、まったく試練を経験しない人が聖文にはほとんど登場しないということに気づくことは大切です。わたしたちは、信仰と粘り強さ、個人の義をもって困難を克服することによって、学び成長します。トーマス・S・モンソン大管長が天の御父とわたしたちに寄せる限りない信頼により、わたしは強められてきました。大管長は次のように言っています。「皆さんはこの業において御父の祝福にあずかる権利があることを覚えてください。御父は、導きなしに、運に任せて独りで歩いて行かせるために、皆さんをその特権ある地位に召されたわけではありません。それどころか、御父は皆さんの持つ能力を御存じであり、



皆さんの献身をよく御存じです。また、皆さんが不十分だと感じている部分を強さだと認識できるように変えてくださいます。御父はこのように約束されています。『わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。』（「テンサイと人の価値」『リアホナ』2009年7月号、3-4）

天の御父は、この試しの生涯において、わたしたちを独りぼっちにされることはありませんでした。御父のみもとに帰るために必要なすべての「安全装備」を下さいました。わたしたちを導くために、個人の祈り、聖文、生ける預言者、そして、聖霊を与えられました。時にはこの装備を使うことが面倒で、格好悪くて、時代遅れに

思えるかもしれません。適切に使うには、勤勉さと従順と忍耐が必要です。でもわたし個人としては使うことを選択します。わたしたちは皆使うことを選ばなければなりません。

聖文からはもう一つの重要な安全装備である「鉄の棒」について学ぶことができます。救い主イエス・キリストの弟子は、この棒につかまって永遠の命へと続く道を安全に見つけられるよう勧告を受けています。わたしが話しているのは、モルモン書に書かれている命の木に関するリーハイの示現のことです。

モルモン書の預言者リーハイと息子のニーファイはそれぞれが受けた神の啓示を通して、人の試しの生涯とそれに伴う危険を見ました。リーハイは言いました。「そこで、暗黒の霧が起こった。まことに、非常に深い暗黒の霧であったため、道を歩き

始めていた人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。」（1ニーファイ8:23）しかし、「〔彼は〕このほかに大勢の人が押し進んで来るのを見た。この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた。」木とはつまり、命の木のことで（1ニーファイ8:30）。

リーハイの示現からわたしたちは、それぞれのまっすぐで狭い道に沿って延びる手すり、つまりこの鉄の棒をつかみ、天の御父とともに住む永遠の命という最終目的地に着くまで、しっかり握っていなければならないことが分かります。ニーファイは、鉄の棒にしっかりつかまる者は「決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない」と約束しています（1ニーファイ15:24）。

この靈感あふれる示現をもう一度全部読むことを皆さんに勧めます。研究し、深く考え、日々の生活に当てはめてください。鉄の棒をしっかり握り、決して放してはいけません。

わたしが10代のころ預言者だったハロルド・B・リー大管長は教えています。「人類を苦しめる問題に男性、女性、青少年、ヤングアダルトが答えを必死に探すこの騒がしい失望の時代において、最も必要なものが何か一つあるとすれば、それは『鉄の棒』です。鉄の棒は『徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあること』の完全な喪失と破滅へ通ずる見知らぬ曲がりくねった道が多くある中で、永遠の命へ続くまっすぐな道に沿って延びる確かな道案内です。」（「The Iron Rod」, *Ensign*, 1971年6月号、7）

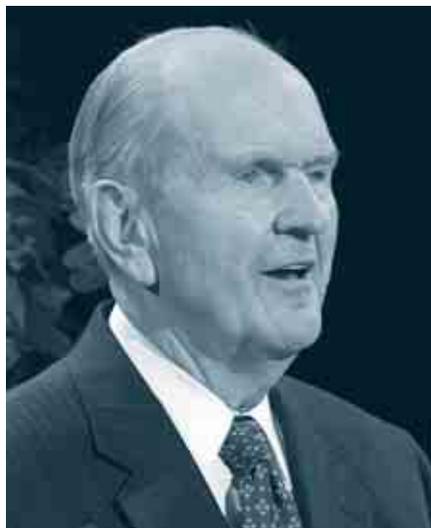
これはわたしが10代のころ、意味のある言葉でしたが、恐らく今ももっと意味があるでしょう。紀元前600年であろうと、1971年あるいは2009年であろうと、預言者の言葉は常に警告し、教え、真理を奨励しています。預言者、聖見者、啓示者としてわたしたちが支持する人たちの靈感された言葉にぜひ耳を傾け、信じ、従ってください。

求めよ、捜せ、 門をたたけ

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

すべての末日聖徒には、個人の啓示を受ける資格があります。



ビス利用料金も必要ありません。これは主が人に用意してくださっている最も驚くべき賜物たまものの一つです。主は寛大にもこう招いておられます。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」¹

個人の啓示を与えるという、時を超えたこの約束は、主のすべての子供たちに対してなされています。真実とは思えないほど素晴らしい話ですが、真実です。わたしはその天の助けを受け、それに基づいて行動してきました。そして常に受ける用意をしておく必要があることを学んできました。

何年も前、総大会に向けて話の準備に没頭していたときのことで。熟睡していたわたしは目覚めると、あるアイデアに強く心を打たれました。すぐにベッドのそばにあった紙と鉛筆に手を伸ばし、大急ぎで書き留めました。そして素晴らしいアイデアを記録したぞと思いながら、再び眠りに就きました。翌朝、その紙を見てとてものがかりました。何と書いてあるのか、まったく読めなかったのです。今でもベッドの横に紙と鉛筆を置いています。もつと丁寧に書くようにしています。

天から情報を得るには、まず確固とした信仰と心からの望みを持たなければなりません。イエス・キリストを信じながら、誠心誠意求める必要があるのです。²「誠意」とは、神から授けられる導きに従おうと心から思っているということです。

鉄の棒につかまることがいつも簡単であるとは限りません。仲間の圧力により、また自分を過信して、帰り道は後で探せると考えて手を放してしまうかもしれません。そのときわたしたちは、安全装備を置き去りにしているのです。リーハイの示現では手を放した人が多くいました。ニーファイは言っています。「多くの人が、見知らぬ道に迷って父の視界から消えてしまった。」(1ニーファイ8:32)人生の大変な時期にわたしたちも「見知らぬ道に迷[う]」ことがあるでしょう。でも安心してください。帰り道を見つけることは必ずできます。救い主イエス・キリストの贖いの犠牲によって可能となった悔い改めを通して、もう一度鉄の棒にしっかりつかまり、再び天の御父の愛ある導きを感じることがができます。救い主はわたしたちをいつまでも招いておられます。悔い改めて、つかまって、放さないでください。

わたしもニーファイのように、「神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることを覚えるよう」皆さんに強く勧告します(1ニーファイ15:25)。神が用意してくださった安全装備を使ってください。しっかりつかまり、皆さんの勤勉さを天の御父が祝福してくださることを信じてください。

回復された福音が真実であることを知っています。わたしたちが生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長によって導かれていることを知っています。彼の娘であることは、わたしにとって大きな特権であり祝福です。わたしは両親を心から愛しています。

ある晩、少々気落ちしてわたしは言いました。「お父さん、教会員として受ける祝福も神殿の約束された祝福もほんとうに素晴らしいわ。ただ祝福に手を伸ばして、受けることを選べばね。」何のためらいもなく父は答えました。「アン、それがすべてだよ。」

わたしたちがイエス・キリストの福音の永遠の真理につかまっていることができるよう心から祈ります。それが文字どおりすべてだからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

愛する兄弟姉妹、わたしは皆さん一人一人にとっても感謝しています。また、この大会を世界中の何百万という人々に届けるのを可能にしてくれている、現代の通信手段という奇跡にも感謝しています。

今日の科学技術のおかげで、携帯電話を使って素早く情報をやり取りすることもできます。最近、妻のウェンディとわたしは割り当てを受けて別の大陸に行っていたとき、わたしたち家族に新たに赤ちゃんが生まれたことを知りました。その良い知らせを受けたのは、地球の反対側でその子が生まれて数分後のことでした。

しかし現代の科学技術よりもさらに驚嘆すべきことに、わたしたちには天から直接情報を得る機会が与えられています。ハードウェアもソフトウェアも、毎月のサー



アメリカ合衆国ミネソタ州セントポール、ツインシティーズ第2支部(モン族)の教会員

次に求められるのは、その件について熱心に思い計ることです。この概念は、この回復された教会の指導者が個人の啓示を受ける方法について最初に学んでいたときに教えられました。主は彼らに次のように教えられました。「わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」³

準備の一部となるのが、関連のある主の教えを知り、それに従うことです。主の永遠の真理の中には、盗んではならない、殺してはならない、偽証してはならないといった戒めのように、広く一般に当てはまるものがあります。そのほか、安息日や聖餐せいさん、バプテスマや確認に関する教えや戒めもまた一般的なものです。

啓示の中には、特定の状況に対して与えられてきたものもあります。ノアが箱舟を作ったときや、モーセやリーハイ、ブリガムなど、困難な旅において民を導く預言者の必要を満たしたときなどがそうです。神は昔から預言者を通して御自分の子供たちを教えるという規範を確立しておら

れ、そのことからわたしたちは、神がそれぞれの預言者を祝福し、預言者の勧告を心に留める人を祝福してくださることを確信できます。

預言者に従いたいという望みを実現するには、非常な努力が求められます。生まれながらの人は神についてほとんど知らず、神の預言者についてはさらに知らないからです。パウロは次のように書いています。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」⁴ 生まれながらの人から献身的な弟子になることは、大きな変化です。⁵

別の預言者は次のように教えています。「生まれながらの人は神の敵であり、アダムあだむの墮落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪しよくざいにより、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵と

なるであろう。」⁶

最近、わたしはある男性がそのような大きな変化を遂げるのを見ました。彼と初めて会ったのは約10年前です。ステーキ大会で息子さんが新しいステーキ会長会の一員として支持を受け、その場に来ていたのです。この父親は教会員ではありませんでした。息子さんが任命を受けた後、わたしはこの父親の肩を抱き、そのようなすばらしい息子さんがいることをたたえました。その後、大胆にもこう宣言したのです。「やがてあなたが奥さんとともにこの息子さんと聖なる神殿で結び固められたいと望む日が来るでしょう。その日が来るとき、わたしは謹んでその結び固めを執行させていただきます。」

その後10年間、この男性に会うことはありませんでした。ところが6週間前に、彼と奥さんがわたしの執務室にやって来たのです。彼は心のこもったあいさつをすると、あのとこのわたしの言葉にどれほど驚いたかを話してくれました。彼はその後、聴力を失い始めました。それまでは教会のことについて特に行動を起こしてはいませんでした。やがて、自分の体に変化が起きていて、自分のこの地上での時間が実際に限られていることを悟るよう

になりました。そのうちついに聴力を失ってしまいました。しかし同時期に、彼は改心して教会に加わったのです。

話の中で、彼は自分が完全に変化したことを、次のように要約して言いました。「聴力を失わなければ、あなたのメッセージの重要さに注意を向けることができませんでした。その後、愛する人々と結び固められたいと自分がどれほど望んでいるかを実感しました。今、わたしはふさわしくなり、準備が整いました。結び固めを執行してくださいますか。」⁷ わたしは神への深い感謝を胸に、儀式を行いました。

そのような改心が起こった後、さらに霊的に精錬されることがあります。個人の啓示に磨きかけられて、霊的な識別の力となることがあります。識別するとは、ふるいにかける、分類する、または区別するという意味です。⁸ 霊的な識別の賜物は、天与の賜物です。⁹ この賜物によって、教会員は目に見えないものを見、触れることのできないものを感じることができるのです。

ビショップには、貧しい者を探し出し、乏しい者を心にかけるといふ務めに取り組むに当たって、その賜物を持つ権利が与えられています。また、この賜物によって、姉妹たちは世の中の流行を吟味し、どんなに人気があっても見かけだけのもの、さらには危険なものを見分けることができます。会員たちは、閃光のようにはかないもくろみと、心を高め、いつまでも続く高尚なものを見分けることができます。

識別の力については、ずっと以前にジョン・テラー大管長が与えた重要な指示の中でも間接的に述べられています。¹⁰ テラー大管長はステーク会長やビショップ、そのほかの人々に次のように教えました。「[これらの地位]にある人々には、神の聖なる目的をよりうまく推し進めることができるように、自分が持つ長の職の義務に関して神の言葉を授かる権利があります。神権におけるいかなる召しや地位も、それを持つ人の個人的な利益や報酬、名声のために与えられるものではありません。天の御父の目的を成就し、地上に神の王国を築き上げるために特別に与えられる



のです。わたしたちは……神の御心^{みこころ}を理解しようと努め、次に、それを推し進めます。また、自分が管理するようにゆだねられている人々によって推し進められるようになります。」¹¹

皆さんがそれぞれ自分自身の必要や責任に関する独自の啓示を受けられるように、幾つかの指針が示されています。主は皆さんに、「神の栄光にひたすら目を向けて、信仰、希望、慈愛、愛を」はぐくむように求めておられます。その後、皆さんは確固とした「信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、勤勉」をもって求めることができ、そうすれば、与えられるでしょう。たたくことができ、そうすれば、開かれるでしょう。¹²

神の啓示は、神の永遠の律法と常に一致しています。神の教義と矛盾することは決してありません。神を適切な形で敬うとき、啓示を受ける力は増します。主は次のように教えておられます。

「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。

わたしは彼らにすべての奥義を……明

らかにし、……わたしの王国に関するすべてのことについても……彼らに知らせよう。」¹³

啓示はすべて一度にもたらされるとは限りません。徐々に与えられることがあります。「主なる神はこう言われる。『わたしはここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らに与えよう。わたしの訓戒を聴き、わたしの勧めに耳を貸す者は、知恵を得るので幸いである。わたしは受け入れる者にさらに多く与え[る]。』」¹⁴ 忍耐と根気強さは、わたしたちの永遠の進歩に欠かせません。

預言者は啓示を受けているときにどのように感じたかについて述べています。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは、「わたしたちの心から幕が取り去られ、理解の目が開かれた」¹⁵ と語っています。ジョセフ・F・スミス大管長は、「書き記されているこれらのことを深く考えていると、わたしの理解の目が開かれ、主の御霊がわたしのうえにとどまった」と書いています。¹⁶

すべての末日聖徒には、個人の啓示を受ける資格があります。神の指示を求め、捜し、たたくようにと実際に勧められているのは、神が生きておられ、イエスが生けるキリストであられるからです。この教会が主の生ける教会だからです。¹⁷ 今日のわたしたちは祝福されています。トーマス・S・モンソン大管長が神の生ける預言者だからです。わたしたちが預言者である大管長の勧告を聞き、心に留めることができるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

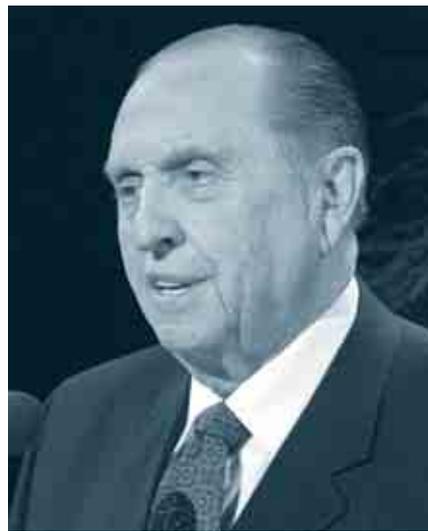
1. マタイ7:7;ルカ11:9, 強調付加。3
ニーファイ14:7;末日聖徒版聖書(英文)
付録のJoseph Smith Translation,
Matthew 7:12も参照
2. モロナイ10:4
3. 教義と聖約9:8
4. 1コリント2:14
5. モーサヤ5:2;アルマ5:12-14参照
6. モーサヤ3:19

今日われ善きことせしか

トーマス・S・モンソン大管長

困っている人はいつでもおり、わたしたちはそれぞれ、だれかを助けるために何かすることができます。

7. このような改心は完全なものである。例えば、ジョン・ニュートン(1725-1807年)は、かつて奴隷商人であったが、生活を変えて主の献身的な弟子となった。ニュートンは自らの改心を次のように要約している。「驚くばかりの恵み(何と心地よい響きだろう)。それがわたしのようないい者を救ってくださった。わたしはかつて失われていたが、今は見いだされている。盲目であったが、今は見えている。」(“Amazing Grace,” *Olney Hymns*, [1779年], 41番)
8. 英語の *discern* (「識別する」)の語源は、ラテン語で「分ける、区別する」を意味する *discernere* である。ラテン語の接頭辞 *dis* は「分離」を意味し、接尾辞 *cernere* は「ふるいにかける」を意味する。 *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, 第11版(2003年), “discern”の項参照
9. 教義と聖約46:23, 26-27参照
10. 1877年にブリガム・ヤング大管長が亡くなった後、教会の諸事については十二使徒定員会が指示を与えた。使徒たちによる臨時的な管理は、大管長会が再組織される1880年まで続いた。1878年2月23日にこの勧告が与えられたとき、ジョン・テラーは十二使徒定員会会長であった。
11. ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻(1965-1975年), 第2巻, 307で引用
12. 教義と聖約4:5-6。強調付加。7節も参照
13. 教義と聖約76:5-7
14. 2ニーファイ28:30
15. 教義と聖約110:1
16. 教義と聖約138:11。この後、現世で福音を聞く機会を得ずに亡くなった人々に福音を宣べ伝えることについて啓示が与えられた(29-37節)。
17. 教義と聖約1:30参照



愛する兄弟姉妹の皆さん、この朝に、わたしの心はイエス・キリストの福音への愛と皆さん一人一人への愛にあふれています。皆さんの前に立つ特権に感謝し、ここで述べるように促されることを効果的にお伝えできるよう祈っています。

数年前にジャック・マコネル医学博士が書いた記事を読みました。博士は合衆国バージニア州南西部の丘陵地帯で、7人きょうだいの一人として育ちました。父親はメソジストの牧師、母親は専業主婦で、貧しい家庭環境でした。博士は子供のころを思い出し、毎日家族で夕飯の食卓を囲み、父親が子供たち一人一人にこう尋ねたと語っています。「今日だれかのために何かをしてあげたかい。」¹ 子供たちはだれかを助けたことを父親に報告できるように、毎日善い行いをしようと決心していました。博士はこの習慣を父親の最も

貴重な遺産と呼んでいます。なぜなら、その期待とその言葉に鼓舞されて、子供たちは生涯人助けをするようになったからです。成長し成熟するにつれて、人を助けたいという心からの願いによって奉仕するようになりました。

マコネル博士は、結核のツベルクリンテストの開発を指導し、ポリオワクチンの初期開発に参加し、タイレノール(鎮痛解熱剤)の改良を監督しました。また、磁気共鳴映像法、すなわちMRIの開発に貢献したうえ、ボランティア医療協会という団体を組織し、退職した医療関係者に医療保険に加入していない労働者のための無料診療所で働く機会を作るなど、顕著な経歴の持ち主です。博士の話では、退職後も余暇の時間はなく、「週に60時間、無報酬で働いていますが、ますます元気になり、かつてないほど人生が充実している」そうです。博士は次のように述べています。「人生の逆説の一つだと思いますが、わたしはボランティア医療協会で、患者さんが得たよりも多くの恩恵にあずかっています。」² そのような診療所は今や合衆国全土に70か所以上あります。

もちろん、わたしたち皆がマコネル博士のようになり、貧しい人を助ける診療所を建てられるわけではありません。しかし、困っている人はいつでもおり、わたしたちはそれぞれ、だれかを助けるために何かすることができます。

使徒パウロはこう勧めています。「愛をもって互に仕えなさい。」³ また、モルモン書の中のベニヤミン王の言葉を皆さんも覚えておきましょう。「あなたがたが同胞の



ために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」⁴

救い主は弟子たちにこう教えられました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」⁵

救い主が言っておられるのは、自分を捨てて人に奉仕しなければ、自分自身の人生の目的などほとんどないということだとわたしは信じています。自分のためにだけ生きる人は、ついには枯渇してしまい、^ひ比喩的に言えば、命を失ってしまいます。一方、自分を捨てて人のために奉仕する人は、成長し、繁栄して、実際に自分の命を救うのです。

1963年10月の総大会で、わたしは十二使徒定員会会員として支持されました。そのとき、デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べました。「人の最高の幸せは、ほかの人のために無私の行いをするることによってもたらされるものです。」⁶

わたしたちはすぐそばで生活していても、心と心が通っていないことがよくあります。わたしたちが力を及ぼせる範囲内

に、「ギレアデに乳香はないのでしょうか」と手を伸ばして叫ぶ人がいるのです。⁷

教会員は皆、奉仕を行い困っている人を助けたいと思っていることをわたしは知っています。わたしたちはバプテスマを受けたとき「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合う」と聖約しました。⁸ 皆さんはこれまでに何度、人が困っているのを目の当たりにして心を痛めたことがあるのでしょうか。助けの手を差し伸べようと思つたことが、^{いくど}幾度あったでしょうか。にもかかわらず、日々の生活に追われて「きっとだれかが助けてくれる」と思い、人任せにしてしまったことが、幾度あったのでしょうか。

わたしたちは日常生活の忙しさに埋没しています。でも、少し立ち止まって自分が何をしているかをよく顧みてみると、それほど重要でもないことに没頭していることが分かります。つまり、大きな目で見れば、ほんとうは大して重要ではないことに大半の時間を費やし、もっと重要なことをないがしろにしていることが往々にしてあるのです。

何年も前に聞いた詩の一節がわたしの心に残り、人生の道しるべとなってきました。わたしの好きな詩の一つです。

人の必要に気づかずに、
まくらを涙でぬらした夜は
数知れない。
だが、ほんの少し人に尽くしすぎたからと
いって
悔やんだことは
一度もない。⁹

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの周りには、家族、友人、知人、他人を問わず、わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います。わたしたちは地上で主の^み御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らを高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。

このように嘆く人がいるかもしれませんが、わたしは毎日の必要に追われて、やっとの思いで切り抜けています。人の

ために奉仕をするなんて、どうしてできるでしょうか。わたしにできることなどあるでしょうか。

ちょうど1年余り前に、わたしは誕生日を迎える前に『チャーチニュース』(Church News)のインタビューを受けました。インタビューの終わりに記者は、世界中の教会員が大管長に最高の贈り物ができるとしたら、それは何でしょうかと質問しました。わたしはこう答えました。「苦しんでいる人や病气の人、あるいは孤独な人を見つけ、その人のために何かすることです。」¹⁰

今年の誕生日に世界中の教会員から何百通ものカードや手紙が届き、わたしは胸がいっぱいになりました。昨年のわたしの願いをどのようにかなえてくれたかが書かれていたのです。奉仕の行いは、人道支援物資を集めることから庭仕事まで多岐にわたっていました。

多くの初等協会が子供たちに奉仕をするよう励ましました。そして、奉仕の行いが記録され、わたしに送られて来ました。記録の方法が創意工夫に富んでいたことを述べなくてはなりません。多くはページを綴じて、様々な形や大きさの本にしたものでした。子供たちが描いたり色を塗ったりしたカードや絵が入っているものもありました。ある大変独創的な初等協会は、大きな容器を送ってくれました。その中には「ウォームファジー」というふわふわした小さなおもちゃがたくさん入っていました。その年、何か一つ奉仕をするたびに、子供たちは容器の中にウォームファジーを一つずつ入れたのです。子供たちが自分のした奉仕について話し、容器におもちゃを入れたときのうれしそうなおもちゃを入れたときのうれしそうなおもちゃが目に浮かびます。

贈り物とともに送られて来た手紙がたくさんありますが、そのうちのごくわずかを紹介しましょう。ある幼い子はこう書いています。「おじいちゃんが発作で倒れました。ぼくはおじいちゃんの手を握ってあげました。」8歳の女の子はこう書いています。「妹とわたしはおもちゃの戸棚をきれいに片付けて、お母さんや家族に奉仕しました。何時間かかりましたが、楽し



ブラジル・サンパウロの教会員

かったです。いちばんよかったのは、だれにも頼まれずにしたので、お母さんがびっくりして喜んだことです。」11歳の女の子はこう書いています。「わたしのワードにはあまりお金持ちではない家族がいて、その家には小さな女の子が3人います。お父さんとお母さんがどこかに出かけるので、わたしは3人の子守をしました。お父さんは5ドル札をくれようとしたのですが、もらえませんでしたと言いました。わたしの奉仕はただで子守をしたことです。」モンゴルのある初等協会の子供は、お母さんの代わりに井戸から水をくんで運んだと書いてきました。4歳の男の子からの手紙は、明らかに初等協会の教師が代筆したものです。「パパは軍隊の訓練で数週間留守です。ぼくの特別な任務はママを抱き締めてキスすることです。」9歳の女の子はこう書いています。「ひいおばあちゃんのためにイチゴを摘みました。とてもいい気持ちになりました。」もう一人の子供はこう書いています。「わたしは独りぼっちの子と一緒に遊びました。」

11歳の少年はこう書いています。「ある女の人の家に行き、質問したり歌を歌ったりしました。訪問してよかったと思いました。訪ねて来る人がいなかったので、喜んでくれました。」この手紙を読んで、ずっと前に十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老が書いた言葉を思い出

しました。彼はこう書いています。「若い人にとって、将来に備え活躍する時期から、引退する時期へ移行するときに感じる寂しさを理解することは困難です。……長い間、家の中心にいて、いつも皆から必要とされてきた人が、突然のように、傍観者の日々を送るのです。寂しい生活です。……長い人生を生きるまでは、家具だけがどんなにあっても部屋がうつろであることを知ることはできません。過去を思い出し、現在をいきいきと楽しむには、ヘルパーや施設、介護の専門家以上のだけが必要が必要です。……人生の朝とも呼べる青春時代を取り戻してあげることはできませんが、思いやりの心や……偽りのない兄弟愛によって、人生の夕べをいっそう美しく輝く暖かい光の中で過ごせるようにすることはできるのです。」¹¹

誕生日カードと手紙は、若い男性と若い女性のクラスに所属する10代の若者からも届きました。病院に寄付するための毛布作り、食料配給所での奉仕、死者のためのパプテスマなど、いろいろな奉仕をしてくれました。

常に人々を助けている扶助協会も、普段以上の奉仕を行ってくれました。神権者たちも同様でした。

兄弟姉妹の皆さん、妻とわたしは文字どおり何時間もかけてこれらの贈り物に目を通しましたが、これほど感動し感謝の念に打たれたことはありません。今この経験について話しながら、与える人の生活も受ける人の生活も祝福されたことを思うと、胸がいっぱいになります。

マタイ書第25章の言葉が浮かんできます。

「『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あな

たが空腹であるのを見て食物をめぐみ、
かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を
貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄に
いるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あ
なたがたによく言うておく。わたしの兄弟で
あるこれらの最も小さい者のひとりにした
のは、すなわち、わたしにしたのである。』¹²

兄弟姉妹の皆さん、ジャック・マコネル
博士ときょうだいたちが毎晩夕食の時間
に尋ねられた言葉を、いつも自分自身に
問うことができますように。「今日だれか
のために何かをしてあげただろうか。」よ
く知っている賛美歌の歌詞がわたしたち
の心にしみわたり、長くとどまりますように。

今日われ善きことせしか
人を助けしか
悲しきをも慰めしか
かくせずば悪し
人の重荷軽くして
わが手貸したるか
病みて疲れし者助け
そこにわれおりしか¹³

わたしたち皆が行うように召されている
奉仕は、主イエス・キリストの奉仕です。

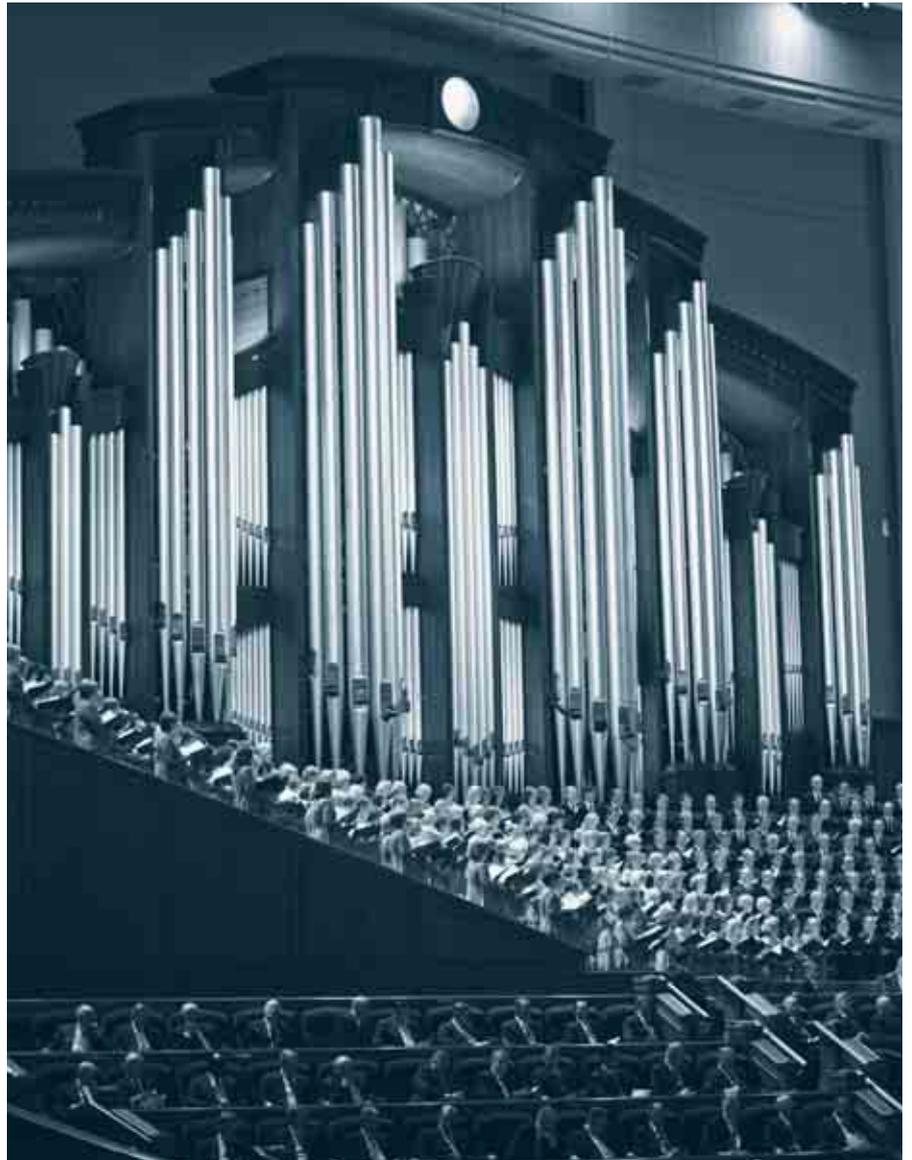
主の大義のためにわたしたちの奉仕を
求める主は、主に近づくようわたしたちを
招いておられます。主は皆さんに、またわ
たしに語っておられます。

「すべて重荷を負うて苦勞している者
は、わたしのもとにきなさい。あなたがた
を休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者で
あるから、わたしのくびきを負うて、わた
しに学びなさい。そうすれば、あなたが
たの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの
荷は軽いからである。』¹⁴

もし心から耳を傾けるならば、かつて
だれかに語られたあの声が、遠くからわ
たしに語りかけるように聞こえてくるで
しょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。』¹⁵



そのような祝福を主から頂けるように、わ
たしたち一人一人がふさわしい者となれ
るように祈ります。わたしたちの救い主イ
エス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジャック・マコネル, "And What Did You Do for Someone Today?" *Newsweek*, 2001年6月18日付, 13
2. ジャック・マコネル, "And What Did You Do for Someone Today?" 13
3. ガラテヤ5:13
4. モーサヤ2:17
5. ルカ9:24
6. デビッド・O・マッケイ, *Conference Report*, 1963年10月, 8
7. エレミヤ8:22参照

8. モーサヤ18:8

9. 作者不明, リチャード・L・エバンズによる引用, "The Quality of Kindness," *Improvement Era*, 1960年5月号, 340

10. ゲリー・アバント, "Prophet's Birthday," *Church News*, 2008年8月23日付, 4参照

11. リチャード・L・エバンズ, "Living into Loneliness," *Improvement Era*, 1948年7月号, 445

12. マタイ25:34-40

13. 「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番

14. マタイ11:28-30

15. マタイ25:21

魂の安寧

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

神の裁きの法廷に立つときにぜひとも明白であるよう望んでいることがあります。それは、……モルモン書が真実である……ことを、……わたしが世界に宣言したということです。



終 わりの時に関する預言は、地震、飢饉、洪水といった大規模な災害についてしばしば触れています。これらを発端として、何らかの経済的または政治的な変動が世界の様々な場所で広まることもあります。

しかし、わたしはこの末日に起きる破壊の一つに、公衆に対してというよりは個人に対して、全体に向けてというよりは個々に向けて語られていると感じてきたものがあります。それは、教会外よりも恐らく教会内に、より当てはまる警告です。救い主は、終わりの時には「聖約」を受けた者、真の選民でさえも真理の敵に惑わされることがあると警告されました。¹ これを霊的な破壊の一つと見るならば、末日に関する別の預言にも理解の光が注がれるでしょう。わたしたちの心を、信仰の中心、忠実さや価値観が存在する場所であると想像したうえで、終わりの時に人々の

心が失われるであろう²と宣言されたイエスの御言葉について考えてください。

言うまでもなく、勇気を与えてくれるのは、天の御父がこれらの末日の危険、心と魂の悩みをすべて御存じであって、それらに関する勧告と守りをお与えになっているということです。

この点に関していつも意義深く感じるのは、末日の苦難に立ち向かううえで主の力強いかなめ石³の一つであるモルモン書が、希望と恐怖、光と闇、救いと滅亡など、人生についての偉大なたとえで始まっているということです。このたとえについては、今朝、アン・M・ディブ姉妹が心に残る話をしてくれました。

リーハイの夢で暗黒の霧が起り、リーハイの家族やほかの人々が進むべき、安全ながら狭い道がまったく見えなくなると、それまでも大変だった道のりがさらに厳しい旅となりました。ここで見落としてはならないのは、この暗黒の霧がすべての旅人、つまり、必ずしも強くない人や真実の原則という土台に立っていない人だけでなく、忠実で、固い決意を持った人(選民と呼んでもいいでしょう)にも降りかかったという点です。この物語で大切なのは、立派に旅を終えた人が、禁じられた道への誘惑や、その道に迷い込み虚栄と自尊心に凝り固まってしまった人々からのあざけりなど、道からそらそうとするあらゆるものに抵抗したということです。記録によると、守られた人々は、真理の道に沿ってどこまでも延びる鉄の棒に「しっかり[わたしなりの言い方では、粘り強く]……つまりかまりながら道を押し進」んでいました。⁴

どれほど暗い夜も、あるいは昼も、鉄の棒は贖いに通じる唯一の道を示しています。

後にニーファイはこう言いました。「鉄の棒〔は〕……命の木に導く神の言葉であ〔り〕……神の愛の表れであることを知った。」神の愛の表れを見たニーファイはさらにこう言いました。

「それで眺めると、……世の贖い主が見え、……出て行き、……人々を教え導かれるのが見えた。……

……病気の人々や、様々な思いに苦しんでいる人々、悪霊や汚れた霊につかれて苦しんでいる人々の群れが見えた。……これらの人々は神の小羊の力によって癒され、また悪霊や汚れた霊は追い出された。」⁵

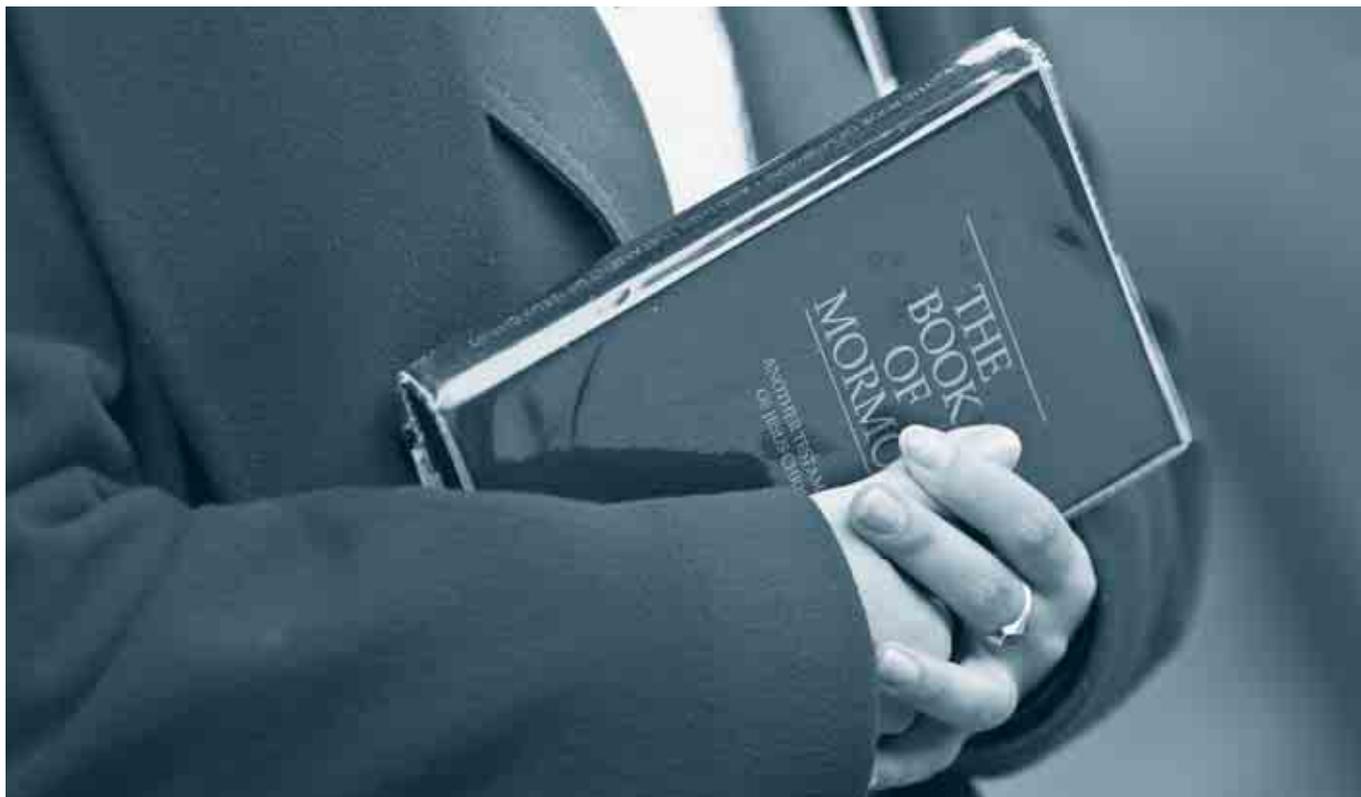
愛、癒し、助け、希望、時の終わりを含むあらゆる時代のすべての問題を解決するキリストの力。これが、絶望する個人または社会が身を寄せるよう神が望まれる安全な港です。これが、モルモン書が一貫して伝えている、「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい」⁶とすべての人に呼びかけるメッセージです。リーハイの示現から1,000年後に記されたモロナイの最後の証から引いたこの言葉は、唯一の真実の道についての、死を目前にした人の証なのです。

近代に語られた「終わりの時」の証を紹介しましょう。ジョセフ・スミスと兄のハイラムが、殉教が迫っていることを知りながらカーセージに向かって出発したとき、ハイラムは弟の心を慰めるために次の一節を読みました。

「あなたは忠実であったので、……あなたは……強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。

さて、わたしモロナイは、キリストの裁きの座の前で会うときまで、……別れを告げる。」⁷

それはモルモン書のエテル書第12章にある数節でした。ハイラムはモルモン書を閉じる前に、読んだページの角を折り返し、永遠の証に付け加えました。この証のために、二人の兄弟は命を落とそうとしていたのです。わたしが今手にしているのは、ハイラムが読んだそのモルモン書です。ページの角が折られているのが



今でも分かります。後に、カーセージの監獄に入れられた預言者ジョセフは、自分たちを見張る看守に向かい、モルモン書が神聖な真実の書物であることを力強く証しました。⁸そして間もなく、最期の言葉を残した二人の命を銃弾が奪ったのです。

モルモン書が神聖な書物であるというわたしの証の根拠となる数え切れないほど多くの要素の一つとして、わたしはこれをモルモン書が真実であることを示すさらなる証拠として提示します。最も助けを必要とする最期の時を迎えたこの二人が、事実に基づかない、作り話でできた書物に命と名誉をかけ(これには、教会と教導の業という意味も加えることができます)、そこに永遠の救いを探し続けることで、神を冒瀆するでしょうか。

このすぐ後に、ジョセフとハイラムの妻たちが夫を、そして子供たちが父親を失ったことは考慮しないでください。また、従ってきたわずかな人々も「家、友達、家庭を失」い、その子供たちが凍りついた川と未開の大草原に血の足跡を残すことになった⁹ことも忘れてください。そして多くの人が命を失い、また多くの人が生きて、モルモン書と、モルモン書が真実であることを宣言する教会のために世の隅々ま

で出て行ったということも忘れてください。このすべてを考慮から外したとしても、死を目前にした二人の兄弟が、もし神の御言葉でないとしたら時の終わりまでもペテネ師、詐欺師の烙印を押されるような書物から引用し、慰めを見いだしながら永遠の裁き主の御前に行こうとするでしょうか。そのようなことをするはずがありません。二人は、モルモン書が神聖な起源を持つ永遠に真実の書物であることを否定するくらいなら、むしろ進んで死を選ぶ人たちでした。

この書物は、179年間にわたって調査され、攻撃を受け、否定され、細部まで調べ上げられ、標的にされ、非難を浴びてきました。これほどの書物は近代の宗教史には恐らくなく、どの宗教史においてもきつとないでしょう。この書物は今なお立っています。モルモン書の起源については、イーサン・スミスやソロモン・スポルディングの書物を基にしているという説から、錯乱した被害妄想者か天才的な悪人だから書けたという説まで、成功することのない理論が生まれ、おうむ返しに繰り返されては消えていきました。モルモン書について、このような、率直に言えば哀れと言うほかない結論の中で、検証に耐えたものは

一つとしてありません。なぜなら、無学な若き翻訳者ジョセフが示した答え以外に答えはないからです。この点について、わたしは曾祖父が短くまとめた言葉に共鳴しています。「悪人にこのような本は書けない。この書物が真実であって、神から命じられるのでなければ、善良な人も書くことはできないのだ。」¹⁰

モルモン書が神聖な書物であることと、モルモン書が証する主イエス・キリストが神の御子であられることを心から受け入れないがぎり、この末日の業に十分な信仰を持つこと、そしてそれにより現代にあって完全な平安と慰めを得ることはできないと証します。愚かにも、または惑わされて、真剣にこの書物の起源を調べようとしないのであれば、特にイエス・キリストに対する力強い証について知り、その証が今では1,000万を超える読者に深遠で霊的な力を与えている理由を知ろうとせずに、世が知らなかった、複雑な文学と入り組んだセム族文化を満載した531ページの文章を否定するのであれば、その人はだれであろうとも、そして選民であるかないかにかかわらず欺かれているのです。そうした人が教会を去るのであれば、その人は、あらゆる理由を使ってモルモン書と向き



合うことを拒否しておきながら、モルモン書を理由に教会を去っているに違いありません。この意味でモルモン書は、キリスト御自身もそう言われたように、「つまずきの石、妨げの岩」¹¹であり、この業を信じないことを望む人の道を阻む障壁なのです。証人たちは、ジョセフに対して一時は敵意を抱いていた人でさえも、自分が天使を見て、金版に手を触れたことを生涯にわたって証しました。「それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力による」と彼らは宣言しています。「したがって、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知っている。」¹²

さて、わたしはヤレドの兄弟とともに海を渡って新世界に定住の地を見いだしたわけではありません。天使から告げられた教えをベニヤミン王が語るのを聞いたわけでもありません。アルマとアミュレクとともに伝道したわけでも、罪のない信者たちが火で殺されるのを見たわけでもありません。復活された主の傷に触れたニーファイ人の群衆の中にもわたしはいませんでした。一つの文明が完全に滅びていくのを見てモルモンとモロナイとともに涙を流したわけでもありません。それでも、わたしはこの記録について証します。この記録が人の心にもたらす平安は、モルモ

ン書に登場する人々が経験したと同じように力があり、鮮明です。彼らと同じように「〔わたし〕は、〔自分〕が見たことを世の人々に証するために、〔自分の名〕を公に」します。そして彼らと同じように、「〔わたしは〕偽りを言〔いません〕。神がそのことを証され〔ます〕。」¹³

今日、この話を通して、わたしがモルモン書とその内容について、誓いを込めて、また自分の神権の職に基づいて証したということが、地上の人々と天の天使たちによって記録されるよう願っています。わたし自身の「終わりの時」までまだ数年の猶予があることを望んでいますが、この望みがかどうかどうかにかかわらず、神の裁きの法廷に立つときにぜひとも明白であるよう望んでいることがあります。それは、モルモン書が真実であり、ジョセフが述べた方法で世に出され、この末日の苦しみの中で忠実でいる人に幸福と希望をもたらすために与えられたことを、自分の知り得るかぎり最も率直な言葉でわたしが世界に宣言したということです。

わたしの証は、ニーファイが自分の「最後の時」にモルモン書に記した証と同じです。

「これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。また、これらの言葉を信じなくて

も、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉〔だ〕……からである。そして、これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に教えている。

これらがキリストの言葉でないかどうか、判断してもらいたい。キリストは終わりの日に、力と大いなる栄光とをもって、これらが御自分の言葉であることをあなたがたに示されるであろう。」¹⁴

兄弟姉妹、神は魂の安寧を用意してくださっています。神はモルモン書を通して、この時代のわたしたちにも再び安寧を与えてくださっています。「だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない」¹⁵とイエス御自身が宣言されたことを覚えていてください。そうすれば、皆さんの心も信仰もなくなることはないでしょう。このことを心から、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

注

1. マタイ24:24参照。ジョセフ・スミス—マタイ1:22も参照
2. ルカ21:26参照
3. *History of the Church*, 第4巻, 461参照
4. 1ニーファイ8:30
5. 1ニーファイ11:25, 27–28, 31
6. モロナイ10:32
7. エテル12:37–38。教義と聖約135:5も参照
8. *History of the Church*, 第6巻, 600参照
9. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第4巻, 539で引用
10. ジョージ・キャンノン, “The Twelve Apostles,” アンドリュー・ジェンソン編, *The Historical Record*, 第6巻, 175で引用
11. 1ペテロ2:8
12. 「三人の証人の証」モルモン書
13. 「八人の証人の証」モルモン書, 強調付加
14. 2ニーファイ33:10–11, 強調付加
15. ジョセフ・スミス—マタイ1:37

管理人の職—— 聖なる信頼

十二使徒定員会

クエンティン・L・クック長老

〔わたしたちは〕^{みこころ}そうすることが神の御心であるという信仰に基づいて同胞に仕え(ます)。



わたしたちは苦難の時代に生きています。多くの人が、神に報告する義務などないと考え、自分や他人に対して個人的な責任や管理人の職はないと思っています。多くの人が自己の欲求を満たすことを求め、自分のことを最優先し、義よりも快樂を愛しています。自分が兄弟の番人だとは考えていないのです。しかし教会では、これらの管理人の職は聖なる信頼であると信じています。

最近のことですが、名高いユダヤ人指導者とラビの一人がソルトレーク盆地を訪れ、教会のウェルフェアスクウェア、人道支援センター、家族歴史図書館、ユタ州オーカーマウンテン神殿のオープンハウスなどを見学しました。見学が終わると、アメリカ在住の非常に著名なラビの一人が、見学で感じたことを語りました。¹

そのラビは、タルムード²に基づいたユダヤ人思想家の概念を引用して、人が優しく寛大になる理由には二つあると指摘しました。一般の人にとって、病人を見舞い、貧しい人を助け、^{はらから}同胞に仕える理由は、そうすることが正しいことだし、そうすれば自分も困ったときに助けてもらえるだろうと思うからです。これは良いことであり、地域の助け合いの精神を高めますが、そうすることが神の御心であるという信仰に基づいて同胞に仕える方が、気高い理由であり、高貴な動機であると、このラビは説明しました。

ラビは、この訪問を通じて、末日聖徒は福祉や人道支援、神殿での救いの業を、そうすることが神の御心だからという信仰に基づいて行っていることが分かったそうです。

報告する義務があると感じることは、神を愛せよという最も大切な戒めの一部ですが、これは「強制なさらぬ御方への服従」とも呼ばれます。³ わたしたちが正しいことを行おうとするのは、天の御父を愛し、御父に喜んでいただきたいからであって、強制されているからではありません。

天上での戦いが起こったのは、サタンがすべての人を強制的に従わせると言った後でした。しかし、その言葉は拒否されました。その結果、この世の生活において選択の自由があるのです。しかし、選択の自由には報告の義務が伴います。わたしたちは「裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負うように」になると主はお

っしゃっています。⁴ 報告の義務と管理人の職の原則は、教会の教義の中で非常に重要です。⁵

教会においては、管理人の職は物質面での信頼または責任にとどまりません。キンボール大管長はこう教えています。「わたしたちは自分の体、心、家族、財産を管理しているにすぎません。忠実な管理人になるには、義にかなって治め、自己に属するものを世話し、貧しい人、乏しい人に目を向ける必要があります。」⁶

今日は、管理人の職の二つの分野について話します。第1の分野は、自分自身と家族に対する管理人の職、第2の分野は貧しい人や困っている人に対する管理人の職です。

報告の義務と管理人の職について教える際、主はよく土地を使ったたとえをお使いになりました。幼いころ、わたしは夏によく祖父母の牧場に遊びに行きました。電気も水道も水洗トイレありませんでした。しかし、祖父母の平屋建ての家の横には泉がわいていました。泉は小さな池を作り、池の水は透き通ってきれいでした。その池から水を運んで飲料水や料理、行水、洗濯に使うのです。わたしは祖母が水を運ぶのを一日に何度も手伝いました。祖父母は命を支えるこの泉を非常に大切にしており、これを守るために特別な注意を払っていました。

多くの歳月が流れ、祖父は90代前半になりました。祖父はすでに農場での暮らしを終えていました。維持管理ができなくなったためです。わたしは祖父を車に乗せ、祖父が愛した牧場に連れて行きました。ところが、あんなに牧場を見たがっていた祖父の期待は裏切られました。泉を保護していた柵は壊れ、牛が泉を荒らし、貴重なわき水は汚れ切っていました。荒らされ、汚れてしまった泉を見て祖父は動揺しました。祖父にとっては、職業人生を通じてずっと守ってきたものが汚されてしまったのです。あれほど大切にしていた、生命線とも言える泉を自分は守り抜くことができなかったと祖父は感じていたようでした。

あの清らかな泉が守られていない間に汚されてしまったように、わたしたちは徳や



貞潔がきちんと守られていない時代に生きています。⁷ 道徳的な清さには永遠の価値がありますが、それが大切に守られていないのです。天の御父は、霊の子供たちをこの世に送り出し、彼らがその創造の目的を達するために、わたしたちにある手段をお与えになりました。その命を生み出す泉を汚れから守るよう、御父は命じておられます。それは命を保つために牧場の泉を守る必要があったのと同じです。これが、徳と貞潔が御父の天の計画の中で非常に大切にされている理由の一つです。

泉が汚れてしまったのを見て祖父があまりにも悲しんだため、わたしたちは手入れをし、柵を設けました。すると、泉には美しさと清らかさが戻りました。

主の道徳の標準を教えることは、主イエス・キリストに仕えるわたしたちに与えられた神聖な責任です。この標準は、主のすべての子供たちに共通のもので、思いや行いが汚れていれば、標準を犯していることとなります。主は「わたしは、……ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはしない」と言っておられるからです。⁸ 中には、自分の汚れた行いの言い訳をしようとする人もいます。

ジョン・ホームズの「トーク」という詩の中で、ニューイングランドの耳の不自由な年老いた船大工が、若者に合理的に考えることについて教えます。若者は自分が学んだことについてこのように語っています。「ぼくは気づいてなかったかもしれない、

どんなに造るにせよ船は水の上を走らなきゃならないってことを。海に言い訳は通用しないんだ。」⁹

「この街(ラスベガス)での経験は他言無用」という言葉がありますが、わたしはユタ州サビア郡にある「サビア郡での経験を……友達に話そう!!!」という看板が好きです。神に報告しなければならないことを悟ると、自分の行いを正当化するのがばかげているのが分かります。悪い行いを正当化する人は、自分の手で目をふさいでいる子供のように、自分に周りが見えないから周りの人にも自分が見えないと考えているのです。自分の行いについて主に報告することを考えてみれば、自分の説明が正当かどうか分かるでしょう。

神聖な道徳の標準に反する行いにすでにかかわっている人もいます。あの泉が清く汚れない状態に戻ったように、悔い改める人はだれでも救い主の贖いあがなを通じて元に戻れることを理解してください。悔い改めは困難であり、打ち砕かれた心と悔いる霊が求められます。¹⁰ しかし、悔い改めの段階を義にかなって歩む人には、預言者アルマが語った言葉が当てはまります。道徳的な罪を犯した息子コリアントンに、アルマはこう言いました。「さて、わが子よ、あなたはこれからはもう、これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。」¹¹ 救い主はこう言っておられます。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦ゆるされ、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」¹²

家族に対する管理人の職に関して、わたしたちは主に報告するときに、地上での責任について報告を求められると教えられています。二つの大切な質問は家族に関するものです。第1は伴侶はんりょうとの関係、第2は子供たち一人一人との関係についてです。¹³

わたしたちは優先順位を間違えがちです。わたしたちには子供が物質面で安全で豊かに生活を送れるようにする義務があります。しかし、この世の財産や富を大切にしすぎる親もいます。キリストの福音を子供の心に深く浸透させることに熱心でな

い親もいます。¹⁴ 宗教的な規律を家庭で守ることは、衣食住を与えるのと同様に大切です。親はまた、子供が才能を見いだして伸ばすのを助けることができます。わたしたちには、与えられた才能を伸ばす責任があります。自分の時間や才能に対して責任を持つことを教えられていない子供は、世の中に蔓延する愚かで不義な行いにますます陥りやすくなります。¹⁵ 『家族——世界への宣言』には「家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります」という警告の言葉が記されています。¹⁶

二つ目の管理人の職は貧しい人の世話をすることです。人は皆時々貧しさを経験します。わたしたちは困っている人に対する管理人です。この教えを語る時、主はかなり強い語調を用いておられます。「……わたしの造った豊かなものの中から取りながら、わたしの福音の律法に従って貧しい者や乏しい者に物を分け与えることをしない者は、悪人とともに、地獄で苦しみながら見上げるであろう。」¹⁷ わたしたちは主がこの地上で下さった祝福の管理人として報告する責任があります。

先に話したユダヤ人の指導者たちは、断食し、その後断食献金を惜しみなくささげるという原則について、特に感銘を受けていました。世界中の教会員が毎月断食して、困っている人を助けるために自由意志で献金することは驚嘆に値すると思っただけです。

ウェルフェアスクウェアを訪問したラビたちは、教会員が、苦勞している人々のことを思いやり、この不況下にあっても惜しみなく献金し、貧しい人を助けようとしていることを知って感心していました。

わたしはビショップに召されたとき、会員に助けを求める際に気をつけることについて、前ビショップのラッセル・ジョンソン兄弟から助言を受けたことを覚えています。彼は「大きな犠牲を払ってでもすべての提案に応じようとする会員がいる」と言い、夫を亡くした80代の女性について話しました。夫と息子の最期を看取った女性で、つましい暮らしにもかかわらず、常に奉仕の要請にこたえようとするのだ



とジョンソンビショップは言っていました。忠告のとおりでした。献金や奉仕が必要だとわたしが言う時、真っ先に協力してくれるのはたいていサラでした。

ある土曜日、別の姉妹が電話をかけてきました。「ビショップ、すぐ来て、サラを助けてください。」80歳のサラがはしごのてっぺんに上って、隣人であるこの姉妹の家の雨どいを掃除していると言うのです。サラが落ちるのではないかと心配で、姉妹はビショップに説得してほしかったのです。

だれもがサラのようにになれるわけではありません。すべての要求に即座に対応し切れず、後ろめたさを感じる人もいます。マックスウェル長老がよく使った、リンドバーグの言葉を引用したいと思います。「わたしは生涯をかけても、わたしの心にかかっているすべての人の要求を満たしてあげることはできない。」¹⁸ ベニヤミン王はこう教えています。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。」¹⁹ しかし王は、勤勉に励まなければならないとも述べています。

教会中の至る所で聖徒たちが、求められる所へ行き、精いっぱい努力してキリストのような奉仕を行っているのを見るとき、教会は目立たずひそかに速やかに、世界中の困っている人に援助の手を差し伸べています。²⁰ 教会は、フィリピン、太平洋諸島、インドネシアの自然災害にすぐに対応

しています。

昨年、教会員は、マーティン・ルーサー・キング3世の率いる人道支援団体と連携を取りながら台風「グスタフ」の被災者を支援しました。キング氏は後にソルトレーク・シティーを訪れ、こう述べました。「わたしは最初、人道支援に協力して下さったことに対して感謝を述べるために来ました。しかし、教会員の本質はもっと深遠なものだということがすぐに分かりました。人道支援センター、ウェルフェアスクウェア、神殿のオープンハウスを見て、皆さんが支援してくださった理由を知り、感謝の念が深まりました。」

どのような管理人の職を果すときにも、わたしたちはイエス・キリストに従います。わたしたちはイエスが教えと模範を通しておなじになったことを行おうとしています。惜しみなくささげ、キリストのような奉仕をしている教会の会員たちに心から感謝します。

イザヤは、断食し、飢えた者に食べさせ、裸の者に着せる人に対して、「あなたが呼ぶ時、主は答えられ[る]」と感動的な言葉で約束しています。²¹ イザヤはこう続けています。「飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、……主は常にあなたを導き、……あなたは……水の絶えない泉のようになる。……[そして]あなたは代々やぶれた基を立て[る]……。」²²

わたしの望みは、わたしたちが個人として、また家族として、管理人の職についても一度振り返ることです。わたしたちには管理人の職に対して責任と報告義務があります。わたしたちが最終的には神に報告する責任があることを踏まえながら、管理人の職について振り返り、この人生において、強制なさらない御方からいつも離れずにいることができるよう、わたしは祈ります。

困っている人々に仕え、彼らを助けるといふ、愛ある忠実な預言者からの勧めにわたしは感謝しています。彼の勧めに従うとき、「だれでも忠実で、正しく、賢い管理人であると認められる者は、主の喜びに入り、永遠の命を受け継ぐであろう」という主の約束を受けるにふさわしい者となれることをわたしは知っています。²³

この神聖な真理についてイエス・キリス



ペルー・リマの教会員

トの御名により証します、アーメン。

注

1. ラビ・ハスケル・ルックステイン, 前ニューヨークラビ委員会会長, Synagogue Council of America会長および National Rabbinic of the UJA議長
2. 「タルムード。タルムードとは、数千年にわたるユダヤ人の知恵と口伝律法が書き記された文書群で……このラビは、タルムードに出てくる表現を引用している。」(アデイン・スタインサルツ, *The Essential Talmud* (2006年), 4)
3. ジョン・フレッチャー・モールトンの言葉, クレートン・M・クリステンセン, “The Importance of Asking the Right Questions” (サザン・ニューハンブシャー大学学位授与式でのスピーチ, 2009年5月16日), 3で引用; 申命6:4-7も参照
4. 教義と聖約101:78
5. 教義と聖約20:71参照。ただし、責任を負うことができる者は皆、悔い改めてバプテスマを受けなければならない(教義と聖約18:42参照)。責任を負うようになる前に死ぬ子供たちは日の栄えの王国に救われる(教義と聖約137:10参照; 教義と聖約29:46-47, 50も参照)。
6. スペンサー・W・キンボール「福祉活動: 福音の実践」『聖徒の道』1978年2月号, 119参照
7. グレゴリー・キャッツ, “U.K. Health Booklet’s Message: Teen Sex Can Be Fun,” *Deseret News*, 2009年7月15日付, A9
8. 教義と聖約1:31
9. “Talk,” ジョン・ホームズ詩集 <http://hdl.handle.net/10427/14894>に収録
10. 教義と聖約20:37; 2ニーファイ2:7; アルマ39章; 3ニーファイ9:20参照。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、打ち砕かれた心と悔いる霊について、次のように説明している。「神の御心に添った悲しみは、……自分の行いが神に対する罪であることを深く認識することです。また……[次のことを]ははっきりと自覚することでもあります。主はわたしたちの罪のゆえにあらゆる毛穴から血を流されたのです。霊的に、また精神的にこのような苦しみを味わうことについて、聖典には、『打ち砕かれた心と悔いる霊』を持つという表現が用いられています。」「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月号, 5

11. アルマ42:29
12. 教義と聖約58:42
13. ロバート・D・ヘイルズ, “Understanding of the Heart,” *Brigham Young University 1987-88 Devotional and Fireside Speeches* (1988年), 129参照; 2ニーファイ9:41も参照
14. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Take Heed to Yourselves!* ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編 (1971年), 221参照
15. マルコ7:20-23参照
16. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 19; ラッセル・M・ネルソン「あなたの家を整えなさい」『リアホナ』2002年1月号, 80-83も参照
17. 教義と聖約104:18参照
18. アン・モロー・リンドバークの言葉, ニール・A・マックスウェル「賢明に秩序正しく」『リアホナ』2001年12月号, 20で引用
19. モーサヤ4:27
20. 過去10年にわたり、教会は9億ドルの寄付と人道支援物資の援助を行い、教会の男女は膨大な時間を費やして奉仕活動を行ってきた。例えばハリケーン「カトリーナ」の被災地では、延べ33万時間に及び熱心な奉仕が行われた(この支援作業を監督した地域七十人のジョン・S・アンダーソン兄弟からの報告)。
21. イザヤ58:9
22. イザヤ58:10-12
23. 教義と聖約51:19。マタイ25:34-46も参照

若い世代への召し

七十人

ブレント・H・ニールソン長老

**「すべての国民を弟子として、父と子と聖霊の名によって、彼らにバプテスマを施すこと」
以上に偉大な召しはありません。**



地 上での務めを終えた後、救い主は復活体で使徒たちの前に御姿を現されました。そのとき使徒たちは、今日の若い世代の皆さんと同じ召しを受けました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し[なさい。]」(マタイ28:19)

1974年4月6日、スペンサー・W・キンボール大管長が新たな預言者として支持されました。同じ日、わたしは専任宣教師としてフィンランドに召されました。キンボール大管長がその週、教会の中央幹部と地区代表に、歴史的な説教をしたことを、当時のわたしは知りませんでした。後に、キンボール大管長がその説教の中で、「すべての国民を弟子と」するという救い主の命令を教会全体でどのように達成するのかを預言者として示したことを知りました。説教の中で、キンボール大管長は

教会員に、歩幅を広げ、視野を広げるよう勧告しました。一人一人のふさわしい若い男性に、栄えある専任宣教師となる備えをするように言いました。各国の会員に、自国で奉仕する十分な数の宣教師を備えるよう励ましました。さらに、有能な人々に、各国の扉を開くために世界に出て行き十二使徒を助けるよう呼びかけました。(「この世が改宗するとき」『聖徒の道』1984年9月号, 5)

キンボール大管長は1974年の説教の中で、教会は330万人の会員と、1万8,600人の専任宣教師を擁しており、633のステークがあると述べ、さらに努力し、見方を変え、より良い展望を持つよう勧めました(“When the World Will Be Converted,” *Ensign*, 1974年10月号, 7-8参照)。

それにこたえて、わたしたち教会員は、家族で、聖餐会で、ステーク大会でいつも、国々の指導者の心が和らいで、教会の宣教師たちのために門戸が開かれるようにと祈るようになりました。会員たちは福音を伝える自分たちの責任をさらに自覚するようになりました。教会の若い男性はキンボール大管長の勧告に従い、宣教師の大いなる軍勢が集まりました。わたしたちは、キンボール大管長のビジョンが現実になるのを目の当たりにしました。

フィンランドで伝道中、伝道部会長夫人のリア・マホネー姉妹がフィンランド出身であると知りました。フィンランド東部の町ビープリで少女時代を過ごした彼女は、第二次世界大戦中、荒廃がフィンランドや他の国々を飲み込む中、家族とともに故郷を離れました。ビープリはソ連に併合さ

れ、ビープリと名前を変えました。宣教師のゾーン大会で、マホネー姉妹はビープリに残された人々のことや、彼らに福音を届けたいと心から望んでいることについて、いつも話していました。キンボール大管長の勧告に従い、わたしたちはその国の指導者の心が和らぎ、末日聖徒の宣教師がソ連に福音を届けられるよう、一致して祈りました。

わたしたちは何度もフィンランドとソ連の国境に行き、見張り塔と柵を見て、だれがその勇敢な若い男女になるだろう、そして、彼らはいつ国境を越えてロシアに福音を届けるだろうかとよく考えていました。正直なところ、当時のわたしには、それは実現不可能なことに思えました。

3年前、息子のエリックがロシア・サンクトペテルブルク伝道部への召しを受けました。伝道地からの最初の手紙にはこうありました。「お母さん、お父さん、ロシアで最初の町が割り当てられました。お父さんは聞いたことがあるかもしれませんが、ビープリという町です。以前はフィンランドの一部で、ビープリと呼ばれていました。」

エリックが召された町が、わたしたちが32年前に祈ったまさにその町であることを知り、涙がこみ上げてきました。エリックはその町の教会堂と忠実な支部の聖徒たちを見つけました。わたしが若いころ、入るのは不可能だと思っていた場所で、息子は生活し、働いたのです。

何年も前に、国境が開かれて宣教師が入れるようにというわたしたちの祈りが、息子のための祈りになっていたとは、思いも寄りませんでした。若い世代の皆さん、重要なのは、息子のエリックは、自分と同僚が、何年も前の何千という忠実な聖徒たちのささげた祈りの答えであると気づいていなかったことです。若い世代の皆さんは、預言の成就です。すなわち、わたしたちの時代には「神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、業は成就したと仰せになるのである。」(ジョセフ・スミス, *History of*



the Church, 第4巻, 536)

35年前のキンボール大管長の預言から現在までに、教会員総数は1,350万人を擁するまでになり、宣教師の数は5万2,000人に、シオンのステーキは2,800以上になりました。この不思議な驚くべき業を世にもたらす助けをした果樹園の働き手とは、だれのことでしょうか。もちろん、今日わたしたちの前に座っている預言者や使徒たちはそうです。また、忠実に働いているすばらしいステーキ会長やビショップたちもそうです。また、今日の若い世代である皆さんのそばにいる両親、すなわち母親、父親、また、おば、おじ、兄弟、姉妹たちもそうなのです。しかし、最も重大なのは、わたしたちがすべての国に福音を届けよう

と努力しているとしても、それはわたしたちがまだほんの一部を始めたにすぎないという事実です。

そして、たいまつは新しい世代に受け継がれました。救い主は、御自身の今日の預言者トーマス・S・モンソンを通じて、もう一度同じ招きをお与えになりました。

「基本方針は、主なる救い主、全世界の宣教師の軍勢を指揮する長として立つ御方から出されました。復活した後、主は11人の弟子に御姿を現されました。主はそのとき、どのような勧告、思い、警告も伝えることができなくなったはずですが、しかし主は何と言われたのでしょうか。それはマタイによる福音書第28章19節から20節に記されています。

『それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。』

モンソン大管長はこう続けました。「何という約束でしょう。この神聖な召しにこたえるなら、『わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』という権威ある約束を受けるのです。わたしはこれ以上の約束を知りません。」 (“The Five M’s of Missionary Work,” *New Era*, 2007年3月号, 42)

モルモン書の中で、ヤコブは、ゼノスの

言葉を引用し、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木のたとえを通じて今日のわたしたちの役割を説いています。「だから、行って僕たちを呼び集めなさい。わたしたちは果樹園で力を尽くして熱心に働き、もう一度自然の実を結ばせる準備をしよう。自然の実の良い実であり、ほかのどんな実よりも価値のあるものである。」

だから、行って、この最後の時に当たって、わたしたちの力を尽くして働こう。終わりは近づいている。これはわたしが果樹園で刈り込みをする最後の時である。」(モルモン書ヤコブ5:61-62)

救い主の召しは、若い皆さんの世代に向けられています。主はふさわしく、備えのできた、忠実な若い男性と若い女性を求めておられます。預言者の声を心に留め、さらに、困難に遭いながらも、救い主御自身が言われたように「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」と言う若い男性と女性を求めておられるのです(アブラハム3:27)。主はかつてないほどに皆さんを必要とされています。畑はかつてないほど白くなっています。皆さんは「この最後の時に」出て行くよう召されています。(モルモン書ヤコブ5:62)「すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施[す]」(マタイ28:19)こと以上に大いなる召しはありません。

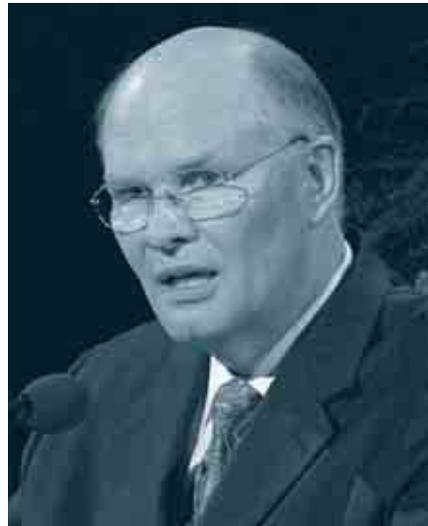
わたしは、天が開かれていることを厳粛に宣言し、証します。神はこれまで同様、今日も語られます。神の御子イエス・キリストは生きておられます。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と言ってペテロとアンデレを招いたのと同じように皆さんを招いておられます(マタイ4:19)。彼らのように皆さんも主にこたえ、すぐに網を捨てて主に従いますように。

若い世代の皆さんが、真理と義のために立ち上がり、出て行ってすべての国民を教えるという神聖な召しを理解できるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

心の大きな変化を 抱き続ける

七十人
デール・G・レンランド長老

最後まで堪え忍ぶためには、熱心に神を喜ばせ、真剣に神を礼拝する必要があります。



1967年12月、南アフリカ・ケープタウンで、最初の成功例となった心臓移植手術が行われました。瀕死の男性から病気の心臓が摘出され、死亡した提供者からの健康な心臓が縫合されました。それ以来世界中で、7万5,000件以上の心臓移植手術が行われています。

心臓の移植を受けると患者の体は、命を救うはずの新しい心臓を「異物」と判断して攻撃を始めます。それに対して何も処置をしなければ、自然な反応として体は新しい心臓を拒否し、患者は死に至ります。薬によってこの反応は抑制できますが、毎日処方されたとおりに服用しなければなりません。さらに、新しい心臓の状態を観察する必要があります。時には、

心臓からわずかな組織を採取して顕微鏡で検査する生体検査を行います。拒否反応の兆候が見られれば、それに合わせて薬が処方されます。拒否反応を早く見つけることで、死を防ぐことができます。

驚くのは、移植された心臓に対してむとんちゃくになる患者がいることです。薬をきちんと飲まず、必要な検査を必要な回数受けません。体調は良いから、すべて大丈夫だと思うのです。多くの場合、このような近視眼的な考えは患者を危険にさらし、その命を縮めてしまいます。

心臓疾患で死亡する人々でも、移植により寿命を何年かでも延ばすことができます。しかしそれは、1967年に『タイム』誌¹が語った「究極の手術」ではありません。究極の手術とは肉体に関するものではなく、霊的な「大きな心の変化」です。²

キリストの贖いを通し、また福音の律法と儀式に従うことにより、わたしたちはこの究極の手術である、霊的な心の変化を経験します。罪の結果、わたしたちの霊の心は病気になってかたくなになり、霊の死を受けて天の御父から離れてしまうようになります。主はすべての人が必要とする手術について語っておられます。「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。」³

しかし、心臓移植と同じように、霊の心の大きな変化は始まりにすぎません。悔

い改めとバプテスマ、確認は不可欠ですが、それで十分ではありません。確かに、わたしたちが最後まで堪え忍ぼうとするなら、移植した心臓に注意を払うように、変化した霊の心に深い注意を払う必要があります。そうして初めて、裁きの日にわたしたちは罪のない者と認められるのです。⁴

終わりまで堪え忍ぶことが難しい場合もあります。なぜなら、生まれながらの人は、霊的に変化した心を拒否し、かたくなにしてしまう性癖があるからです。「人が恵みから落ち……誘惑に陥らないように……まことに、^{きよ}聖められている人々でさえも用心しなさい。」⁵と主が警告されたのも不思議ではありません。

大きな心の変化を経験したにもかかわらず、その後生まれながらの人になってしまった人がいることは、だれもが知っています。そのような人は神への礼拝と献身をおろそかにするようになり、心をかたくなにして永遠の救いを危険にさらしてしまいます。

モーサヤの息子たちの伝道によって改宗した人たちの人生を見ると、霊的に大きく変化した心を拒否しないためにはどうすればよいかを知ることができます。次のように記されています。「アンモンと彼の同僚たちが……行った宣教……によって……真理を知るようにな[り]……主に帰依した……人は皆、二度と道を踏み外さなかった。」⁶

彼らはどのようにして最後まで堪え忍ぶことができたのでしょうか。わたしたちには次のことが分かります。つまり、「彼らは、神と人々に貢献する熱心さでも秀でていた。彼らはすべてのことについてまったく正直でまっすぐであり、また最後まで確固としてキリストを信じた。」⁷

神に対する彼らの熱心さは、神を喜ばせ、真剣に情熱をもって神を礼拝しようとする熱意の表れでしょう。人々に対する熱心さは、人を助け、仕えたいという強い関心を示しています。すべてのことについてまったく正直でまっすぐであるとは、神と人に対する義務を都合に合わせて正当化するようなことをせずに聖約を固く守ったことを示唆しています。さらに彼らが家庭



の中で子供たちに福音を教えたことも分かります。また、彼らが誘惑から離れようとして武器を埋めたことを知っています。

彼らは、きっと霊的に変化した心の状態を頻繁に見詰め直していたのでしょう。すべて順調だと簡単に決めつけたりはしませんでした。変化した心を見詰め直すことで、初期段階のかたくなさや拒否反応を見つけて対処することができました。

息子アルマは、アンモンとその当時の人々に、霊的に変化した心の検査とも言える一連の質問をしています。「もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。」⁸ さらに、十分にへりくだっているか、高慢やねたみはないか、兄弟に親切かと聞いています。⁹ このような質問に正直に答えることで、わたしたちは、細くて狭い道からそれでも早い段階ですぐに戻ることができ、正しく聖約を守ることができます。

1980年、わたしたち家族は、わたしが研修医として勤務する病院と道を隔てた

場所に引っ越しました。勤務は日曜も含め、毎日でした。日曜の午後2時に仕事が終われば、2時半に始まる集会に間に合うように妻と娘に合流し、教会まで車を運転して行くことができました。

研修1年目が終わりに近づいたある日曜日のことです。2時には仕事が終わりそうでした。しかし、もう少し長く病院にいれば妻と子供はわたしを待たずに出かけることが分かっていました。そうなる歩いて帰り、必要な仮眠が取れます。残念ですが、わたしはそれを実行しました。2時15分まで待ち、ゆっくり歩いて帰り、寝ようとソファに横になりました。でも、眠れませんでした。落ち着かない、不安な気持ちでした。それまではいつも教会に行くことがとても好きでした。それなのに、以前感じていた証の炎も情熱も、今日はなぜないのだろうと思いました。

長く考える必要はありませんでした。忙しさを理由に、わたしは祈りと聖文の研究をおろそかにしていたのです。朝起きて祈り、仕事に行くと、昼がいつの間にか夜になり、また昼となって、帰宅が翌日の夜遅くなるのがよくありました。とても疲れて、祈ったり、聖文を読んだりする前に寝てしまっていました。翌朝、また同じことの繰り返しです。大きく変化した自分の心を石に変えてしまわないために必要な、基本的なことをしていなかったのが問題でした。

わたしはソファから起き上がってひざまずき、神に^{ゆる}赦しを求めました。これから変わることを天の御父に約束しました。翌日はモルモン書を持って病院に行きました。その日を境に、わたしは「実行項目リスト」に二つの項目を記すようになりました。それは、毎日必ず、少なくとも朝晩祈ることと聖文を読むことです。深夜になって、急いで独りになれる場所を探して祈ることもありました。短時間しか聖文の勉強ができない日もありました。わたしはまた、たとえ全部は出席できなくても必ず教会に行く努力をすることも天の御父に約束しました。数週間後には、情熱が戻り、証の炎も再び勢いよく燃え出しました。どのような状況にあっても、これら一見ささ

いに見えることをおろそかにして霊的な死のわなに陥り、永遠の本質にかかわる事柄を危険にさらすことは二度としないと約束したのです。

最後まで堪え忍ぶためには、熱心に神を喜ばせ、真剣に熱意をもって神を礼拝する必要があります。つまり、イエス・キリストへの信仰を持ち続けるために、わたしたちは祈り、聖文を研究し、毎週聖餐にあずかり、常に聖霊を伴侶とすることが必要なのです。積極的に人々を助けて仕え、福音を伝える必要があります。どのような状況にあっても、神との聖約や人々への義務に対して決して妥協せず、すべてのことにおいて、完全にまっすぐで正直でなければなりません。家庭にあってはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教する必要があります。そうすることで、子供たち、そしてわたしたち自身に、贖いを生活の中で生かしたいという思いが生まれてきます。¹⁰ わたしたちの周りにたやすく取り巻く誘惑を認識する必要があります。誘惑をはるか彼方へ遠ざけましょう。最後に、大きく変化したわたしたちの心を頻繁に検査して、かたくなな状態の初期の兆候を正さなければなりません。

自分の変化した心の状態を考えてください。むとんちゃくになるという生まれながらの人の性質が原因となる拒否反応はありませんか。もしあるなら、ひざまづくことのできる場所を皆さんも見つけてください。これが地上での寿命が短くなること以上の深刻な問題であることを忘れないでください。永遠の救いと昇栄、という究極の手術の実を失う危険を冒さないでください。

キリストを確固として信じ、喜びをもって最後まで堪え忍ぶことができるよう、¹¹ イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. Surgery: The Ultimate Operation, *Time*, 1967年12月15日, 64
2. モーサヤ5:2; アルマ5:12-14参照
3. エゼキエル36:26



4. 3ニーファイ27:16参照

5. 教義と聖約20:32-34

6. アルマ23:6

7. アルマ27:27

8. アルマ5:26

9. アルマ5:27-30参照

10. 2ニーファイ25:26参照

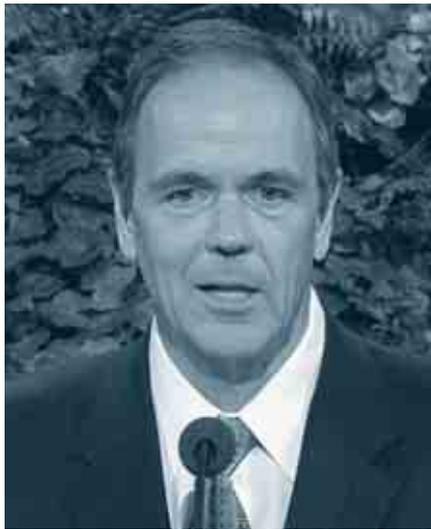
11. ディーター・F・ワークトドルフ「喜んでよい理由はないだろうか?」『リアホナ』2007年11月, 18-21

容易に喜んで信じる

七十人

マイケル・T・リングウッド長老

神の御言葉を容易に喜んで信じるのに必要な和らいだ心は、日々福音に従って生活する中で生まれるのです。



この数か月、わたしはヒラマン書第6章にある聖句に何度も引き付けられました。「またこのことから、レーマン人が主の言葉を容易に喜んで信じたので、主が彼らに主の御霊を注ぎ始められたことも分かる。」(36節)

個人の聖文研究でこの聖句を読み、深く感動したわたしは、何週間かこの聖句について考えました。自分にとって神の御言葉を信じることは容易に思えるだろうかと自問するようになりました。心を改めたレーマン人にとって、信じるのが容易だったのはなぜでしょうか。憎悪と不信仰に満ちていた人々が、神の御言葉を容易に喜んで信じるようになったきっかけは何だったのでしょ(4ニーファイ1:39参照)。

このような変化が起こった理由は、最も素晴らしい年となった、さばきつかさの統治第62年の出来事を通して分かります。この年、ニーファイとリーハイは教えるべき

事柄を示され、力と権能をもって教えました。すると、ゼラヘムラに住む8,000人のレーマン人が改宗したのです(ヒラマン5:18-19参照)。さらに300人のレーマン人が、心の底まで貫く声を聞くという奇跡的な経験によって改宗しました(ヒラマン5:30参照)。この300人のレーマン人は、牢に入れられていたニーファイとリーハイを殺すために来ていました。しかし、かつてはニーファイ人で、教会から離反していたアミナダブが、キリストを信じる信仰を持てるまで祈らなければならぬことを思い出して伝えると、彼らは神を呼び求めました(ヒラマン5:35-41参照)。この300人が民を教え導き、見聞きしたことを告げ知らせると、彼らの証を通してさらに多くのレーマン人が改宗しました(ヒラマン5:49-50参照)。

第62年に起こった話は次の言葉で終わっています。「これらのことがすべて起こり、レーマン人はその大半が義人になっていた。」(ヒラマン6:1)

このレーマン人の改宗は、ニーファイ人への憎悪と武器を捨てるほどのものでした(ヒラマン5:51参照)。彼らは確固として揺るぎない信仰を抱いていました(ヒラマン6:1参照)。神の戒めを守り、真理にかなってまっすぐに歩んでいました(ヒラマン6:34参照)。また、神を深く知るようになりました(ヒラマン6:34参照)。

それでもわたしが最も感銘を受けたのは、彼らが神の御言葉を容易に喜んで信じたという点です。容易に喜んで信じたために、あふれるほど豊かに御霊を受け、最後まで信仰をもって堪え忍ぶ助けを得る

ことができました(ヒラマン15:5-9参照)。

残念ながら、同じ時期のニーファイ人の多数は、「かたくなになり、悔い改めをせず、非常に邪悪にな[りました]。」(ヒラマン6:2。31-34節も参照) ニーファイ人の間では、レーマン人の経験とは反対のことが起こっていました。心がかたくなだったので、主の御霊がニーファイ人から去ってしまったのです(ヒラマン6:35参照)。一方、レーマン人の心は和らいでいたので、あふれるほどの御霊が注がれました。

レーマン人の心にこれほど大きな変化が起こった理由を深く考えていると、容易に喜んで神の御言葉を信じる姿勢は、心が和らいでいたから生まれたのだと分かるようになりました。そのような姿勢は、聖霊に敏感な心から生まれます。愛することのできる心から生まれます。聖約を交わし、聖約を守る心から生まれます。そして、キリストの贖いの力を感じられる、和らいだ心から生まれるのです。

こうした容易に信じる姿勢は、ニーファイとリーハイといった、和らいだ心を持ち、実際に容易に信じた人の模範から生まれます。二人の父であるヒラマンは、先祖の信仰を思い起こさせるために、息子たちをニーファイ、リーハイと名付けました(ヒラマン5:6参照)。同様にわたしたちの多くも、自らの名前に、和らいだ心を持ち、神の御言葉を信じるのを容易と感じていた先祖から受け継いだ信仰を刻んでいます。そのような先祖の中に、わたしの高祖父エフライム・K・ハンクスがいます。高祖父は、自分の兄が「モルモン仲間に加わった」ことを知り、家に連れ戻そうと決意します。はたして、エフライムは兄がジョセフ・スミスと回復された福音について証するのを聞くと、ノーブーに移り住み、バプテスマを受けたのです。(リチャード・K・ハンクス, Eph Hanks, Pioneer Scout [修士論文, プリガム・ヤング大学, 1973年], 18-21)

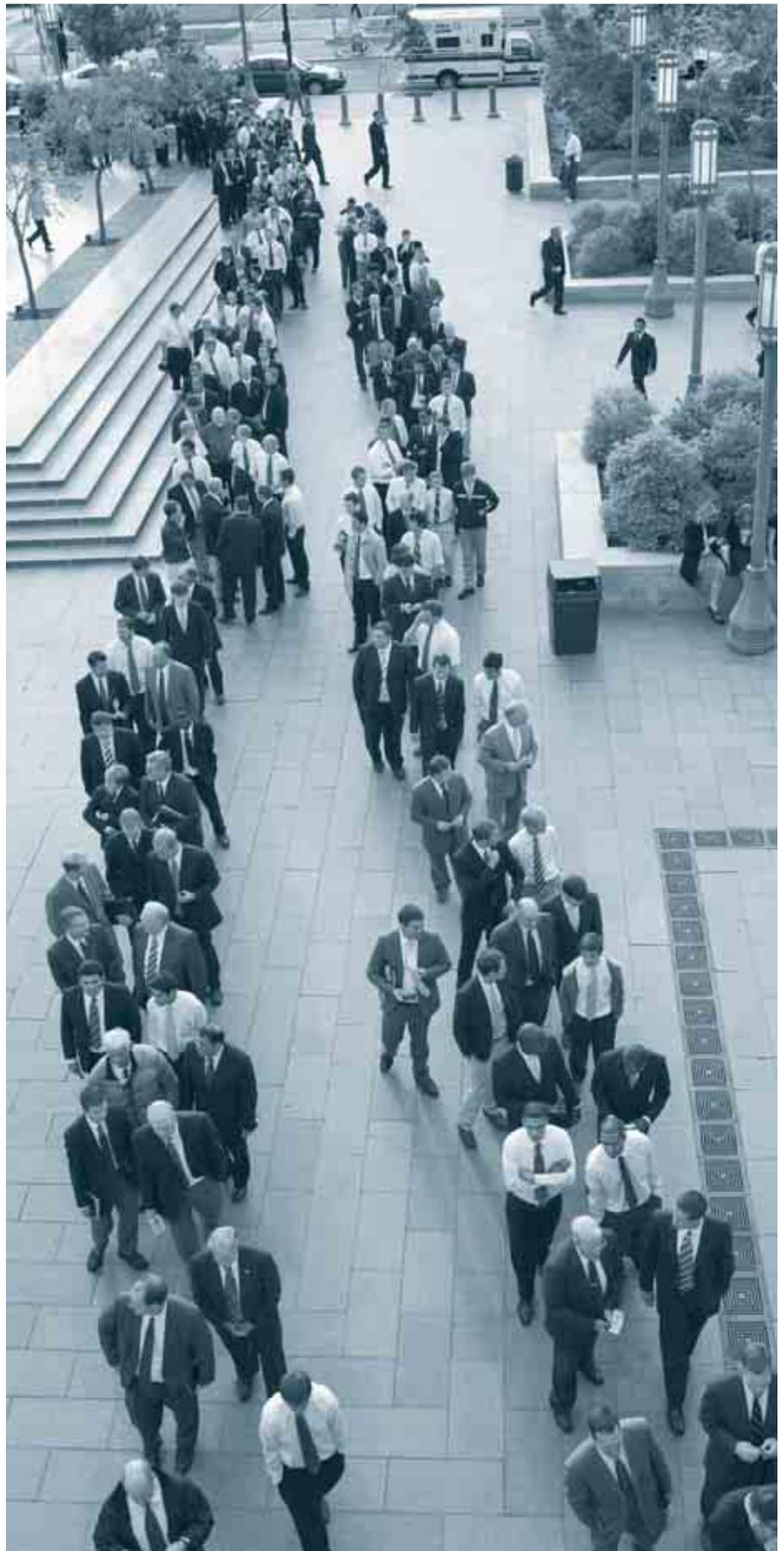
わたしたちは聖文に登場する人々の模範にも恵まれており、どうすれば容易に喜んで信じるができるか学ぶことができます。リーハイの息子ニーファイがその良い例です。エルサレムが滅びることを

父親から教えられたとき、ニーファイが最初に行った行動は、心が和らぐまで主に叫び求めることでした。そして、父親の語った言葉をすべて信じました(1ニーファイ2:16参照)。主は直接ニーファイに語りかけ、こう言われました。「ニーファイよ、あなたは信仰があるので幸いである。あなたがへりくだった心で、熱心にわたしを求めたからである。」(1ニーファイ2:19) ニーファイは、「わたしは行って、行きます」と容易に言えるよう、戒めを守り神に呼び求めるに当たって、望みと勤勉さが大切であると教えています(1ニーファイ3:7)。

エノスからは、真理に飢え渇くまで神の御言葉を心に深くしみ込ませることの大切さを学ぶことができます(エノス1:3-4参照)。容易に信じる姿勢は、神の御言葉が心に刻み込まれるときに生まれます(エレミヤ31:33;2コリント3:3参照)。

ラモーナイの父親の模範からは、喜んで変わろうとする和らいだ心の大切さを学ぶことができます。ラモーナイの父親は、命と引き換えに王国の半分を喜んでアンモンに与えると仰いました(アルマ20:21-23参照)。アンモンが要求したのは、王がラモーナイに自分の王国で望むままに礼拝できるようにすることだけでした。アンモンの言葉が寛大であり偉大であったので、王は心に思い悩みました(アルマ20:24;22:3参照)。アロンが王を教えるために到着したとき、王の心はすでに変化し、アロンへの次の言葉から分かるように、容易に信じることができるようになっていました。「見よ、わたしは信じよう。」(アルマ22:7) 王は、主の与えてくださる喜びにあずかるためなら、喜んで持ち物をすべて捨て、王位を譲ってもよいとまで仰いました(アルマ22:15参照)。王は初めて祈ったとき、天の御父が望まれるものを差し出しました。「わたしはあなたを知[る]……ように、自分の罪をすべて捨てます。」(アルマ22:18) 神の御言葉を容易に喜んで信じる姿勢は、悔い改めと従順から生まれます。

人生をつぶさに振り返ると、神の御言葉を信じるのがより容易に感じられた時期がいつだったか分かるでしょう。結





婚、子供の誕生といった大きな変化の時期、新しい召しや伝道などで集中的に奉仕した時期、すばらしいビジョッブ、青少年の指導者、セミナー教師とともに過ごす青少年の時期、試練の時期、福音について初めて学び、成長する時期、これはすべて、より容易に信じられる時期です。恐らく最も大切な時期は子供時代でしょう。子供のころのわたしにとって、立派な両親や祖父母が教えてくれる神の御言葉を信じるのは容易でした。永遠の命を受け継ぐには幼子おきなこのようにならなければならないと戒められるのも不思議ではありません(3ニーファイ11:38参照)。「わたしたちの子供たちを光と真理の中で育てるように」という教えがあるのは当然のことと言えます(教義と聖約93:40)。

皆さんがわたしと同じようであるなら、容易に喜んで信じるという姿勢をほんとうに形作ってくれたのは、環境ではなく、人生のこれらの時期にした、福音に生きる決意だったということが分かるでしょう。これらの時期に、皆さんはもっと頻繁にひざまずいて祈り、聖文の研究に没頭し

ていました。家族とともに集まって家庭の夕べを開き、家族の祈りをささげることを、もっと容易だと感じていました。教会に出席し、神殿で礼拝することを容易だと感じていました。什分の一とささげ物を納めることを容易だと感じていました。事実、神の御言葉を容易に喜んで信じるのに必要な和らいだ心は、日々福音に従って生活する中で生まれるのです。

この大会で預言者と使徒が語る教えに従うならば、神の御言葉を容易に喜んで信じることができるようになると証します。わたしたちは神殿で礼拝するように勧められています。定期的な家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べを通して家族を強めるように、神権の召しや教会の召しにあって勤勉に奉仕するように、什分の一とささげ物を納めるように、信仰を持つように、導きを祈り求めるように、聖霊を伴侶とするにふさわしい生活を送るようにと勧められています。

わたしたちは、重い皮膚病を患っていたスリヤ人ナアマンのようになりがちです。ナアマンは、清めてもらうためにイスラエ

ルの預言者のもとへ遣わされました。しかし、ただ使者を送ってヨルダン川に7回入るようにと指示を与えたエリシャに腹を立て、去ってしまいます。幸運なことに、ナアマンには次のように言った僕しもべがいました。「預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』と言うだけではありませんか。」(列王下5:13)

青少年のときから繰り返し教えられる、ささいに見えることを実行するなら、容易に喜んで信じることができるようになると証します。従順であれば心が和らぎ、神の御言葉を容易に信じることができるようになります。容易に信じることで、あふれるほどの御霊が与えられると証します。

毎週出席する聖餐せいさん会は、自分がどれほど容易に喜んで信じているかを測るテストであると言えます。この集会で、わたしたちは進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守るという意志を示し、聖約を新たにします(教義と聖約20:77参照)。聖餐会に出席するとき、これらのことを聖約するのが容易であり、聖霊によって聞き、学ぶことが容易であると感じるはずで

わたしは「容易に喜んで主の御言葉を信じること」で、主の御霊が自分に豊かに注がれるよう切望しています。この聖句は自分の「神への義務感」つまり、わたしが「従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐……に富み、……いつも熱心に神の戒めを守[り]、……[わたしに]与えられるものについては何であろうといつも神に感謝する」べきだということを自覚させてくれたと感じています(アルマ7:22-23)。

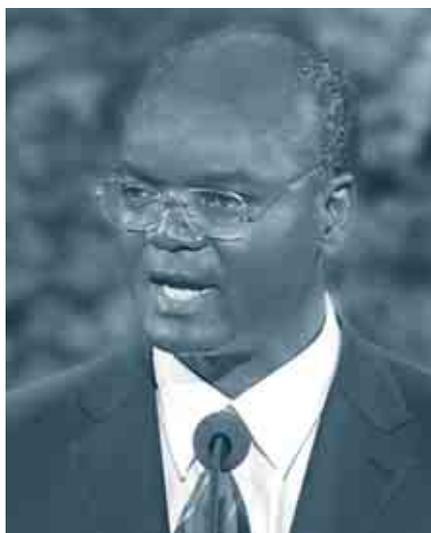
わたしたちがいつも神の御言葉を信じるのを容易と感じることができそうです。皆さんがわたしと同様、イエスが神の御子であられることを容易に宣言できますように。イエス・キリストはわたしたちの羊飼みこえいです。容易に喜んで信じる人は主の御声を知ることでしょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

すべての人が得られる 福音の祝福

七十人

ジョセフ・W・シターティ長老

今日、地上の神の子供たちは、神がその子供たちのために用意された幸福の計画について、ほかのどの時代よりも深く理解する機会に恵まれています。



数 週間前、アラスカで地域七十人として奉仕するメルビン・R・パーキンズ長老とわたしは、カナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバーステークの会衆を前にして壇上に立っていました。パーキンズ長老は感動に声を震わせ、目の前に映る光景について考えてみるよう聖徒たちに呼びかけました。手車隊に加わったモルモンの開拓者の子孫と、遠いアフリカで開拓者として改宗した者が、隣り合って主に仕えているのです。

180年近く前にニューヨーク州フェイエットでわずかな人数で始まった末日聖徒イエス・キリスト教会は、全世界に広がる宗教になりました。わたしはこの驚くべき業の証人としてここに立っています。これ

から少しわたしの思いをお伝えしますが、主の御霊が皆さんとわたしとにもあるようお祈りします。

この最後の神権時代に啓示の鍵があることを感謝しています。回復以来、生ける預言者によってこの鍵が行使されたおかげで、今日地上の神の子供たちは、神がその子供たちのために用意された幸福の計画について、ほかのどの時代よりも深く理解する機会に恵まれています。

天の御父の愛がはっきりと分かります。あらゆる国のすべての生者と死者に、選択の自由を行使することにより、御父のみもとで昇栄を受ける道が現在と将来にわたって開かれているからです。標準も祝福もあらゆる人にとって皆同じです。神は御自分が人を偏り見ることをしないと再度おっしゃっています。

人の不死不滅と永遠の命をもたらすという神の目的が確かに成就されるような方法で、福音が地上に広まっています。

わたしたちの最初の両親であるアダムとエバは、墮落の後、救いを得るために神と永遠の聖約を交わしました。¹ アダムの子孫が増えるにつれ、二つの民が現れました。

一つの民はエノクにより導かれ、聖約を完璧に守ったので、もはや地上にとどめ置かれず、主のみもとへ集められました。²

もう一つの民は、あまりにもひどく邪悪に支配されたため、神の裁きを受けました。洪水に飲み込まれ、ノアの家族³、す

なわちエノクの義にかなった子孫⁴だけが無事に残りました。

神はノアと聖約を交わし、二度と洪水で地上の生命を滅ぼすことはない約束されました。⁵

ノア一族が再び増えるにつれて、多くの人が邪悪になりました。高慢になった民はバベルの塔を造りました。神は天の裁きを下るのをお許しになりました。そのため、彼らの言葉が乱され、民は全地に散らされました。従順であったはずかの人だけが守られました。⁶

守られた人々の中に信仰の篤いヤレドの兄弟がいました。彼は義にかなった生活をしてきたヤレド人を代表して、主に懇願しました。主は民をアメリカ大陸へ導き、民が主に仕えるなら、「奴隷の状態にも関わられの身にもなることなく、天下のほかのどのような国民からも支配を受けない」と約束されました。⁷ また、ニーファイの民も後に同じ大陸へ導かれました。しかし、結局、ヤレド人とニーファイ人の文明は両方とも滅びました。民が忠実さを証明しなかったからです。

偉大な信仰を示して守られたもう一人は、ノアの子孫でありカナンへ導かれたアブラハムでした。神はアブラハムと聖約を交わし、彼の子孫を天の星のように増やし⁸、「地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得る」と約束されました。⁹ この約束の中の国民はバベルの塔から散らされたノアの子孫であり、一般的に異邦人として知られています。

神はアブラハムの息子イサク、そして孫ヤコブと聖約を新たに交わされました。ヤコブは後にイスラエルとなりました。

イスラエルの子孫は聖約が求めることを守れなかったために、モーセの神権時代に聖約が変更されました。より低い次元の聖約が与えられ、キリストが地上で教え導いて完全な福音を回復されるまで、その聖約はイスラエルの子らの中で存続しました。¹⁰

キリストの復活後、救い主は福音を異邦人に伝える時が来たとお知らせになりました。¹¹ 主は以前、ぶどう園の労働者のたとえで、異邦人の民に順番に訪れ、民を招く



と啓示されました。しかし、招く順番にかかわらず、同じ祝福が与えられるのです。¹²

救い主が昇天された後、イスラエルの子孫であり先任使徒であったペテロは、神権の鍵を持ち、その鍵によって教会を導きました。救い主がすでに許可をお与えになっていたにもかかわらず、ペテロは最初の異邦人コルネリオに、具体的な啓示を受けた後に初めてバプテスマを施しま

した。¹³ これは重要なことです。

異邦人への教えと導きは、ペテロが殉教^{じゆんきやう}し^{きやう}、¹⁴ ほかの使徒が亡くなったために中断されました。その後、神権の鍵は地上から取り去られ、背教の長い時代が続きました。

神権の鍵は、古代の使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネにより、1829年にジョセフ・スミスに回復されました。教会が組織される直前

のことでした。完全な福音が再び地上にもたらされ、新しくかつ永遠の聖約として異邦人の国民の間に広まり始めました。

異邦人の国民が招かれる順序を決める基準には、最後に地上に築かれる神の王国を物心両面で養う能力が含まれることを、主は預言者ジョセフ・スミスを通して啓示されました。¹⁵

回復された教会が地上に次第に確立されるに従って、福音を国民の間にどのように広めるかについて、生ける預言者が神の御心^{みこころ}を尋ね、それに従ったことが分かります。

わたしはこれまで生きてきて、預言者ゼノスがオリーブの木のたとえの中で予知した時代をこの目で見てきました。地上のすべての国民の中の義にかなった人々がイスラエルとともに神の聖約にあずかるようになる日が到来しているのです。¹⁶

わたしは故郷のアフリカ大陸で福音が開花し、良い実を結ぶのを目にしました。わずか30年のうちに、聖徒の数は30万人に達しています。回復された福音の教義と原則の中に、多くの人々が信仰という堅固な礎^{いしずえ}を見いだしています。町や都市により良い未来を求めて故郷の村落を離れた家族が、堅固な家族の伝統を持つ新しい道を見いだしています。そのような伝統は、国際化の時代の影響を受けて、進歩的に培われてきたものです。主の御霊が人々に力強く働きかけているのです。

日々の祈り、聖文の勉強、1週間に1度家族が集まる家庭の夕べを行うようにという生ける預言者の勧告に進んで従う人々により、日の栄えの新たな文化が家庭の中にはぐまれています。その結果、多くの人々が選択の自由の行使を制限する伝統という束縛から解放されることが可能になってくるのです。

個人的な経験の一例を挙げましょう。わたしの子供たちの3人は最近神殿で結婚しましたが、婚資金（訳注——婚姻時の新郎から新婦の家族に納める金品）という慣習の負担に縛られずに済みました。アフリカでは、そうした慣習が、互いに法的な契約を交わすことなく生活を共にするという結果を、多くの若人に招いている

のです。今では、ガーナ・アクラ神殿、ナイジェリア・アバ神殿、南アフリカ・ヨハネスバーグ神殿の3か所で神殿結婚の機会にあずかることができ、結婚の神聖さに対するこれまでに抱いたこともないような希望を若人の心に植え付ける助けとなっています。

救い主イエス・キリストは、福音と昇栄の約束を与えてくださったことを証^{あかし}します。また、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長を通して救い主から導きを受けられるという確信がわたしたちにはあることを証します。主の導きによってすべての人に救いがこれからもずっともたらされるのです。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

注

1. モーセ6:52, 57, 59参照
2. モーセ7:19-21参照
3. 創世6:17-22参照。モーセ7-8章も参照
4. 教義と聖約84:14-15参照
5. 創世8:11-21;9:8-10参照
6. 創世11:1-8参照
7. エテル2:8-12参照。エテル1:33-43;4-6章も参照
8. 創世12-17, 22章参照。アブラハム1-2章も参照
9. 創世22:18参照
10. ヘブル7:11-12, 19-22;教義と聖約84:24-25参照
11. マタイ28:18-20参照
12. マタイ20:1-16参照
13. 使徒10章参照
14. Bible Dictionary, "Peter"の項, 749参照
15. 教義と聖約58:1-12参照
16. モルモン書ヤコブ5:57-68参照

道徳面での鍛錬

十二使徒定員会

D・トッド・クリストファーソン長老

道徳面での鍛錬とは、いつでも正しい行いを、正しいからという理由で選ぶことです。難しい場合でも正しい行いを選ぶのです。



第二次世界大戦中、一兵卒として合衆国陸軍に徴兵されていたジェームズ・E・ファウスト管長は士官学校に志願しました。そして口頭試問の部屋に入り、試験官の前に立ちました。ファウスト管長によると、試験官は皆「百戦錬磨の職業軍人」ばかりでした。しばらくすると質問の内容は宗教に関するに移りました。最後の質問は次のようなものでした。

「戦時下においては、道徳的な規範を緩めるべきではないかね。戦闘に伴うストレスを考えれば、平時の生活ではしないようなことを行うのは許されるとは思わないかね。」

ファウスト長老は次のように語っています。

「良い印象を与えて寛大な心の持ち主であることをアピールするチャンスだと思いました。その質問をした試験官が、わたしが教えられてきた標準に従って生活

しているような人物でないことはよく分かっていました。『自分には自分の信念があるけれども、それを人に押し付けるつもりはない』と言えばよいのだという思いが頭をよぎりました。ところが、自分が宣教師のとき純潔の律法を教えた数多くの人の顔が目の前に浮かんで消えていきます。結局わたしは簡潔にこう答えました。『道徳的な標準はどんな状況にあっても変わることはないと思っています。』

口頭試問の部屋を後にしながら、自分の答えは〔試験官の〕好みに合わなかっただろうから……評点はだいぶ低くなるに違いないと決めつけ、それも仕方ないと思っていました。ところが、数日後に試験結果が張り出されると、驚いたことにわたしは合格していました。しかも、士官学校入学を許可されたトップグループに入っていたのです。

これは、わたしの人生を左右する重大な選択でした。』

ファウスト管長は、人はだれでも道徳的な選択の自由、つまり選択する権利と、選択した結果に責任を持つ義務を神から与えられていることを理解していました(教義と聖約101:78参照)。また、好ましい結果を出すためには、道徳面での鍛錬を受けたうえで、道徳的な選択の自由を行使しなければならないことも理解し、身をもって示していました。

ここで言う「道徳面での鍛錬」とは、道徳的な標準に基づいた自己鍛錬のことです。道徳面での鍛錬とは、いつでも正しい行いを、正しいからという理由で選ぶことです。難しい場合でも正しい行いを選ぶの

です。自分さえよければいいといった生き方はしません。尊敬に値する立派な人格を備え、キリストのような奉仕を通して真の偉大さを身に付けようと努めます(マルコ10:42-45参照)。鍛錬(discipline)という言葉は、「弟子」(disciple)という言葉と語源が同じです。これは、イエス・キリストの模範と教えに従う努力をすることが理想の鍛錬であることを思い起こさせてくれます。鍛錬し、キリストの恵みを受けることによって、徳高く道徳的に優れた人になれるのです。

イエス御自身の道徳面での鍛錬の基本は、御父に従うことでした。イエスは弟子たちにこう説明しておられます。「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。」(ヨハネ4:34) 同様に、わたしたちの道徳面での鍛錬も、基本は御父と御子への忠誠と献身です。確かな道徳的基準を教えてくれるのはイエス・キリストの福音であり、道徳面での鍛錬は、これに基づいていなければなりません。

わたしたちの多くが暮らす社会では、何世代にもわたって道徳面での鍛錬をなおざりにしてきました。真理とは相対的なものであり、何が正しいかは各人の判断にゆだねられると教わってきたのです。罪や悪といった概念は「価値観の押し付け」として非難されてきました。主がおっしゃっているように、「すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩」んでいるのです(教義と聖約1:16)。

その結果、人は自己鍛錬を怠るようになり、社会が強制によって秩序と礼節を保つよう努めなければならなくなりました。各自が自分の意志でコントロールできないために、行政による統制を引き起こしているのです。ある人が新聞のコラムで書いていたように、「[例えば、かつては]上品で礼儀正しい行いが、野蛮な行いから女性を守ったものだった。しかし現代では、野蛮な行動を思いとどまらせるために、セクハラを規制する法律が求められている。……

人の行動を規制する力について言えば、習慣や伝統、道徳的価値観が持つほ



どの力は、警官にも法律にもない。警察や刑事司法制度は、せいぜい、これ以上は譲れないという、文明社会の最後のとりでの役割しか果たせない。行動を規制する法律に頼る傾向が強くなったということは、文明が退化していることを意味するのである。」²

不況により、世界中が広く壊滅的な打撃を受けています。幾つもの原因が重なってこのような事態に陥ったわけですが、おもな原因の一つに、当たり前のように繰り返される不正行為と倫理に反する行為があります。特にアメリカ合衆国の住宅および金融市場についてこれが言えます。対策として、新たにより厳しい規定が設けられました。これによって不正行為を思いとどまる人もいるでしょうが、より巧妙に創意工夫を凝らして法律の裏をかこうとする人も出てきます。³ あらゆる状況を想定し、何が起ころうと対処できるよう計算し尽くされた法律など、作れるはずがありません。それにたとえそのような法律があったとしても、執行するには莫大な費用と労力を要します。法律にばかり頼ると、皆が不自由な生活を余儀なくされることになるのです。フルトン・J・シーンビショップは印象深い言葉を語っています。「わたしたちはキリストのくびきを負うことをよしとしなかったのだから、今、震えながらカエサルのかくびきを負うしかないのだ。」⁴

結局のところ、社会が腐敗する根本的な原因と兆候を見つけてうまく処理できるのは、各自が内に持つ道徳的な指針なのです。万人に共通する善の基準を確立しようと社会がどんなにもがいても、罪が罪として非難され、道徳的な鍛錬が一般大衆に尊重されるようにならないかぎり、善の基準が確立されることはないでしょう。⁵

道徳的な規律は家庭で学ぶものです。ほかの人が実行するかどうかをわたしたちがコントロールすることはできません。しかし末日聖徒は、生活の中で徳を実践し、若者に徳を教え込む人を擁護することができます。モルモン書には、紀元前66年から60年まで続いた戦争でニーファイ人を勝利へと導くかめとなった青年たちの話が出てきます。思い出してください。アンモンの民の息子たちです。この青年たちの人格と規律については、次のように描写されています。

「彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった。

まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。」(アルマ53:20-21)

「彼らはまだ一度も戦ったことがありませんでしたが、死を恐れませんでした。そして彼らは、自分の命よりも父親たちの自由のことを考えていました。彼らは母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わっていたのです。」(アルマ56:47)

「わたしの述べてきたこれらの者たちは、これを信じていました。彼らは若いながらも考えはしっかりしていて、絶えず神に頼っています。」(アルマ57:27)

家庭や教会で従うべき標準がここにあります。わたしたちは教えるときに自分の信仰に頼り、何よりもまず、神に対する信仰を若者に植え付けなければなりません。どんなことがあっても誠実であり、神の戒めを守り、神の御前みまへをまっすぐにまじめに歩まなければならないことを宣言しなければなりません。言葉を変えて言えば、敬虔になるよう教えるのです。人の幸せのために奉仕し犠牲を払うことの方が、自分自身の安泰や財産を最優先するよりもはる

かに大切だということを、若者一人一人に理解させなければなりません。

そのためには、一部の福音の原則にたまに触れるだけでは不十分です。常に教えなければなりません。たいていの場合、模範によって教えるのです。ヘンリー・B・アイリング管長は、わたしたちが努力して達成すべきビジョンについて次のように語りました。「イエス・キリストの純粋な福音は、聖霊の力によって〔わたしたちの子供〕の心に染み渡ります。彼らが真理に対する霊的な証を得ても、後で善いことをしようと考えるようでは十分ではありません。いつか聖く強くなればいいと考えるのは十分ではありません。わたしたちは彼らが近くにいる間に、イエス・キリストの回復された福音に心から帰依させることを目標としなければなりません。

これができれば、若者は知識ではなく、自分の生き方から力を得ます。キリストの弟子となるのです。』⁶

子供に福音を押し付けたくはないと何人かの親が言うのを聞いたことがあります。子供には何を信じて何に従うかを自分で決めてほしいと言うのです。このようにすることで、子供に選択の自由を使わせていると考えているのです。このような親が忘れてしているのは、選択の自由を賢く使うためには、真理に関する知識、あるがままの事物の知識が必要だということです(教義と聖約93:24参照)。それがなければ、自分の前に置かれる選択肢を正しく理解し評価するよう若人に期待することはとうていできません。敵対者がどんな手を使って子供に忍び寄せか、親は真剣に考えてみるべきです。サタンとその手下は目に見えるものだけを追い求めるよう仕向けるわけではありません。罪を犯し自分勝手な行動を取るよう、あの手この手で執拗に誘い込むのです。

福音に対して中立の立場を取るということは、実は神とその権能の实在を否定することです。子供がはっきりと人生の選択肢を見極め、自分で考えられるよう望むのであれば、神が確かにいて何でもおできになることをわたしたちがしっかりと認識しなければなりません。「悪事は決して

幸福を生じたことがない」という悲しい経験から学ばせる必要はないのです(アルマ41:10)。

親にできることについて、自分の経験から例を挙げて話します。わたしが5歳か6歳のころのことです。家の向かいに食料品店がありました。ある日、二人の男の子が一緒にその店に行こうと誘いにきました。店にあった売物の菓子をわたしたちが物欲しそうに眺めながら立っていると、年上の男の子がチョコレートキャンディーを1個つかんでポケットの中ですべり込ませました。その子はもう一人の子とわたしにも同じことをするよう促したので、少し躊躇したものの、わたしたちも同じことをしてしまいました。そしてすぐに店を出て、ばらばらの方向に走って逃げました。家に着くと、だれにも見つからない場所を探して包みを破りました。母がわたしの顔にチョコレートが付いているのを見て事態を察し、わたしを食料品店に連れて行きました。母に連れられて道路を渡ったときには、きっと一生牢屋から出られないと思いました。しゃくり上げ、涙を流しながら店主に謝り、菓子の代金として10セントを支払いました。この10セントは母が貸してくれたもので、わたしは後で働いて返さなければなりませんでした。そのときの母の愛としつけのおかげで、わたしはその時点できっぱりと犯罪人生に終止符を打つことができたのです。

わたしたちはだれでも誘惑を受けます。救い主も誘惑を受けられましたが、「それらを少しも心に留められ」ませんでした(教義と聖約20:22)。同様に、誘惑に遭ったからといって、あっさりと陥る必要はありません。陥ることもできますが、陥る必要はないのです。純潔の律法を守ろうと決意しているある若い成人女性は、疑い深い女友達から、今まで「だれとも寝たことがない」ことに対して、そんなことがあり得るだろうかと言われました。そして、「寝たいと思わないの?」と尋ねられました。彼女は、そのときのことをこう述べています。「友人の質問には当惑しました。あまりに的外れな質問だったからです。単なる欲望が、道徳的な行動を選ぶ指針

になるとはとうてい思えません。』⁷

場合によっては、誘惑を受けたために常習癖に陥る危険が大きくなったり、実際に常習癖に陥ったりするケースがあるかもしれません。教会員の増加に伴い、教会が様々な専門的支援を提供できるようになっていることに感謝しています。この支援によって常習癖に陥らないよう予防したり、克服したりすることができるのです。とはいっても、専門家による治療は本人が意志を貫くのを助けることはできても、本人の意志に取って代わるものではありません。常に怠らず、鍛錬する必要があります。父なる神と御子に対する信仰と、この御二方がイエス・キリストの贖罪の恵みによってお癒しになれるという信仰に基づいて道徳面の鍛錬を行わなければならないのです。ペテロの言葉によれば、主は、信心深い者を誘惑の中から救い出す方法を御存じです(2ペテロ2:9参照)。

未来が過去と同じようなものになるとは限りません。経済や政治、社会で信頼を置いてきたものや規範は、これまでのようにこれからも残るでしょう。わたしたちが道徳的な特質を伸ばすならば、人を感化し、ほかの人もわたしたちに倣うようになるでしょう。このようにしてわたしたちは、今後の世の中の動向や出来事に影響を与えることができます。少なくとも、この崩壊しつつある社会においてどんなストレスや問題に直面しようとも、道徳面での鍛錬は、それらを乗り越える大きな力を与えてくれることでしょう。

この大会で思慮深く靈感に満ちたメッセージを聞いてきました。そして間もなくトーマス・S・モンソン大管長が最後の勧告を与えてくれます。この大会で学んだこと、学び直したことについて祈りながらよく考えてください。そうするならば、実行すべき事柄を御霊が一人一人に教えてください。主の御前を正しく歩み、主と御父と一つとなるために必要な道徳面の鍛錬によって、わたしたちは強められることでしょう。

わたしは証人として、中央幹部の兄弟たちおよび兄弟姉妹の皆さんとともに、神がわたしたちの御父であられ、その御子イ



エスがわたしたちの贖い主であられることを証します。神の律法は不変であり、神の真理は永遠に変わりません。そして、御父と御子は無限の愛をお持ちです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. ジェームズ・E・ファウスト, *Stories From My Life* (2001年), 2-3
2. ウォルター・ウィリアムズ, "Laws Are a Poor Substitute for Common Decency, Moral Values," *Deseret News*, 2009年4月29日付, A15
3. 数年前, 法律関係の職業に携わる会員に向けて, ジェームズ・E・ファウスト管長

は次のような警告を与えた。「わたしたちが個人または職場で行うことを、何が『正しい』かではなく、何が『合法』かを基準にして正当化することには大きな危険が伴います。こうすることによって魂を危険にさらしているのです。合法的なことは正しいことでもあるという公式にすべてを当てはめようとすると、人の本性の最も善良で尊い部分をないがしろにすることになるでしょう。合法かどうかを基準に行動しては、多くの場合、文明社会の標準よりもはるかに低い標準、キリストの教えから懸け離れた低い標準に基づいた行動しかできません。私的にも公的にも合法であることを基準にして行動する人は、自らの尊厳と価値という

最も大切にすべき部分を否定することになるのです。】(“Be Healers,” *Clark Memorandum*, プリガム・ヤング大学 J・ルーベン・クラーク法科大学院, 2003年春号, 3)

4. “Bishop Fulton John Sheen Makes a Wartime Plea,” ウィリアム・サファイア選, *Lend Me Your Ears, Great Speeches in History*, 改訂版 (1997年), 478で引用
5. *The Wall Street Journal* 誌の社説に次のような意見が掲載されたことがある。「罪については、何年にもわたる(性)革命の期間に多くの人が無駄な時間を費やして話題にし、問題として取り上げてきた。ほとんどの教会もこの論争に加わったが、罪とはそこで扱われたようなものではない。むしろ、罪については次のことが言える。罪は少なくとも個人の行動に枠をはめるものである。この枠を取り払ってしまった場合、なくすのは罪の意識だけではない。同時に個人の責任感という標準も失われてしまうのである。……

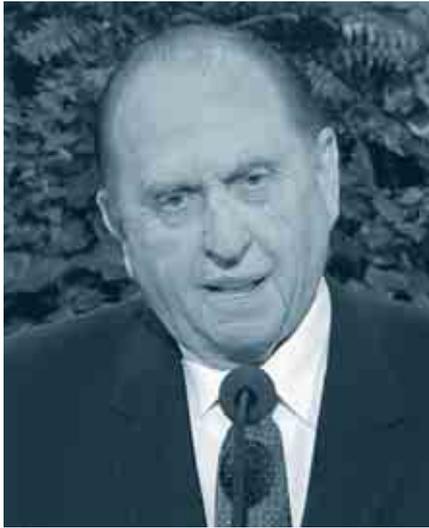
アメリカ合衆国には違法薬物の問題があり、高校生の性行為の問題がある。福祉の問題もあれば、エイズの問題や強姦事件の問題もある。責任ある地位に就く者が進んで皆の前に出て、分かりやすい言葉で道徳について説明しないかぎり、こうした問題はなくなるであろう。つまり、『今の世の中で行われていることは間違っている』と識者が言わなければならないのだ。】(“The Joy of What?” *The Wall Street Journal*, 1991年12月12日付, A14)

6. ヘンリー・B・アイリング, ショーン・D・スタール, “Inspiring Students to Stand Strong amid Torrent of Temptation,” *Church News*, 2001年8月18日付, 5
7. サラ・E・ヒンリックキー, “Subversive Virginit,” *First Things*, 1998年10月号, 14

閉会に当たり

トーマス・S・モンソン大管長

主の御言葉を心に留め、戒めを守って生活するならば、わたしたちはこの放縦と邪悪の時代を生き抜くことができるでしょう。



ました。彼らはこれまで完全に献身してきました。わたしたちは彼らに心の底から感謝しています。

わたしたちが住んでいる世界には、戒めを守ることで見いだせる安全な船着き場から遠ざかって行く人がたくさんいます。現代は何をしても許される時代です。一般社会の人たちは神の律法を軽視し、破っています。わたしたちは、このような世の中の流れに逆らって進んでいるつもりですが、いつの間にか世の風潮に流されてしまっていることに気づくことがあります。

モルモン書のエテル書にある主の御言

葉を思い出します。主は言われました。「わたしが海の波と、吹きつける風と、寄せ来る多くの水に対してあなたがたを備えさせなければ、あなたがたはこの大いなる深みを渡ることができない。」¹ 兄弟姉妹の皆さん、主はわたしたちを備えてくださっています。主の御言葉を心に留め、戒めを守って生活するならば、わたしたちはこの放縦と邪悪の時代を生き抜くことができるでしょう。この時代はあたかも破壊的な力を持つ海の波や風、洪水のようです。主はわたしたちをいつも心に留めておられます。主はわたしたちを愛しておられるので、正しいことを行うならば祝福して下さいます。

天は実際に開かれました。イエス・キリストの福音が回復され、教会は啓示という岩の上に建てられています。何とありがたいことでしょうか。わたしたちは今日地上に使徒と預言者が与えられている祝福された民です。

さて、この大会を後にするに当たり、天の祝福が皆さん一人一人のうえにあるよう祈ります。皆さん全員が安全に帰宅できますように。この大会の中で聞いたこと

この大会を閉じるに当たって、わたしは胸がいっぱいです。伝えられたメッセージや証からわたしたちは豊かに教えを受け、霊的に教化されました。祈りをささげてくれた兄弟たちを含め、参加してくれた一人一人に感謝します。

改めて言いますが、音楽はすばらしいものでした。才能を喜んで分かち合ってくれる人たちに心から感謝をお伝えします。わたしたちは感動し、靈感を受けました。皆さんの音楽によってどの部会も高められ豊かになりました。

この大会で聞いたメッセージは、『エンサイン』(Ensign)および『リアホナ』の11月号に掲載されます。それを読んで研究するとき、さらに教えと靈感を受けることでしょう。その中に見いだされる真理を日々の生活に取り入れることができますように。

この大会の期間に解任された兄弟たちに、心からの感謝を伝えたいと思います。よく奉仕し、主の業に大いに貢献してくれ



扶助協会——神聖な業

中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック

わたしたちの業は、救いと奉仕の業であり、聖なる民となる業なのです。

を深く考えるときに、皆さんもベニヤミン王の民のように言うことができますように。彼らは声をそろえて叫びました。「わたしたちは、[あなた]がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊のおかげで、わたしたちは[あなた]の言葉が確かであること、真実であることを知っています。御霊は、わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に……大きな変化を生じさせてくださいました。」² 男性も女性も、少年も少女も、皆、大会が開会した2日前よりも善良な人になってこの大会を去ることができますように。

兄弟姉妹、わたしは皆さんを愛しています。皆さんのために祈っています。わたしとすべての中央幹部のために祈ってくださいますよう、重ねてお願いします。わたしたちはともにこの驚くべき業を前進させています。わたしたちは全員でこの業に携わっていて、すべての男性、女性、子供に果たすべき役割があることを証します。神がわたしたちに、役割をよく果たすための強さと能力と、決意を与えてくださいますように。

わたしは皆さんに証します。この業は真実です。救い主は生きておられ、地上にある御自身の教会を導き、指示を与えておられます。わたしは皆さんに証します。永遠の父なる神は生きておられ、わたしたちを愛しておられます。神は確かにわたしたちの御父であり、人格を持つ実在の御方です。

神が皆さんを祝福してくださいますように。主の約束された平安が常に皆さんとともにありますように。

半年後またお会いするときまで皆さんに別れを告げます。愛する救い主、贖い主、御父に対するわたしたちの弁護者であるイエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. エテル2:25
2. モーサヤ5:2



扶 助協会の女性のすばらしい集まりが開かれています。前回の中央集会以来、多くの皆さんを訪問しました。皆さんの忠実な生活、献身的な奉仕に感謝します。過去数回の中央扶助協会集会で、わたしたちは力強く確固とした末日聖徒の女性がどのようにして扶助協会の目的を理解し、達成するか学んできました。¹ 今晚わたしは、扶助協会が信仰に基づく業であることについて、わたしたちの証と理解が深まるようにと願っています。わたしはこの業の目的と、それを成し遂げる方法について話します。

主が設立された扶助協会の目的は、女性を永遠の命の祝福に備えることです。そのために、扶助協会は次の点で女性を助けます。

1. 信仰と個人の義を増し加える。

2. 家族と家庭を強める。
3. 主と主の子供たちに仕える。

扶助協会の歴史と目的と業は、すべての女性組織の中でも独特なものです。1942年、扶助協会の設立100周年に際して、大管長会は次のように述べました。

「このような起源を持つ女性の組織はこれまでに地上に存在したことがありません。……

[扶助協会の]会員は、この大いなる協会の会員に与えられた義務と責任、特権と名誉、機会と偉業を、何であれ対立または競合する関心事のために損なってはなりません。」²

扶助協会に所属することがそれほど大切ならば、この組織がほかのすべての女性組織と異なる点を知る必要があります。扶助協会で行うすべてが大切なのは、天の御父と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスを訪れられ、彼を通じてイエス・キリストの完全な福音が地上に回復されたからです。扶助協会は回復の一部なのです。預言者ジョセフ・スミスは、扶助協会の目的を定義し、カートランドやノーブーの神権指導者に神権の目的と業を教えたように、姉妹たちに扶助協会の目的と業を教えました。扶助協会は今日も預言者、聖見者、啓示者によって導かれている組織です。

扶助協会が独特なのは、「神権の規範」³に倣って組織され、中央と地方の双方において神権指導者の指導の下に運営されるからです。わたしたちは神権指導者と協力して働きます。神権指導者は鍵を持ち、そのため主の御名によって管理する



権を授かっています。わたしたちは神権に倣って運営しています。すなわち、啓示を求め、受け、それに従って行動し、評議によって決定し、一人一人を気かけます。わたしたちの目的は神権の目的と同様に、聖約を交わして守ることによって、永遠の命の祝福に自らを備えることです。そのため、神権を持つ兄弟のように、わたしたちの業は、救いと奉仕の業であり、聖なる民となる業なのです。

ボイド・K・パッカー会長は次のように教えています。「扶助協会には非常に広範な責任があります。」

日曜日の集會に出席することは〔姉妹たちの〕義務のほんの一部にすぎません。中にはこのことがよく理解できず、姉妹愛、慈愛と実践といった、扶助協会が長年意図してきた多くの事柄を無視してしまっている人々もいるようです。」

パッカー会長はさらに次のように説明しています。

「預言者〔ジョセフ〕は、扶助協会は神権の規範に倣って組織されていると語りまし

た。男性が神権を持つときには、……完全な献身と忠誠が求められます。……

神権者であることは、男性と少年を大いなる者とします。どこにしようと、何をしようと、だれと交わろうと、神権者は自分の神権を尊ぶように期待されています。……

もし姉妹の皆さんがその規範に倣うなら、……自分たちの組織、自分たちの大義、すなわち扶助協会のために働くでしょう。

扶助協会における奉仕は、一人一人の姉妹を大いなる者とし、^{きよ}聖めます。扶助協会の会員としての資格は、いつも皆さんから離れません。」⁴

主の方法によって業を行う

目的が明確なので、当然のことながら責任を果たす適切な方法があります。これから信仰に基づく扶助協会の業がどのように行われているかを振り返りましょう。わたしたち全員が所有する貴重な財産の一つは時間です。ほとんどの女性は多く

の責任を持っていて、心や頭でしたいと思っていることすべてをする十分な時間は決してありません。扶助協会の時間を靈感による方法で使うなら、わたしたちは主と姉妹たちに敬意を示すことができます。

ディーター・F・ワークトルフ管長は次のように教えています。「かつてある賢人が、『物事をやり終える優れた技術』と『物事をやらざらにおくさらに優れた技術』の違いを述べました。そして、『人生における〔真の〕知恵』は『不要なものを除くこと』であると教えました。」ワークトルフ管長はこう尋ねました。「皆さんの毎日を取り散らかし、時間を奪っている不要なものは何ですか。役に立たない習慣は何ですか。まだ終えていないか始めていない事柄で、人生に活力と意義と喜びを増してくれるものは何でしょうか。」⁵ これらの質問は、扶助協会のすべての集會と働きに当てはめることができます。

扶助協会の日曜日の集會

わたしたちは、毎週日曜日に通常の3時

間プログラムの中で扶助協会の集会を行います。毎週世界中の数千か所で、姉妹たちが信仰を増し、家族を強め、人を助ける働きを調整するために集まっていることを考えると驚嘆せずにはられません。扶助協会の集会は50分しかありません。ですから開会のときには、姉妹たちがさらに一致し効果的に扶助協会の業を行うために必要不可欠な業務を行います。業務は短く、威厳を持ち、整然と、わたしたちが何者であり何をしようとしているかを心に留めながら行います。

最初の扶助協会の集会で姉妹たちが預言者や使徒から指導を受けたように、わたしたちも今日の教会指導者の言葉を学びます。相互調整を経た教会資料から個人や家庭で福音を実践するために必要な教義と原則を学べるのは、大きな祝福です。この業は信仰に基づいていますから、扶助協会のレッスンは最も効果を発揮するのは、靈感により教えられ「説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶ」⁶ ときです。

その他の扶助協会集会

わたしたちの集会と活動はすべて扶助協会の姉妹の集会です。過去数年にわたり、わたしたちはその他の扶助協会集会を、家庭・家族・個人を豊かにする集会と呼んできました。この呼び方は複雑で集会の目的が様々に解釈されるという懸念を受け、今後は「家庭・家族・個人を豊かにする集会」という名前を使用しないと決定が下されました。大管長会および十二使徒定員会との話し合いの中で、これらの扶助協会の集会に新しい名前を付けることはせず、そのような集会と活動をすべて、今後単に、扶助協会集会と呼ぶことが決まりました。週日に行われる個々の扶助協会集会は、それぞれの内容に応じて、扶助協会の奉仕活動、クラス、プロジェクト、大会、ワークショップと呼ばれます。

この補足的な集会は、特に初等協会や若い女性で奉仕している姉妹や、日曜日の集会に参加できない姉妹たちにとって、日曜日に学ぶ事柄を補うものとして大きな価値を持つでしょう。また、信仰を異にする

友人や、教会にあまり積極的でない扶助協会の姉妹を誘うすばらしい場を提供するでしょう。扶助協会のすべての会員と友人が招待され、歓迎されます。しかし、これらの集会への出席を強制されていると姉妹たちに感じさせるべきではありません。

ビショップの指示の下、ワード扶助協会会長会はこの集会を使って、ワードの個人や家族の霊的・物質的必要を満たしたり、姉妹同士のきずなを強めたりすることができます。

週日に扶助協会の集会に集まることで、姉妹たちは扶助協会の慈善奉仕や実際の責任について学んだり、実践したりします。ここで学び実践する技術は、信仰を強め、個人の義を増し、家族や家庭を強め、困っている人に奉仕するために役に立ちます。この集会は、主の計画における女性としての、また母親としての技術や責任を学ぶ場として使うように意図されています。女性たちは、ここで賢明な生活や、霊的・物質的な自立に関する原則を学び、応用します。また、互いに教え、ともに奉仕する中で、姉妹同士のきずなを強め、一体感を増していきます。

ワードの扶助協会会長は、すべての扶助協会集会を見守ります。この責任の一部として、扶助協会会長はビショップと定期的に話し合い、この集会がワードの個人や家族の必要を満たす方法を相談します。

扶助協会の会長会は、よく祈り、週日の扶助協会集会をどれくらいの頻度で行うべきか、またどこで行うべきかを考えます。それから、姉妹たちの時間的制約、家族の状況、移動する距離と費用、ワード予算、安全性、その他の地元の状況を考慮しながら、ビショップに提案します。

この集会は通常、日曜日にも、月曜日の夕べにも行いません。一般的に毎月1度行いますが、扶助協会の会長会をもっと頻繁に、あるいはもっと間隔を置いて行うように提案することができます。少なくとも四半期に1度の頻度で行う努力をすべきです。どの集会にも少なくともワード扶助協会会長会の一人が出席するべきです。ステーキ会長会の指導の下でステーキ扶助協会会長会は、ステーキ内のすべ

ての姉妹のために、毎年1度か2度、ステーキ扶助協会集会を計画し、実行してもよいでしょう。⁷

扶助協会の指導者は、よく祈り、姉妹たちとその家族を強めるテーマについて、また、そのテーマを教える最良の方法についてともに話し合います。扶助協会会長はこうした計画にビショップの承認を得なければなりません。会長はまた、計画が現在の活動の方針に確実に従っているようにします。これには財政の方針も含まれます。扶助協会会長はこれらの集会を見守りますが、会長は第一顧問や第二顧問に補佐を頼んでもよいでしょう。会長はまた、ワードの姉妹をもう一人扶助協会集会コーディネーターとして奉仕する召しに推薦して、集会を計画し実施するうえで会長会を助けてもらうようにしてもよいでしょう。

集会は一つのテーマに的を絞ってもよいですし、複数のクラスや活動に分けることも可能です。一般的に、これらの集会ではワードカステークの会員が教師をします。毎年1度、扶助協会の設立を祝う集会または活動を行い、扶助協会の歴史と目的を絞ります。

週日の扶助協会集会を計画する際、指導者は扶助協会の目的を達成するためのテーマを優先します。例えば、結婚と家族、ホームメイキング、賢明な生活と自立、慈善奉仕、神殿と家族歴史、福音を分かち合うこと、そしてビショップが求めるその他のテーマを優先するのです。⁸

計画するときには、永遠の命に備えるために主はわたしたちに何を学び、どうなることを望んでおられるかを尋ねます。主の知恵の中で、どのワードも独自の特質があります。それはまるで一人一人の人間を独自の存在にするDNAのようなものです。どのビショップも自分のワードに責任があります。どのワード扶助協会会長も、一人のビショップを補佐するために召されています。どのビショップも扶助協会会長も、どこかほかのワードや、ほかの扶助協会の姉妹たちに対してではなく、自分たちの責任に対して靈感を受けるために頭に手を置かれました。

そのことを理解して働くなら、わたした

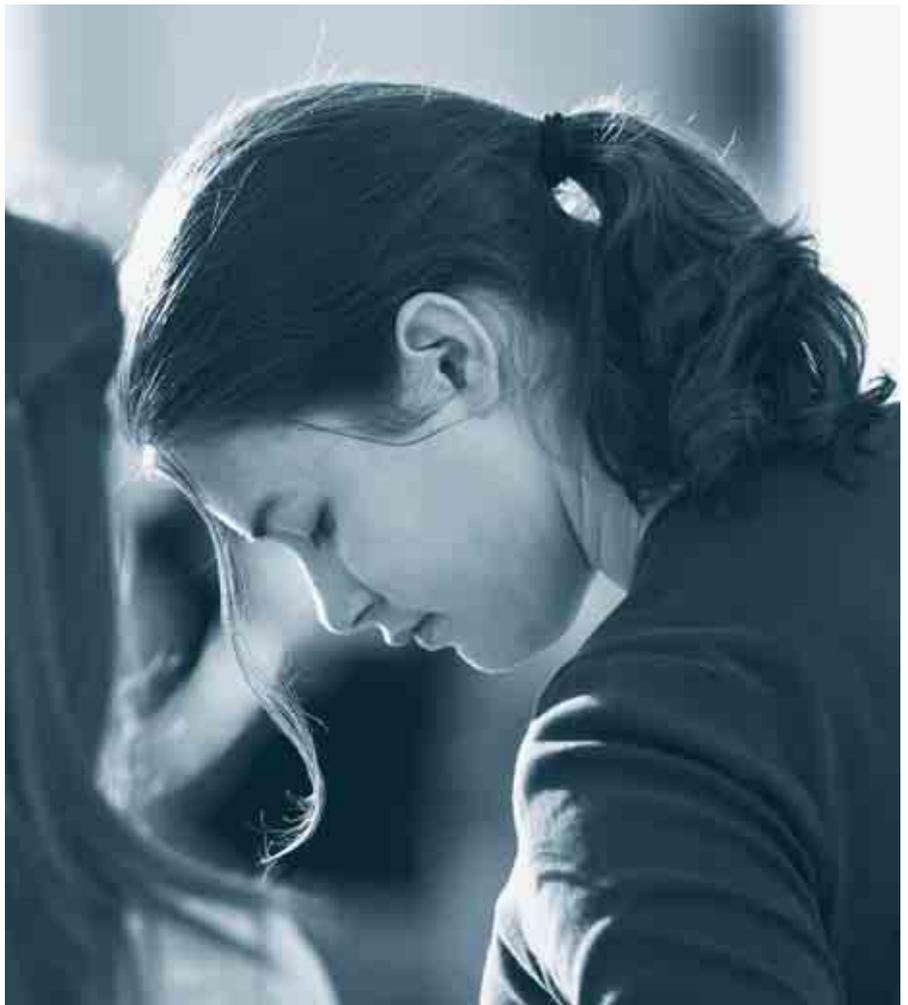
ちは自分のワードで扶助協会の目的を達成するために、啓示を求め、ビショップと一致協力して働くことでしょう。このように運営するならば、もしも姉妹と家族に非常時の備えが必要であれば、扶助協会はその備えができるように組織し、教え、靈感を与えることができます。もしも姉妹と家族に神殿参入が必要であれば、扶助協会は、それができるように、姉妹たちを組織し、教え、靈感を与えることができます。もしビショップにとってヤングシングルアダルトの女性が福音を分かち合い友達を活動に呼び戻すことが必要であれば、扶助協会は、それができるように、組織し、教え、靈感を与えることができます。もし若い母親に子供を養い世話する方法を学ぶ必要があれば、扶助協会はそれができるように組織し、教え、靈感を与えることができます。もし姉妹に家庭を霊的な強さの中心にするためにホームメーカー技術を学び改善する必要があるれば、扶助協会はそれができるように組織し、教え、靈感を与えることができます。そして、これまでもそうであったように、もし神権指導者に何か意義深いことを成し遂げる必要があれば、彼らは扶助協会に助けを求めることができます。

扶助協会集会を適切に活用することで、どのワードでも扶助協会はその能力を増し、神権指導者と力を合わせて、さらに力強く働くことができるようになります。ジョセフ・スミスが教義と聖約の中で述べたようになるのです。

「だれにも、これらのことをささいなことと思わせてはならない。聖徒たちに関して将来起る多くのことは、これらのことにかかっているからである。

〔姉妹〕たちよ、あなたがたの知っているように、非常に大きな船も、嵐のときにはごく小さな舵かじに大いに助けられ、風と波に対して進路を保つことができる。』⁹

扶助協会および神権指導者の皆さん、このメッセージは補足的な扶助協会集会について現時点での公式な方針となります。このメッセージを研究した後でわたしたちが今教えたことに関して質問がある場合は、それぞれのワードやステークで評



議し、必要な解決策を見いだしてください。

家庭訪問

扶助協会の業の中で不可欠なもの多くは、集会の中で行われるわけではありません。ここから家庭訪問に的を絞って話しましょう。イエス・キリストの模範と教えに従っているわたしたちは、主の代わりに愛し、知り、仕え、理解し、教え、導くために与えられた、この神聖な割り当てを尊んでいます。この義務を果たす際に、求めるならば、必ず主の助けを得るに違いありません。主とパートナーとなってこの責任を果たすとき、信仰と個人の義が増し、自分自身の家庭と家族が強められるに違いありません。この教会の姉妹にとって、自分の家族に対する責任を除き、家庭訪問ほど善を行える可能性のある責任はありません。

これは神の娘たちを個々に見守る主のプログラムであるため、家庭訪問に関す

る方針は大管長会の承認を受けており、『教会指導手引き』で概要が述べられています。家庭訪問は一人一人の姉妹に的を絞るので、扶助協会指導者は家庭訪問のために姉妹のグループを組織しません。

ビショップはワードの羊飼いとして聖任されていますが、主のすべての羊を同時に見守ることはとてもできません。靈感を受けた訪問教師の助けを頼りにしています。もちろん一人一人がワードのすべての人の友人になるべきですが、ビショップと扶助協会会長には、それぞれの姉妹を見守り強めるためにだれを割り当てるべきか啓示を受ける責任があります。理想的には、ワードのすべての姉妹が少なくとも一人の姉妹を見守り、強めるべきです。自分以外の姉妹のために祈り、主が御自分の娘の一人をどのように心にかけるよう望んでおられるかについて靈感を受けることは祝福です。

家庭訪問は、達成率よりも人に焦点を

当てたときに、主の業になります。実際のところ、家庭訪問は決して終わりがありません。これは務めというよりも、生き方なのです。訪問教師として忠実に働くことは、主の弟子であることを示す証拠です。毎月割り当てについて報告するとき、わたしたちは信仰を実際に示し、主が設けられた規範に従います。ワードのすべての姉妹が『エンサイン』(Ensign)や『リアホナ』に毎月載る家庭訪問メッセージを聞いたと報告することがわたしたちのおもな関心事であるならば、^{せいふく}聖餐会でメッセージをすべての人に読み聞かせた方がずっと効果的でしょう。姉妹たちの霊的・物質的な福利の状態について伝え、どのように姉妹たちに仕え姉妹たちを愛しているかについて伝えるときに、わたしたちの報告は、ビショップや扶助協会会長にとって最も役立つものとなるのです。

わたしは、わたしのすべての訪問教師に心から感謝しています。皆、長年にわたって信仰を示し、靈感に満ちた方法でわたしのために務め、教え、強め、愛してくれました。

福祉と慈善奉仕

わたしたちの慈善奉仕と援助は、個人や家族の福祉に関する必要を満たすものであり、家庭訪問の結果として行われるものです。扶助協会会長は、訪問教師を通じて、また自らワードの会員を訪問して、ワードの人たちの必要を知ります。人を助けるために会長がわたしたちを組織することもあれば、わたしたちが聖霊のささやきに従い、自分が「備えている性質」¹⁰に従って働くこともあります。何年も前、わたしはスパンサー・W・キンボール大管長の妻カミラ・キンボール姉妹から、「惜しみない心を決して抑えない」ようにと学びました。キンボール姉妹の助言に従うことによって、天の御父がわたしたちを個人的に御存じであることを確かに知ることができます。御父が御自分の手となり心となるようにと、わたしたちを助けに必要な人たちのもとに遣わされるからです。わたしたちがそのように行うとき、神を信じる信仰が強められます。



まとめ

わたしたちは教会歴史において、教会が大いに発展する幸福な胸躍る時代に生きていて、扶助協会もその歴史の一部を築いているのです。ジョセフ・スミスは次のように言っています。「すべての男性と女性と子供が、業の重要さをはっきり理解し、その成功がすべて自分の努力にかかっているかのように行動してください。すべての人が業に関心を抱き、自分たちの生きている時代が、幾千年も昔の王たちや預言者たちや義人たちが思いをはせて胸を熱くした時代であることをよく考えてください。その時代に対する期待が、彼らの最も快い調べと最も喜びに満ちた歌を生み、聖文に記録されているような歓喜の言葉を彼らに叫ばせたのです。……」¹¹

わたしは、主がわたしたちを愛してくださり、預言者、聖見者、啓示者を通してこの業を導いておられること、また絶えざる啓示によって運営されている教会に属していることを知り、喜んでます。扶助協会の目的が確実に達成されるようにすべての姉妹が役割を果たすとき、わたしたちは天使と交わり、驚くべき奇跡を経験するに違いありません。わたしたちに与えられている必要不可欠な、神聖な業を、イエス・キリストの御名によってたたえ、感謝します、アーメン。

注

1. ジュリー・B・ベック「扶助協会の目的を達成する」『リアホナ』2008年11月号、108-111参照；「末日聖徒の女性が秀でている事柄——力強く確固として立つ」『リアホナ』2007年11月号、109-112参照
2. 大管長会、「To the Presidency, Officers, and Members of the Relief Society,」*A Centenary of Relief Society, 1842-1942* (1942年)、7に掲載
3. ジョセフ・スミスの言葉、サラ・グレインジャー・キンボール、「Auto-biography,」*Woman's Exponent*, 1883年9月1日付、51で引用
4. ボイド・K・パッカー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号、211参照
5. ディーター・F・ワークトドルフ、「As You Embark upon This New Era,」*Brigham Young University 2008-2009 Speeches* (2009年)、2に掲載。林語堂、*The Importance of Living* (1937年)、162、10も参照
6. 教義と聖約50:22
7. これらの集会には、奉仕、クラス、プロジェクト、大会、ワークショップを含めることができる。その中の一つは、中央扶助協会集会と関連させてもよい。ステーク扶助協会会長は必要に応じて委員会を組織することができる。
8. これらのテーマに関してさらに指針が必要であれば、reliefsociety.lds.org [英語]を参照する。
9. 教義と聖約123:15-16
10. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』451
11. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』144

扶助協会はすべての女性に必要です

中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

扶助協会の影響と力で皆さんの人生と家庭を祝福してください。



シオンの娘として世界中の姉妹たちとともに集うことは何という喜びでしょう。救い主^{あかし}についての証と、皆さんへの愛をお伝えできるこの機会に感謝しています。

今日は、なぜすべての女性の生活に扶助協会が必要かについてお話します。

教会を組織し、確立して間もなく、預言者ジョセフ・スミスは女性の扶助協会も組織しました。ジョセフはこう語っています。「女性たちがこのように組織されるまでは、教会は決して完全に組織されていませんでした。」¹ 扶助協会は教会の重要な一部分です。同時にわたしたち会長会は、なぜ扶助協会が皆さんの生活に必要なかを理解していただきたいと願っています。

わたしたち会長会の心からの望みは、

教会の一人一人の女性が神殿の祝福を受け、交わした聖約を尊び、シオンの大義に携わる準備ができるように助けることです。扶助協会は女性に靈感を与えて教え、彼女たちが信仰と個人のふさわしさを増し、家族を強め、助けの必要な人を見つけて手を差し伸べられるようにします。

スペンサー・W・キンボール大管長は今日^{こんにち}についてこう述べました。

「この末日における教会の驚くべき発展の多くは、世の立派な……女性たちが、大勢この教会に入って来るおかげであると言えるでしょう。教会の女性が義にかなったけじめのある生活をし、良い意味で世の女性たちから区別され、違った者として見られるときに現実となって現れることでしょう。

この教会に入って来る、世のほんとうに勇氣ある女性たちの中に、自分の利益よりも、義にかなった生き方をすることに関心を寄せる女性たちがいます。このほんとうに勇氣ある女性たちは、真^{けんそん}の謙遜さ、すなわち 注目を浴びることよりも徳高くあることを重視する特質を備えています。……

このように、教会の女性たちの模範は、末日の教会の数字的な発展と靈的な発展の両方に寄与する重要な力となるのです。」²

この預言の言葉は成就しつつあると思えます。数多くの、世の立派な女性たちが様々な国でイエス・キリストの福音を受け入れています。皆さんこそ、キンボール大

管長が語った勇氣ある女性です。会長会で世界中を訪問しながら何千という姉妹たちに出会ってきました。皆さんの善い働きを目にし、心からの証を聞き、皆さんに宿る御霊^{みたま}を感じてきました。皆さんの表情から放たれる福音の光を見てきました。皆さんの良い模範と良い影響^{たぐい}は類まれで驚くべきものです。

一方で、教会や扶助協会に活発に集って得られる祝福を完全には受けていない姉妹が大勢いることも知っています。すでに扶助協会に出席している皆さんにお願いします。皆さんのワードや支部で扶助協会の業に参加していない姉妹のところへ行き、扶助協会を通してどんな祝福が得られるか、愛をもって教えてください。扶助協会が彼女たちの家庭や個人の生活を豊かにしてくれることを証してください。皆さんの友情や姉妹愛を示してください。彼女たちを見守り、強めてください。わたしたちが家庭崩壊という社会の風潮に対抗できるよう助けてください。主と、主の子供たちのための幸福の計画に心を向けられるよう姉妹たちを助けてください。そうすれば彼女たちは導きや慰め、平安、理解力、靈感を見いだすでしょう。天の御父が自分を愛しておられ、想像を超える方法で守ってくださることを知るでしょう。

扶助協会の業に携わることを受け入れた姉妹たちにはどんな祝福があるのでしょうか。扶助協会はどのように家族や家庭に祝福をもたらすのでしょうか。

改宗して間もないころ、わたしの母はサンサルバドルの小さな支部で扶助協会会長に召されました。母は自分が経験も、準備も、能力も不足していることを支部会長に説明しました。当時、母は30代で、正式な教育はほとんど受けておらず、夫と7人の子供の世話に自分の生活のすべてをささげてきました。それでも支部会長は母を召しました。

わたしは母が召しを十分に果たしていくのを見ました。務めを果たす中で指導技術を学び、人を教えたり、公の場で話したり、集会や活動や奉仕を計画してまとめたりすることなど、新しい賜物も身に付けていきました。母は支部の女性たちに良



い影響を与えました。姉妹たちに自ら仕え、姉妹たちに互いに仕え合うことを教えました。姉妹たちは母を愛し、尊敬していました。母はほかの姉妹たちが賜物や才能を見つけ、使い、身に付けられるように助けました。姉妹たちが主の王国を、そして堅固で霊的な家庭を築けるように助けました。自分が交わした神殿の聖約に忠実でした。亡くなったとき、母は造り主とお会いする用意ができていました。

母が亡くなって何年も後に、扶助協会で母の顧問として奉仕していた姉妹がこのような手紙を送ってくれました。「あなたのお母さんは、わたしが今のわたしになる方法を教えてくれました。彼女から慈愛、優しさ、正直、召しを果たすときの責任について教わりました。あなたのお母さんはよき相談相手であり、模範でした。わたしは今80歳になりましたが、救い

主と福音にずっと忠実に生きてきました。伝道に出て奉仕したことで主は豊かに祝福してくださいました。」³

わたしは同じ奇跡が、世界各地に住む、多くの女性の生活で起きるのを目にしてきました。彼女たちは福音を喜んで受け入れ、扶助協会で指導者や教師になる機会を得ることで信仰を強めて、霊的に成長します。奉仕する中で、生活に新たな側面が加わります。霊的に成長すると、帰属意識、独自性、自尊心が増します。福音の計画の目的が自分たちの可能性を最大限に高める機会をもたらすことにあると悟るのです。

扶助協会の姉妹の働きは、王国を築き、シオンの家庭を強めるのを助けます。教会には、扶助協会が行っているのと同様の奉仕を提供できる組織はほかにありません。何千もの家庭が、慰めの手を差し

伸べ、話に耳を傾け、励ましの言葉を伝える、愛ある訪問教師の奉仕により恩恵を受けています。

娘のノーマは自分の生活に扶助協会がもたらしてくれた祝福についてこう言っています。「ダレンとわたしが新婚で、最初の子供がおなかにいるとき、大学のそばの小さな町に住んでいました。二人とも学生で、収入はほとんどありませんでした。最寄りのワードまで約48キロで、唯一の交通手段はめったに動かない、古い車でした。わたしたちの状況を知ったワードの姉妹たちはすぐに団結し、必ずだれかが日曜日の集会やその他の活動にわたしたちを送迎できるようにしてくれました。何人かの姉妹は別の町に住んでいて、わたしたちのために約3、40キロ回り道してくれました。さらに、多くの姉妹は教会の後に自分の家庭で夕食をごちそうしてくれま

した。わたしたちが重荷になっているように感じさせる人はだれもいませんでした。短いながらも大変だったあの時期に扶助協会の姉妹たちが示してくれた、真の愛と慈愛を決して忘れません。」⁴

わたしの夫はビショップで、扶助協会の会長の助けなしには務めを果たせないと言います。世界中の扶助協会の会長はビショップや支部会長と手を取り合って、助けを必要としている人々を見つけ出して助けるといふ神聖な責任を果たすために姉妹たちを組織しています。これらの献身的な扶助協会会長は、皆さんの助けと積極的な奉仕を必要としています。日曜日の扶助協会の集会に出席することは皆さんを祝福しますが、扶助協会の業に携わることは教会全体を祝福するのです。

若年でも熟年でも、独身でも結婚していても、夫に先立たれていても家族とともに暮らしていても、扶助協会の影響力と力で皆さんの生活や家庭に祝福がもたらされるようにしてください。業を推し進めるために、教会の姉妹たちを呼び集めて強めることがとても必要です。それぞれの家族や教会、地域を強めるために皆さんの強い影響力をもって務めを果たしてください。この世に愛、真理、義をもたらすうえで皆さんの力を欠くことはできません。家族や友人、隣人を養うために皆さんが必要です。皆さんを通して、神の子供一人一人に、そして全人類に対する神の完全な愛が表されるのです。

わたしたち会長会のもとに、扶助協会を通して生活が祝福された姉妹から手紙がよく届きます。その手紙の多くには、扶助協会によって自分や家族にどのような祝福があったか書かれています。そこには、次のような事柄が挙げられています。

- 扶助協会によって、天の御父が娘としてわたしを愛してくださっていることを確信する。
- 扶助協会を通じて、天の御父がわたしに才能や賜物を下さったことを思い出す。
- 神殿の聖約がわたしと家族に不可欠なものであることを学ぶ。



- 母親としての務めに喜びを見いだすことを学ぶ。
- 扶助協会のレッスンや活動は、善い母親になるために必要な技術を学ぶ助けになる。
- 若い人々に良い影響を及ぼす責任が自分にあることを認識する。
- 扶助協会は自分がより善い妻となり、夫を尊んで敬意を示せるように助けてくれる。
- 学問や個人的な成長を求めるように励まされる。
- 集会や活動で自立についての基本原則を学んで実践する。
- 家庭訪問や慈善奉仕を通して奉仕の喜びを実感する。
- 自分にあると知らなかった賜物を発見する。
- 扶助協会は才能を使う機会をくれる。
- 自分が人を高めて力づけることができると知る。
- だれでも愛、優しさ、笑顔、思いやりなど、何か分かち合うものを持ち合わせていることを知る。
- 人に心からの関心を持てるようになる。
- より善い隣人となり、人に親切にすることを学ぶ。
- 臨機応変になり、目的を貫くことを学ぶ。
- 聖約を忠実に守るなら、天の御父の祝福をすべて享受できることを知っている。

以上はほんの数例です。皆さんの多くも、何か思い浮かぶ例があることでしょう。扶助協会はすべての家庭や家族の幸福に必須のものです。どの夫や父親も、扶助協会に参加するよう家族に勧めるべきです。どの姉妹も扶助協会に来て、扶助協会がもたらす機会を学ぶべきです。義にかなうすべての女性は、神の計画や主の王国を建設するうえで重要な役割を担っています。扶助協会は皆さんを必要としていて、皆さんにも扶助協会が必要です。

扶助協会が救いの業の中で神権を補助するために神によって組織されていることを証します。天の御父は生きておられ、皆さんやわたしのことを御存じで、愛しておられます。イエスはキリスト、すなわちわたしたちの救い主および贖い主です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス の言葉、サラ・M・キンポール "Auto-biography," *Woman's Exponent*, 1883年9月1日, 51で引用
2. スーザン・W・タナー「将来の母親を強める」『リアホナ』2005年6月号, 20参照
3. 個人的な書簡
4. 個人的な書簡

透き間に注意

中央扶助協会会長会第二顧問
バーバラ・トンプソン

隔たりは自己を改善する方法を思い出させてくれる一方、そのままにしておくとなりのつまずきの石となり得ます。



何年前、イングランドのロンドンに住む親しい友人を訪ねました。このとき、移動手段としてよく使われ「チューブ」と呼ばれる地下鉄に乗りました。これらの混雑した地下鉄のどの駅にも、遭遇する恐れのある危険を知らせる警告があります。電車が近づいていて、ホームの端から離れる必要のあるときは、ランプが点滅して知らせます。また、電車とホームの間に危険、すなわち透き間があることを思い出させるために「透き間に注意」と書かれた標示があります。透き間に足をを入れてしまわないように、そして透き間に物を落とすと電車の下に入ってなくしてしまうので何も落とさないように注意を呼びかけています。警告の標示は必要なものであり、身に迫る危険について教えてくれます。無事であるためには、「透き間に注意」しなければなりません。

多くの人の生活にも透き間があります。

それは時折、知識と実際の行いとの間、あるいは目標と実際に達成することの間の隔たりであるかもしれません。このような隔たりは自己を改善する方法を思い出させてくれる一方、そのままにしておくとなりのつまずきの石となり得ます。

わたし自身やほかの人々の生活に見られる、幾つかの「透き間」について話します。今夜探り上げる「透き間」は次のものです。

1つ目は、自分が神の娘であることを信じていることと、神に愛されている大切な娘であることを心と霊で知っていることとの間の隔たりです。

2つ目は、若い女性プログラムを修了することと、「女性のための主の組織」¹である扶助協会に活発に参加する女性になることとの間の隔たりです。

3つ目は、イエス・キリストを信じていることと、イエス・キリストに対する証に雄々しくあることとの間の隔たりです。

まず、自分が神に愛されている大切な娘であることを信じていることと、知っていることとの間の隔たりについて話します。

教会に入って数か月しかたっていない人も含め、ほとんどの会員は「神の子です」²を歌ったことがあります。わたしは子供のときから歌っていて、この歌をいつも信じてきました。多くの人がこの歌を信じているにもかかわらず、つらいときや困難などときには疑ったり、忘れたりする傾向にあります。

このように言う人がいます。「神がほんとうにわたしを愛しておられるなら、うちの子をこんな病気にさせなかったわ。」「神がわたしを愛してくださっていたら、

聖なる神殿で結婚し結び固めを受けられるふさわしい夫を見つけるのを助けてくださるのに。」「神が愛してくださっていたら、家族に家を買うお金があるはずよ。」あるいは、「わたしは罪を犯したからもう神に愛されるはずがないわ。」

残念なことに、このようなつぶやきをあまりによく耳にします。「キリストの愛から〔皆さんを〕離れさせる」ものは何もないことを知る必要があります。聖文は、どのような艱難、苦悩、迫害、力、またはその他どんな被造物も、神の愛からわたしたちを引き離すことはできないと明確に述べています。³

天の御父はわたしたちをととも愛しておられるので、わたしたちの罪を贖うためにその独り子を送ってくださいました。救い主はあらゆる罪のために苦しまれただけでなく、すべての人が経験し得るあらゆる苦痛、悲哀、不快感、孤独、悲しみをも味わわれたのです。これは偉大な愛ではないでしょうか。ヘンリー・B・アイリング管長はこのように述べています。「聖霊は、神が実在することを証し、神の愛への喜びをわたしたちに感じさせてくださいます。」⁴

わたしたちは神の愛を受け入れ、自分や人を愛さなければなりません。この地上にいるすべての人もまた神の子供であることを覚えていてください。わたしたちは神の子供にふさわしい愛と優しさをもって接し合わなければなりません。

皆さんの多くは、義務を果たし、戒めを守り、主に従うよう、懸命に努力しています。主が皆さんを認めておられることを認識する必要があります。主がととも喜んでおられること、そして皆さんのささげ物を受け入れておられることを知ってください。⁵

この透き間に注意し、疑いや不安を心に入れないようにしてください。神は心から皆さんを愛しておられ、皆さんは神の大切な子供であると確信を持ってください。

次に、若い女性プログラムを修了することと、女性のための主の組織である扶助協会に活発に参加する女性となることとの間の隔たりについて話します。

多くの国では、18歳になると女性は成人

と見なされます。多くの女性にとって、自分は大人であり、世の中に立ち向かって突き進む準備ができていると感じる、胸を躍らせる時期です。末日聖徒イエス・キリスト教会の若い女性にとっては、「成長するわたし」の目標の多くを達成し、扶助協会に入り、教会で奉仕する召しを受ける時期でもあります。彼女たちはこれまで若い女性プログラムで証を強め、神殿結婚や自分が築く永遠の家族につながる目標を緻密に設定してきました。

残念なことに、若い姉妹の中には、福音や扶助協会に活発に参加することから「休暇」を取っている人がいます。中には「結婚したら、あるいはもっと年を取ってから、あるいはもう少し忙しくなくなったら扶助協会に出席しよう」という考え方を持っている人もいます。

高校を卒業したときのわたしの目標は、少なくとも数年は大学に通い、すてきな男性と結婚し、男の子2人と女の子2人、合わせて4人のかわいい子供を産むことでした。わたしが働く必要のないように、高い収入を得る夫を見つける予定でした。そしてその後、教会や地域で奉仕する計画でした。幸いにも目標の一つに、活発で忠実な教会員であるというものがありました。

御存じかもしれませんが、わたしの目標の多くは思い描いていた形では実現しませんでした。わたしは大学を卒業し、伝道に出て、就職し、さらに高い教育を受けて修士号を取得し、仕事をずっと続けてきました。(13年前に古いクッキーを開けて「1年以内に結婚するでしょう」と書かれていたとき、必ず結婚すると思っていました。)ところがすてきな男性に出会うことも、結婚することも、子供を産むこともありませんでした。一つの目標を除いて、何も計画どおりにいっていませんでした。その一つとは、活発で忠実な教会員であるように努めたことです。このことに何よりも感謝しています。わたしの人生に大きな影響を与えたからです。

わたしは何年もの間、若い女性で奉仕する機会がありました。それによって、証を求めて努力しながら神が定められた方法で成長しようとしている年若い女性を教



え、証を述べる機会を享受していると感じました。

また、扶助協会の責任においても奉仕する機会があり、人に仕えて信仰を増すことを学び、扶助協会への強い帰属意識を得る助けになりました。わたしは結婚しておらず、子供もいませんでしたが、自分の人生には意味があると感じました。時には落胆し、主の計画に疑問を抱くこともありました。

教会員ではない職場の同僚が「なぜ結婚や家族をそれほど強調する教会に行き続けているの」と聞いてきました。わたしは簡潔に「真実だからよ」と答えました。教会の外では、わたしは独身で子供がいない人でしかありません。しかし、教会とイエス・キリストの福音が生活にあることによって幸福を見だし、救い主が望ん

でおられる道を歩んでいると確信できました。喜びを見だし、奉仕し、愛し、成長する多くの機会を得たのです。

扶助協会に活発に参加することで何を得られるかということだけではなく、何をささげ、貢献できるかが大切であるということをお忘れなくください。

愛する姉妹の皆さん、特にヤングシングルアダルトの姉妹の皆さん、神は皆さんを愛し、見守り、皆さんに計画を用意しておられることを証します。神は御自分の子供たちに奉仕するよう、皆さんに求めておられます。御自分の教会において快活で忠実であり、活発に参加する女性であるよう、皆さんに求めておられます。「疲れし者を救[う]」⁶よう、皆さんに求めておられます。

1873年、第2代中央扶助協会会長で



あったエライザ・R・スノー姉妹は、ユタ州オグデンに集まった10代や成人の大勢の姉妹に向けて話をし、当時にふさわしく、今日にも当てはまる次の勧告をしました。

スノー姉妹は年若い女性たちにこのように言いました。「もし皆さんが互いに〔すなわち世代間の〕交流を持つなら、考える力が増し、知恵を蓄え、無知を克服することができます。神の御霊は皆さんの心に教えを授けてくださり、皆さんはそれを互いに教え合ってください。神が皆さんを祝福されますように。皆さんは神の聖徒であり、シオンにおいて重要な働きを担っていることを忘れないでください。」

スノー姉妹はさらにすべての女性にこう勧めました。「使徒パウロは古代において聖なる女性について語りました。わたしたち一人一人の義務は、聖なる女性であることです。聖なる女性であれば、より高い目的を持ち、大切な務めを果たすために召されていることを実感するでしょう。この務めを免れる女性はいません。孤立しすぎ、力の及ぶ範囲が狭すぎて、地上に神の王国を築くために大きく貢献できないという姉妹はいません。」⁷

どうぞこの隔たりに気をつけて、どのような後ろ向きな気持ちが入る透き間も作らないでください。

最後に、イエス・キリストを信じることで、

イエス・キリストに対する証に雄々しくあることの間の隔たりについて話します。

多くの人はイエス・キリストを信じています。イエスがはるか昔、ベツレヘムのつましい環境でマリヤからお生まれになったことを信じているのです。ほとんどの人はイエスが偉大な教師、親切で高潔な人物となられたことを信じています。イエスが価値ある原則や戒めを教えられたこと、そして人がその教えに従い、戒めを守るなら祝福されることを信じている人もいます。

しかし、わたしたち末日聖徒は、キリストを信じるだけでは十分でないことを知っています。主を信じる信仰を持ち、罪を悔い改め、主の御名によってバプテスマを受け、聖霊の賜物を受け、最後まで忠実に堪え忍ばなければなりません。

自分の証を人に伝えなければなりません。神と交わした聖約を忠実に守らなければなりません。わたしたちは、「イエス・キリストの福音のために勇敢に堪え忍んだ」⁸ 人々にすべてが明らかにされ、与えられることを知っています。

改心すると必然的に、愛する人に福音を伝えたいと思うものです。リーハイは改心し、福音の良さを家族にも味わってほしいと思いました。⁹ ニーファイは、どこに罪の赦しを求めればよいか、すなわち、ど

こに平安と喜びを見いだせばよいかを、自分の子孫に知らせるために、キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教しました。¹⁰

エノスが改心して罪の赦しを受けたとき、今度は同胞の幸福を案じました。自分が受けた祝福を受けてほしいと思ったのです。¹¹

聖文の至る所に、改心し、その後兄弟姉妹を「力づける」ことを望んだ男女が登場します。¹²

主が生きておられること、また、主の教会が回復され、すべての人に幸福の計画が与えられていることを雄々しく宣言するとき¹³、皆さんの声が忠実な人々に届きますように。

細心の注意を払い、危険から遠ざかることによってこれらの「透き間」に気をつけるなら、イエス・キリストの福音がもたらす完全な祝福を受けることができます。

愛する姉妹の皆さん、わたしは皆さんを愛しています。救い主は生きておられ、わたしたち一人一人を愛しておられることを知っています。この教会は主のまことの教会です。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。

注

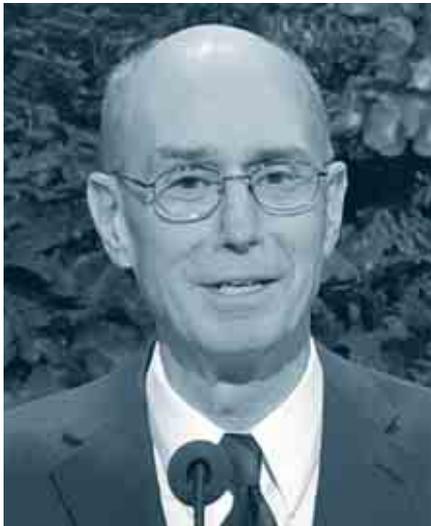
1. スペンサー・W・キンボール「扶助協会——その将来と可能性」『聖徒の道』1977年3月号、182
2. 「神の子です」『賛美歌』189番
3. ローマ8：35-39参照
4. ヘンリー・B・アイリング、「伝道の業における神の愛」（伝道部会長セミナーでの説教、2009年6月25日）
5. 教義と聖約97：27；124：1参照
6. 「シオンの娘」『賛美歌』195番
7. エライザ・R・スノー、「An Address,」*Woman's Exponent*, 1873年9月15日付、62
8. 教義と聖約121：29
9. 1ニーファイ8：10-12参照
10. 2ニーファイ25：26参照
11. エノス1：5-11参照
12. ルカ22：32参照
13. 教義と聖約76：22参照

扶助協会の 不朽の受け継ぎ

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

扶助協会の歴史は言葉や数字で記録されますが、その受け継ぎは心から心へと伝えられていきます。



今 晩、皆さんと御一緒できることを感謝します。モンソン大管長とワークトルフ管長の愛と感謝を皆さんにお伝えします。1842年の創立以来、扶助協会は神の預言者の思いやりと愛にあふれた見守りによって祝福を受けてきました。ノーブーで創設された際には、ジョセフ・スミスが、集まった会員たちと指導者たちを教えました。

扶助協会にはそのような栄光に満ちた歴史があることを知っていますので、皆さんに話をするようにというモンソン大管長の提案に、責任の重さを感じました。初期に開かれた扶助協会のある集会で、預言者ジョセフ・スミスはニューウェル・K・ホイットニー・ビショップに、自分に代わって話をするように頼んで彼を驚かせました。

ホイットニー・ビショップは、「預言者から教えを受けられると楽しみにして来たのですが」と言いました。わたしにはホイットニー・ビショップの失望感も、たぶん皆さんが感じているであろうがっかりした気持ちも理解できます。

ですから、わたしはこの時間に向けて準備をしていたとき、皆さんにとって最も役立つ話は何だと思うか、モンソン大管長に尋ねてみました。大管長の答えから、自分が研究と祈りによってすでに感じていたことが正しいことを確認できました。

今晚、わたしは皆さんに、扶助協会において皆さんの先人が残してくれた偉大な受け継ぎについて話します。初期の姉妹たちが皆さんのために据えた基の中で、最も重要で変わることがないのは、次のことではないかと思います。すなわち、慈愛は扶助協会の中心にあるものであり、すべての会員の心に注がれて、まさに人の性質の一部となるべきものであるということです。彼女たちにとって、慈愛とは慈しみの気持ちをはるかに超えるものでした。慈愛は主イエス・キリストを信じる信仰から生まれるものであり、主の贖い^{あがな}が会員の心に作用している結果なのです。すばらしい善を行う女性の慈善団体はたくさんあります。恵まれない人や病気の人、乏しい人に、抑え切れないほどの同情心を抱く人はたくさんいます。しかしこの組織は他に類のないものであり、創立以来、そうであり続けてきました。

姉妹たちが創立したこの礎^{いしづ}にあって、こ

れらの偉大な姉妹たちは、「慈愛はいつまでも絶えることがない」¹ という言葉をその中心に据えてきました。その言葉は扶助協会の創立当初、皆の支えとなりました。それに続く偉大な時代も支えとなりました。そして、新たな時代となった今も支えとなっており、これから将来も支えとなるでしょう。

この扶助協会を構成する姉妹たちの慈愛は、変化を経験した心からわき出るものであり、その心の変化は、主のまことの教会だけが提供する聖約を交わすにふさわしい者となることによって、また、聖約を守ることによって生じるものです。姉妹たちの慈愛の気持ちは、主の贖いによって主からもたらされます。姉妹たちの慈愛の行いは、主の模範によって導かれ、主の無限の憐れみ^{あわれみ}の賜物^{たまもの}に対する感謝から生まれます。また、憐れみの使命^{しよべ}を果たす御自分の僕^{しもべ}たちに主が送ってくださる聖なる御霊^{みたま}によって導かれます。そのために、姉妹たちは人々のために並外れた働きをし、自身が大きな必要を抱えているときでさえも喜びを見いだしてきたのであり、またそうすることができるのです。

扶助協会の歴史は、そのような驚くべき無私の奉仕の話に満ちています。忠実な人たちがオハイオからミズーリへ、イリノイへ、そして不毛の地を越えて西部へと移動した過酷な迫害と困窮の日々に、姉妹たちは貧困と悲しみの中にありながらも人々を世話しました。扶助協会の歴史から幾つかの話をここで読んだなら、わたしがそうであったように皆さんも涙を流すことでしょう。彼女たちの寛大さに、そしてそれ以上に、彼女たちを高め、支えた信仰をはっきりと理解し、心を打たれることでしょう。

彼女たちは実に様々な境遇にありました。皆が人生に付き物の試練や心の痛みを経験していました。主と人々に仕えようという信仰から生じる決意は、人生の嵐^{あらし}が及ばない所へではなく、嵐の只中へと彼女たちを導いていくようでした。若い人もいれば、年老いた人もいました。今日の皆さんと同じように、様々な国や民族の出身でした。しかし、心をついにし、思いを一つにし、一つの目的を持っていました。

主が御自分のシオンを築かれるのを手伝おうと決意していました。シオンはモルモン書にとでもいきいきと描かれているように、幸福に暮らせるはずの場所でした。皆さんも第4ニーファイに記されている光景を思い起こすでしょう。シオンへの旅において主がどこに導かれようと、彼女たちはそのような光景を心に描いていたのです。

「そして第三十六年には、民はニーファイ人もレーマン人もともに皆、地の全面で主に帰依した。そして、彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。

また、彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者も、束縛された者も自由な者もなく、皆自由となり、天の賜物にあずかる者となった。……

そして、民の心の中に宿っていた神の愛のために、地の面にはまったく争いがなかった。」²

当時の扶助協会の初期の会員たちがそのような安らかな時代を経験することはありませんでした。それでも心には神の愛が宿っていました。それゆえに扶助協会は、そして彼女たちは、西部への旅とその後の歳月を堪え忍びました。厳しい状況のために、40年近くも扶助協会は教会全体にわたる組織としての機能を果たしてはいませんでした。しかし1868年、ブリガム・ヤングはエライザ・R・スノーを召し、ビジョップたちが扶助協会を組織するのを支援させました。そして1880年、スノー姉妹は2代目の中央扶助協会会長に召されました。扶助協会の記録によれば、正式に扶助協会の業を再開するために教会各地の姉妹たちに働きかけた指導者は、姉妹たちの心の中の慈愛が弱まっていないことを知りました。姉妹たちは助けの必要な人に憐れみをもって手を差し伸べ続けていたのです。聖約に忠実でいた人たちにとって、キリストの純粋な愛である慈愛の賜物は朽ちることなく続いていたのです。彼女たちは依然としてその賜物を持っていました。

その後、扶助協会は人数においても、助けの必要な人のために務める力においても成長を遂げました。大いなるビジョンと能力を持つ女性たちの指導の下で、扶



助協会は助けの必要な人のために、合衆国西部の辺境地域では行われていなかった様々な慈善奉仕活動を率先して始めました。小さな病院を設立しました。そしてそこで働くために、女性が合衆国東部に行つて医療訓練を受けるのを支援しました。こうして合衆国でも有数の病院組織が誕生することになったのです。

姉妹たちが取りかかったプログラムは、長い年月を経て、世界規模のLDSファミリーサービスプログラムへと発展しました。姉妹たちが作った穀物貯蔵制度はたいへん効果的で、戦争や恐慌の際には連邦政府の支援要請に応じることができました。また、後に初等協会となる活動や、教会の若い女性のための組織となる活動も始めました。女性のための機関誌も自分たちで創刊しました。そして扶助協会は世界で最も大きな女性のための組織の一つとなりました。さらに、姉妹たちは合衆国の女性団体で指導的な役割を担うようになりました。

教会は世界中で人道支援を行う力を持つようになりましたが、その発端のかなめとなったのが扶助協会でした。ユタを訪れる世界各国の指導者は、世界中の貧しい人々や、戦争や天災の被害者のために教会が行っている事柄に対して、畏敬と称賛の念を表します。神の子供たちへのこの特筆すべき働きの数々は、扶助協会の不朽の受け継ぎの一部なのです。

預言者ジョセフ・スミスは、扶助協会の最初の集会で、そのような驚くべき事柄が姉妹たちの忠実な奉仕によって生まれるだろうと語りました。姉妹たちの奉仕から学び、そこに参加しようと女王たちがやって来るだろう、と預言者は語りました。³ わ

たしはその預言が成就するのを見てきました。そして、主の業において主に仕える人に対する聖文の中の約束が、扶助協会の開拓者たちにも与えられていたことが数々の記録から分かります。預言者ジョセフ・スミスを通じて与えられたその約束は、教義と聖約の第88章に記録されています。ここでは連続する時期に主とともに働くように召される人々について語られています。

「そして、彼は最初の僕に、『あなたは畑に行つて働きなさい。第一の時に、わたしはあなたのところに行こう。そして、あなたはわたしの喜び顔を見るであろう』と言った。

また、彼は第二の僕に、『あなたも畑に行きなさい。第二の時に、わたしは喜び顔をもってあなたを訪れよう』と言った。

そしてまた、第三の僕にも、『わたしはあなたを訪れよう』と言った。

また第四の僕にも、というようにして第十二の僕に至った。

そして、畑の主人は第一の時に最初の僕のところに行つて、その時間いっぱい彼とともにいた。そして、彼はその主人の顔の光によって喜びを得た。」⁴

姉妹たちが残した当時の記録から、扶助協会の第1の時期の女性たちが主の約束された喜びを感じていたことは明らかです。主は御業において彼女たちとともにおられました。主は御業を發展させられ、姉妹たちは喜びと光を感じました。

預言者ジョセフは、続いて別の時期が訪れるのを先見しました。ジョセフは姉妹たちが第1の時期に築くであろう数々の大いなる業を見ました。しかしジョセフは、姉妹たちが自分の身近な、直接知っている人々に仕え、祝福をもたらし、心を留めることになることも言ったのです。

扶助協会の姉妹たちは、喜びに満ちた奉仕の時の後、主に導かれて別の時期に移り、自分たちが見事に手入れしてきた畑を離れることになりました。また、扶助協会が土台を築いた病院組織を引き継いだ忠実な男性たちにとって、それはつらいことでした。主は預言者を通じて次のことを明らかにされました。すなわち、神権を持つ主の僕は、善を行うその強力な道具

である病院組織の維持と確立をほかの人の手にゆだねるように求められたのです。そこで、教会はそのすばらしい病院を手放しました。

わたしはその病院組織において奉仕の喜びを感じていた男性たちを知っており、敬服しています。彼らは、その喜びが自らの業績からではなく、主とともに働いていることから得られるものであることを認めていました。ですから、自分たちが築いてきたものをほほえみながら喜んで手放しました。主は自分たちがもっと別の場所で、すなわち別の時期において別の畑で働く必要があると考えておられるのだ、という信仰があったのです。

皆さんの扶助協会の受け継ぎの中でも特に貴いものに、それと同じ信仰があります。扶助協会の指導者や会員の心の中にも、それと同じ信仰があったのです。主は、別の時期に彼女たちのすばらしい才能がどこで必要となるか、また、自ら着手し築いてきた慈悲深くすばらしい事業で得られる喜びに勝る大きな喜びを彼女たちがどこで見いだすことになるかを御存じでした。

教会はさらに大きくなり、世界中に広がりました。拡大を続ける教会とますます混乱していく世の中であって、扶助協会が生み出した奉仕の業は、膨大な資源と絶え間ない監督を必要とするようになり始めました。そして、中央集権化された大規模なプログラムを行うことによって、扶助協会の指導者や会員が主のために、主とともに、個人に仕える喜びを感じる機会が減っていきました。

しかし、新たな時期のために、主はすでにある機会を設けておられました。とても多様な世の中であって、とても大きな教会のあらゆる場所で支援し慰められる唯一の方法は、助けの必要な人の近くにいる個々の僕たちを介するという方法でした。主はそのことを、扶助協会が創立されたときから御存じでした。

主は一つの規範を設けられました。二人の扶助協会の姉妹が、別の姉妹を訪れるという割り当てを主からの召しとして受け入れます。それは最初からそのとおりでした。割り当てられた二人の訪問教師



の力を超えているときは、扶助協会の役員は、慈善奉仕の業を行う信仰を持っている会員を組織しました。それはいつも身近で面識のある人たちの間で行われました。会員は地元の集会で福音を教え、救い主と回復について証を述べます。娘が母親を見守ります。母親が娘に耳を傾け、教え、心にかけるのです。

扶助協会の会員は、常に神権を持つ地元の羊飼いの信頼を受けてきました。すべてのビショップとすべての支部会長には、信頼できる扶助協会会長がいます。そして扶助協会会長には、すべての姉妹が直面している試練と抱えている必要を知る訪問教師がいます。訪問教師を通じて、個人と家族の心の内を知ることができます。必要を満たし、ビショップが個人と家族を養うという召しを果たすのを助けることができます。

神権者がこれまで常に扶助協会に敬意を示し、また扶助協会から同様に敬意を受けてきたことを見れば、この協会の受け継ぎの中でもひときわすばらしいものが分

かります。皆さんも見えてきたように、わたしも見えてきました。わたしたち家族のビショップが何年も前に、ほほえみながらこう言ってきました。「助けの必要なワードの会員のところに行くと、いつも奥さんがわたしより先にもう行っていたようなのですが、どうなっているのでしょうか。」いづらか経験のあるビショップや支部会長なら皆、扶助協会の姉妹たちの靈感による模範から静かな促しを感じたことがあるでしょう。姉妹たちは、すべての人、すなわち、女性にも男性にも、慈善奉仕の業なしに救いはないということを思い起こさせてくれます。

年上の皆さんは、マリオン・G・ロムニー管長が次のベニヤミン王の言葉を引用して、自分は姉妹たちと同じように、忠実にそのような慈善奉仕を行おうと決意している、と語ったのを覚えていることでしょうか。「さて、あなたがたに語ってきたこれらのことのために、すなわち、神の御前を罪なく歩めるよう、日々罪の赦しを続けて受けるために、自分の持っている分にに応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるように

してほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて霊的にも物質的にも助けを与えることである。」⁵

ロムニー管長はこの聖句を読んだとき、ほほえんでいました。その理由としてわたしが覚えているのは、彼が奉仕を通して罪を赦されたいと心から望んでいると言ったことです。だからこそ、ロムニー管長は姉妹たちとともに、自分にできるかぎりの慈善奉仕をしたいと思ったのでしょう。

ではこれから、この扶助協会の驚くべき神聖な受け継ぎを皆さんに続く人たちに伝えるために、なすべきことについて話しましょう。必要となるのは、小さな、簡単なことです。ただ、受け継ぎは心から心へと伝えられていくのだということを覚えておいてください。キリストの純粹な愛である慈愛は、主が御自分の忠実な弟子に約束しておられる心の大きな変化の一部です。ですからこの受け継ぎを伝えるために皆さんにできる、そして皆さんがなすべき簡単なことを知るの、難しいことはありません。

例えば、皆さんと皆さんの同僚が家庭訪問に行く準備をするときにはいつも、何が成功であるかを思い起こす必要があります。それは家の中に入る以上のことでしょう。メッセージを伝える以上のことでしょう。自分たちにどのような助けができるかを尋ねる以上のことでしょう。成功は、恐らく何度も訪問した後に初めてもたらされるでしょう。そして自分が成功を収めたという証拠を、この世で目にするのではないかもしれません。それでも、皆さんは御霊によって、自分が前進しているかどうかを感じることができます。

ある扶助協会の会員が、一人の女性を訪ねたことについて話してくれました。訪問先の女性の夫に、突然、悲劇的な形で、死が訪れようとしていました。彼女はここ数年、扶助協会の姉妹たちとは時々接触があるだけでした。

姉妹は訪問の前に、花を買おうと店に立ち寄りました。色とりどりのチューリップが山のように売られている季節でした。自分の好きな一つの色を選びましたが、別の色にした方がよいと心を感じました。



そしてなぜだか分かりませんでしたが、黄色を選びました。

玄関で黄色いチューリップを差し出すと、相手の女性はほほえんで言いました。「裏庭を見に来てください。」そこは満開の黄色いチューリップでいっぱいでした。女性は言いました。「家に飾るために何本か切ろうかどうか考えていたところだったんです。でもあなたが持って来てくれたおかげで、もうしばらく残しておいて、庭で楽しむことができます。」二人はまるで昔からの友人であるかのように、楽しくおしゃべりしました。花を持って行くべきだ、そして黄色を選ぶべきだというあの強い思いから、訪問教師は自分が主の用向きを受けているという確信を得ました。彼女がそう言ったとき、その声から喜びが伝わってきました。

姉妹はわたしと話をしたとき、夫を亡くしたあの女性が訪問の後に何を感じたかは知りませんでした。しかし、もしその女性が、神が自分を愛しておられて、天使を遣わしてくださったと感じたのなら、訪問教師は女性が主の目から見て成功に至る道を進む助けをしたのです。自らの忠実な努力がもたらした成功を、来るべき世に行って初めて知ることになるかもしれません。

ある二人の訪問教師もそうです。近所

の老人ホームに住む寡婦^{かぶ}のところ、9年近くにわたって何度も愛を届け続けました。数々のつらい試練の後、その女性はほんの数週間前に亡くなりました。彼女の息子さんから聞いた事柄から、わたしは訪問教師たちが成功を収めたと確信しています。

彼女たちは、預言者ジョセフ・スミスの母親が、出席した扶助協会集会で姉妹たちに述べたような、幸福な経験をするようになるでしょう。彼女はこう言いました。「わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。」⁶

人が心に慈愛の賜物を授かる手助けをするとき、皆さんは受け継ぎを伝えていることになります。すると今度はその人たちが、さらに別の人に伝えることができるようになるでしょう。扶助協会の歴史は、言葉や数字で記録されますが、その受け継ぎは心から心へと伝えられていきます。家族が扶助協会からたくさんのお恩恵を受けるのはそのためです。

母はわたしに、「愛はいつまでも絶えることがない」という言葉が記された小さなピンを残してくれました。バック姉妹は、襟に付けるこの小さいピンをくれました。

母が家族に残してくれた不朽の受け継ぎは、そのピン以上のものでした。それは、母の愛と、母が主のために思いやりをもって行ったささやかなことの中にわたしが見た、また感じた、主の愛です。母は扶助協会の女性でした。母には娘がいまいませんでしたが、わたしの妻はその受け継ぎを二人の娘に伝えてきました。そして娘たちは、それをほかの人たちの心に残していくことでしょう。この受け継ぎはいつまでも続くでしょう。なぜなら、慈愛はいつまでも絶えることがないからです。

慈愛がキリストの純粋な愛であることを証します。主は生きておられます。主とともに仕えるとき、わたしたちは主の喜びを感じます。主の贖いによって、わたしたちが慈愛の賜物を請い求め、授かれるようにしていただきました。また、わたしは御父が生きておられ、祈りにこたえてくださることを知っています。皆さんは回復の預言者ジョセフ・スミスによって創立され、進むべき道を示された扶助協会の会員です。バック姉妹と顧問の姉妹たちは、生ける預言者に与えられた神からの靈感によって召されました。わたしはそれが真実であることを知っています。

皆さんには栄光に満ちた受け継ぎがあります。神が皆さんに靈感を与えられて、皆さんが受け継ぎを守り、今後の世代、今後の時期の人たちに祝福と喜びをもたらす受け継ぎとして伝えていくよう、神に祈ります。わたしたちが仕えるイエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. コリント13:8;モロナイ7:46
2. 4ニーファイ1:2-3, 15
3. Relief Society, Minute Book Mar. 1842-Mar.1844, 1842年4月28日付の記録, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ, 39参照
4. 教義と聖約88:52-56. 強調付加
5. モーサヤ4:26
6. ルーシー・マック・スミス, Relief Society, Minute Book Mar.1842-Mar.1844, 1842年3月24日付の記録, 18-19

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭のタペ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語
リチャード・G・スコット長老	スコット長老は、教会の集會中にたくさんの靈感を受けた。(6)
ビッキー・F・松森	聖霊を毛布にたとえたひかりクラスの教師。(10) バプテスマの後で聖霊を感じた少女時代のビッキー・松森。(10)
L・ホイットニー・クレイトン長老	薪の入った重い袋を背負うペルーの男性。(12)
ラッセル・T・オスガソープ	初等協会でお話の責任が果たせるよう、ラッセル・オスガソープ少年を助けてくれた初等協会の教師。(15) 伝道中のオスガソープ長老を助けてくれたタヒチの女性。(15)
ケント・D・ワトソン長老	ワトソン長老の車のフロントガラスにタイヤがぶつかった。(38)
ニール・L・アンダーセン長老	教会に再び集うようになった年配の夫婦。(40)
ボイド・K・パッカー会長	牛が癒されるように祈ったパッカー会長の息子。(43) 作業用の鉄道車両にひかれそうになりながら守られたグラハム・ドクシー。(43)
ウォルター・F・ゴンサレス長老	モルモン書を読むことに大きな喜びを感じたウォルター・ゴンサレス少年。(50)
チェ・ユンフワン 崔 崙 煥 長老	模範になった「騒がしい少年たち」。(53)
ヘンリー・B・アイリング管長	重傷を負った幼い女の子が、神権の祝福によって癒された。(59) 若い男性に、欠席した友人と連絡を取り、報告するよう頼んだビショップ。(59)
トーマス・S・モンソン大管長	怒りのあまり、誤って息子にけがを負わせてしまった父親。(62) 受け取った貸金の額を見て侮辱されたと感じたヒーバー・J・グラント。(62)
ヘンリー・B・アイリング管長	「どうか空席を作らないで」と刻まれた墓石。(70) 病気の妻の看護をしたアイリング管長の父親。(70)
L・トム・ペリー長老	造船の経験を持つノルウェー出身の大工たちが、船体を逆さにしてユタ州マンタイ神殿の屋根を造った。(73)
H・デビッド・バートンビショップ	ピアノの先生に電話をかけ、もらったご褒美が正当なものだったかどうかを話し合った少女。(76) 勉学の目標を達成できず、大会に参加しなかった10代のスキー選手。(76)
アン・M・ディブ	橋の建設中に足場が崩れ、作業員のある者は死亡し、ある者は危険な状態のまま取り残された。(79)
ラッセル・M・ネルソン長老	10年前に出会った家族のために結び固めを執行したネルソン長老。(81)
トーマス・S・モンソン大管長	退職後も人々に仕え続けているジャック・マコネル博士。(84) 誕生日の贈り物として、奉仕の経験談を受け取ったモンソン大管長。(84)
ブレント・H・ニールソン長老	何年も前、ニールソン長老がある町のために祈り、後に息子がその町で伝道するように召された。(95)
デール・G・レンランド長老	一度、自ら教会を休んだ後、教会に出席し、祈り、聖文を研究しようと再び決意したデール・G・レンランド。(97)
D・トッド・クリストファーソン長老	チョコレートキャンディーを盗んだ後で教訓を得たD・トッド・クリストファーソン少年。(105)
シルビア・H・オールレッド	若い夫婦を教会まで車で送迎した扶助協会の姉妹たち。(115)
ヘンリー・B・アイリング管長	黄色いチューリップを持って行くように靈感を受けた家庭訪問教師。(121)

中央補助組織会長会

扶助協会



第一顧問
シルビア・H・オールレッド



会長
ジュリー・B・ベック



第二顧問
バーバラ・トンプソン

若い女性



第一顧問
マアリー・N・クック



会長
イレイン・S・ダルトン



第二顧問
アン・M・ティブ

初等協会



第一顧問
マーガレット・S・リファース



会長
チェリル・C・ラント



第二顧問
ビッキー・F・松森

日曜学校



第一顧問
デビッド・M・マックンキー



会長
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問
マシュー・O・リチャードソン

若い男性



第一顧問
ラリー・M・ギブソン



会長
デビッド・L・ベック



第二顧問
エードリアン・オチョア

わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調する必要があります。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料

を使ってレッスンを準備したいと思うことがあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。■

月	第4日曜日のレッスン教材
2009年11月— 2010年4月	『リアホナ』2009年11月号掲載の説教*
2010年5月— 2010年10月	『リアホナ』2010年5月号掲載の説教*

*これらの説教は、LDS.org にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧できます。(訳注—ldschurch.jpからもアクセスできます。「福音ライブラリ」「総大会」の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには「福音ライブラリ」「リアホナ」の順にクリックし、2009年11月号のアイコンをクリックしてください。)



5つの新たな神殿, 大会で発表される

トーマス・S・モンソン大管長は、2009年10月3日(土曜)4日(日曜)に開かれた第179回半期総大会の開会に当たり、アメリカ合州国ユタ州プリガムシティー、チリ・コンセプション、ブラジル・フォルタレザ、アメリカ合州国フロリダ州フォートローダーデール、日本札幌の5か所に新たに神殿を建設する予定であることを発表した。

世界各地の教会員は、カンファレンスセンターで、また、テレビ、衛星放送、インターネット、

ラジオを通じて92もの言語で大会に参加した。収録された放送は、DVDやCD、インターネットで視聴できるようになる。

この5つの神殿が新たに加わり、建設が発表されている神殿と建設中の神殿の数は合計21になった。これら21の神殿が完成すると、世界の神殿数は151になる。

「わたしたちの神殿建設はこれからも続きます。」モンソン大管長は語った。「できるかぎり多くの会員が、法外な距離を移動することなく神殿に参入でき

るようにすることがわたしたちの望みなのです。」

プリガムシティーの神殿はユタ州では14番目となる。ユタ州ドレーパー神殿とユタ州オーカーマウンテン神殿の二つは、今年すでに奉献されている。

南アメリカには現在、儀式を執行している神殿が13ある。チリ・コンセプション神殿は、チリで2番目の神殿となる。

ブラジル・フォルタレザ神殿は、ブラジルで6番目の神殿となる。マナウスに神殿が建設されることが2007年5月に発表されており、同国内で現在儀式を執行している神殿は4つ

ある。

フロリダ州南部とバハマの会員の必要にこたえ、フロリダ州フォートローダーデールに神殿が建設される。フロリダ州で2番目の神殿となる。

日本札幌神殿は、日本東京神殿と日本福岡神殿に次ぎ、日本で3番目の神殿となる。

モンソン大管長は、現在83パーセントの教会員が神殿から200マイル(約320キロ)以内の距離に住んでいると語った。「引き続き全世界に神殿を建設していけば、この割合は増え続けるでしょう」と大管長は付け加えた。■

災害に見舞われながらも 信仰により祝福された会員たち

地震とその後の津波により甚大な被害を受けたサモア諸島の末日聖徒は、総大会の期間中、個人と家族の物質的な不安をわきに置いて、霊的な必要を満たした。

総大会を目前に控えた2009年9月29日、マグニチュード8.0の地震がサモア・アピアの南東約120マイル(約190キロ)を襲った。地震の後に約15フィート(約5メートル)の波4回を含む津波が押し寄せ、太平洋の島々に住む180人以上の命が奪われた。9人を除いて皆サモア諸島で命を落とした。

この災害で少なくとも26人の教会員が死亡し、復旧活動を余儀なくされたにもかかわらず、末日聖徒は時間を作ってラジオやテレビ、衛星放送で総大会に参加し、豊かに祝福された。

教会員であり、アメリカ合衆

国議会の米国領サモア代表でもあるエニ・F・H・ファレオマバエガによると、地元の聖徒たちは危機的状況の中で大会に参加することにより強められた。彼はこう語る。「生きるか死ぬかの状況ではありませんが、……預言者の言葉を聞くと安心します。」

会員たちは現代の預言者たちの言葉を母国語で聞くことにより元気づけられたが、それは自らも被災した翻訳者たちの力によるところが大きい。

ソルトレーク・シティーからではなく、地元から生放送通訳を行うようにという指示を今回初めて受けていた翻訳者チームは、災害後一つの決断を迫られた。地震の被害を受けた家族や友人の世話をするため、急きょソルトレーク・シティーの担当者に通訳を委任するか、それとも、予定どおり通訳の割り当てを果たすかという

選択だ。

翻訳課長兼通訳コーディネーターのアリイタシ・タラタイナは、人々の物質的な必要を満たし、亡くなった人を埋葬できる人はたくさんいるが、「生きている人々と次の世代のために、これこそ、主がわたしたちに行うよう望んでおられることだ」と感じたと言っている。

あらかじめ通訳機材を設置しておいた教会のサービスセンターは、災害管理チームが使用することになった。そのため、通訳チームはデジタル電話回線と遠隔地から同時通訳を行うために必要なそのほかの環境の整った施設を見つけることが必要となった。

タラタイナ姉妹は通訳者たちが「たとえ木の下でしななければならないとしても、わたしたちは行って行きます」と語ったとき、その信仰はニーファイの信仰をほうふつとさせたと語る(1ニーファイ3:7参照)。

主の助けによって、通訳をするための場所が見つかった。必要な機材が運び込まれ、設置が終わり、試験が終了したのは大会の数日前だった。

「命じられたことを成し遂げようと努力するとき主の御手を感じました」とタラタイナ姉妹は語った。

通訳者チームの努力のおかげで、大会が始まると会員たちは大掛かりな片付け作業を中断して大会を視聴し、自分たちに向けられた主の言葉に耳を傾け、メッセージを理解することができた。■



AP Photo/Honolulu Star-Bulletin/Chris Wedel. New Zealand Herald

総大会の直前、サモア諸島の一部が地震と津波により打撃を受けた。

南太平洋諸島を襲った津波

2009年9月29日、南太平洋で発生したマグニチュード8.0の地震は津波を引き起こし、教会員は近隣の清掃活動に協力している。

この地震と津波は180人以上の死者を出し、行方不明者や負傷者の数は数百人に上った。さらに非常に多くの建物が破壊された。サモアでは約140人、米領サモアでは30人以上、トンガでは9人の死亡が確認された。死者の中には、少なくとも26人の教会員が含まれていた。そのうち22人がサモアの会員、4人が米領サモアの会員だった。

地元の神権指導者は、食糧や水や衛生用品を配付するな

どして、緊急の必要を満たすために協力した。神権指導者はまた、長期的な支援体制を組織するために、政府や援助団体と協力した。教会は10月6日、飛行機1機分の支援物資をソルトレークから被災地に送った。

フィリピンとベトナムが台風で襲われる

教会と教会員は、台風「ケッツァーナ」の被害を受けたフィリピンと東南アジアの救援に当たった。2009年9月と10月に上陸したこの台風は300人を超える死者を出した。

台風はまずフィリピンに上陸し、約50万人を立ち退かせた。56万人以上が600以上の避難

所へ移動した。死亡が確認された275人のうち12人が教会員だった。さらに14人が行方不明となっている。洪水により全壊した会員の住宅は44、さらに223の会員の住宅が被害を受けた。少なくとも25の教会堂が洪水による被害を受け、さらに25の教会堂が一時避難所として使われた。

ベトナムでは、台風による洪水や地滑りで40人以上が死亡した。台風が通過するまでに約20万人が中央の諸州から避難した。ベトナムの教会員と宣教師は全員無事であることが確認された。

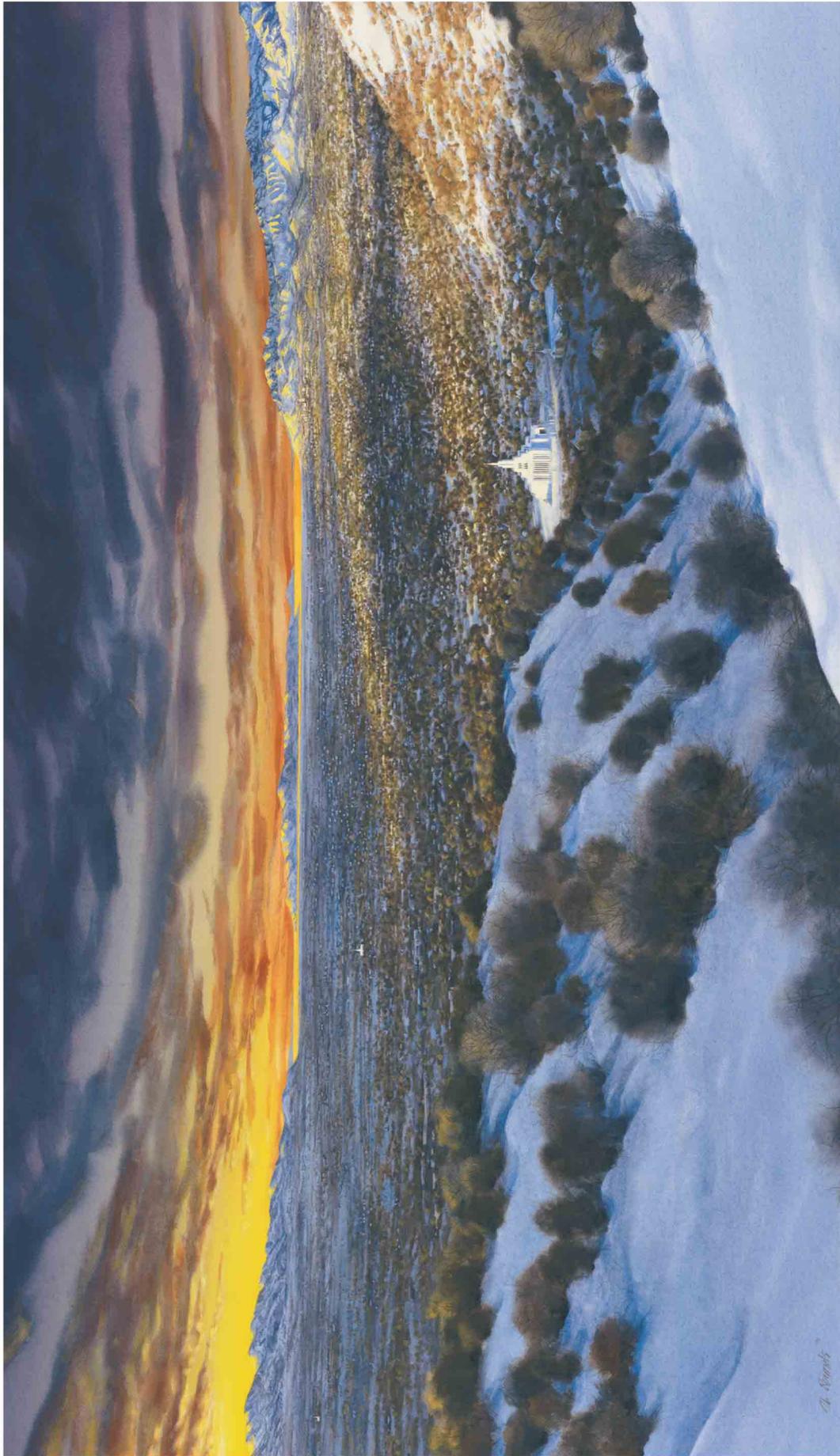
その翌週、台風「パルマ」がフィリピン北部の諸州を襲った。この台風でさらに160人以上の死者が出た。

インドネシア、度重なる地震で打撃を受ける

2009年9月30日、インドネシアのスマトラ島沖30マイル(約50キロ)を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生。翌日、マグニチュード6.8の2度目の地震が再びその付近で発生した。

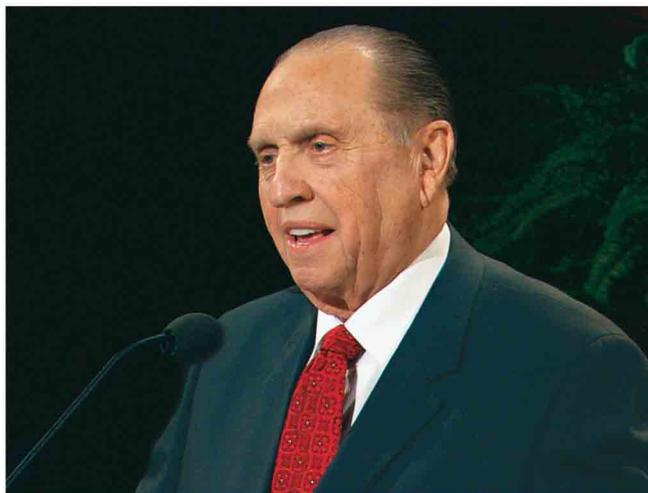
死者の数は少なくとも1,100人、負傷者の数は数百人に上る。けが人の多くは瓦礫や割れた地面に挟まれて身動きが取れなくなった。この地震で、病院、学校、大型商業施設、橋、道が破壊された。送電線が断線し、地滑りも起きた。

教会員は全員無事であり、教会施設の被害報告もない。すべての会員は、震源から500マイル(約800キロ)以上離れた場所に住んでいた。■



「ドレーパー神殿」アル・ラウンズ画

ソルトレーク盆地の南東の端に位置する、教会の129番目の神殿であるユタ州ドレーパー神殿は、見る者に次の言葉を思い出させてくれる。「あなたの杭を強くし、あなたの境をとこしえに広げて、……永遠の御父があなたに立てられた聖約が果たされるようにしなさい。」(モロナイ10:31)



「この大会の中で聞いたことを深く考えるときに、皆さんもベニヤミン王の民のように言うことができますように。彼らは声をそろえて叫びました。『わたしたちは、〔あなた〕がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊^{みたま}のおかげで、わたしたちは〔あなた〕の言葉が確かであること知っています。御霊は、……わたしたちの中に……大きな変化を生じさせてくださいました。』」第179回半期総大会の閉会の言葉の中でトーマス・S・モンソン大管長は語った。「男性も女性も、少年も少女も、皆、大会が開会した2日前よりも善良な人になってこの大会を去ることができますように。」

